科目名	科目担当代表教員		ページ数
総合教養講座	白戸　力弥	・・・・・・・・	5
日本国憲法	池田　杏奈	・・・・・・・・	14
生涯スポーツⅠ	平岡　英樹	・・・・・・・・	23
生涯スポーツⅠ	平岡　英樹	・・・・・・・・	32
生涯スポーツⅠ	平岡　英樹	・・・・・・・・	41
生涯スポーツⅡ	平岡　英樹	・・・・・・・・	50
情報処理	松岡　審爾	・・・・・・・・	59
数理・データサイエンス・AI入門	松岡　審爾	・・・・・・・・	68
数理・データサイエンス・AI実践	松岡　審爾	・・・・・・・・	75
統計の基礎	武田　裕康	・・・・・・・・	82
English Ⅰ(Speaking & Listening)	Todd Robert Enslen	・・・・・・・・	91
English Ⅰ(Speaking & Listening)	Walzem Allen George	・・・・・・・・	100
English Ⅱ(Reading & Writing)	高橋　保夫	・・・・・・・・	109
English Ⅱ(Reading & Writing)	及川　陽子	・・・・・・・・	118
ことばと心理(外国語学習法入門)	釣　晴彦	・・・・・・・・	127
English for Study abroad	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	136
グローバルチャレンジ(海外留学・ボランティア対策)	石丸　卓	・・・・・・・・	145
中国語入門Ⅰ	胡　耀光	・・・・・・・・	154
中国語入門Ⅰ	大沼　尚子	・・・・・・・・	163
中国語入門Ⅱ	大沼　尚子	・・・・・・・・	172
中国語入門Ⅱ	云　肖梅	・・・・・・・・	181
中国語入門Ⅱ	魯　諍	・・・・・・・・	190
日本語Ⅰ	阿部　仁美	・・・・・・・・	199
日本語Ⅱ	今井　史子	・・・・・・・・	208
日本語Ⅲ	今井　史子	・・・・・・・・	217
アカデミックジャパニーズⅠ	阿部　仁美	・・・・・・・・	226
アカデミックジャパニーズⅡ	今井　史子	・・・・・・・・	235
アカデミックジャパニーズⅢ	今井　史子	・・・・・・・・	244
総合中国語Ⅰ	楊　志剛	・・・・・・・・	253
総合中国語Ⅱ	楊　志剛	・・・・・・・・	262
中国語コミュニケーション	胡　耀光	・・・・・・・・	271
中国語リスニング	胡　耀光	・・・・・・・・	280
総合中国語Ⅲ	云　肖梅	・・・・・・・・	289
総合中国語Ⅳ	胡　慧君	・・・・・・・・	298
朝鮮語Ⅰ	崔　鉉鎭	・・・・・・・・	307
朝鮮語Ⅱ	朴　權浩	・・・・・・・・	316
フランス語Ⅰ	Nicolas Jegonday	・・・・・・・・	325
フランス語Ⅱ	Nicolas Jegonday	・・・・・・・・	334
ロシア語Ⅰ	鈴木　理奈	・・・・・・・・	343
ロシア語Ⅱ	鈴木　理奈	・・・・・・・・	352
世界と北海道	小山田　健	・・・・・・・・	361

ニセコ国際研修	小西　正人	・・・・・・・・	370
アウトドア・ツーリズム研修	小山田　健	・・・・・・・・	379
北海道の食文化	藤井　駿吾	・・・・・・・・	388
北海道の社会と文化（多文化共生）	小山田　健	・・・・・・・・	397
地域連携プロジェクト	小山田　健	・・・・・・・・	406
Basic Oral Communication	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	415
Basic Oral Communication	Walzem Allen George	・・・・・・・・	424
English Written Communication Ⅰ	Walzem Allen George	・・・・・・・・	433
English Written Communication Ⅰ	釣　晴彦	・・・・・・・・	442
Networking Communication	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	451
World Englishes	釣　晴彦	・・・・・・・・	460
English Written Communication Ⅱ	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	469
English Written Communication Ⅱ	Todd Robert Enslen	・・・・・・・・	478
English Reading	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	487
English Reading	高橋　保夫	・・・・・・・・	496
TOEIC Preparation Ⅰ	高橋　保夫	・・・・・・・・	505
TOEIC Preparation Ⅱ	高橋　保夫	・・・・・・・・	514
Introduction to English Linguistics	高橋　保夫	・・・・・・・・	523
English Literature Ⅰ	及川　陽子	・・・・・・・・	532
English Literature Ⅱ	及川　陽子	・・・・・・・・	541
Integrated English Communication skills	Todd Robert Enslen	・・・・・・・・	550
Integrated English Communication skills	Patrick Hall	・・・・・・・・	559
English for workplace communication Ⅰ	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	568
English for workplace communication Ⅰ	Patrick Hall	・・・・・・・・	577
English for workplace communication Ⅱ	Todd Robert Enslen	・・・・・・・・	586
English for workplace communication Ⅱ	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	595
English Linguistics	高橋　保夫	・・・・・・・・	604
英語通訳法Ⅰ	川内　裕子	・・・・・・・・	613
英文法研究	高橋　保夫	・・・・・・・・	622
英語翻訳法	高橋　保夫	・・・・・・・・	631
英語通訳法Ⅱ	川内　裕子	・・・・・・・・	640
日英対照言語学	高橋　保夫	・・・・・・・・	649
中国語基礎Ⅰ	魯　諍	・・・・・・・・	658
中国語基礎Ⅰ	巫　靚	・・・・・・・・	667
中国語基礎Ⅱ	魯　諍	・・・・・・・・	676
中国語基礎Ⅱ	巫　靚	・・・・・・・・	685
初級中国語Ⅰ	魯　諍	・・・・・・・・	694
初級中国語Ⅱ	魯　諍	・・・・・・・・	703
中国語リーディング	邢　玉芝	・・・・・・・・	712
中国語ライティング	云　肖梅	・・・・・・・・	721
メディア中国語	魯　諍	・・・・・・・・	730
朝鮮語Ⅲ	朴　權浩	・・・・・・・・	739

朝鮮語Ⅳ	朴　權浩	・・・・・・・・	748
コミュニケーション学概論	岡本　佐智子	・・・・・・・・	757
国際コミュニケーション論	岡本　佐智子	・・・・・・・・	766
国際コミュニケーション演習Ⅰ	Todd Robert Enslen	・・・・・・・・	775
国際コミュニケーション演習Ⅱ	Todd Robert Enslen	・・・・・・・・	784
English for Tourism Hospitality	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	793
観光中国語	大沼　尚子	・・・・・・・・	802
ビジネス中国語	邢　玉芝	・・・・・・・・	811
エアポート中国語	邢　玉芝	・・・・・・・・	820
エアラインビジネス	牧野　正恵	・・・・・・・・	829
異文化接触論	石丸　卓	・・・・・・・・	838
異文化理解論	渡部　淳	・・・・・・・・	847
中華圏の文化	魯　諍	・・・・・・・・	856
日中文化比較	魯　諍	・・・・・・・・	865
異文化コミュニケーション論	岡本　佐智子	・・・・・・・・	874
異文化ビジネスコミュニケーション	岡本　佐智子	・・・・・・・・	883
ホスピタリティマネジメント	小山田　健	・・・・・・・・	892
キャリア入門	小山田　健	・・・・・・・・	901
キャリアデザイン	小山田　健	・・・・・・・・	910
経営マネジメント	芝　香	・・・・・・・・	919
マーケティング論	芝　香	・・・・・・・・	928
インターンシップ	小山田　健	・・・・・・・・	937
ファイナンシャルプランニング	小西　正人	・・・・・・・・	946
公務員講座Ⅰ	高橋　保夫	・・・・・・・・	955
公務員講座Ⅱ	高橋　保夫	・・・・・・・・	964
日本語表現技法Ⅰ（プレゼンテーション）	小西　正人	・・・・・・・・	973
世界の言語と日本語	小西　正人	・・・・・・・・	982
日本語表現技法Ⅱ（文章表現）	小西　正人	・・・・・・・・	991
日本語の表記と語彙	小西　正人	・・・・・・・・	1000
日本語コミュニケーション技法	小西　正人	・・・・・・・・	1009
日本語学	小西　正人	・・・・・・・・	1018
日本語と日本文化	岡本　佐智子	・・・・・・・・	1027
日本語ビジネスライティング	小西　正人	・・・・・・・・	1036
現代日本語論	岡本　佐智子	・・・・・・・・	1045
日本語教育法Ⅰ	岡本　佐智子	・・・・・・・・	1054
日本語教育法Ⅱ	伊藤　寛	・・・・・・・・	1063
日本語教育演習	阿部　仁美	・・・・・・・・	1072
日本語教育演習Ⅱ	岡本　佐智子	・・・・・・・・	1081
短期語学研修	青　晴海	・・・・・・・・	1090
卒業研究プロジェクトⅠ	小西　正人	・・・・・・・・	1099
卒業研究プロジェクトⅠ	高橋　保夫	・・・・・・・・	1113
卒業研究プロジェクトⅠ	魯　諍	・・・・・・・・	1127

卒業研究プロジェクトⅠ	Todd Robert Enslen	・・・・・・・・	1141
卒業研究プロジェクトⅠ	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	1155
卒業研究プロジェクトⅡ	小西　正人	・・・・・・・・	1169
卒業研究プロジェクトⅡ	高橋　保夫	・・・・・・・・	1183
卒業研究プロジェクトⅡ	魯　諍	・・・・・・・・	1197
卒業研究プロジェクトⅡ	Todd Robert Enslen	・・・・・・・・	1211
卒業研究プロジェクトⅡ	Joseph S Tomasine	・・・・・・・・	1225
教育原理	井上　大樹	・・・・・・・・	1239
教職入門	常田　拓孝	・・・・・・・・	1248
教育経営論	中田　和彦	・・・・・・・・	1257
教育心理学	川俣　智路	・・・・・・・・	1266
特別支援教育概論	村田　敏彰	・・・・・・・・	1275
教育課程の意義と編成	相馬　哲也	・・・・・・・・	1284
道徳教育の理論と方法	佐々木　英明	・・・・・・・・	1293
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	常田　拓孝	・・・・・・・・	1302
教育方法の理論と実践	佐々木　英明	・・・・・・・・	1311
ICTを活用した教育の理論と方法	佐々木　英明	・・・・・・・・	1320
生徒指導・キャリア教育の理論と方法	常田　拓孝	・・・・・・・・	1327
教育相談の基礎と方法	常田　拓孝	・・・・・・・・	1336
教育実習指導	常田　拓孝	・・・・・・・・	1345
中学校教育実習	常田　拓孝	・・・・・・・・	1354
教職実践演習（中・高）	常田　拓孝	・・・・・・・・	1363
介護等体験	常田　拓孝	・・・・・・・・	1372
英語科教育法Ⅰ	釣　晴彦	・・・・・・・・	1379
英語科教育法Ⅱ	釣　晴彦	・・・・・・・・	1388
英語科教育法Ⅲ	釣　晴彦	・・・・・・・・	1397
英語科教育法Ⅳ	釣　晴彦	・・・・・・・・	1406

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	総合教養講座					ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸　力弥、松岡　審爾、大森　圭、小塚　美由記、渡部　俊弘						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。
国際教養学科のディプロマ・ポリシー（DP）の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関連する。

授業の概要

この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローカルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。

到達目標

・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
・Google Classroomの利用ができること。
・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探求する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部　俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部　俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸　力弥		

第4回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
第5回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
第6回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸　力弥		

第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物（あるいは食べることが許されている食べ物）について調べておく。（90分）	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。（90分）
担当教員	小塚　美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 （NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部）	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。（90分）	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。（90分）
担当教員	松岡　審爾		
第9回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。（学友会） 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。（各団体）	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。（90分）	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。（90分）
担当教員	大森　圭		

第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森　圭		
第11回	本学のカーボンニュートラルの取り組みの紹介 カーボンニュートラル推進センター	本学のカーボンニュートラルの取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	自ら実践できるカーボンニュートラルの取り組みを考える。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸　力弥		

第13回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師：青木さやかさん	ゲスト講師のこれまでの活動について、インターネット等で調べておく。（90分）	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。（90分）
担当教員	白戸　力弥		
第14回	UHB北海道文化放送制作のドキュメンタリー映画『無理しないケガしない明日も仕事！新根室プロレス物語』の上映	上映映画について予習をする。（90分）	上映映画について復習をする。（90分）
担当教員	白戸　力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修 えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。（90分）	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。（90分）
担当教員	白戸　力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出および授業参加の積極性から総合的に判断する。
その他	0	なし。

教科書

なし。

参考文献

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年―恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	日本国憲法					ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田　杏奈						

授業の位置づけ

教養科目のカリキュラムマップにおいて、「人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」に位置づけされる。国際教養学科のディプロマ・ポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。（知識・技能）」と主に関連する。また、国際教養コミュニケーション学科の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。（思考・判断・表現）」と主に関連する。さらに、看護学科のディプロマ・ポリシーの「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。（思考・判断・表現）」と関連する科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。（関心・意欲・態度）」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）」と、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。（関心・意欲・態度）」と関連する。さらに、地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる（知識・技能）」と関連する。

授業の概要

民主主義（国民主義）と基本的人権の相関関係を明確にするとともに、なぜ「憲法」が国家の最高法規とされるかを理解することを目指す。次いで、日常生活の場面で生じる様々な紛争解決する手段としての裁判の意義、システムを学び、同時に法解釈の手法を考察する。以上の基本的な知識を修得した上で、日本国憲法の精神と構造を（明治憲法との比較を含め）大枠で理解するよう努める。

到達目標

1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。
2. 様々な基本的人権について概要を述べることができる。
3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。

授業の方法

パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。
各講義中に毎回コメント（授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの）をGoogleフォーム、クラスルーム等に提出する。
確認テストをGoogleフォーム等を利用して時間内に行う（全15回）。

ICT活用

Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要、法の基礎知識について学ぶ。	事前に教科書を購入し、「読者のみなさんへ」の部分を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則――子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権――外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密――プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？――自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下の平等】 以前の民法や刑法の条文等を題材に、「法の下の平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後――法の下の平等(1)」「Theme6 むかし親殺しありき――法の下の平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争――信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利――表現の自由(1)」「Theme9 人殺し教えます――表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ――営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活――生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えられる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ――教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて――死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪――国会(1)」「Theme17 民の声 vox Dei？――国会(2)」「Theme18 首相の選び方――内閣」「Theme19 裁判はだれのために――裁判所」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交？――天皇」「Theme15 人権の条件――平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を！――地方自治」「Theme22 憲法の変身――改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業後に提出するコメントやレポート等により評価する。
その他	0	なし。

教科書

いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行／有斐閣

参考文献

講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	生涯スポーツⅠ[3-1]					ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するこころを育てることができるようになる。
③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム（グループ）分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習（キャッチ・スロー・バッティング）を行う。 テニスー基本練習（フォアハンド・バックハンド）を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム（キャッチ・スロー・バッティング技術を活用）を行う。 テニスーラリー（フォアハンド・バックハンド技術を活用）を行う。	技術・戦術の確認。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、２人・３人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。（20分）	基礎技術・ルールを確認する。（25分）
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ（屋内用）を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	生涯スポーツⅠ[3-2]					ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するこころを育てることができるようになる。
③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム（グループ）分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習（キャッチ・スロー・バッティング）を行う。 テニスー基本練習（フォアハンド・バックハンド）を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム（キャッチ・スロー・バッティング技術を活用）を行う。 テニスーラリー（フォアハンド・バックハンド技術を活用）を行う。	技術・戦術の確認。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、２人・３人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。（20分）	基礎技術・ルールを確認する。（25分）
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ（屋内用）を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	生涯スポーツⅠ[3-3]					ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するこころを育てることができるようになる。
③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム（グループ）分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習（キャッチ・スロー・バッティング）を行う。 テニスー基本練習（フォアハンド・バックハンド）を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム（キャッチ・スロー・バッティング技術を活用）を行う。 テニスーラリー（フォアハンド・バックハンド技術を活用）を行う。	技術・戦術の確認。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、２人・３人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。（20分）	基礎技術・ルールを確認する。（25分）
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ（屋内用）を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	生涯スポーツⅡ					ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。

到達目標

①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するこころを育てることができるようになる。
③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム（グループ）分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。(20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用)ールールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用)ー個人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う.。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う.	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ（屋内用）を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	情報処理					ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡　審爾						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学の学修や社会で必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係があり、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」とも関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。

到達目標

1. ワープロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なうことにより情報のアウトプットができる。
2. 表計算ソフトExcelを用いて基本的な計算や関数の使用、グラフ作成、データベースの操作を行うことができる。
3. ウェブサイトからデータを取得し、Excelを用いて情報の加工や分析ができる。
4、プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。
5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。

授業の方法

Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトの操作を理解するために、教科書会社が提供するeラーニングシステム（NESS）により各自が主体的に確認テスト問題を行う（第3回～第11回、第13回、第14回）。

ICT活用

教科書に付属してアカウントを得られるe-ラーニングシステム（NESS）を用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。また、教科書会社が提供するOffice2021のリファレンス動画サイトを用いて基本的な操作の自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステム（NESS）により確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫Wordの基本的操作として、起動、画面構成、リボンを概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する（§2-STEP1のLesson1）。また、文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する（§2-STEP1のLesson2） 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る（§5-STEP1のLesson1）。コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る（§5-STEP1のLesson2）。	シラバスを読み、教科書のp30～p47，p250～p257を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。また、タッチタイピングの練習を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫Wordの基本的操作として文字の修正・範囲指定・変換、文字の変更、文字の移動・複写方法を習得する（§2-STEP1のLesson3）【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術としてのcookie，パスワードの管理を習得する。また、不正アクセス法について学ぶ。ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺対策の知識を得る（§5-STEP1のLesson3）。	教科書のp47下～p59,p258～p267を読んでおく。不正アクセス禁止法について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する（§2-STEP2のLesson1）。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点（§5-STEP2のLesson2）および個人情報の漏洩対策を学ぶ（§5-STEP2のLesson3）。	教科書のp60～p67上半分，p271～p275を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する（§2-STEP2のLesson1）。	教科書のp67下半分～p75上半分を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する（§2-STEP2のLesson1）。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する（§2-STEP2のLesson2）	教科書のp75下半分～p90を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp80練習7を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する（§2-STEP2のLesson2）。 【情報の分析評価】≪Excel≫表計算ソフトの概略を理解しExcelのファイル操作を習得する（§3-STEP1のLesson1）	教科書のp91～p97, p100～p106を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp98練習8を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析評価】≪Excel≫データの表示設定（文字・表示形式、罫線の設定、行の高さ・列幅の変更）を習得する（§3-STEP2のLesson1）。	教科書のp107～p121を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp122練習9を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】≪Excel≫印刷手法（改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する（§3-STEP2のLesson2）。数式の入力方法・コピー、合計の計算を習得する（§3-STEP2のLesson3）。 §2Word-Section2の試験(20問)を実施する。	教科書のp123～p138を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp137練習12を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】≪Excel≫相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法、数学／三角関数を習得する。また、条件に応じて処理を変えるIF関数,ネストを習得する（§3-STEP2のLesson3）。	教科書のp139～p152を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp152練習16を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第10回	【情報の分析評価】≪Excel≫あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する(教科書にはない)。グラフの要素、縦棒グラフおよび円グラフの作成法、レーダーチャートの作成、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§3-STEP3のLesson1,2)。	教科書のp153～p176を読んでおく。VLOOKUP関数について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第11回	【データの分析演習】≪Excel≫ウェブサイトからデータを取得する方法を学ぶ。また、そこで得られたデータを加工しデータを分析する方法を学ぶ。(教科書にはない)。 【データベース】≪Excel≫データベース機能を理解し、基本的な操作である並べ替え、オートフィルターによる抽出と並べ替えを修得する。(教科書にはない)。	データベースについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【データベース】≪Excel≫データベース機能における数値フィルター、テキストフィルター、トップテン機能を修得する。 【ピボットテーブル】≪Excel≫データベースから集計表を作成できるピボットテーブルを修得する。 §3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を実施する。	データベース、ピボットテーブルについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			

第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】≪PowerPoint≫プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成（§4-STEP1）、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する（§4-STEP2のLesson1）。	教科書のp178, p181, p186～p210を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】≪PowerPoint≫Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。（§4-STEP2のLesson1）。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。（§4-STEP2のLesson2）SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する（§4-STEP2のLesson2）。	教科書のp211～p234を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの§4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】≪PowerPoint≫発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する（§4-STEP3のLesson1）。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ（§4-STEP3のLesson2）。 §4 PowerPiont-STEP2の試験（10問）を実施する。	教科書のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。
その他	0	なし

教科書

イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルMicrosoft365・Ofice2021対応／ノア出版

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください（キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場）。やむを得ずネット通販で購入の場合は必ず新品を購入してください。メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	数理・データサイエンス・AI入門					ナンバリング	1166
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡　審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。

授業の概要

ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能（AI）を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意するべき事項も学習する。

到達目標

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。
数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。
数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。
数理・データサイエンス・AIを活用するあたって留意すべき事（ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理）について説明できる。
実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。

授業の方法

パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う（第7回、第8回）。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する（全8回）。Google Formを用いて意見を出し合う（第7回、第8回）。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI（(Artificial Intelligence：人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体（e-Stat等）の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの特徴を表す方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数の関係を調べるための方法として、散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法（教師あり、教師なし、強化学習）を理解する。 【AIの手法1：教師あり機械学習（回帰）】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2：教師あり学習（分類）】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3 ：教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスタリング、アソシエーション分析(＝連関分析)について学ぶ。クラスタリングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4 ：ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教師なし機械学習のクラスタリング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI利活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 （ゲスト講師：山本光喜EZOAI代表）	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項－情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1－ELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI（Ethical：倫理的、Legal：法的、Social Issues：社会的課題）について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を疎外するバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題（AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権）について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局
Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社
Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社

履修条件・留意事項等

なし
備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	数理・データサイエンス・AI実践					ナンバリング	1167
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡　審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。

授業の概要

表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。

到達目標

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
データを分析できる形に整えることができる。
データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
データの特徴を説明することができる。
任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく（全8回）。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する（全8回）。パソコンを用いた演習を行う（全8回）。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量（代表値の計算、データのばらつき（分散、標準偏差））を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理（順次処理、条件分岐、反復処理）のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理（順次処理、条件分岐、反復処理）のうち反復処理を体験する。 【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。 【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習（回帰）】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析（単回帰、重回帰）を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習（分類）】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類（ロジスティック回帰など）を体験する。また、k-means法によるクラスタリングを体験する。 【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	主成分分析およびクラスタリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教師あり学習における分類の各手法の特徴およびニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局
Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社
Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社

履修条件・留意事項等

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。
備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	全学共通科目　基礎科目						
科目名	統計の基礎					ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田　裕康						

授業の位置づけ

教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポロシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。（知識・技能）」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。（知識・技能）」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。（関心・意欲・態度）」と関連する。また作業療法学専攻ののディプロマ・ポロシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。（知識・技能）」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる（思考・判断・表現）」と関連する科目である。

授業の概要

主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。

到達目標

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す（全15回）。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度（比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度）に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標（散布度）である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96~p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群（3群以上）の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ワーリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複（または反復）測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)

教科書

1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社
2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

特になし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	English Ⅰ(Speaking & Listening)[E2-2]					ナンバリング	1211
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけるための科目であり、またグローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。1年次後期の「English II (Reading & Writing) との相互補完的科目であり、また他の英語科目の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、日常の基本的な場面における英語での口頭による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。授業では、日常場面に即したさまざまなトピックのコミュニケーション活動を提供し、教員と学生の間だけではなく学生同士でのインタラクションを通して、自信をもって英語でのやり取りができるようになることを目標とする。

到達目標

Speaking and listening are important skills in learning English as a second language. Students will develop speaking and listening ability which will prepare them for courses like Basic Oral Communication, English for Study Abroad and English for Tourism Hospitality.
Through this course, the students will be able to take part in English conversations and discussions with both native and non-native speakers of English. Extensive speaking training will enhance speaking, listening and vocabulary. They will gain confidence in their speaking ability.

授業の方法

There will be activities in class for students to use vocabulary, expressions, grammar and pronunciation from the lessons. It will enhance listening and speaking skills. This will be an active learning class.

ICT活用

This course comes with resources on the English Portal and the Practice English App. Students must access both to extend their learning.

実務経験のある教員の教育内容

N/A

課題に対するフィードバックの方法

Teacher will give feedback by commenting on common errors related to vocabulary, pronunciation, grammar, conversation and listening.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Introduction to the course. Activity to get to know each other.	Familiarize yourself with the textbook. Read page iv to ix. (90 minutes)	Review the Welcome Unit. (90 minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1, How's it going? Introduce yourself and others Talk about things in an office	Read Unit 1, and prepare to introduce yourself. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第3回	Unit 2, Who are they? Talk about friends and family Talk about where people live and work	Read Unit 2, and prepare to talk about friends and family. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			

第4回	Unit 3, What a beautiful home! Talk about things in the home	Read Lesson 1 of Unit 3, and prepare to describe your home. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第5回	Unit 3, What a beautiful home! Lesson 2, Describe your neighborhood	Read Lesson 2 of Unit 3, and prepare to describe your neighborhood. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第6回	Unit 4 Where are you now? Lesson 1, Ask about an event	Read Unit 4, and prepare to talk about an event. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			

第7回	Unit 4, Where are you now? Lesson 2, Make plans with someone	Read Unit 4, and prepare to make plans with someone. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第8回	Unit 5, Do I need an umbrella? Ask about prices Talk about weather	Read Unit 5, Prepare to ask about prices and talk about weather. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第9回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 1, Talk about music	Read Unit 6, Lesson 1, Prepare to talk about music. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			

第10回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 2, Talk about free-time activities	Read Unit 6, Lesson 2, Prepare to talk about free-time activities. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第11回	Unit 7, Are you ready to order? Talk about food Order in a restaurant	Read Unit 7, Prepare to talk about food. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第12回	Unit 8, Do you have a reservation? Talk about future plans Discuss goals	Read Unit 8, Prepare to answer questions about future plans. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			

第13回	Unit 9, Is everything OK? Talk about what you are doing Talk about daily activities	Read Unit 9, Prepare to talk about daily activities. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第14回	Unit 10, How was your weekend? Describe your weekend Talk about a past vacation	Read Unit 10, Prepare to talk about your weekend and past vacation. Review the previous chapters in preparation for the test. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review the final test and wrap-up of the course test.	Check your answers from the quiz by reviewing each section in the textbook. (90 minutes)	After Class: Students should do a self-evaluation of how well they have learned the material covered in class. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	There will be no end of term exam.
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	30% Assignments(課題); 30% Discussion(ディスカッション); 20%; Tests(テスト); 20% Participation in class discussions
その他	0	該当なし

教科書

StartUp - Book 1 / 2019 / Sharon Goldstein, Kimberly Russell, Daria Ruzicka, Jenni Currie Santamaria, and Kathleen Thompson / Pearson

参考文献

None

履修条件・留意事項等

This class will be conducted entirely in English.

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	English Ⅰ(Speaking & Listening)[E2-1]					ナンバリング	1211
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけるための科目であり、またグローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。1年次後期の「English II (Reading & Writing) との相互補完的科目であり、また他の英語科目の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、日常の基本的な場面における英語での口頭による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。授業では、日常場面に即したさまざまなトピックのコミュニケーション活動を提供し、教員と学生の間だけではなく学生同士でのインタラクションを通して、自信をもって英語でのやり取りができるようになることを目標とする。

到達目標

Speaking and listening are important skills in learning English as a second languag e.Students will develop speaking and listening ability which will prepare them for co urses like Basic Oral Communication, English for Study Abroad and English for Tourism Hospitality. Through this course, the students will be able to take part in English conversation s and discussions with both native and non-native speakers of English. Extensive speaking training will enhance speaking, listening and vocabulary. They will gain confidence in their speaking ability.

授業の方法

There will be activities in class for students to use vocabulary, expressions, grammar and pronunciation from the lessons. It will enhance listening and speaking skills. This will be an active learning class.

ICT活用

This course comes with resources on the English Portal and the Practice English App. Students must access both to extend their leaning.

実務経験のある教員の教育内容

N/A

課題に対するフィードバックの方法

Teacher will give feedback by commenting on common errors related to vocabulary, pronunciation, grammar, conversation and listening.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Introduction to the course. Activity to get to know each other.	Familiarize yourself with the textbook. Read page iv to ix. (90 minutes)	Review the Welcome Unit (90 minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1, How's it going? Introduce yourself and others Talk about things in an office	Read Unit 1, and prepare to introduce yourself. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第3回	Unit 2, Who are they? Talk about friends and family Talk about where people live and work	Read Unit 2, and prepare to talk about friends and family. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			

第4回	Unit 3, What a beautiful home! Talk about things in the home	Read Lesson 1 of Unit 3, and prepare to describe your home. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第5回	Unit 3, What a beautiful home! Lesson 2, Describe your neighborhood	Read Lesson 2 of Unit 3, and prepare to describe your neighborhood. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第6回	Unit 4 Where are you now? Lesson 1, Ask about an event	Read Unit 4, and prepare to talk about an event. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			

第7回	Unit 4, Where are you now? Lesson 2, Make plans with someone	Read Unit 4, and prepare to make plans with someone. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第8回	Unit 5, Do I need an umbrella? Ask about prices Talk about weather	Read Unit 5, Prepare to ask about prices and talk about weather (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第9回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 1, Talk about music	Read Unit 6, Lesson 1, Prepare to talk about music (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			

第10回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 2, Talk about free-time activities	Read Unit 6, Lesson 2, Prepare to talk about free-time activities (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第11回	Unit 7, Are you ready to order? Talk about food Order in a restaurant	Read Unit 7, Prepare to talk about food (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第12回	Unit 8, Do you have a reservation? Talk about future plans Discuss goals	Read Unit 8, Prepare to answer questions about future plans. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			

第13回	Unit 9, Is everything OK? Talk about what you are doing Talk about daily activities	Read Unit 9, Prepare to talk about daily activities. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第14回	Unit 10, How was your weekend? Describe your weekend Talk about a past vacation	Read Unit 10, Prepare to talk about your weekend and past vacation. Review the previous chapters in preparation for the test. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and ″Conversation.″ (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review the final test and wrap-up of the course test.	Check your answers from the quiz by reviewing each section in the textbook. (90 minutes)	After Class: Students should do a self-evaluation of how well they have learned the material covered in class. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	There will be no end of term exam.
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	30% Assignments(課題); 30% Discussion(ディスカッション); 20%; Tests(テスト); 20% Participation in class discussions
その他	0	該当なし

教科書

StartUp - Book 1 / 2019 / Sharon Goldstein, Kimberly Russell, Daria Ruzicka, Jenni Currie Santamaria, and Kathleen Thompson / Pearson

参考文献

None

履修条件・留意事項等

This class will be conducted entirely in English.

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	English Ⅱ(Reading & Writing)[E2-1]					ナンバリング	1212
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけるための科目で「知識・技能」と関連する。

授業の概要

この授業は、基礎的な英文テクストにおける読解能力の育成、および英文ライティングの基礎の習得を目的とする。読解においては、さまざまジャンルの英文テクストを通して構文把握能力と基本的な読解方略の習得を目指す。そしてライティングにおいては、自身が意図した意味の文の生成をすること、そして文と文のつながり(結束性)を意識して複数の文をつなげ、まとまり(首尾一貫性)のある文章を作ることができ、最終的にパラグラフライティングの基礎を習得することを目標とする。

到達目標

This course further develops reading and writing skills. The aim is to improve students' reading comprehension skills in basic English texts and to acquire the basics of English writing in an English-only class environment.

授業の方法

The method of instruction involves providing students with a variety of texts and questions that relate to global and detailed comprehension, along with the use of group discussions and peer feedback. For the writing component of the course, students will be asked to complete essays on a range of topics, while also being expected to read their classmate's work and provide constructive criticism.

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.

実務経験のある教員の教育内容

none

課題に対するフィードバックの方法

Answers to vocabulary tests will be given after the tests have been completed and individual and class feedback will be provided on the midterm writing assignment.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Explanation of the syllabus and introduction to the course.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	Discuss the themes of population and cell phone usage. Focus on the “A Day on Planet Earth” reading and completing the writing assignment associated with the text.	Read pages 2 to 7 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	Practice the skimming for gist skill and then complete activities to prepare for the “A Day in a Life” reading. Begin practicing your writing skills by producing sentences using the simple present tense.	Read pages 8 to 15 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	Explore the writing process by thinking about brainstorming, planning, drafting, and revising. Consolidate these skills with writing tasks linked to drafting and revising.	Read pages 15 to 20 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	Discuss the theme of global literacy and focus on key vocabulary related to this theme. Read through and test your understanding of the "The World's Oldest First Grader" reading and practice making inferences from the content.	Read pages 21 to 27 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	Build vocabulary and practice the reading skill of understanding main ideas, and then apply that skill to the "Global Education" reading along with the skills of understanding the gist and inferring.	Read pages 28 to 34 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第7回	Complete the writing assignment. Continue developing the ability to go through the writing process of brainstorming, planning, drafting, and revising by focusing on a more challenging, technical topic.	Read pages 35 to 40 in the textbook and check any words you don't understand.　90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	Review of the first half of the course and midterm test.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course. 90分	Reflect on the test and writing assignment, try to identify your weaknesses and work on addressing them. 90分
担当教員			
第9回	Discuss the theme of family history and study the related key vocabulary. Go through the "The Story of Us" and "From Africa to Astoria" readings and test your understanding and of the texts through comprehension and critical thinking writing activities.	Read pages 41 to 47 in the textbook and check any words you don't understand.　90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第10回	Practice looking up difficult words and paying attention to context to find the right meaning. Apply this skill to the reading “Our Family Journey” and discuss in your groups your thoughts about the text.	Read pages 48 to 54 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	Continue to develop key writing skills by focusing on how to write factual and speculative statements related to the theme of family members. Practice using peer evaluation to further revise and edit your work.	Read pages 55 to 60 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	Explore the theme of recycling and making money from stuff people throw away. Go through the reading “Garbage Island” and try to come up with solutions for some of the problems raised in the text. In addition, practice finding supporting ideas in the reading.	Read pages 62 to 69 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	Study the “Art of Recycling” reading and test your understanding with activities related to the skills of understanding the gist, scanning for key details, and identifying supporting ideas. Practice writing with a focus on giving advice and making suggestions.	Read pages 70 to 75 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Complete the writing assignment. Continue the writing practice with a focus on modals like should and could and the skill of using details to clarify ideas. Go through the “Toaster Project” reading and test your understanding by practicing the skill of scanning and identifying key details.	Read pages 76 to 80 and pages 84 to 87 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	Review of the course and final test.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course. 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 10%; midterm test: 20%, midterm writing assignment: 25%, final test: 20%, final writing assignment: 25%
その他	0	

教科書

Pathways 1A, Reading, Writing, and Critical Thinking by Mari Vargo and Laurie Blass. Publisher: National Geographic Learning. ISBN-13: 978-1-285-45246-3.

参考文献

none

履修条件・留意事項等

Always bring a bilingual dictionary to the class. This class will be conducted in English only, so prepare to push yourself to do your best to understand and respond to the teacher.

備考欄

none

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	English Ⅱ(Reading & Writing)[E2-2]					ナンバリング	1212
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	及川　陽子						

授業の位置づけ

This course further develops reading and writing skills. Students will also gain an advanced proficiency in English with a focus on using languages for academic purposes. They will also develop internationality as well as flexible and positive communication skills that enable them to coexist and collaborate with people around the world in a global society.

授業の概要

この授業は、基礎的な英文テクストにおける読解能力の育成、および英文ライティングの基礎の習得を目的とする。読解においては、さまざまジャンルの英文テクストを通して構文把握能力と基本的な読解方略の習得を目指す。そしてライティングにおいては、自身が意図した意味の文の生成をすること、そして文と文のつながり(結束性)を意識して複数の文をつなげ、まとまり(首尾一貫性)のある文章を作ることができ、最終的にパラグラフライティングの基礎を習得することを目標とする。

到達目標

This course further develops reading and writing skills. The aim is to improve students' reading comprehension skills in basic English texts and to acquire the basics of English writing in an English-only class environment.

授業の方法

The method of instruction involves providing students with a variety of texts and questions that relate to global and detailed comprehension, along with the use of group discussions and peer feedback. For the writing component of the course, students will be asked to complete essays on a range of topics, while also being expected to read their classmate's work and provide constructive criticism.

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.

実務経験のある教員の教育内容

none

課題に対するフィードバックの方法

Answers to vocabulary tests will be given after the tests have been completed and individual and class feedback will be provided on the midterm writing assignment.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Explanation of the syllabus and introduction to the course.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	Discuss the themes of population and cell phone usage. Focus on the “A Day on Planet Earth” reading and completing the writing assignment associated with the text.	Read pages 2 to 7 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	Practice the skimming for gist skill and then complete activities to prepare for the “A Day in a Life” reading. Begin practicing your writing skills by producing sentences using the simple present tense.	Read pages 8 to 15 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	Explore the writing process by thinking about brainstorming, planning, drafting, and revising. Consolidate these skills with writing tasks linked to drafting and revising.	Read pages 15 to 20 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	Discuss the theme of global literacy and focus on key vocabulary related to this theme. Read through and test your understanding of the "The World's Oldest First Grader" reading and practice making inferences from the content.	Read pages 21 to 27 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	Build vocabulary and practice the reading skill of understanding main ideas, and then apply that skill to the "Global Education" reading along with the skills of understanding the gist and inferring.	Read pages 28 to 34 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第7回	Complete the writing assignment. Continue developing the ability to go through the writing process of brainstorming, planning, drafting, and revising by focusing on a more challenging, technical topic.	Read pages 35 to 40 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	Review of the first half of the course and midterm test.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course. 90分	Reflect on the test and writing assignment, try to identify your weaknesses and work on addressing them. 90分
担当教員			
第9回	Discuss the theme of family history and study the related key vocabulary. Go through the "The Story of Us" and "From Africa to Astoria" readings and test your understanding and of the texts through comprehension and critical thinking writing activities.	Read pages 41 to 47 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第10回	Practice looking up difficult words and paying attention to context to find the right meaning. Apply this skill to the reading “Our Family Journey” and discuss in your groups your thoughts about the text.	Read pages 48 to 54 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	Continue to develop key writing skills by focusing on how to write factual and speculative statements related to the theme of family members. Practice using peer evaluation to further revise and edit your work.	Read pages 55 to 60 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	Explore the theme of recycling and making money from stuff people throw away. Go through the reading “Garbage Island” and try to come up with solutions for some of the problems raised in the text. In addition, practice finding supporting ideas in the reading.	Read pages 62 to 69 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	Study the “Art of Recycling” reading and test your understanding with activities related to the skills of understanding the gist, scanning for key details, and identifying supporting ideas. Practice writing with a focus on giving advice and making suggestions.	Read pages 70 to 75 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Complete the writing assignment. Continue the writing practice with a focus on modals like should and could and the skill of using details to clarify ideas. Go through the “Toaster Project” reading and test your understanding by practicing the skill of scanning and identifying key details.	Read pages 76 to 80 and pages 84 to 87 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	Review of the course and final test.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course. 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 10%; midterm test: 20%, midterm writing assignment: 25%, final test: 20%, final writing assignment: 25%
その他	0	

教科書

Pathways 1A, Reading, Writing, and Critical Thinking by Mari Vargo and Laurie Blass. Publisher: National Geographic Learning. ISBN-13: 978-1-285-45246-3.

参考文献

none

履修条件・留意事項等

Always bring a bilingual dictionary to the class. This class will be conducted in English only, so prepare to push yourself to do your best to understand and respond to the teacher.

備考欄

none

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	ことばと心理(外国語学習法入門)					ナンバリング	1200
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦						

授業の位置づけ

この講義は、ディプロマポリシーの「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。また、理論に基づいた外国語学習法を身につけることで、大学での外国語学習計画を設定することを目的とした科目で、英語の専門科目や中国語科目、その他の外国語科目の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、外国語学習を本格的に始めるにあたり、認知心理学の視点から、効果的な外国語学習法を第二言語習得論の知見を通して学ぶことを目的とする。学生たちは高校までの英語学習を振り返り、本講義で学んだことを通して、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能についてどのように学習に取り組んでいくかを考え、大学での外国語学習の目標を設定することを最終目標とする。

到達目標

・第二言語習得論の知見をもとに、語彙学習や文法、そしてリスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能の効果的な学習法を考えることができる。
・講義を通して学習した内容をもとに、大学での外国語学習計画を設定することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用してアクティブラーニング形式で進める。今までの英語学習の方法を振り返り、自分の不十分であった部分を考える。その上で理論に基づいた外国語学習方法を学んでいき、合計12回の授業後のレポートを通して、理解を深める。そして、最後にまとめとして、4年間の外国語学習計画を立てて、それについてのプレゼンテーションを行う。

ICT活用

WebアプリのPear Deckを用いて意見を出してもらいながら授業を進めていく。

実務経験のある教員の教育内容

小学校・中学校・高等学校・大学と40年以上現場で様々な実践教育を行ってきたことを取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、課題の形式に応じたフィードバックを講義やGoogle classroom等を通じて行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	″オリエンテーション ・高校までの英語学習を評価し、改善が必要な点を考える。″	シラバスを読み、教科書を準備する。(90分)	講義の復習をし、次回の授業の準備を行う。(90分)
担当教員	釣　晴彦		
第2回	″「第二言語習得」から英語の学び方を考える。 ・世間一般で言われている英語(外国語)学習についての通説について、「第二言語習得理論」の観点から正しいか考える。″	教科書の第1章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第3回	″「第二言語」として目指す英語力とは？ ・英語が世界の共通語として地位を確立している時代に、どのように英語に向き合っていけばいいのか考える。″	教科書の第2章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第4回	″英語を学ぶモチベーションのメカニズム ・英語を学ぶモチベーションはどのように生まれ、どうすれば長期間に渡って維持できるのか考える。″	教科書の第3章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第5回	″英語学習のプリンシプル ・全ての英語(外国語)の学びの基盤となる「6つのプリンシパル(原則)」について学ぶ。″	教科書の第4章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第6回	″効果的なボキャブラリーの学び方について考える。 ・覚えるべき語彙の目安や効果的な語彙の学習方法を学ぶ。″	教科書の第5章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第7回	″効果的な文法の学び方について考える。 ・なぜ英文法を学ぶ必要があるのか、まだどのように学習すれば使える英文法を身につけることができるのかを学ぶ。″	教科書の第6章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	″効果的なリスニングの学び方について考える。 ・インプットが頭の中でどのように処理されるか学ぶ。 ・リスニングの効果的な学習方法を学ぶ。″	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第9回	″効果的なリーディングの学び方について考える。 ・学習者のリーディングのプロセスについて学び、効果的な学習方法を考える。″	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第10回	″効果的なスピーキングの学び方について考える。 ・スピーキングがなぜ困難なのか考え、効果的な学習方法について学ぶ。″	教科書の第8章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第11回	″効果的なライティングの学び方について考える。 ・ライティング力の重要さについて学ぶ。 ・効果的なライティングの学習方法について学ぶ。″	教科書の第9章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	″効果的な海外留学について考える。 ・英語(外国語)の4技能の能力が伸び、かつ学習者の満足・充実度が高くなる留学はどのようなものか学ぶ。″	事前にどのような留学形態があるか調べ、留学をすることでどのような効果があるかを考えてくる。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第13回	″スマホアプリやオンライン教材を用いた効果的な外国語学習について考える。 ・外国語学習に用いることができる、スマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるが学ぶ。 ・アプリやオンライン教材をどのように用いると効果的かを考える。″	外国語学習に用いることができるスマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるか事前に調べておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。また、次の授業でのプレゼンテーションの準備を行う。(90分)
担当教員			
第14回	″自分の大学での外国語学習計画についてのプレゼンテーションを行う。 ・1週目から13週目までの学習を基に今後の大学で外国語をどのように学ぶのかについてのプレゼンテーションを行う。″	自分のプレゼンテーションのスライドや発表原稿を準備し、確認を行う。(90分)	他の学生の発表と自分の計画を照らし合わせ、足りない部分をまとめ、自分の計画の見直しを行う。(90分)
担当教員			
第15回	″講義の振り返り ・1週目から14週目の内容を振り返る。″	これまでの講義内容を振り返る。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	″授業後の小レポート課題 60% (5%×12) プレゼンテーション 40%″
その他	0	なし

教科書

「英語の学び方」入門　新多了著　研究社, 2019

参考文献

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

講義には積極的に参加すること。また、課題の提出期限は厳守すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	English for Study abroad					ナンバリング	1214
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は、初年次教育の一環として、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力、またグローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、語学研修の参加に必要な英語のスキルと同時に空港での手続や現地での生活といったプログラムの参加に必要な関連知識を身にけることを目的とする。授業では、出発前から帰国までの場面別に遭遇する出来事に関連するトピックでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のうち、複数の技能を統合した言語活動を通して、どの技能もバランスよく習得し、語学研修に必要な英語能力を身に付けることを目標とする。

到達目標

To prepare for various situations in language training, students will be able to hone the four skills of speaking, listening, reading, and writing in a well-balanced manner to deal with events in language training.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers to the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments, as applicable.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this lesson, we will discuss the class procedures, assignments and assessments.	Check the LMS, read the syllabus and prepare questions. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, we will learn how to describe your university major, talk about your club activities as well as express what you like to do in your free-time.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, we will learn how to express and understand geographical location, talk about climate as well as explain your travel schedule.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, we will learn how to talk about travel experience, understand and fill out arrival cards as well as how to understand instructions and advice.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, we will learn how to express and understand the location of things, discuss house rules as well as understand how to use your room.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, we will learn how to explain and understand explanations, using "if" sentences to talk about your schedule, as well as how to ask about meaning.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, we will learn how to talk about self study activities, discuss directions and express location.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this lesson, we will learn how to discuss what you want to do, express basic necessities as well as how to express and understand expressions of obligation.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, we will learn how to make requests, ask permissions to do things as well as how to offer help in the home.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, we will learn how to describe food and drink, ask for and offer food as well as how to give your impression of food.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, we will learn how to shop for clothes, compare shopping items as well as talk about size of items you want to buy.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, we will learn how to talk about an incident, including how to provide details about the incident as well as describe lost property.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, we will learn how to talk about your hometown, explain what you can as well as talk about places of interest located there.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, we will learn how to understand, explain and react to the content of notices and messages.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review and In-class Test During this lesson, we will review the learning in this class and take the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes: 50 In-class test: 50
その他	0	Not applicable.

教科書

READY FOR TAKEOFF! English for Study Abroad, Alan Jackson & Hiroko Uchida, Kinseido

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	グローバルチャレンジ（海外留学・ボランティア対策）					ナンバリング	1296
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸　卓						

授業の位置づけ

グローバル社会のリーダーとなるなるべき人材の育成。世界情勢、課題への取り組みを理解するとともに、参加へのモチベーションを高める。海外留学、海外インターン、海外ボランティアなど海外体験の多様な選択枝の中で活躍する学生数の増加を図る。そのような経験をする中で、異文化コミュニケーションは重要な役割を占めており、さまざまな誤解、軋轢、すれ違いの種が潜んでいる。本講義では、海外志向の学生に対して、国籍、民族、地域、言語、宗教、世代、立場、職業、ジェンダーなどの属性で差異がある人々の間で発生する異文化コミュニケーションへの対応を理解することを目的としている。「国内外の政治・経済事情を学ぶことで、世界情勢を客観的に理解・分析できる能力を育成するための科目である。具体的には①各専門分野の学習に必要な基礎学力（知識・技能）、②自分の考えをわかりやすく説明できる能力（思考・判断・表現）、③課題解決に必要な思考力の基礎（思考・判断・表現）を育成する。ディプロマ・ポリシーとの関係では、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。（思考・判断・表現）」に最も深く関連し、「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し、分析することのできる幅広い教養を身につけている。（思考・判断・表現）」の項目の基礎を形成するものである。」

授業の概要

本講義は3部構成となっている。第一部は異文化理解の解像度を上げる講義、第二部は21世紀型のグローバル化の実情について、第三部は留学計画の作成、という3部で講義を行うことで、海外への関心を高める。

到達目標

①一つのケースを自分自身に起こった問題であるように捉え、分析し、自分なりの解釈をだし、それを他者に伝えるという過程を減ることで、事故の価値観や考え方の癖を築くことができる。
②異文化コミュニケーターに近づくことができる。
③より良い自分自身の留学計画を実行できることができる。

授業の方法

異文化コミュニケーションの各事例について、学生間のディスカッションを行った後にクラス全体でのディスカッションを行い、最後に教員による包括的な解説を行う。

ICT活用

授業中でも情報検索させるなどの方法でICT活用の要素を取り入れる

実務経験のある教員の教育内容

JICAでの国際協力の現場で活動した教員が指導する

課題に対するフィードバックの方法

講義時間中に質疑応答の時間を設けるとともに、レポートへのコメントでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション	自身の海外への関心内容について整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第2回	現代社会と異文化コミュニケーション	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第3回	異文化理解（国籍・民族）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			

第4回	異文化理解（職業・ジェンダー）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第5回	異文化理解（言語、宗教）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第6回	21世紀のグローバル化（日本企業のグローバル化）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			

第7回	21世紀のグローバル化（開発途上国の課題）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第8回	21世紀のグローバル化（先進国の課題）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第9回	異文化コミュニケーターへの道（留学）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			

第10回	異文化コミュニケーターへの道（海外赴任、国際交渉）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第11回	異文化コミュニケーターへの道（海外インターン、海外ボランティア）	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（990分）
担当教員			
第12回	留学計画作成のポイント	指示された資料を読んで自分の意見を整理する（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			

第13回	留学計画を作る1（トビタテ留学JAPANのフォームをベースとして留学計画の概要をまとめる）	留学計画作成（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第14回	留学計画を作る2（留学計画を具体化するための情報をまとめる）	留学計画作成（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
第15回	留学計画を作る3（留学計画を完成させる）	留学計画作成（90分）	授業の振り返り及び次回課題への対応（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	提起試験は行わない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題への取り組み、参加度、出席頻度をもとに評価する
その他	0	

教科書

参考文献

留学ジャーナル（留学ジャーナル編集部）を参考とする

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	中国語入門Ⅰ［C2-1］					ナンバリング	1231
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	胡　耀光						

授業の位置づけ

中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。場面に即して簡単な受け答えをできるようにすることで、中華圏の人とのコミュニケーション能力を養う。中国語の学習を通じて、中華圏の文化、習慣の違いを学び、アジア圏についての知識を培う。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるための科目である。他の中国語科目と関連するとともに、後期科目「中国語入門Ⅱ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、中国語修得の中で、外国人が最も苦労すると言われる中国語の発音をマスターする(ローマ字を見て発音でき、発音を聞いてローマ字に直せるようになる)。これは中国語の基礎をマスターすることに等しい。この授業では、日本人の習慣を考慮した学習法により、効率的に中国語の発音をマスターすることを目指す。また、それと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。

到達目標

1. 基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようにする。
2. 発音を一通り学び、ピンインの読み書きをマスターする。
3. 正確な.声調で、スムーズに中国語を発音できるようにする。
4. 場面に即した簡単な質問と受け答えをできるようにする。

授業の方法

原則として、1課を2回の授業で学ぶ。1回目は新出単語、新たな文法事項とテーマに基づいた会話を学ぶ。2回目は文型練習と、会話と関連のある短文講読を中心に学び、リスニング及びロールプレイを行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前また後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス ②発音学習（一）（声調、単母音）	中国また中国語に関する知識を調べて準備する（90分）	簡体字と繁体字、声調、ピンインと音節の復習・単母音/複母音/子音の予習（90分）
担当教員			
第2回	発音学習（二）（複母音、子音）	簡体字と繁体字、声調、ピンインと音節の復習（90分）	単母音/複母音/子音の復習（90分）
担当教員			
第3回	発音学習（三）（子音、鼻母音、声調変化、r化）	発音（子音、鼻母音）・発音ルールの予習（90分）	発音全般の復習（90分）
担当教員			

第4回	第1課:あなたの名前はなんといいますか。 ①人称代名詞、②名前の尋ね方と答え方、③動詞“是”、④副詞“也”	1課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第1課の会話と練習の予習(90分)
担当教員			
第5回	第1課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	1課の単語・文法の予習(続き)(90分)	習った内容の復習・第2課の会話と練習の予習(90分)
担当教員			
第6回	第2課:これは何ですか。 ①指示代名詞、②助詞“的”、③疑問詞疑問文	2課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第2課の会話と練習の予習(90分)
担当教員			

第7回	第2課の続き:応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	2課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第3課の会話と練習の予習（90分）
担当教員			
第8回	第3課:あなたは何を食べますか。 ①動詞述語文、②反復疑問文、③選択疑問文、④省略疑問文、⑤連動文 ⑥語気助詞“吧”	3課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第3課の会話と練習の予習（90分）
担当教員			
第9回	第3課の続き:応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	3課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第4課の会話と練習の予習（90分）
担当教員			

第10回	第4課：最近どうですか。 ①形容詞述語文、②程度の表現 ③主述述語文 ④“一下”と動詞の重ね型	4課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第4課の会話と練習の予習（90分）
担当教員			
第11回	第4課：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	4課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第5課の会話と練習の予習（90分）
担当教員			
第12回	第5課：全部でおいくらですか。 ①年月日・曜日・時刻 ②名詞述語文（日時、年齢の言い方、金額の言い方） 助数詞（量詞）	5課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第5課の会話と練習の予習（90分）
担当教員			

第13回	第5課の続き：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	5課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第6課の会話と練習の予習（90分）
担当教員			
第14回	①総復習 ②DVDを利用して、中国文化の鑑賞	習った中国語の発音、単語と文法の予習（90分）	習った内容の復習と練習（90分）
担当教員			
第15回	期末テストと復習	習った内容の復習と練習（90分）	テスト内容の確認（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点(授業の取り込み 、小テスト、発表など) :40% 期末テスト:60%
その他	0	

教科書

【初級中国語】校園故事――キャンパス物語 /云肖梅 / 森若裕子
松柏社　　2021

参考文献

Why？にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社

履修条件・留意事項等

予習：テキスト付属の「音声サイト」をダウンロードし、授業に関する音声を聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。
復習：その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。

備考欄

・出席、授業参観を重視する。
・予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
・質問がある場合、いつでも聞くこと。

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	中国語入門Ⅰ［C2-2］					ナンバリング	1231
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大沼　尚子						

授業の位置づけ

中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。場面に即して簡単な受け答えをできるようにすることで、中華圏の人とのコミュニケーション能力を養う。中国語の学習を通じて、中華圏の文化、習慣の違いを学び、アジア圏についての知識を培う。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるための科目である。他の中国語科目と関連するとともに、後期科目「中国語入門Ⅱ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、中国語修得の中で、外国人が最も苦労すると言われる中国語の発音をマスターする(ローマ字を見て発音でき、発音を聞いてローマ字に直せるようになる)。これは中国語の基礎をマスターすることに等しい。この授業では、日本人の習慣を考慮した学習法により、効率的に中国語の発音をマスターすることを目指す。また、それと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。

到達目標

1. 基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようにする。
2. 発音を一通り学び、ピンインの読み書きをマスターする。
3. 正確な.声調で、スムーズに中国語を発音できるようにする。
4. 場面に即した簡単な質問と受け答えをできるようにする。

授業の方法

原則として、1課を2回の授業で学ぶ。1回目は新出単語、新たな文法事項とテーマに基づいた会話を学ぶ。2回目は文型練習と、会話と関連のある短文講読を中心に学び、リスニング及びロールプレイを行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前また後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1回　　ガイダンス:中国語の特徴(簡体字と繁体字、声調、ピンインと音節)、中国語圏における言語環境、発音(声調、母音)	中国また中国語に関する知識を調べて準備する(90分)	簡体字と繁体字、声調、ピンインと音節の復習・単母音/複母音/子音の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第2回	発音(声調、単母音、複母音、子音)	簡体字と繁体字、声調、ピンインと音節の復習(90分)	単母音/複母音/子音の復習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第3回	発音(子音、鼻母音)、声調変化、r化	発音(子音、鼻母音)・発音ルールの予習(90分)	発音全般の復習(90分)
担当教員	大沼　尚子		

第4回	第1課:あなたの名前はなんといいますか。 ①人称代名詞、②名前の尋ね方と答え方、③動詞“是”、④副詞“也”	1課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第1課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第5回	第1課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	1課の単語・文法の予習(続き)(90分)	習った内容の復習・第2課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第6回	第2課:これは何ですか。 ①指示代名詞、②助詞“的”、③疑問詞疑問文	2課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第2課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		

第7回	第2課の続き:応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	2課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第3課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第8回	第3課:あなたは何を食べますか。 ①動詞述語文、②反復疑問文、③選択疑問文、④省略疑問文、⑤連動文 ⑥語気助詞“吧”	3課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第3課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第9回	第3課の続き:応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	3課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第4課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		

第10回	第4課：最近どうですか。 ①形容詞述語文、②程度の表現 ③主述述語文 ④“一下”と動詞の重ね型	4課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第4課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第11回	第4課：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	4課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第5課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第12回	第5課：全部でおいくらですか。 ①年月日・曜日・時刻 ②名詞述語文（日時、年齢の言い方、金額の言い方） 助数詞（量詞）	5課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第5課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		

第13回	第5課の続き:応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	5課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第6課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第14回	第6課:病院はどこにありますか。 ①場所代名詞、②方位詞、③存在を表す動詞“有” ④所在を表す動詞”在”	6課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第6課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第15回	第6課の続き:応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	6課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の総復習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点は40%(授業参加度10%、小テスト20%、口頭試験10%)、 中間と期末試験(60%)
その他	0	

教科書

【初級中国語】校园故事――キャンパス物語　云肖梅・森若裕子　松柏社　　2021

参考文献

Why？にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社

履修条件・留意事項等

予習：テキスト付属の「音声サイト」をダウンロードし、授業に関する音声を聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。
復習：その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	中国語入門Ⅱ［C3-1］					ナンバリング	1233
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大沼　尚子						

授業の位置づけ

中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。
「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。
場面に即して簡単な受け答えをできるようにすることで、中華圏の人とのコミュニケーション能力を養う。
中国語の学習を通じて、中華圏の文化、習慣の違いを学び、アジア圏についての知識を培う。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、「中国語入門Ⅰ」に連動し、引き続き発音の基礎と初歩的文法事項及び表現方法を学び、基礎的な「語法と表現」を使って日常場面でのコミュニケーションができるようにする。同時に発音習得に欠かせない、発音符号とピンインの読み方とその表記、さらに声調を結びつけ、中国語の発音表記について完全にマスターできるようにする。発音を完全にマスターすることで、中国語の基礎を固める。

到達目標

1. 基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようにする。
2. 発音を一通り学び、ピンインの読み書きをマスターする。
3. 正確な.声調で、スムーズに中国語を発音できるようにする。
4. 場面に即した簡単な質問と受け答えをできるようにする。

授業の方法

原則として、1課を2回の授業で学ぶ。1回目は新出単語、新たな文法事項とテーマに基づいた会話を学ぶ。2回目は文型練習と、会話と関連のある短文講読を中心に学び、リスニング及びロールプレイを行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前また後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1回　　ガイダンス、前期に習った内容の復習	中国語入門Ｉの復習（90分）	中国語発音の復習と確認・第7課の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第2回	第7課：どこで会いましょうか。 ①状語、②状語になれるもの ③所有を表す動詞“有”	7課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第7課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第3回	第7課の続き：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	7課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第8課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		

第4回	第8課：どのくらい行っていたのですか。 ①完了のアスペクト助詞“了”、②経験のアスペクト助詞“过”、③時量補語と動量補語、④比較	8課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第8課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第5回	第8課の続き：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	8課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第9課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		
第6回	第9課：何を見ているのですか。 ①動作の進行を表す副詞“在”、②能願動詞 ③変化・到達を表す文末助詞“了”	9課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第9課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	大沼　尚子		

第7回	第9課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	9課の単語・文法の予習(続き)(90分)	第7～9課の復習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第8回	中間試験及び復習	試験の復習(90分)	10課の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第9回	第10課:趣味は何ですか。 ①様態補語、②二重目的語 ③形容詞が名詞を修飾する場合	10課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第10課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		

第10回	第10課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	10課の単語・文法の予習(続き)(90分)	習った内容の復習・第11課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第11回	第11課:航空券はもう予約しましたか。 ①結果補語、②可能補語(1) ③"快要～了""就要～了"	11課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第11課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第12回	第11課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	11課の単語・文法の予習(続き)(90分)	習った内容の復習・第12課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		

第13回	第12課:道中ご無事で！ ①方向補語一覧 ②方向補語 ③可能補語(2) ④“是～的”構文	12課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第12課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第14回	第12課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	12課の単語・文法の予習(続き)(90分)	口頭試験の復習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第15回	第7～12課の総復習及び口頭試験	総復習(180分)	なし
担当教員	大沼　尚子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点は40%(授業参加度10%、小テスト20%、口頭試験10%)、中間と期末試験(60%)
その他	0	

教科書

【初級中国語】校园故事――キャンパス物語／云肖梅・森若裕子／松柏社 2021

参考文献

Why？にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社

履修条件・留意事項等

予習：テキスト付属の「音声サイト」をダウンロードし、授業に関する音声を聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。
復習：その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。
出席と小テストを重視します。無断欠席は必ず減点要素になります。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	中国語入門Ⅱ［C3-2］					ナンバリング	1233
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	云　肖梅						

授業の位置づけ

中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。
「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。
場面に即して簡単な受け答えをできるようにすることで、中華圏の人とのコミュニケーション能力を養う。
中国語の学習を通じて、中華圏の文化、習慣の違いを学び、アジア圏についての知識を培う。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、「中国語入門Ⅰ・Ⅱ」に連動し、引き続き発音の基礎と初歩的文法事項及び表現方法を学び、基礎的な「語法と表現」を使って日常場面でのコミュニケーションができるようにする。同時に発音習得に欠かせない、発音符号とピンインの読み方とその表記、さらに声調を結びつけ、中国語の発音表記について完全にマスターできるようにする。発音を完全にマスターすることで、中国語の基礎を固める。

到達目標

1. 基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようにする。
2. 発音を一通り学び、ピンインの読み書きをマスターする。
3. 正確な.声調で、スムーズに中国語を発音できるようにする。
4. 場面に即した簡単な質問と受け答えをできるようにする。

授業の方法

原則として、1課を2回の授業で学ぶ。1回目は新出単語、新たな文法事項とテーマに基づいた会話を学ぶ。2回目は文型練習と、会話と関連のある短文講読を中心に学び、リスニング及びロールプレイを行う。

ICT活用

Google Classroomの機能を活用し、書く練習や理解度テストを行い、双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前また後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1回　　ガイダンス、前期に習った内容の復習	中国語入門Ｉの復習（90分）	中国語発音の復習と確認・第7課の予習（90分）
担当教員	云　肖梅		
第2回	第7課：どこで会いましょうか。 ①状語、②状語になれるもの ③所有を表す動詞“有”	7課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第7課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	云　肖梅		
第3回	第7課の続き：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	7課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第8課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	云　肖梅		

第4回	第8課：どのくらい行っていたのですか。 ①完了のアスペクト助詞“了”、②経験のアスペクト助詞“过”、③時量補語と動量補語、④比較	8課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第8課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	云　肖梅		
第5回	第8課の続き：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	8課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第9課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	云　肖梅		
第6回	第9課：何を見ているのですか。 ①動作の進行を表す副詞“在”、②能願動詞 ③変化・到達を表す文末助詞“了”	9課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第9課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	云　肖梅		

第7回	第9課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	9課の単語・文法の予習(続き)(90分)	第7～9課の復習(90分)
担当教員	云　肖梅		
第8回	中間試験及び復習	試験の復習(90分)	10課の予習(90分)
担当教員	云　肖梅		
第9回	第10課:趣味は何ですか。 ①様態補語、②二重目的語 ③形容詞が名詞を修飾する場合	10課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第10課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	云　肖梅		

第10回	第10課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	10課の単語・文法の予習(続き)(90分)	習った内容の復習・第11課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	云　肖梅		
第11回	第11課:航空券はもう予約しましたか。 ①結果補語、②可能補語(1) ③"快要～了""就要～了"	11課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第11課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	云　肖梅		
第12回	第11課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	11課の単語・文法の予習(続き)(90分)	習った内容の復習・第12課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	云　肖梅		

第13回	第12課:道中ご無事で！ ①方向補語一覧 ②方向補語 ③可能補語(2) ④“是～的”構文	12課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第12課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	云　肖梅		
第14回	第12課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	12課の単語・文法の予習(続き)(90分)	口頭試験の復習(90分)
担当教員	云　肖梅		
第15回	第7～12課の総復習及び口頭試験	第7～12課の総復習(90分)	口頭試験内容の再確認(90分)
担当教員	云　肖梅		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点は40%(授業参加度10%、小テスト20%、口頭試験10%)、 中間テスト(30%) 期末テスト(30%)
その他	0	

教科書

【初級中国語】校園故事――キャンパス物語／云肖梅・森若裕子／松柏社 2021 978-4-88198-763-6

参考文献

Why？にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社

履修条件・留意事項等

予習：テキスト付属の「音声サイト」をダウンロードし、授業に関する音声を聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。
復習：その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	中国語入門Ⅱ［C3-3］					ナンバリング	1233
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。ディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことと特に関係がある科目であり、「世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている」ことや、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」ための科目である。
「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。
場面に即して簡単な受け答えをできるようにすることで、中華圏の人とのコミュニケーション能力を養う。
中国語の学習を通じて、中華圏の文化、習慣の違いを学び、アジア圏についての知識を培う。

授業の概要

この授業は、「中国語入門Ⅰ」にリンクし、「中国語基礎Ⅰ･Ⅱ」と連携している。引き続き発音の基礎と初歩的文法事項及び表現方法を学び、基礎的な「語法と表現」を使って日常場面でのコミュニケーションができるようにする。同時に発音習得に欠かせない、発音符号とピンインの読み方とその表記、さらに声調を結びつけ、中国語の発音表記について完全にマスターできるようにする。発音を完全にマスターすることで、中国語の基礎を固める。

到達目標

1. 基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようにする。
2. 発音を一通り学び、ピンインの読み書きをマスターする。
3. 正確な.声調で、スムーズに中国語を発音できるようにする。
4. 場面に即した簡単な質問と受け答えをできるようにする。

授業の方法

原則として、1課を2回の授業で学ぶ。1回目は新出単語、新たな文法事項とテーマに基づいた会話を学ぶ。2回目は文型練習と、会話と関連のある短文講読を中心に学び、リスニング及びロールプレイを行う。

ICT活用

Google Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前また後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1回　　ガイダンス、前期に習った内容の復習	中国語入門Ｉの復習（90分）	中国語発音の復習と確認・第7課の予習（90分）
担当教員	魯　諍		
第2回	第7課：どこで会いましょうか。 ①状語、②状語になれるもの ③所有を表す動詞“有”	7課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第7課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	魯　諍		
第3回	第7課の続き：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	7課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第8課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	魯　諍		

第4回	第8課：どのくらい行っていたのですか。 ①完了のアスペクト助詞“了”、②経験のアスペクト助詞“过”、③時量補語と動量補語、④比較	8課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第8課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	魯　諍		
第5回	第8課の続き：応用練習（文型練習、閲読、リスニング）	8課の単語・文法の予習（続き）（90分）	習った内容の復習・第9課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	魯　諍		
第6回	第9課：何を見ているのですか。 ①動作の進行を表す副詞“在”、②能願動詞 ③変化・到達を表す文末助詞“了”	9課の単語・文法の予習（90分）	習った内容の復習・第9課の会話と練習の予習（90分）
担当教員	魯　諍		

第7回	第9課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	9課の単語・文法の予習(続き)(90分)	第7～9課の復習(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	中間試験及び復習	試験の復習(90分)	10課の予習(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	第10課:趣味は何ですか。 ①様態補語、②二重目的語 ③形容詞が名詞を修飾する場合	10課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第10課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	魯　諍		

第10回	第10課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	10課の単語・文法の予習(続き)(90分)	習った内容の復習・第11課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	第11課:航空券はもう予約しましたか。 ①結果補語、②可能補語(1) ③"快要～了""就要～了"	11課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第11課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	第11課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	11課の単語・文法の予習(続き)(90分)	習った内容の復習・第12課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	第12課:道中ご無事で！ ①方向補語一覧 ②方向補語 ③可能補語(2) ④“是～的”構文	12課の単語・文法の予習(90分)	習った内容の復習・第12課の会話と練習の予習(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	第12課の続き:応用練習(文型練習、閲読、リスニング)	12課の単語・文法の予習(続き)(90分)	口頭試験の復習(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	第7～12課の総復習及び口頭試験	総復習(90分)	口頭試験の内容を振り返る(90分)
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点は40%(授業参加度10%、小テスト20%、口頭試験10%)、中間と期末試験(60%)
その他	0	

教科書

【初級中国語】校園故事――キャンパス物語／云肖梅・森若裕子／松柏社 2021　　978-4-88198-763-6

参考文献

Why？にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社

履修条件・留意事項等

予習：テキスト付属の「音声サイト」をダウンロードし、授業に関する音声を聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。
復習：その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。

備考欄

出席と小テストを重視します。無断欠席は必ず減点要素になります。

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	日本語Ⅰ					ナンバリング	1251
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部　仁美						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅱ・Ⅲ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。

授業の概要

この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。

到達目標

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。
1)自分の意見を論理的にまとめることができる。
2)まとめたことを読み手がわかるように書くことができる。
3)様々な場面で必要な話し方ができる。
4)クリティカル・リーディングの力を身に付けることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習②　動詞の活用と文型	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習⑤ 可能表現	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑧ 受身・使役表現	前回の復習をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	ウォーミングアップ、日本語の会話の特徴	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L1　関心を示して自己紹介をする	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L2　気持ちを配慮して誘う・誘われる	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L3 気持ちを配慮して謝る・謝られる	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L4 わかりやすく伝言を頼む・する	学習内容の説明を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L5 わかりやすく料理の説明をする・求める	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L6 気持ちを配慮して頼む・頼まれる	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L7 なごやかに雑談をする	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L8 立場や状況を配慮して目上の人と話す	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L9 意向を配慮してアドバイスをする・求める	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L10 わかりやすく行事の説明をする・求める	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L11 気持ちを配慮して提案し話し合う	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	

教科書

なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。

参考文献

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70％以上を評価対象とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	日本語Ⅱ					ナンバリング	1252
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　史子						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅲ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。

授業の概要

この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。

到達目標

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。
1)自分の意見を論理的にまとめることができる。
2)まとめたことを読み手がわかるように書くことができる。
3)様々な場面で必要な話し方ができる。
4)クリティカル・リーディングの力を身に付けることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、レベルチェック	初級文法の基礎知識を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習③ 瞬間動詞・継続動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑥ 授受表現	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L2 文体	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L3 モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L4 正しい構造の文	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L5 文のつながり	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L6 小論文によく使われる表現	学習内容の説明を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L7 段落	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L8 要約文を書く(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L8 要約文を書く(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L10 意見文を書く(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L10 意見文を書く(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L11 事実を示す方法	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L12 小論文のはじめとおわり	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	

教科書

なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。

参考文献

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70％以上を評価対象とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	日本語Ⅲ					ナンバリング	1253
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　史子						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。

授業の概要

この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。

到達目標

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。
1)自分の意見を論理的にまとめることができる。
2)まとめたことを読み手がわかるように書くことができる。
3)様々な場面で必要な話し方ができる。
4)クリティカル・リーディングの力を身に付けることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習① 助詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習④ 他動詞・自動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑦ 使役	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L1 表記のしかた	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L2 文体	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L3 モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L4 正しい構造の文	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L5 文のつながり	学習内容の説明を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L6 小論文によく使われる表現	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L7 段落	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L8 要約文を書く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L9 説明文を書く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L10 意見文を書く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L11 事実を示す方法(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L11 事実を示す方法(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	

教科書

なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。

参考文献

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70％以上を評価対象とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	アカデミックジャパニーズⅠ					ナンバリング	1255
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部　仁美						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅡ・Ⅲ」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。
1)アカデミック・スタイルで、わかりやすくまとまりのある文章を書くことができる。
2)自分の文章を見直すための力をつけることができる。
3)幅広いテーマとトピックで知識を深め、論理を組み立てる力をつけることができる。
4)読解を通して、自分の考えをまとめ話し、他者の考えを聞くことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	L12 気持ちを共有しながら印象を話す・聞く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L13 具体的に詳しく感想を話す・聞く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L14 気持ちを共有しながら経験を話す・聞く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L15 相手の意見を尊重して意見を言う	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L1 出会い	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L2 ホテルで	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L3 うわさ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L4 機械のトラブル	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L5 失敗	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L6 電話をかける	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L7 健康のために	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L8 駅で	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L9 趣味	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L10 抱負	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	プレゼンテーションの基礎	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	

教科書

なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)

参考文献

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70％以上を評価対象とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	アカデミックジャパニーズⅡ					ナンバリング	1256
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　史子						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅠ・Ⅲ」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。
1)アカデミック・スタイルで、わかりやすくまとまりのある文章を書くことができる。
2)自分の文章を見直すための力をつけることができる。
3)幅広いテーマとトピックで知識を深め、論理を組み立てる力をつけることができる。
4)読解を通して、自分の考えをまとめ話し、他者の考えを聞くことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	L1 アカデミック・ライティングへの準備	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L4 立場を決めて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L4 立場を決めて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L4 課題を見つけて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L4 課題を見つけて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L5 関心のあるニュースを紹介する(前々半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L5 関心のあるニュースを紹介する(前後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L5 関心のあるニュースを紹介する(後前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L5 関心のあるニュースを紹介する(後々半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L6 データに基づいて報告する(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L6 データに基づいて報告する(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L7 学んだことを生かしてレポートを完成させる	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 データに基づいて報告する(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	

教科書

なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)

参考文献

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70％以上を評価対象とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	アカデミックジャパニーズⅢ					ナンバリング	1257
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　史子						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅠ・Ⅱ」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。
1)アカデミック・スタイルで、わかりやすくまとまりのある文章を書くことができる。
2)自分の文章を見直すための力をつけることができる。
3)幅広いテーマとトピックで知識を深め、論理を組み立てる力をつけることができる。
4)読解を通して、自分の考えをまとめ話し、他者の考えを聞くことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	L1 アカデミック・ライティングへの準備	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L3 立場を決めて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L3 立場を決めて意見を述べる(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L3 立場を決めて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L4 課題を見つけて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L4 課題を見つけて意見を述べる(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L4 課題を見つけて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L5 関心のあるニュースを紹介する(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L5 関心のあるニュースを紹介する(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L6 データに基づいて報告する(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L6 データに基づいて報告する(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 データに基づいて報告する(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	

教科書

なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)

参考文献

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70％以上を評価対象とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	総合中国語Ⅰ					ナンバリング	2241
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	楊　志剛						

授業の位置づけ

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力高めるための科目である。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける。「総合中国語Ⅱ」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、1年次に徹底して取り組んだ中国語の発音（ピンイン）をマスターすることを引き続き継続する。これと同時に、中国語の初級レベルの基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面、生活に根差した場面で使う表現を習得できるようになる。中国語検定4級程度の実力を得ることを目指す。

到達目標

初級レベルの中国語文法と表現を実践の場で活用することができる。
中検4級レベルの文法を使用し、作文することができる。
漢詩（2編程度）を詠むことができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、視聴覚資料を用いて、講義形式で授業を進める。2回目の授業から毎回単語テストを行います。
1年次後期科目の初級中国語Ⅱと初級中国語Ⅲと同じ教科書を使うが、本文以外に各課の「チャレンジ」と「拡張表現」で提示されている単語や表現をすべてマスターします。そして、毎回の授業で「＋α」として、中検4級レベルの文法ポイントを学習し、練習します

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題に対し、解説を行い、受講生にアドバイスをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Ⅱ、自己紹介（教科書第1課～第3課） ＋α：動詞を修飾する“地” “的”“地”“得”の練習	これまで勉強した内容の復習 （90分）	①作文（自己紹介） ②作文を朗読する（90分）
担当教員	楊　志剛		
第2回	第4課 お誘い ＋α：存在を示す動詞“有”と所在を表す“在”の区別	学習予定部分（p.66~73）を予習すること。 「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。（90分）	よく復習し、理解度テストを完成すること。（90分）
担当教員	楊　志剛		
第3回	第5課 レストラン ＋α：助動詞（願望）	学習予定部分（p.74~81）を予習すること。 「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。（90分）	よく復習し、理解度テストを完成すること。（90分）
担当教員	楊　志剛		

第4回	第6課 買い物 ＋α：助動詞（可能） 副詞”再”と”又”	学習予定部分（p.82~89）を予習すること。 「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。（90分）	よく復習し、理解度テストを完成すること。（90分）
担当教員	楊　志剛		
第5回	まとめ① 第1回～4回までの学習内容を復習し、復習テストを行う	教科書第1課～6課までの内容と「＋α」の文法ポイントを復習する（90分）。	復習テストを確認すること（90分）
担当教員	楊　志剛		
第6回	第7課 道案内 ＋α：前置詞句“在”“从”“到”“离” 結果補語の練習	学習予定部分（p.90~97）を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。（90分）	よく復習し、理解度テストを完成すること。（90分）
担当教員	楊　志剛		

第7回	第8課 趣味に関する雑談 ＋α：二重目的語“给”、“送”、“教”、“问”、“告诉” 様態補語の練習	学習予定部分(p.98~105)を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第8回	第9課 旅行の計画 ＋α：前置詞句“给”“跟” 進行形「在」「正」「正在」「～呢」 「いついつに(時点)は動詞より前に」	学習予定部分(p.106~113)を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第9回	第10課 病院 ＋α：”是～的”構文・近接未来表現「快～了」	学習予定部分(p.114~121)を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。(90分)	よく復習し、理解度テストを完成すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		

第10回	まとめ② 第6回～9回までの学習内容を復習し、復習テストを行う。	教科書第7課～10課までの内容と「＋α」の文法ポイントを復習する（90分）	復習テストを確認すること（90分）
担当教員	楊　志剛		
第11回	第11課 トラブル ＋α：動態助詞”了”と目的語 比較の表現	学習予定部分（p.122~129）を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。（90分	よく復習し、理解度テストを完成すること。（90分）
担当教員	楊　志剛		
第12回	第12課 ホテル ＋α：方向補語と可能補語の練習 方位詞をマスターする	学習予定部分（p.130～137）を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。（90分）	よく復習し、理解度テストを完成すること。（90分）
担当教員	楊　志剛		

第13回	第13課 約束する ＋α：因果、仮定、逆接	学習予定部分（p.138~145）を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。（90分	よく復習し、理解度テストを完成すること。（90分）
担当教員	楊　志剛		
第14回	第14課 掲示板を見る ＋α：動態助詞（アスペクト助詞）“着”“了”“过” 存現文の練習	学習予定部分（p.146~153）を予習すること。「拡張表現」も含めるすべての単語と表現を覚えること。（90分）	よく復習し、理解度テストを完成すること。（90分）
担当教員	楊　志剛		
第15回	復習および小テスト	これまで学習した内容を復習すること（120分）	小テストの確認（60分）
担当教員	楊　志剛		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(40%)＋単語テスト(20%)＋小テスト(40%)
その他	0	無断欠席は必ず減点要素とする。

教科書

『中国語でコミュニケーション』沈国威監修、氷野善寛、小嶋美由紀、海曉芳、紅粉芳惠、阿部慎太郎著 朝日出版社

参考文献

『完全攻略！中検4級5週間の学習プログラム』奥村佳代子・氷野善寛・馮誼光著 アルク

履修条件・留意事項等

初級中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（1年生後期）のいずれの科目を履修したほうがよい。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	総合中国語Ⅱ					ナンバリング	2242
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	楊　志剛						

授業の位置づけ

中国語の総合的な表現能力を高めるための科目である。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を高めるともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を訓練する。「総合中国語Ⅰ」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、「聞く、話す、読む、書く」の語学に必要な4要素の中で、「聞く、話す」に主眼をおく。1年間の専門教育で勉強した初級レベルのコミュニケーション能力、「会話と表現」能力の上に、中級レベルにふさわしい、より高度な表現能力を上達ことができるようにする。中国語には生活習慣などに起因する、他文化圏の人々には理解しがたい特殊な表現がある。これらの表現は、日本人が苦手とし、理解しがたいものが多いが、とても大切な表現となる。授業では、これらの理解しがたい中国語の表現についても触れる。

到達目標

中級レベルの中国語文法と表現の場で活用することができる。
中国語検定試験3級レベルの文法を使用し、作文することができる。
中国語の映画を見ておも内容を理解することができる。
中国人観光客と日常的な会話をすることができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、視聴覚資料を用いて、講義形式で授業を進める。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題に対し、解説を行い、受講生にアドバイスをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Ⅰ、ガイダンス Ⅱ、第1課 朝の公園 公園で運動する習慣について説明する	学習予定部分(p.10~13)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第2回	第3課 餃子 中国の餃子と日本の餃子の違いについて紹介する	学習予定部分(p.18~21)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第3回	第4課 寒くないか 表現のしかたの違いについて学ぶ	学習予定部分(p.22~25)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		

第4回	第6課 お見合いコーナー 　中国の多くの都市の公園にある「お見合いコーナー」の風景を紹介する	学習予定部分(p.30~33)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第5回	第9課 無洗米 　「闺蜜」とは？ 　中国のプレゼント事情	学習予定部分(p.42~45)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第6回	第10課 温かいものを食べたい 　中国人の「冷たいものを避ける習慣」について説明する	学習予定部分(p.46~49)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		

第7回	第12課 プライバシー 　中国のプライバシー観念について説明する	学習予定部分(p.54~59)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第8回	第13課 曖昧な日本語 　表現の仕方の違い	学習予定部分(p.60~63)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第9回	第15課 呼び方 　中国では人に呼び掛ける時に、どのような呼び方をするかについて説明する	学習予定部分(p.68~71)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		

第10回	第19課 他人行儀 南北の差異について説明する	学習予定部分(p.84~87)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第11回	第20課 スイカがショッパイ 果物の食べ方の違いについて説明する	学習予定部分(p.88~91)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第12回	第21課 白い花 中国人の色に対するこだわり	学習予定部分(p.92~95)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		

第13回	第23課 見送り 　中国人のおもてなしについて紹介する	学習予定部分(p.100~103)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第14回	第24課 縁起を担ぐ 　「縁起の悪い」とされるもの	学習予定部分(p.104~107)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員	楊　志剛		
第15回	復習および小テスト	これまで学習した内容を復習すること。(90分)	小テストの内容を確認する。(90分)
担当教員	楊　志剛		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋ペアワーク(30%)＋小テスト(40%)
その他	0	無断欠席は必ず減点要素とする。

教科書

『マンガ日中いぶこみ劇場』相原茂、費燕、蘇明編著 富田淳子作画 朝日出版社

参考文献

『実用現代漢語語法』劉月華など著 北京 商務印書館

履修条件・留意事項等

初級中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（1年生後期）と総合中国語Ⅰ（2年生前期）のいずれの科目を履修したほうがよい。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	中国語コミュニケーション					ナンバリング	2245
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡　耀光						

授業の位置づけ

・本授業は中国語入門を修得した二年生対象です。
・更に中級レベルの語彙と文型を丁寧に学習し、中国語の聴く、話す、読む能力を総合的に高めるための科目である。
・役立つ実用的な日常会話にも触れながら、中国語を聞き話す力を鍛えて、相手と簡単なコミュニケーションを取るための　科目である。
・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働を可能とし、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける科目であり、1年次の中国語科目の発展科目であるとともに、「中国語リスニング」「中国語リーディング」「中国語ライティング」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、中国語の日常会話を修得する。中国の文化・習慣・伝統・流行・中国人の考え方などにも触れ、実生活に即した会話の練習を通して，自分の考えや伝えたいことを話せる能力を身につける。各課のポイントに基づく練習問題をこなすことで、基礎を固め応用力を養う。総合中国語Ⅰ、総合中国語Ⅱの授業に続き、中国語のレベルアップを図る。また、中国語で発想する感覚を身に付け、より踏み込んだレベルの生活会話の習得を目指す。

到達目標

・正確で自然な発音、中級レベルの語彙および文法を応用できること。
・中国人と簡単なコミュニケーションが取れるようになり、聴く、話す、読む能力を総合的に高めること。
・中国語検定3級、HSK3級レベルに達すること。
・また、講義とDVDなどによる中国文化・風俗、中国事情の紹介など日中の相互理解も深める。

授業の方法

・ テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき1.5～2回で学ぶ。
・ 単語、本文の発音と説明の後、文法の学習と練習問題。その後、ペアで会話練習を行う。
・ 講義とDVDを通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めていく。

ICT活用

必要に応じて、ICTを利用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前また後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第一課【自我介绍】 1. 様態補語 2. 助動詞「要」(1) 3.「正～呢」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	4. 二重目的語 5.「太～了」习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	第二課【兴趣・爱好】 1.「无论～, 都～」2.「除了～, 还/也/都～」3. 結果補語	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	4.「一～就～」5. 助動詞「要」(2) 习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	第三课【去学校】 1. 助動詞「得」2.「一边～一边～」 3.「只有～就～」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	4. 助動詞「还是」5. 数量補語　习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	第四課【点菜】 1. 動詞「需要」2. 副詞「马上」 3. 前置詞「跟」4.「跟/和～一样」v	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	中間テストと復習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	5. 程度補語　习题　6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	第五课【我的梦想】 1.「越～越～」 2.「连～都/也～」 3.「只有～才～」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	4. 動詞＋「在」 5.「从来」 习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	第六课【春假早点儿来！】 1.「可」 2.「与其～不如～」 3.「也许～也许～」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	4.「得知」5.「不但～还/而且～」習題 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	1. 総復習 2. DVDを使って、中国の文化を紹介します	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を総復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	期末テストと解説	音声を利用して授業全内容を復習すること。(180分)	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内テスト （中間テスト＋期末テスト）:80%程度 （小テスト・会話・授業参加度）: 20%程度
その他	0	

教科書

話そう！実践中国語／宮本大輔・温琳／朝日出版社

参考文献

Why？にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社

履修条件・留意事項等

・ 出席・授業参観を重視する。
・ 予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
・ 質問がある場合、いつでも聞くこと。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	中国語リスニング					ナンバリング	2247
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡　耀光						

授業の位置づけ

実用的な会話とリスニング練習を通して中国語の「耳」と「口」を鍛え、場面に応じて、リスニングと会話を中心として自然に中国語で簡単なコミュニケーションを取るための科目である。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働を可能とし、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける科目であり、1年次の中国語科目の発展科目であるとともに、「中国語コミュニケーション」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、「話す、聴く、書く、読む」に代表される語学力の中で、「聴く」能力に的を絞り講義を進める。中国語を母語とする人々が話すことばを聞いて分かるようになるためには、色々な人々の語る色々な内容を正しく認識しなければならない。中国語を日本語に直して聴くのでなく、中国語をそのまま中国語で聴く練習を通して、「聴く」力の向上に努める。学習者は、中国人の思考方式に合わせて中国語が聴けるようになり、コミュニケーション能力を向上させることができ、スローなスピードで設定された場面において単純な会話を聞き取れるようになる。

到達目標

1. 聴力の繰り返しの訓練によって、初級段階で学習された中国語を確実に聞き取れ、さらに応用できるようになる。
2. 旅とおもてなし等に役に立つ簡単な日常会話ができるようになる。
3. 中国語検定3級、HSK3レベルに達する。

授業の方法

テキストに沿って授業を進める。 単語、本文の発音を学び、軽く文法の学習と練習問題。後は、ペアで発音の練習と応用会話練習を行う。講義を通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めていく。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①授業についてのガイダンス ②第1課　你有外国朋友吗？(一) 基礎的な人名、国名、地名、専攻科目名などに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.1-4)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第2回	第1課　你有外国朋友吗？(二) 人物を紹介する簡単な文章の聞き取りをする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.5-8)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第3回	第2課　快乐的家庭(一) 親族の呼び方、職業名などに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.9-12)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第4回	第2課　快乐的家庭(二) 家族を紹介する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.13-16)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第5回	第3課　我的一个星期(一) 曜日、日常の主な行動などに関する語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.17-20)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第6回	第3課　我的一个星期(二) 一週間の予定に関する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.21-24)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	第8課　一共多少钱(一) 勉強道具、日用品、衣服、お土産、色などに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.57-60)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	中間テストと復習	音声を利用して、第1課～第3課まで学習した内容を復習する	音声を利用して第8課の(pp.61-64)を予習する(90分)。
担当教員			
第9回	第8課　一共多少钱(二) 買物に関する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.61-64)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第10回	第9課　今天你想吃什么？(一) 飲食などに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.65-68)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第11回	第9課　今天你想吃什么？(二) 食事に関する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.69-72)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	第10課　我喜欢学汉语(一) 勉強、趣味、スポーツなどに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.73-76)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第13回	第10課　我喜欢学汉语（二） 　趣味や勉強に関する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分（pp.77-80）を予習する（90分）。	音声を利用して学習した内容を復習する（90分）。
担当教員			
第14回	①総復習 ②DVDと利用して、応用練習する（中国文化も紹介する）	音声を利用して学習した内容を予習する（90分）。	音声を利用して学習した内容を復習する（90分）。
担当教員			
第15回	期末テストと復習	学習した内容を総復習する（90分）。	テストの内容を確認する（90分）。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はしません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出席・態度、課題の完成など)＋小テスト:20% 中間テスト＋期末テスト:80%
その他	0	

教科書

『聴力UP!!中国語リスニングトレーニング』胡金定ほか著 朝日出版社、2016年。

参考文献

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

・出席を重視すること。
・必ず予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
・質問がある場合、いつでも聞くこと。

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	総合中国語Ⅲ					ナンバリング	3243
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	云　肖梅						

授業の位置づけ

この授業は、中国語を媒介としたコミュニケーション能力を修得する科目である。世界と繋がるために、地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけ、グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。「総合中国語Ⅳ」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、より高度な中国語表現能力取得を目指す。中国語には複雑な表現であっても表現する内容によって決まった文型がある。授業ではこれらの文型を学習しながら、練習問題を通して定着を目指す。また、それを確実に伝えられるような口頭練習を多用する。よって、2年間で学んだ学習項目を基礎に、より複雑な表現にふさわしい文型が使えるようになり、学んだ文型を実際のオーラル・コミュニケーションの場で使えるようにする。これらの表現に必要な文型や単語をマスターする。

到達目標

1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。
2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
3.より自然な中国語を話せるようになる。

授業の方法

原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解読し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんの会話を行い、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行う。中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。

ICT活用

公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスを行い、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス、初級文法復習	初級文法復習(90分)	初級文法音読復習、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第2回	第一課 介紹 学習要点: 結果補語/情態補語	第1課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第1課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第3回	第1課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第1課付属のCD本文を度聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		

第4回	第二課 家庭 学習要点: 兼語文(指令動詞)	第2課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第2課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第5回	第2課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第2課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第6回	第三課 学校 学習要点: 除了～以外/为了～	第3課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第3課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		

第7回	第3課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第3課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第8回	第四課 兴趣 学習要点: 越～越～/対～感兴趣	第4課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第4課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第9回	第4課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第4課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		

第10回	第五課 气候 学習要点: 可能補語/方向補語の派正義	第5課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第5課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第11回	第5課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第5課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第12回	第六課 交通 学習要点: 就要～了/是否～	第6課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第6課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		

第13回	第6課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第6課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第14回	第1-6課 総復習と口述テスト	口述テスト作文を作成(90分)	総復習、授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第1～6課)を聞くこと。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第15回	まとめおよび期末テスト	総復習(第1～6課)(90分)	期末テストの見直し(90分)
担当教員	云　肖梅		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%
その他	0	

教科書

『中文Jump！』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月

参考文献

授業内で適宜指示

履修条件・留意事項等

授業中に行う解読をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	総合中国語Ⅳ					ナンバリング	3244
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡　慧君						

授業の位置づけ

この授業は、中国語を媒介としたコミュニケーション能力を修得する科目である。世界と繋がるために、地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけ、グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。「総合中国語Ⅲ」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、「聞く、話す、読む、書く」の4要素の中で、「聞く、話す」に主眼をおく。2年間の専門教育で身につけた初級レベルのコミュニケーション能力、「会話と表現」のレベルアップした表現能力を身につけることができるようにする。総合的な中国語コミュニケーション能力をアップすることができるようになる。つまり、ただ単に読んで理解することができるだけではなく、目的や場面に合わせた聴力・会話能力を身に付ける。

到達目標

1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。
2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
3.より自然な中国語を話せるようになる。

授業の方法

原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解読し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんの会話を行い、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行い、中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。

ICT活用

公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスを行い、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス、前期の復習	前期の復習（90分）。	前期の復習、聞いた内容が理解できるようにすること。（90分）
担当教員	胡　慧君		
第2回	第7課 问路	第7課の単語(P.49)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。（90分） 文法(P.46动词要・有/又～又～/不但…而且)	第7課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。（90分）
担当教員	胡　慧君		
第3回	第7課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。（90分）	第7課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。（90分）
担当教員	胡　慧君		

第4回	第8課 **电话**	第8課の単語(P.56)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法(P.53 怎么)	第8課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		
第5回	第8課の練習問題、文章内容の確認、発展	学習予定の部分(pp.40-45)を予習する(90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第3課本文1の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	胡　慧君		
第6回	第9課 **购**物	第9課の単語(P.63)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法(P.49有一点儿/一点儿/只要…就)	第9課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		

第7回	第9課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第9課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		
第8回	第10課**饮**食	第10課の単語(P.69)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法(P.66把字句)	第10課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		
第9回	第10課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第10課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		

第10回	第11課 健康	第11課の単語(P.75)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法(P.72是…的/ 一～就)	第11課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		
第11回	第11課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第11課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		
第12回	第12課 社会	第12課の単語(P.82)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法(P.78被**动**句/比**较**句)	第12課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		

第13回	第12課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第12課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡　慧君		
第14回	第7～12課 総復習と口述テスト	口述テストの作文を完成すること(90分)	期末試験に備えて復習すること(90分)
担当教員	胡　慧君		
第15回	まとめおよび期末テスト	授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第7～12課)を聞くこと。(合計の所要時間90分程度)	期末試験の見直し(合計の所要時間90分程度)
担当教員	胡　慧君		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%
その他	0	

教科書

『中文Jump！』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月

参考文献

授業内で適宜指示

履修条件・留意事項等

授業中に行う解読をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	朝鮮語Ⅰ					ナンバリング	3271
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	崔　鉉鎭						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「朝鮮語Ⅱ」の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、朝鮮語を初めて学ぶ学生を対象とし、朝鮮語の初歩を習得する。ハングル文字表記を学び、その音韻体系と基本的な音韻規則を理解し、朝鮮語の基本文型を使って、簡単な挨拶表現や自己紹介をはじめ、初対面の人との出会いと交流場面での表現の習得を通して、韓国文化を学ぶとともに朝鮮語で話すことの楽しさを体験する。

到達目標

1. ハングル文字の読み書きができる。
2. 単語・文レベルにみられる発音変化規則を理解して適用できる。
3. 基礎文型を活用して挨拶や自己紹介、簡単な日常会話ができる。

授業の方法

パワーポイントと視聴覚資料を用いた講義形式を基本とするが、4技能（聞く・読む・話す・書く）をバランスよく身に付けるため、様々な練習とペア・グループ学習を行う。ハンドアウト（配布印刷物）を教材で使用し、進み具合に合わせて配布する。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に解説を行う。質問や感想などは随時受け付けて課題と同様、次回の授業に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	① ガイダンス(授業の流れ、履修上の留意事項、成績評価など)を実施する。 ② ハングル文字の仕組み及び母音字①(単母音)について学ぶ。	韓国語の特徴について調べた後、日本語との共通点と相違点を考える(90分)。	学んだ母音字を暗記する(90分)。
担当教員			
第2回	母音字②(二重母音)について学ぶ。	母音字①を再復習したうえで、母音字②について予習する(90分)。	学んだ母音字を暗記する(90分)。
担当教員			
第3回	子音字①(カ、サ、タ、ナ行の子音字に類似)について学ぶ。	全ての母音字を再復習したうえで、子音字①について予習する(90分)。	学んだ子音字を暗記する(90分)。
担当教員			

第4回	子音字②(ハ、パ、マ、ラ、チャ行の子音字に類似)について学ぶ。	子音字①を再復習したうえで、子音字②について予習する(90分)。	学んだ子音字を暗記する(90分)。
担当教員			
第5回	① パッチム(「ン、ル、ッ」に類似)について学ぶ。 ② 仮名のハングル表記法に基づいて日本の人名・地名を書く。	全ての子音字を再復習したうえで、学習内容を予習する(90分)。	パッチムの種類及び発音法を暗記する(90分)。
担当教員			
第6回	① 発音変化規則「連音化」を理解し、単語と文章に適用して読む。 ② 助詞(「は、が、を 」など)について学習する。	母音字、子音字、パッチムを総復習した後、学習内容を予習する(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	視聴覚資料を活用して「生きた韓国語」に触れる。これまで学んできた語彙や表現などの聞取り練習を行うとともに韓国の文化についても知る。	これまで配布されたハンドアウトの語例を音読しながらハングル文字の読み方と連音化規則を総復習する(120分)。	視聴覚資料に出てきた単語と表現の表記・発音を復習し、疑問に思った韓国の文化などがあれば調べる(60分)。
担当教員			
第8回	①「名詞＋です(か)」について学ぶ。 ② ①の文型を用いて自己紹介をする。 ③「名詞＋ではありません」について学習する。	学習内容を予習した後、新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第9回	① 存在の有無を表す表現について学ぶ。 ② 位置を表す表現について学習する。	学習内容を予習した後、新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			

第10回	漢数詞の数え方とそれに付く助数詞について学ぶ。	学習内容を予習した後、1～10、100、1,000、10,000 の漢数詞の発音と綴りを暗記する(90分)。	授業中に解いた問題を復習後、スムーズに発音できるようになるまで反復練習を行う(90分)。
担当教員			
第11回	固有数詞の数え方とそれに付く助数詞について学ぶ。	学習内容を予習した後、1～10、20 の固有数詞の発音と綴りを暗記する(90分)。	授業中に解いた問題を復習後、スムーズに発音できるようになるまで反復練習を行う(90分)。
担当教員			
第12回	① ヘヨ体①(パッチム有りのタイプ)について学ぶ。 ② 否定表現について学習する。	学習内容を予習した後、新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習した後、パッチム有りのヘヨ体の作り方を暗記する(90分)。
担当教員			

第13回	ヘヨ体②（パッチム無しとその他のタイプ）について学ぶ。	学習内容を予習した後、新出語彙を覚える（90分）。	学習内容を復習した後、パッチム無し・その他のヘヨ体の作り方を暗記する（90分）。
担当教員			
第14回	要求表現について学ぶ。	ヘヨ体の全パターンの作り方を総復習した後、学習内容を予習する（90分）。	要求表現の作り方と授業中に練習した例文を暗記する（90分）。
担当教員			
第15回	今学期の学習内容を総まとめした後、到達度確認テストを実施する。	今学期の学習内容を復習しながら理解が足りていない箇所をチェックしておく（120分）。	今学期の学習内容を総復習する（60分）。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(10%)、課題・小テスト(30%)、学期末試験(60%)で総合的に評価する。
その他	0	

教科書

なし。

参考文献

必要に応じて紹介する。

履修条件・留意事項等

欠席・遅刻を避け、授業に積極的に参加してください。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	朝鮮語Ⅱ					ナンバリング	3272
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	朴　權浩						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「朝鮮語Ⅰ」の発展科目である。

授業の概要

この授業は「朝鮮語Ⅰ」に続き、初級レベルの朝鮮語を総合的に学ぶ。ハングル文字表記に慣れ、その音韻体系と基本的な音韻規則を理解し、朝鮮語の基本文法や語句を使って、日常生活における出来事や考えを簡単に表現できるようになる。韓国からの観光客へのおもてなし表現や、韓国旅行で役に立つトラベルフレーズなど、実践的な朝鮮語コミュニケーションを基本文型で表現できるようになることを目指す。

到達目標

朝鮮語の基礎文法の学習を通じた基本的な文書の読解と作文能力を身につける。
大きい声で練習することによって発音の規則に習熟し、また多様な場面での会話の練習を通じて状況に応じた基本的なコミュニケーションと日常の会話の能力を身につける。
ハングル能力試験4～5級合格程度の能力を身につける。

授業の方法

授業は、前期に学習した正確な読み書きと基本会話を基礎にして朝鮮語の基礎的な文法や文型を会話を通じて学んでいく。学生一人ひとりの学習レベルと状況にあわせた実践の会話練習を通じて全員が積極的にまた楽しく朝鮮語を学んでいくことができるように指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出方法、フィードバック方法については、授業開始時に具体的に提示する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	前期の朝鮮語Ⅰの総括復習 ①子音と母音、パッチムの発音 ②～ます、です形と否定文など	朝鮮語Ⅰの総括的な復習をする。(90分)	朝鮮語Ⅰの総括的な復習をする。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第2回	動詞～ますと形容詞の～ですの格式表現～ㅂ니다/습니다と 名詞のですの表現～ㅂ니다/입니다の活用。	動詞～ますと形容詞の～ですの格式表現～ㅂ니다/습니다と 名詞のですの表現～ㅂ니다/입니다の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第3回	動詞～ますと形容詞の～ですの非格式表現～어/아요と 名詞のですの非格式表現～예요/이에요の活用。	動詞～ますと形容詞の～ですの非格式表現～어/아요と 名詞のですの非格式表現～예요/이에요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第4回	固有語数詞と漢字語数詞の使い分け	固有語数詞と漢字語数詞の使い分けを事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第5回	5W1Hの疑問文の練習	5W1Hの疑問文を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第6回	動詞と形容詞の過去時制:格式の表現～ 았/었습니다と非格式の表現～ 았/었어요と 名詞の過去時制:格式の表現～였습니다/이었습니다と非格式の表現～ 였어요/이었어요の活用。	動詞と形容詞の過去時制:格式の表現～ 았/었습니다と非格式の表現～ 았/었어요と 名詞の過去時制:格式の表現～였습니다/이었습니다と非格式の表現～ 였어요/이었어요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第7回	動詞と形容詞の敬語:～(으)십니다/～(으)세요と 名詞の敬語:～이십니다・～ 이세요/ ～ 십니다・ ～세요の活用。	動詞と形容詞の敬語:～(으)십니다/～(으)세요と 名詞の敬語:～이십니다・～이세요/ ～ 십니다・ ～세요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第8回	動詞と形容詞の敬語の過去時制:～(으)셨습니다/～(으)셨어요と 名詞の敬語の過去時制:～(이)셨습니다/(이)셨어요の活用。	動詞と形容詞の敬語の過去時制:～(으)셨습니다/～(으)셨어요と 名詞の敬語の過去時制:～(이)셨습니다/(이)셨어요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第9回	確認の～でしょう？・～よね？の表現:～지요と 逆接の～が・～けれどもの表現:～지만の活用	確認の～でしょう？・～よね？の表現:～지요と 逆接の～が・～けれどもの表現:～지만の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第10回	希望の～したいですの表現:～고 싶어요と 第三者の希望～したがっていますの表現:～고 싶어해요の活用。	希望の～したいですの表現:～고 싶어요と 第三者の希望～したがっていますの表現:～고 싶어해요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第11回	名詞の否定形 ～이/가 아닙니다･～이/가 아니에요と 動詞･形容詞の否定形 안 ～ㅂ/습니다と안　～아/어요･～지 않습니다と～지 않아요の活用。	名詞の否定形 ～이/가 아닙니다･～이/가 아니에요と 動詞･形容詞の否定形 안 ～ㅂ/습니다と안　～아/어요･～지 않습니다と～지 않아요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第12回	助詞のまとめ:助詞の役割と種類。	助詞を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第13回	位置や存在を表す表現の있다/없다の活用。	位置や存在を表す表現있다/없다の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第14回	自己紹介の練習:13回の授業で学んだ基礎表現を使って自己紹介の練習をする。	自己紹介文を事前に作成する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第15回	Ⅰグループ・Ⅱグループ・Ⅲグループの表現と規則・不規則活用	Ⅰグループ・Ⅱグループ・Ⅲグループの表現と規則・不規則活用を把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中に小テストの実施、また課題提出や発表などの参加度を総合的に評価する。
その他	0	

教科書

『できる韓国語 初級 Ⅱ(新装版)』/ 李志暎 / アスク

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	フランス語Ⅰ					ナンバリング	3281
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「フランス語Ⅱ」の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、フランス語を初めて学ぶ学生を対象とし、フランス語の初歩を習得する。まずフランス語のアルファベット、母音字、子音字など発音の規則を習得し理解できるようになる。次に、フランス語の文法の基礎である、名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞の活用や形容詞の位置、基本文型、否定文、疑問文などの習得を目指す。世界の広い範囲の国や地域で使用され、国連公用語であるフランス語の表現になれ親しみ、フランス語の簡単な会話ができることでフランス語を使う楽しさを体験する。

到達目標

1)　フランス語で自己紹介ができる。
2)　簡単な日常会話ができる。
3)　フランス語の単語を読めるようになる。
4)　フランスやフランス語圏の文化に触れる。
5)　基礎的な文法を身につける

授業の方法

授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアーで練習してから、発表をする。比較的にゆっくり進みますが、復習は欠かせません。

ICT活用

Google Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏について幅広い知識を有している。この経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	アルファベットと自己紹介	0分	復習:180分
担当教員	Nicolas Jegonday		
第2回	簡単な挨拶を習って、練習をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第3回	簡単な挨拶を習って、練習をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第4回	疑問文を覚えて、相手に質問をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第5回	数字を覚えて自分の年齢を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員	Nicolas Jegonday		
第6回	フランスの地理を習って、大都市の位置と読み方を覚える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第7回	三人称を習って、同級生を紹介する。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第8回	動詞etre,avoir,habiter,parler。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第9回	好きなこと・苦手なことを伝える。動詞 aimer,adorer,detester。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第10回	家族に関する表現を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第11回	家族についてはなす。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第12回	持ち物に関する表現を習って、鞄や財布の中身を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第13回	曜日、月、時間に関する表現を覚える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第14回	動詞vouloir,pouvoir. 出来ること、してみたいことを伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第15回	まとめと振り返り	復習:90分	復習:90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。 定期試験は実施しない。
その他	0	

教科書

場面で学ぶフランス語1[三訂版]高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著
三修社
ISBN:978-4-384-22055-1 C1085

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	フランス語Ⅱ					ナンバリング	3282
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「フランス語Ⅰ」の後を承ける科目である。。

授業の概要

この授業は、「フランス語I」に続き、フランス語の発音の規則に慣れ、文法の基礎を学習することを通して、フランス語の理解と表現に欠かせない基礎を習得する。学習した単語や文法知識を用いて、簡単な内容の短い文章や会話を理解できることを目指す。また、フランス語の短い会話や文章を、正しい発音で読んだり話したりを練習し、フランス語の基本文法や語句を使って、簡単な内容を表現できるようになる。また、フランス語の学習を通してフランス語圏の文化や社会への理解を深める。

到達目標

1,会話の中でよく使う動詞の活用を習得する。
2,過去、未来時制の表現を理解し応用できる。
3,日常の会話を楽しむことができる。

授業の方法

授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアーで練習してから、発表をする。比較的にゆっくり進みますが、復習は欠かせません。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏について幅広い知識を有している。この経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	フランス語Ｉで習ったことを復習する。	0分	復習:180分
担当教員			
第2回	一日の行動に関する表現を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第3回	自分の行動を伝える。相手の行動を聞く。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第4回	過去形を習う。複合過去。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第5回	過去の出来事を伝える。半過去。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第6回	フランス映画鑑賞。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第7回	未来形を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第8回	予定を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第9回	食に関する単語うを習う。部分冠詞。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第10回	食生活について話す。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第11回	カフェやレストランで使う表現を習う。ロールプレー。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第12回	天気に関する単語を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第13回	天気についてはなす。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第14回	街や大学に関する表現を習う。道案内をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第15回	まとめと振り返り	復習:90分	復習:90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。 定期試験は実施しない。
その他	0	

教科書

場面で学ぶフランス語1[三訂版]高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著
三修社
ISBN:978-4-384-22055-1 C1085

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	ロシア語Ⅰ					ナンバリング	3291
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木　理奈						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに，グローバル社会の中で，世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力，世界と繋がるために地域社会を理解し，その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「ロシア語Ⅱ」の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は，ヨーロッパ言語のなかでも英語とは多くの点で異なるロシア語を学び，言語の多様性を知ることを目的とする。ロシア語のアルファベットを書き，発音することから始め，簡単な文章を読み，辞書を用いて意味を理解できるようになる。まず，ロシア語の文字の形を理解し，個々の文字が示す音，および単語における発音の法則，イントネーションの規則を覚えて，文を音読できるように，アクセントと発音練習が中心になるが，基本文型を使って日常生活の基本的表現が言えるようになる。

到達目標

ロシア語の基礎的学習をふまえて，1. 基本的な単語や文を聞き取れる，2. 単純な文を読んで内容が分かる，3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる，4. 簡単な文章を書ける

授業の方法

板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。
配布印刷物および視聴覚メディア（DVD，CDなど）の補足教材も活用し説明を行う。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして，理解度確認テストを回収後，解答の解説を行う。
レポート課題は，提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ロシア語学習への導入	シラバスに目を通して，教科書p8-10「ロシア語ってどんなことば？」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語や文化について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	アルファベット，単語の読み方	教科書p11－14のアルファベットと発音の特徴に目を通しておく(90分)	授業で学習したアルファベットの発音と単語の読み方を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	アルファベット，文字の書き方	教科書p15の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した文字の書き方を復習しておく(90分)
担当教員			

第4回	文字と発音，発音の規則(母音の弱化)	教科書p21の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			
第5回	文字と発音，発音の規則(子音の同化)，挨拶表現	教科書p16－17の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	第1課 簡単な平叙文「～は～です」，疑問文「これは誰ですか」「これは何ですか」	教科書p18－19の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			

第7回	第2課 簡単な否定文「～は～ではない」，疑問文「～は～ですか」，人称代名詞	教科書p22－23の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	名詞の性(男性・女性・中性名詞)	教科書p35の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	名詞の複数形	教科書p47の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第10回	第3課 所有代名詞「私の，あなたの」など，指示代名詞「この」	教科書p28－29の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第11回	第4課 形容詞「新しい，古い」など	教科書p32－33の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第5課 動詞の第1変化「読む，知る」など	教科書p40－41の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第13回	第6課 動詞の第2変化「話す，見る」など	教科書p44－45の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第14回	授業まとめ，練習問題	教科書p18－49練習問題の新出単語，p38－39「単語力アップ」「表現力アップ」に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	達成度確認テスト，解説	教科書p11－49で学習した単語，表現，文法事項を復習しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト，授業への参加態度，出席態度，授業内の課題、授業内レポートなど
その他	0	

教科書

『ニューエクスプレスプラスロシア語』黒田龍之助 著(白水社)

参考文献

辞書は,『パスポート初級露和辞典』米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力（白水社）を推奨する。
履修条件・留意事項等
備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　共通外国語						
科目名	ロシア語Ⅱ					ナンバリング	3292
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木　理奈						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに，グローバル社会の中で，世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力，世界と繋がるために地域社会を理解し，その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「ロシア語Ⅰ」の発展となる科目である。

授業の概要

この授業は，「ロシア語Ⅰ」に続き，ロシア語の文字に慣れ，簡単な文章を読み，短い文章が書けるようにロシア語の初級基礎文法を習得する。ロシア語の短い文章を，正しい音声の音読と精読で演習し，そのトピックに関する意見を簡単に表現できる力を身に付ける。ロシア語学習とともにロシアの生活習慣や文化についても学び，北海道とロシアの共通と異なりへの理解を深めていく。

到達目標

ロシア語の基礎的学習をふまえて，1. 基本的な単語や文を聞き取れる，2. 単純な文を読んで内容が分かる，3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる，4. 簡単な文章を書ける

授業の方法

板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。
配布印刷物および視聴覚メディア（DVD，CDなど）の補足教材も活用し説明を行う。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして，理解度確認テストを回収後，解答の解説を行う。
レポート課題は，提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	格変化について	シラバスに目を通して，教科書p62「格について」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語的特徴について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	第7課 с я 動詞，前置詞と前置格，名詞の前置格(場所の表現,～について)，人称代名詞の前置格	教科書p50－51の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	第8課 所有の表現，命令形	教科書p54－55の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第4回	第9課 名詞の対格(直接目的), 人称代名詞の対格	教科書p60－61の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第5回	第10課 名詞の対格(行き先の表現), 運動の動詞	教科書p64－65の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	練習問題, 挨拶表現, 文法チェック	教科書p50－69練習問題の新出単語, p70－71「単語力アップ」「表現力アップ」, p72－75の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第7回	第11課 動詞の過去形，場所の表現，「勉強する」の表現	教科書p76－77の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	第12課 動詞「ｂｙｔｂ」の過去形，天候の表現	教科書p80－81の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	第13課 動詞「ｂｙｔｂ」の未来形，病気の表現，動詞の不規則変化	教科書p86－87の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第10回	第14課 名詞の生格(所有，所属，否定)，人称代名詞の生格	教科書p90－91の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第11回	第15課 名詞の与格(間接目的)，人称代名詞の格変化，許可の表現	教科書p98－99の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第16課 名詞の造格(手段，前置詞ｃ)，人称代名詞の造格，必要の表現	教科書p102－103の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第13回	第17課 名詞の対格（活動体名詞），個数詞	教科書p96－97「単語力アップ」「表現力アップ」，p118－119の「単語力アップ」「表現力アップ」の新出単語に目を通しておく（90分）	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく（90分）
担当教員			
第14回	授業まとめ，練習問題	教科書p76－107練習問題の新出単語に目を通しておく（90分）	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく（90分）
担当教員			
第15回	達成度確認テスト，解説	教科書p50－110で学習した単語，表現，文法事項を復習しておく（90分）	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト，授業への参加態度，出席態度，授業内の課題、授業内レポートなど
その他	0	

教科書

『ニューエクスプレスプラスロシア語』黒田龍之助 著(白水社)

参考文献

辞書は,『パスポート初級露和辞典』米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力（白水社）を推奨する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　北海道スタディーズ						
科目名	世界と北海道					ナンバリング	1500
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田　健						

授業の位置づけ

世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えていく。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。初年次教育の一環として、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。（思考・判断・表現）地域未来学科のディプロマポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる（知識・技能）。」ことと特に関係する科目である。

授業の概要

地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代への発信・継承することができる。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や教官力を備えている。世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。本科目は、私たちが暮らす北海道と世界がどのようにつながっているかの理解を深め、北海道に関する知識を深めていく科目である。北海道の主力産業である第一次産業の産品は今や世界の高級ブランドとして消費され、北海道には世界中から観光客が訪れるようになった。また外国人居住者も増加しており、北海道のグローバル化の現状について、学生は様々な分野の統計や詳細データを収集し、その資料を多角的な視点で分析し、データの裏付けから現状と課題を映し出す手法を身に付ける。

到達目標

1.北海道と世界のつながりを、観光の視点から述べることができるようになる。
2.経済産業省が示す社会人基礎力である前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を得ていく。
3.PBL学習(Project/Problem Based Learning)について論じることができるようになる。
4.北海道について知るための統計やデータの収集方法がわかり、実践できるようになる。
5.データの初歩的な分析方法がわかり、実践できるようになる。
6.北海道全体と地域の問題を述べることができるようになる。
7.地元学を理解し、課題解決法のための実践ができるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（授業の進め方） この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる内容が理解できるようになる	世界の人口、世界各国の人口、日本の人口、日本各都道府県の人口、北海道の人口、北海道各市町村の人口を調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第2回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅠ →一緒にともにする同学年のこれまで住んでいた場所を調べる、共有する	同じ学年の留学生の出身国の「国の人口」「首都の人口＋首都名」「主な産業」を調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第3回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅡ →先生方の出身国や出身地について調べる	「国の人口」「首都の人口＋首都名」「主な産業」を調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第4回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅢ →本学の図書館やシステムを活用しての情報収集方法を把握する。また、経営学の手法を使った基礎的分析法についても把握すること	図書館にいって、世界各国や日本、北海道に関連する書籍がどこにあるのかを確認しておくこと。また、その他に、図書館にはどのような書籍があり、どのようなことができるかも、実際に足を運ばせ確認しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第5回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅣ →事前に調べた世界の国と、日本や北海道の関係をグループで話しあい、まとめていく調べていく(前回授業の情報収集法を活かして行う)	選択した世界の国と、日本や北海道の関係を調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第6回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅤ →事前に調べた選択された世界の国と、日本や北海道の関係をグループで話しあい、まとめていく調べていく(前々回と前回授業の情報収集法を活かして行う)	選択した世界の国と、日本や北海道の関係を調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第7回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅥ →第5回、第6回で各グループで調べられた内容をまとめ、全体を把握していく	グーグルクラスルームに投稿されている、各チームのこれまでの情報を確認しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第8回	前半:小テスト(第2回～第7回の内容) 後半:北海道について(これからの授業内容等について)	これまで行った内容を復習しておくこと(90分)	グーグルクラスルームに投稿した、これからの内容について再度目を通し把握しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第9回	北海道の戦略と取り組みⅠ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画についての把握(ホームページからの統計やデータの収集について)	「北海道総合開発計画」について調べておくこと(90分)＊詳しくは前の授業内で伝えます(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第10回	北海道の戦略と取り組みⅡ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画と、北海道グローバル戦略についての把握（統計やデータの収集）	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと（90分）＊詳しくは前の授業内で伝えます（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第11回	北海道の戦略と取り組みⅢ →北海道グローバル戦略についての把握（統計やデータの収集）	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第12回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅰ／地元を考える。地元を分析する。 →地域資源カードの作成法	「地元学」について調べておくこと。また、出身国、出身地の観光産業や入込状況などを調べていくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第13回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ／北海道の観光先進地を把握し分析していく。 →地域資源カードの作成	ニセコエリア、富良野エリアについての市町村、各市町村の入込、1－12月の観光状況について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第14回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ／大学のある恵庭市を把握する。分析していく。 →地域資源カードを使った戦略立案法	指定する恵庭市の資料を読み、観光の状況を把握してくこと(90分)	本日フィードバックされたことと、各チームの内容を整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第15回	最終レポート(SWOT分析を使った戦略立案について) ＊これまでの内容を踏まえた最終レポートの作成をいただきます。詳細は当日発表します。	SWOT分析ができるようになっておくこと、また恵庭市の観光の魅力についても、再度分析しておくこと(90分)	第1回から第15回までの内容を再度確認し復習すること(90分)
担当教員	小山田　健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○小テスト(第2回～第6回の内容を踏まえ、第7回に行います) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため、最終レポートの作成を行っていただきます。最終回第15回に御乞います。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

・国際学部の学生は、「ニセコ国際研修」かこの「世界と北海道」のいずれかを履修しなければならない『選択必修』です。
どちらかの科目を必ず履修するようにしてください。

・地域未来学科の学生は、この科目は『選択科目』となります。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　北海道スタディーズ						
科目名	ニセコ国際研修					ナンバリング	1510
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

就業体験をとおして、国際的な感覚や社会人として必要な知識やスキルを身につける。その過程で、自己に足りない弱みや強みを自覚し、2年時以降に向けた新たな目標設定を行う機会とする。また、これまで各授業で学んだ知識やスキルを、実践の場で活用していく。そのことで、世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識、およびそれらを活用する技能を身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。

授業の概要

この研修は、国際リゾート地として有名なニセコをはじめ、ルスツ、キロロなど、外国人観光客や外国人居住者が多い北海道の国際化推進地域において、インターンシップと国際交流、そして地域交流などを融合させた、異文化体験や地域社会の多様性の理解を促進するものである。国内での研修ではあるが、研修内容は多言語・多国籍の人々と英語をリンガフランカとして用いることから国際研修と称する。身近な地域にある北海道と世界のつながりや、北海道の新しい社会的多様性に触れながら、体験型の学びを行うことを目的としている科目である。

到達目標

・実際の就業の現場を知り、働くとはどういうことなのかが討議できるようになる。
・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。
・これまで習得してきた語学などの様々な知識などを、実践の場で使用できるようになる。
・研修する地域の現状と課題について討議できるようになる。
・研修やグループワークを通じ、多様な価値を受け止め、他者を理解する力を身につける。また、自己に足りない弱みや強みを自覚し、2年時以降に向けた新たな目標設定が出来るようになる。

授業の方法

「オリエンテーション」「事前研修」「実施研修／インターンシップ（フィールドワークや地域交流なども含む）」「事後研修」の4方式で行う。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	[オリエンテーション] ・ニセコ国際研修について ・受入エリアについて ・受入先について	インターンシップとは、何を学ぶために行うのかを各自が考え調べておくこと(90分)	研修を希望する受入先を検討し、指定する期日までに提出すること。提出の際は、その受入先を、なぜ希望するのかの理由も書いてもらう。(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第2回	[オリエンテーションⅡ] ・受入先について ・今後のチーム編成発表 ・チーム面談 →コロナ禍のため、受入先やチーム編成は、決定後も変更になる場合も有り。また、面談は、複数の日付にわけて行う場合も有り。	実施研修をとおし、自分が受入先から怒られるかもしれないことや、褒められるかもしれないことを想像し、書き出しておくこと(90分)	決定した受入先と、そのエリアについて調べておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第3回	[事前研修Ⅰ] ～受入先、受入先エリア、社会人に必要な能力について理解する①～ ・受入先について ・受入先のエリアについて ・社会人に必要な知識について ・その他 →編成したチームメンバーの一人一人に各役割を与え、こちらが与えるテーマについて調べてもらう。そのテーマを、他のチームメンバーにも共有した上でブラッシュアップし、まとめたことを発表する。	チームで活動にするにあたって、自分が取るべき行動で重要だと思うことを書き出しておくこと。また、チームでの活動の意欲を低減させたり迷惑をかける行為について、考えられることも、書き出しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		

第4回	[事前研修Ⅱ] ～受入先、受入先エリア、社会人に必要な能力について理解する②～ ・受入先について ・受入先のエリアについて ・社会人に必要な知識について ・その他 →事前研修Ⅰのブラッシュアップ →事前研修Ⅱでは、受入先の方に、事前のレクチャーを行っていただく予定。ただし、コロナ禍であるため、日程や順序等が変更する場合も有り。	学生と社会人の違いについて、考えられることの全てを書き出しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第5回	[事前研修Ⅲ] ～何を学びに行くのかを明確にする～ ・実施研修(インターンシップ)に向けた目標の設定 ・研修についての最終説明 →「学びたいこと」「身につけたいこと」「伸ばしたい能力」について目標の設定を行う。	実施研修(インターンシップ)で、自分が何を学びたいのかを考え抜いておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第6回	[実施研修／インターンシップ] 1日目／移動、実施研修準備 2日目／実施研修 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		

第7回	[実施研修／インターンシップ] 3日目／実施研修 4日目／実施研修 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第8回	[実施研修／インターンシップ] 5日目／実施研修・地域交流 ＊地域交流については日程が前後する場合があります 6日目／実施研修・グループワーク ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第9回	[実施研修／インターンシップ] 7日目／休 8日目／実施研修 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		

第10回	[実施研修／インターンシップ] 9日目／実施研修 10日目／実施研修 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第11回	[実施研修／インターンシップ] 11日目／実施研修 12日目／休(個人ワーク) ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第12回	[実施研修／インターンシップ] 13日目／実施研修 14日目／実施研修終了、移動 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		

第13回	［事後研修Ⅰ］ ～チームでのグループワーク～ ・地域課題の解決法についてのグループワーク →事後研修Ⅲの発表の準備。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと（90分）	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第14回	［事後研修Ⅱ］ ～チームでのグループワーク～ ・地域課題の解決法についてのグループワーク →事後研修Ⅲの発表の準備。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと（90分）	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
第15回	［事後研修Ⅲ］ ～チーム及び個人の発表、最終レポート～ ・地域課題の解決法についての発表／チーム →プレゼンテーションと講評。 ・研修の報告とこれまでの振り返り／個人 →一人一人に最終報告をプレゼンテーションいただく。方法については、事後研修Ⅰの際に伝える。 ・最終レポートの作成と提出／個人 →内容については当日伝える。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと（90分）	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	実習態度、実習日誌、実習報告書、報告会発表、受入先企業等からの評価などにより総合的に評価する。
その他	20	最終レポート(レポートのテーマについては、当日伝える)

教科書

なし。

参考文献

なし。

履修条件・留意事項等

「インターンシップ研修」の際に、受入先などへ迷惑をかける行為を行った場合は、途中であっても帰宅させ、受講の取り消しをする場合がある。また、「事前研修」「インターンシップ研修（フィールドワークや地域交流など）」「事後発表会」において、チームメンバーへ迷惑をかける行為を行った場合も同様である。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　北海道スタディーズ						
科目名	アウトドア・ツーリズム研修					ナンバリング	1520
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	小山田　健、小西　正人、宮本　融						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー、世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、およびそれらを活用する技能、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化という課題につながるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、集中講義と研修で北海道の観光産業におけるアウトドアスポーツ観光の開発とその観光プロモーションを考えていく。訪日外国人観光客の旅行目的は多様化しており、体験型テーマ旅行の提供が求められているが、北海道はスキー、スノーボードなど、冬季のスポーツを楽しめる場所としては海外でも知名度が高い。近年は、グリーンシーズンのアウトドア・スポーツはニセコ、富良野、キロロなどでのラフティングやカヌー、ハイキング、登山、ゴルフで外国人観光客誘致が活発化しているが、その英語・中国語のガイドやインストラクターが不足している。ここでは、近い将来、アウトドア観光の担い手となる二言語併用人材育成として、ニセコ等でのアウトドア・アクティビティのガイド体験を行う。

到達目標

・アウトドアスポーツの体験を通し、その魅力を把握する。
・体験したアウトドアスポーツのなりえるターゲットについて考えることができるようになる。
・新しいアウトドア体験プログラムのツアー開発や、そのプロモーションができるようになる。
・チームビルディングを理解し、実践をとおして、チームで働く力を身につける。また、その過程で、自らが主体性を持って前に進める力や、考え抜く力も身につけていく。
・問いや仮説を立てて現状を分析し、課題解決案を考える力を身につける。
・PBL学習（Project/Problem Based Learning)について理解する。

授業の方法

「事前研修」「実施研修」「事後研修」の3つの方式で行う。

＊「実施研修」や「事後研修」は、PBL（Project/Problem Based Learning)方式で行う。そして、編成するチームでグループワークを重ね、新しいアウトドアスポーツの開発やプロモーション方法を考え、プレゼンテーションを行う。

ICT活用

オリエンテーション時に説明する。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーション →この科目で何を学ぶのか、授業の進め方や日程について アウトドアスポーツには、たくさんの種類のものがありますので、運動が苦手でも気軽に楽します。 1年後期にはニセコ国際研修、2年前期には海外国際研修の全員必修の学外学修が控えていますので、 この科目は、その準備科目の位置づけでもあります。北海道の大自然で、北海道を知り、仲間を知り、 たくさんの方と出会い、関係を深めてほしいと思います。	北海道で行われているアウトドアスポーツについて調べておくこと（90分）	全世界で行われているアウトドアスポーツについて調べておくこと（90分）
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融		
第2回	○事前研修Ⅰ →アウトドア・ツーリズムについて →北海道の観光産業について	北海道のアウトドア資格制度について調べ、歴史やその科目内容を調べておくこと。また、オーバーユースとは何かを調べまとめておくこと。（90分）	本日の内容の振り返りをしておくこと（重要点の把握と整理）（90分）
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融		
第3回	○事前研修Ⅱ 実施研修Ⅰ富良野エリアの把握 実施研修Ⅱ日高エリアの把握	富良野エリアの1市4町1村（富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、美瑛町、占冠村）の観光における特徴と、行われているアウトドアスポーツについて調べまとめておくこと。また、日高エリア7町（平取町、日高町、新ひだか町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町）の観光における特徴と、行われているアウトドアスポーツについてもまとめておくこと。（90分）	富良野エリアと日高エリアの観光の入込状況などを調べ、あなたなりの分析を行い、エリアの違いと特色をプレゼンテーションできるようにしていくこと。（90分）
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融		

第4回	○実施研修Ⅰ－1／演劇手法で学ぶコミュニケーションプログラム 森の中で五感を使い、演劇で取り入れられる発声方法やグループワークなどでのコミュニケーション方法を講義・実践していく。	各自で名刺の内容を考え、20枚の名刺を作成しておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健		
第5回	○実施研修Ⅰ－2／早朝プログラム インバウンドの増加により、朝食前の体験プログラムを求めるニーズが増えてきている。それに対応するため、各地域では様々なプログラムを体験するが、富良野市では盆地など自然景観が拝める「熱気球」が人気のため、この現場の調査と仕事体験を行う。	全国各地の朝の体験プログラム(アウトドア＋α)を調べ整理しておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健		
第6回	○実施研修Ⅰ－3／ラフティングの仕事体験① 北海道での教育旅行や海外からのお客様に人気のラフティングの仕事見学と体験(ツアー準備、実施サポート、あと片付け)の一連の作業を見学、体験していく。	教育旅行のラフティングが実施され終えるまでに、スタッフが行う全行程を考え抜き、書き出しておくこと。また、安心安全に配慮するために、事前・事後で行われていることについても考えておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健		

第7回	○実施研修Ⅰ－4／ラフティングの仕事体験② 北海道での教育旅行や海外からのお客様に人気のラフティングのガイドについて、英語でレクチャーをいただき、流れがゆるやかな川で実践などを行っていく。	ガイドに必要な英単語を整理しておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健		
第8回	○実施研修Ⅰ－5／農園ハイキングと環境体験プログラム 北海道アウトドア資格制度の科目にあるハイキングには、様々なフィールドで行われているものがあるが、富良野エリアでは、食や環境や自然などを学びながら行えるプログラムが多数ある。「歩く(ハイキング)」＋αの体験を考えるため、エリアの幾つかのプログラムの視察や体験を行い、ツアーの制作についても考えていく。	富良野エリアの食や、自然(森や山)について調べ、まとめておくこと(90分)	ハイキング＋αのオリジナルツアーを考え発表できるようにしておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健		
第9回	○実施研修Ⅰ－6／エリアの把握とアウトドア事業者の会社運営についてを考える エリア全体のフィールドワークを行った上で、このエリアでアウトドア事業を行う会社様より、安心安全へ配慮した考えや仕事概要などについてを学んでいく。	夏だけではなく、秋、冬、春に体験したり行くことができる場所を事前に調べておくこと(90分)	安心安全も踏まえ、このエリアにたくさんの大学生が来るためのアウトドアツアーを考えること(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健		

第10回	○実施研修Ⅱ－1／文化体験プログラム 平取町二風谷を散策し、チセの見学や狩猟体験を行わせていただきながら、アイヌ文化や衣食住について学んでいく。	配布資料を読みアイヌ文化について整理しまとめておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健、宮本　融		
第11回	○実施研修Ⅱ－2／トレイルライディング 新冠町でのトレイルライディング体験と馬とのお仕事についての把握。	トレイルライディングが行える全国の場所を調べておくこと。また、馬とふれあうことで得られることで想像がつくことをまとめておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健、宮本　融		
第12回	○実施研修Ⅱ－3／コロナ後に増加した屋外自然体験(キャンプ等)プログラムの体験と検証 テントの設置や火おこしなど、キャンプなどで行われている基礎的内容ができるようになる。 また、キャンプ時に屋外で気軽にできるアウトドアスポーツについても検討をおこなっていく。	キャンプで行うことについて整理し、まとめておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健、宮本　融		

第13回	○事後研修Ⅰ／アウトドアスポーツの開発とプロモーション① ＊マーケティング手法のフレームワークを使い、富良野エリアを再度分析し、 大学生でも足を運び実施したいと思うアウトドアを主体とした体験プログラムとそのプロモーションを考える。 →グループワーク。	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)	グループワーク／プレゼンテーション準備(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融		
第14回	○実施研修Ⅱ／アウトドアスポーツの開発とプロモーション② ＊マーケティング手法のフレームワークを使い、富良野エリアを再度分析し、 大学生でも足を運び実施したいと思うアウトドアを主体とした体験プログラムとそのプロモーションを考える。 →グループワーク／プレゼンテーション	グループワーク／プレゼンテーション準備(90分)	本日フィードバックされたことと、各チームの内容を整理しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融		
第15回	○事後研修Ⅲ／アウトドアスポーツの開発とプロモーション③ 実施研修と事後研修を踏まえた最終レポートの作成を行います。内容については当日発表します。	一昨年北海道で行われた「ATWS(Adventure Travel World Summit)2023」について調べ整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前研修、実施研修、事後研修[アウトドアスポーツの開発とプロモーション]を総合的に判断して(詳細はオリエンテーション時に報告する) 最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認。レポートの内容については、最終授業に伝える)
その他	0	

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

留意事項等
学外での研修や宿泊時に、他者へ迷惑をかける行為などを行った場合には、受講の取り消しとする場合がある。
授業内容や日程については、世の中の情勢や社会的な大きな動きがあった場合には、間際でも変更する場合がある。状況については、入学時のオリエンテーションや、google classroom等からお伝えしていく。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　北海道スタディーズ						
科目名	北海道の食文化					ナンバリング	2530
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井　駿吾、渡部　俊弘、青　晴海						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」、および地域未来学科のディプロマ・ポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」こととも関係がある。

授業の概要

この授業は、北海道の先住民であるアイヌ民族の生活からの食文化について。シャケなどを例に挙げ、生活様式と食文化の関連をアイヌ文化の観点から講述する。一方、明治2年、蝦夷地は北海道に改名され、開拓とともに日本各地から人々が移住してきた。そのような歴史的背景と地域特性から食生活が多様化し、ジンギスカンや石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼きなどの郷土料理が生まれた。その観点からも北海道の食文化を講述する。

到達目標

学園創設の時代背景を踏まえ、いま再び不安定になっている世界情勢に鑑み、食文化（食べること）が各所に与える影響の大きさやその質については、VUCAの時代を生きる上で理解する必要がある。本授業では「食べること／食文化」を多角的に観察し、国際的かつ歴史的に、食が文化の創造に不可欠な要素である点や、それらの要素が現代社会の基盤を形成している点について学習する。履修者は絶えず変化を求められる時代を生きていく中において、社会構造を再考するために必要な素養と基礎知識の獲得を目標とする。

授業の方法

教員作成パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いて講義形式で展開し、社会の実務者による講義も行う。また、学生間での対話（ディスカッション）を含むチーム学習も行う。

ICT活用

授業内容に関連するホームページや動画を用いる。課題などのやり取りにGoogle classroomを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションなどのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	〈はじめに〉「北海道の食文化を理解するために」 北海道の食文化や、食べることは総合的な学問体系の基礎につながると考える。人々の食生活はその国や地域の歴史や地形、気候等を基礎として決定づけられており、例えばそこに派生する「農業」を理解するためには、食文化が総合的な学びであることへの理解が必須である。その他、民族や食生活、産業や海外文化等の要素と関連づけて講述する。	シラバスをよく読み、自らの問題意識を整理すること。また、「北海道の食文化」の自分なりのイメージを持っておくこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部　俊弘		
第2回	「北海道の食文化とアイヌ～漫画『ゴールデンカムイ』から～」 アイヌ民族と食との関係についての理解深化を目指し、アイヌ関連資料を用いて講述する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青　晴海		
第3回	「北海道内各地の食文化を比較する(道北・道南・道東・道央など)」／「食を支える栄養学」 ・道内各地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青　晴海		

第4回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する（関東・東北地方など）」／「食を支える栄養学」 ・関東・東北地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。（90分）
担当教員	青　晴海		
第5回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する（関西・九州・四国地方など）」／「食を支える栄養学」 ・関西・九州・四国地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。（90分）
担当教員	青　晴海		
第6回	「北海道の食と世界の食文化を比較する（ヨーロッパ編）」 ・イタリア：スローフード（Citta Slow）の考え方 ・フランス：食の都パリ、国が食を大事にする精神性 ・スペイン：食を柱とした地域の活性化の成功例 ・鶴岡新太郎とフランス料理（料理法百たい(1)、料理法百たいに学ぶ） など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。（90分）
担当教員	青　晴海		

第7回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(アジア編)」 ・中国、韓国:日中韓の食事様式について	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な素養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	青　晴海		
第8回	〈まとめ〉「食糧難の時代 2050年に備えて」 ・人口増大のピークにむかう地球(総人口90億人へ) ・世界情勢と食糧危機 ・国際学部生として大切なこと など	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な素養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	青　晴海		
第9回	「ガイダンス／その他の学びへと派生する(北海道の)食」 ・「(北海道の)食や食べること×その他の総合的な学問体系」の関係性 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井　駿吾		

第10回	「北海道の食文化の誕生と郷土料理」 ・北海道の食文化と郷土料理（ジンギスカン、石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼き等）、食文化の歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。（90分）
担当教員	藤井　駿吾		
第11回	「北海道の遺跡からわかる食文化（仮）（恵庭市郷土資料館長町 章弘 学芸員）」 北海道及び恵庭市の歴史について展示等を通して学びに繋げる取組を行っている社会教育施設の現場に従事する実務者による実践的な講義を通して、北海道の歴史や民族について考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。（90分）
担当教員	藤井　駿吾		
第12回	「北海道の食を支える人と産業」 ・北海道の食を支える主な食産業、歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。（90分）
担当教員	藤井　駿吾		

第13回	「地理と食産地の関係」 ・実は暗記科目ではない「地理」 ・「地理」から見つめてみる世界の食産地 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井　駿吾		
第14回	「海外の食について」 ・日本以外の国や地域で生産されている原材料 ・海外の食文化について	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井　駿吾		
第15回	〈まとめ〉「〈食べること〉がなぜ重要なのか？」 ・食糧自給率の仕組み ・学園のルーツである「食」と多様性を認める時代の「食」など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井　駿吾		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢やレポートなどを中心に総合的に評価する。
その他	0	

教科書

特に指定しない。

参考文献

「食の歴史」（ジャック・アタリ著、プレジデント社）、「ゴールデンカムイ」シリーズ（野田サトル著、集英社）。その他は授業中に適宜提示する。

履修条件・留意事項等

本授業は国際教養学科および国際コミュニケーション学科2年次の選択科目であるが履修することが望ましい。

備考欄

ゲストスピーカー（実務者）の講義内容、講義日程は変更となる場合がある。

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　北海道スタディーズ						
科目名	北海道の社会と文化（多文化共生）					ナンバリング	2540
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田　健						

授業の位置づけ

世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。

授業の概要

この授業は、北海道の歴史を再認識し、アイヌや外国人移住者も含めた多様な人々が安心して暮らせる地域社会の実現には何が必要か、これからの多文化共生社会のありかたを考えていく。ここでいう多文化共生とは、言語や民族、肌の色、背が高いか低いか、左利きか、右利か、男か女か、障がいの有無、宗教、出身、学歴、収入、家族形態、年齢など、皆異なっていることを優劣の価値観や偏見としてみるのではなく、個性としてとらえていく。授業では、ウポポイ（民族共生象徴空間）や北海道の歴史博物館の見学も行う。そこから、地域社会がみなで持続的に共生していくための意識化をはかる。

到達目標

1.共生社会とは何かを述べることができるようになる。
2.自らが積極的に学習を進め、北海道のこれまでの歴史が説明できるようになる。
3.前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を、これまで以上に向上させる。
4.これからの多文化共生のありかたについて述べることができるようになる。
（2年次の配当科目であるため、各授業ごとに、事前・事後の課題を出します。事前・事後課題の提出が守れない場合は、この授業の到達目標に達することができないと判断し、成績を評価していきます）

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション →授業の進め方・評価方法・受講時の留意点	これまでに習ってきた北海道の歴史やアイヌ文化について整理し、まとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第2回	共生社会について 共生社会とは何かについて考え、まとめていく。	共生社会とは何かを調べまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第3回	北海道の歴史・アイヌ文化の歴史 本州との違いについてを把握し、まとめていく。	事前に配布する資料を読み、北海の歴史、アイヌ文化の歴史を整理しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第4回	学外学修準備① ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館についての把握と準備	ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第5回	実施研修1－1 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	ウポポイの見学コースを決定し、そこで何が学べるかを整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第6回	実施研修1－2 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	恵庭郷土資料館が何が学べる施設かを調べておくこと。また、恵庭市の縄文時代の歴史(資料配布)も目を通し調べておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第7回	実施研修1－3 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	アイヌの歴史（資料配布）を読み、時代ごとの内容をまとめておくこと（90分）	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第8回	実施研修1の振り返りとまとめ →反転学習：アイヌ文化の歴史を伝えるため、フィールドワークを用いたスタディープランを考える。	フィールドワークで見学した場所と内容についての詳細を調べて整理しておくこと。（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第9回	学外学修準備② 北海道博物館、平取町二風谷についての把握と準備	北海道博物館、平取町二風谷について調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第10回	実施研修2－1 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	北海道博物館の見学コースを決定し、そこで何が学べるかを整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第11回	実施研修2－2 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	平取町二風谷で行うことやお会いする方について調べ、複数の質問ができるようにしておくこと。また各内容の整理をしておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第12回	実施研修2－3 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	北海道の歴史(事前配布)を読み、年代ごとの出来事を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第13回	ゲーミング手法を使った学修の検討Ⅰ ゲーミング手法の効果と実用事例、作成方法 ＊アイヌ文化や北海道の歴史をより把握するために、外国人や小中学生に向けたカードゲーム（日本語・英語）を作成していく。	謎解きゲームやカードゲームには、どのようなものがあるのかを調べまとめておくこと（90分）	グループで、次回授業までにゲームを完成させておくこと
担当教員	小山田　健		
第14回	ゲーミング手法を使った学修の検討Ⅱ グループで作成したゲーミングの実施及び内容のプレゼン（日本語・英語） ＊アイヌ文化や北海道の歴史をより把握するために、外国人や小中学生に向けたカードゲーム（日本語・英語）を作成していく。	プレゼンテーションとゲーム実施のための準備をしておくこと(90分）	行った結果について分析と検証を行いまとめること（90分）
担当教員	小山田　健		
第15回	実施研修2の振り返りとまとめ →反転学習：北海道の文化の歴史を伝えるため、ゲーム手法（謎解きゲームなど）を用いた一人一人がが考えた問題を考える。 最終レポートの作成 →グローバリゼーションと多文化共生について ＊これまで行った内容を踏まえてレポートの作成	これまでの授業内容を復習しておくこと（90分）	これまでの内容を整理しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○グループ・プレゼンテーション(第14回講義の内容＋それまでのグループワークの取り組みを踏まえ採点します) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため、最終レポートの作成を行っていただきます。最終回第15回に御乞います。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	

教科書

なし(資料は随時配布します)

参考文献

各、授業内でお伝えしていきます

履修条件・留意事項等

学外での実施研修（学外学修）があり大型バスでの移動が伴なうため、履修人数を設定している科目です。
履修人数がオーバーした場合には、これまでの単位取得状況やTOIEIC点数（第14回で英語でのプレゼンテーションを行うため）などから判断する場合がありますので、ご了承ください。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	学部共通科目　北海道スタディーズ						
科目名	地域連携プロジェクト					ナンバリング	3550
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田　健						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を見つけている（知識・技能）」「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている（思考・判断・表現）「グローバル社会の中で、世界の人びとと共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけている（関心・意欲・態度）「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている（関心・意欲・態度）」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、地域連携の基本的な考え方を理解する。一方で、地域連携プロジェクトに参画、体験的な学習を行い、現場での知識も会得する。実際は、本学がある恵庭市と連携し、地域の活性化に貢献すべく、学生が地域の課題について取り組み、活力ある地域のまちづくりに参加していくものである。花のまち・恵庭市が推進する「ガーデンシティー」を支援する花いっぱい運動への学生の参加、市内小中学校へへ留学生を派遣しての国際交流機会の提供（TAの派遣）、地域コミュニティーラジオでの学生番組の企画・制作・運営・ハロウィン・ナイトの企画・参加（商工会議所との共催）など、本学はこれまで恵庭市と様々な形で連携してきた。今度は、周辺地域との連携も視野に、隣接の千歳市との連携、千歳駅前商店街の活性化における事業企画の立案・企画・運営を通してまちづくり活動に参画することで、地元意識の醸成、愛着を持てる地域づくりを図っていく。

到達目標

・世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等を把握した上で分析を行い、与えられたテーマに対し、課題解決の提案が行えるようになる。
・地域の課題を自らで考え（問いを考える）、その解決の提案が行えるようになる。
・他者（他学生、地域の皆様、外部の関係者様等）を理解し協働しながら、コミュニケーション能力を高めていく。
・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。
・これまでの科目で習得してきた知識などを、実践の場で使用できるようになる。
・研修する地域の現状と課題について討議できるようにする。

授業の方法

講義＋「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の形式で行っていく。

ICT活用

資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。

実務経験のある教員の教育内容

約20年間民間企業等で、観光や広告宣伝部門の業務に携わる。また、直近の8年間は、学生が地域をフィールドに、街の活性化に取り組む学外実践授業のコーディネーターとして、40以上のプロジェクトの実施とサポートを行う。また、日本PBL研究所のアドバイザー資格を有し、講師なども担当している。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション →授業の進め方・評価方法・受講時の留意点	恵庭駅前商店街と千歳駅前商店街について調べておくこと(90分)	フィールドワークを行い、恵庭駅前商店街の課題を見つけ出すこと(90分)
担当教員			
第2回	[プロジェクト演習Ⅰ／AL型演習] アイスブレイク、チームビルディング、演習課題①(個人ワーク、グループワーク)	チームビルディングを円滑に進めるために重要なことを調べ、400字以内にまとめておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第3回	【プロジェクト演習Ⅰ／AL型演習】 AL(アクティブラーニング)型演習]アイスブレイク、チームビルディング、演習課題②(個人ワーク、グループワーク)	与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第4回	【プロジェクト演習Ⅰ／AL型演習】 アイスブレイク、チームビルディング演習課題③（個人ワーク、グループワーク）	与えられた課題（またはチームでの課題）について考えておくこと（90分）	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題（またはチームでの課題）について考えておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第5回	【プロジェクト演習Ⅱ／PBL型演習（Project Based Learning）】 個人ワーク、グループワーク（チームと役割の決定）＊与えられたテーマに対して取り組む	千歳駅前商店街について、インターネットやフィールドワークなどを行い、どのような特色があるのかを調べておくこと（90分） ＊準備課題については、変更の場合もあります	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第6回	【プロジェクト演習Ⅱ／PBL型演習（Project Based Learning）】 個人ワーク、グループワーク（チームと役割の決定）＊与えられたテーマに対して取り組む	グループで当たられた役割を行っておくこと（90分）	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題（またはチームでの課題）について考えておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第7回	[プロジェクト演習Ⅱ／PBL型(Project Based Learning)] グループワーク(プレゼンテーション準備)	グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第8回	【プロジェクト演習Ⅱ／PBL型(Project Based Learning)] プレゼンテーション・振り返り講義	グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第9回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習(Project Based Learning)】 個人ワーク、グループワーク(チームと役割の決定)＊グループで問いを探し、その課題解決に向けて取り組む (内容は、変更になる場合もあります)	恵庭駅前と千歳駅前を比較し、それぞれの強み・弱みを分析しておくこと(90分) ＊内容は変更する場合もあります	本日グループで話した内容をまとめ、整理しておくこと。また、グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第10回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習（Project Based Learning）】 グループワーク（フィールドワーク）＊自由選択「モノ」を調べる。	グループで当たられた役割を行っておくこと（90分）	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題（またはチームでの課題）について考えておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第11回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習（Project Based Learning）】 グループワーク（フィールドワーク）＊自由選択「ヒト」を調べる。	グループで当たられた役割を行っておくこと（90分）	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題（またはチームでの課題）について考えておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第12回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習（Project Based Learning）】 グループワーク（フィールドワーク）＊自由選択「コト」を調べる。	グループで当たられた役割を行っておくこと（90分）	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題（またはチームでの課題）について考えておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第13回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習（Project Based Learning)】 グループワーク（プレゼンテーション準備）＊自由選択で調べた「ヒト」「モノ」「コト」を繋げたプログラムを考えていく。	グループで当たられた役割を行っておくこと（90分）	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題（またはチームでの課題）について考えておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第14回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習（Project Based Learning)】 プレゼンテーション・振り返り講義	グループで当たられた役割を行っておくこと（90分）	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題（またはチームでの課題）について考えておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第15回	[最終レポートの作成] これまでの授業を踏まえた最終レポートを行っていただきます。 内容については、当日発表します。	これまでの授業内容を復習しておくこと（90分）	これまでの授業内容を整理しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)の他者評価(グループメンバーや教員学外権威者などや各種レポートプレゼンテーションなどから、総合的に評価を行っていく 最終レポート(レポートのテーマについては、当日伝える)
その他	0	

教科書

なし(資料は随時配布します)

参考文献

各、授業内でお伝えしていきます

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	Basic Oral Communication［E2-1］					ナンバリング	1600
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」と関連してい る。また他の英語系のコミュニケーション科目と関連する。

授業の概要

この授業は、さまざまなトピックの課題を英語のみを用いて、他の学生や教員とのインタラクションを通しながら遂行できるようになること目標とする。授業では、流暢に、より正確な英語を用いてコミュニケーションを行うスキルを身に付けるだけではなく、言語能力の不足を補うために用いるコミュニケーションストラテジーに関わる指導も行う。

到達目標

Communicate more accurately in English around a variety of topical issues, using communication strategies to compensate for deficiencies in language skills when necessary.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this lesson, we will discuss the class procedures, assignments and assessments.	Check the LMS, read the syllabus, read the textbook and create questions for the teacher (90 minutes)	Reflect on the notes, reflect on the syllabus, reflect on the discussion (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, we will talk about the people and things in your life, introduce yourself in person and through email, as well as talk about what you have in common.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, we will talk about your daily and weekly routines, discuss your workspace, write opinions about a podcast, and practice giving advice about useful apps for work and study.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, we will talk about what you're doing at the moment, about sports and excercise, learn to ask for information, write short messages to a company and create a fitness program.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, we will talk about your plans, learn about giving and receiving gifts, make and respond to invitations, write an online event announcement and chose gifts for your host.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, we will talk about past events in your life, ask questions about the past, congratulate and sympathize with people, write a comment agreeing or disagreeing with an online post and summarize a story.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, we will talk about your plans for a shopping trip, talk about shopping habits, describe what you want in a store, write a script for a vlog and present your idea for a new invention.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第8回	During this lesson, we will review our progress so far, as well as learn about strategies for preventing, identifying, and repairing communication difficulties.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, we will talk about your favorite comfort food, design a food truck, explain what you want in a restaurant, write a comment about an online article and plan a party.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, we will talk discuss what to do in your town, talk about a trip you went on, give advice and make suggestions, write advice on living in another country and plan a short trip.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, we will compare stores and what they sell, talk about people in photos, ask for and give opinions, write a paragraph describing a photo as well as create and present an advertisement.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, we will talk about how to avoid danger at work, make predictions about your future, describe a medical problem, ask for help, write an email to your future self and plan a reality TV show.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, we will talk about talk about what you've done and what you've never done, talk about what you've done and when, make and respond to requests, write comments about an infographic and create a video or vlog	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, we will talk about the weather, describe places, people and things, ask for and give directions, write simple instructions and create a tourism campaign for your country.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第15回	During this lesson, we will review the learning in this class and take the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and reflect on study plan (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎週の小テスト50% 授業内試験50%
その他	0	Not applicable

教科書

EVOLVE 2, Lindsay Clanfield, Ben Goldstein, Ceri Jones, and Phlip Kerr, Cambridge

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	Basic Oral Communication［E2-2］					ナンバリング	1600
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」と関連してい る。また他の英語系のコミュニケーション科目と関連する。

授業の概要

この授業は、さまざまなトピックの課題を英語のみを用いて、他の学生や教員とのインタラクションを通しながら遂行できるようになること目標とする。授業では、流暢に、より正確な英語を用いてコミュニケーションを行うスキルを身に付けるだけではなく、言語能力の不足を補うために用いるコミュニケーションストラテジーに関わる指導も行う。

到達目標

Communicate more accurately in English around a variety of topical issues, using communication strategies to compensate for deficiencies in language skills when necessary.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this lesson, we will discuss the class procedures, assignments and assessments.	Check the LMS, read the syllabus, read the textbook and create questions for the teacher (90 minutes)	Reflect on the notes, reflect on the syllabus, reflect on the discussion (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, we will talk about the people and things in your life, introduce yourself in person and through email, as well as talk about what you have in common.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, we will talk about your daily and weekly routines, discuss your workspace, write opinions about a podcast, and practice giving advice about useful apps for work and study.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, we will talk about what you're doing at the moment, about sports and excercise, learn to ask for information, write short messages to a company and create a fitness program.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, we will talk about your plans, learn about giving and receiving gifts, make and respond to invitations, write an online event announcement and chose gifts for your host.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, we will talk about past events in your life, ask questions about the past, congratulate and sympathize with people, write a comment agreeing or disagreeing with an online post and summarize a story.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, we will talk about your plans for a shopping trip, talk about shopping habits, describe what you want in a store, write a script for a vlog and present your idea for a new invention.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第8回	During this lesson, we will review our progress so far, as well as learn about strategies for preventing, identifying, and repairing communication difficulties.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, we will talk about your favorite comfort food, design a food truck, explain what you want in a restaurant, write a comment about an online article and plan a party.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, we will talk discuss what to do in your town, talk about a trip you went on, give advice and make suggestions, write advice on living in another country and plan a short trip.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, we will compare stores and what they sell, talk about people in photos, ask for and give opinions, write a paragraph describing a photo as well as create and present an advertisement.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, we will talk about how to avoid danger at work, make predictions about your future, describe a medical problem, ask for help, write an email to your future self and plan a reality TV show.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, we will talk about talk about what you've done and what you've never done, talk about what you've done and when, make and respond to requests, write comments about an infographic and create a video or vlog	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, we will talk about the weather, describe places, people and things, ask for and give directions, write simple instructions and create a tourism campaign for your country.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and adjust study plan (90 minutes)
担当教員			
第15回	During this lesson, we will review the learning in this class and take the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises (90 minutes)	Reflect on the notes and discussion and reflect on study plan (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎週の小テスト50% 授業内試験50%
その他	0	Not applicable

教科書

EVOLVE 2, Lindsay Clanfield, Ben Goldstein, Ceri Jones, and Phlip Kerr, Cambridge

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Written Communication Ⅰ［E2-1］					ナンバリング	1601
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている（知識・技能）」、「世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている（思考・判断・表現）」等に関連する科目である。本講義では、SNS、e-mail、批評、描写、問題解決といったように様々なジャンルに応じた文章を書く基礎力を身につけることを目的とする。EnglishⅡで学習することを発展させ、English Written Communication Ⅱの基礎となる。

授業の概要

この授業は、English Ⅱで学習したことを礎に、英文e-mailやSNS、テクストメッセージなどの媒体ではどのように英文が書かれているかを理解し、実際にそれぞれの媒体に応じた英語の文章を書けるようになることを最終目標とする。

到達目標

・SNS、e-mail、批評、描写、問題解決といった様々なジャンルに応じた文章の書き方や構成の仕方を理解することができる。
・読み手や目的、場面や状況を意識して、まとまりのある英文を書くことができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。講義内で課される課題に取り組みながら、様々なジャンルの文章を書くために必要な技法を身につける。また、学生同士の相互評価(Peer review)を通して、読み手意識をもって文章を書けるように
する。

ICT活用

Webアプリ(Pear DeckやKahoot!等)を用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

それぞれのライティング課題において、Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション日常場面、ビジネスでどのようなジャンルのライティングがあるか考え、この講義での学習目的を理解する。	シラバスをよく読み、教科書を準備する。(90分)	配布資料を確認して、次回の授業に備える(90分)。
担当教員			
第2回	英語でのテクストメッセージの書き方について学ぶ。	配布資料を確認して、授業の準備を行う。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Unit 1 Study Abroad　① ・英文e-mailの書き方について学ぶ。 ・英文e-mailにおける作法(フォーマルとインフォーマルの使い分け)について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			

第4回	Unit 1 Study Abroad ② ・与えられた状況設定に合わせて、自分を紹介する英文e-mailを書く(in-class writing①)。	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			
第5回	SNSの投稿 ・SNSにおける投稿やコメントの書き方について学ぶ。 ・自分が選んだ写真を用いて、その写真を描写する。 ・SNSの投稿を作成する(in-class writing②)	英語でのSNSの投稿はどのようになされているか、事前に調べておく。課題に使う写真を用意しておく。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Unit 2 Festivals ① ・パラグラフ・ライティングの構成について学ぶ。 ・ライティングにおける目的と読み手意識の重要性について理解する。	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			

第7回	Unit 2 Festivals ② ・描写のパラグラフ(Descriptive paragraph)の構成の仕方について学ぶ。 ・日本文化に関わる描写のパラグラフを書くための準備を行う。Take-home writing assignment ① (描写のパラグラフ第1稿)	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	Unit 2 Festivals ② ・描写のパラグラフ(Descriptive paragraph)の構り組む。(90分)
担当教員			
第8回	Unit 2 Festivals ③ ・Peer reviewの方法について学ぶ。 ・書いた描写のパラグラフで実際にPeer reviewを行う。Take-home writing assignment①の最終稿の提出	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第9回	Unit 3 Movies ① ・映画のレビューの書き方について学ぶ ・自分の好きな映画を選び、レビューを書く準備をする。Take-home writing assignment ②	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。自分がレビューの書きたい映画を選んでおく。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第10回	Unit 3 Movies ② ・映画のレビューパラグラフのPeer reviewを行う。Take-home writing assignment②の最終稿の提出 Unit 4 Campus Life ① ・依頼する際の丁寧さの度合いに応じた適切な表現について学ぶ。　Take-home writing assignment②の最終稿の提出	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第11回	Unit 4 Campus Life ② ・依頼のe-mailの書き方について学ぶ。 ・与えられた状況設定に合わせた大学教員に向けた依頼の英文e-mailを書く(in-class writing ③)	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			
第12回	Unit 5 Environment ① ・問題解決のパラグラフ(Problem-solution paragraph)の書き方について学ぶ ・Cause and effectを表す表現について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			

第13回	Unit 5 Environment ② ・身の回りで起きている問題を一つ選び、それに関する問題解決のパラグラフを書く準備をする。 Take-home writing assignment ③　（問題解決のパラグラフ）	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第14回	Unit 5 Environment ③ ・書いた問題解決パラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第15回	第15回 ：Unit 1からUnit 5までのまとめをする	Chapter 1からChapter 5までの復習を行う。(90分)	講義全体の振り返りを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	In-class writing 30% Take-home writing assignment 30% 授業内試験 40%
その他	0	

教科書

Effective Writing for Global Communication—Email, Paragraph, and Essay、Walter Davies, 田北冬子　編著　(英宝社,2020)

参考文献

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業には真剣に取り組み、課題の締め切りは厳守すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Written Communication Ⅰ［E2-2］					ナンバリング	1601
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている（知識・技能）」、「世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている（思考・判断・表現）」等に関連する科目である。本講義では、SNS、e-mail、批評、描写、問題解決といったように様々なジャンルに応じた文章を書く基礎力を身につけることを目的とする。EnglishⅡで学習することを発展させ、English Written Communication Ⅱの基礎となる。

授業の概要

この授業は、English Ⅱで学習したことを礎に、英文e-mailやSNS、テクストメッセージなどの媒体ではどのように英文が書かれているかを理解し、実際にそれぞれの媒体に応じた英語の文章を書けるようになることを最終目標とする。

到達目標

・SNS、e-mail、批評、描写、問題解決といった様々なジャンルに応じた文章の書き方や構成の仕方を理解することができる。
・読み手や目的、場面や状況を意識して、まとまりのある英文を書くことができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。講義内で課される課題に取り組みながら、様々なジャンルの文章を書くために必要な技法を身につける。また、学生同士の相互評価(Peer review)を通して、読み手意識をもって文章を書けるように
する。

ICT活用

Webアプリ(Pear DeckやKahoot!等)を用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

それぞれのライティング課題において、Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション日常場面、ビジネスでどのようなジャンルのライティングがあるか考え、この講義での学習目的を理解する。	シラバスをよく読み、教科書を準備する。(90分)	配布資料を確認して、次回の授業に備える(90分)。
担当教員			
第2回	英語でのテクストメッセージの書き方について学ぶ。	配布資料を確認して、授業の準備を行う。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Unit 1 Study Abroad　① ・英文e-mailの書き方について学ぶ。 ・英文e-mailにおける作法(フォーマルとインフォーマルの使い分け)について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			

第4回	Unit 1 Study Abroad ② ・与えられた状況設定に合わせて、自分を紹介する英文e-mailを書く(in-class writing①)。	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			
第5回	SNSの投稿 ・SNSにおける投稿やコメントの書き方について学ぶ。 ・自分が選んだ写真を用いて、その写真を描写する。 ・SNSの投稿を作成する(in-class writing②)	英語でのSNSの投稿はどのようになされているか、事前に調べておく。課題に使う写真を用意しておく。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Unit 2 Festivals ① ・パラグラフ・ライティングの構成について学ぶ。 ・ライティングにおける目的と読み手意識の重要性について理解する。	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			

第7回	Unit 2 Festivals ② ・描写のパラグラフ(Descriptive paragraph)の構成の仕方について学ぶ。 ・日本文化に関わる描写のパラグラフを書くための準備を行う。Take-home writing assignment ① (描写のパラグラフ第1稿)	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	Unit 2 Festivals ② ・描写のパラグラフ(Descriptive paragraph)の構り組む。(90分)
担当教員			
第8回	Unit 2 Festivals ③ ・Peer reviewの方法について学ぶ。 ・書いた描写のパラグラフで実際にPeer reviewを行う。Take-home writing assignment①の最終稿の提出	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第9回	Unit 3 Movies ① ・映画のレビューの書き方について学ぶ ・自分の好きな映画を選び、レビューを書く準備をする。Take-home writing assignment ②	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。自分がレビューの書きたい映画を選んでおく。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第10回	Unit 3 Movies ② ・映画のレビューパラグラフのPeer reviewを行う。Take-home writing assignment②の最終稿の提出 Unit 4 Campus Life ① ・依頼する際の丁寧さの度合いに応じた適切な表現について学ぶ。　Take-home writing assignment②の最終稿の提出	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第11回	Unit 4 Campus Life ② ・依頼のe-mailの書き方について学ぶ。 ・与えられた状況設定に合わせた大学教員に向けた依頼の英文e-mailを書く(in-class writing ③)	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			
第12回	Unit 5 Environment ① ・問題解決のパラグラフ(Problem-solution paragraph)の書き方について学ぶ ・Cause and effectを表す表現について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義の復習を行う。(90分)
担当教員			

第13回	Unit 5 Environment ② ・身の回りで起きている問題を一つ選び、それに関する問題解決のパラグラフを書く準備をする。 Take-home writing assignment ③　（問題解決のパラグラフ）	教科書の該当箇所を読み、わからない語彙などを事前に確認する。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第14回	Unit 5 Environment ③ ・書いた問題解決パラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第15回	第15回 ：Unit 1からUnit 5までのまとめをする	Chapter 1からChapter 5までの復習を行う。(90分)	講義全体の振り返りを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	In-class writing 30% Take-home writing assignment 30% 授業内試験 40%
その他	0	

教科書

Effective Writing for Global Communication—Email, Paragraph, and Essay　榎田一路、Walter Davies、田北冬子　編著　　英宝社,2020

参考文献

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業には真剣に取り組み、課題の締め切りは厳守すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	Networking Communication					ナンバリング	1604
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」と関連してい る。また他の英語系のコミュニケーション科目と関連する。

授業の概要

この授業は、グローバル化する世界において様々な国の人々と関係を築いていくために必要な英語力とコミュニケーション力を養成する。授業では、特にリーディング、スピーキング、リスニングに焦点を当てて学習を行うが、様々な状況に合わせた言語使用の学習だけではなく、英語圏の国の文化を理解した上での行動を考えることができるようになることを目標とする。

到達目標

In addition to reading, speaking, and listening skills, students will be able to use English as a lingua franca and take into account the culture of others when communicating.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, students will engage in pair-work, group-work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers to the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments, as applicable.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this lesson, we will discuss the class procedures, assignments and assessments.	Register for the LMS; read the syllabus, peruse the textbook, generate questions. (90 minutes)	Reflect on the orientation discussion, review notes, send a greeting message to the LMS. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, we will learn how to make connections with a person you have just met.	Check the LMS, read Unit 1 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 1 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, we will learn how to present yourself positively in the company of those from other cultures.	Check the LMS, read Unit 2 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 2 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, we will learn about how to start and sustain discussions about your and others' tastes in music.	Check the LMS, read Unit 3 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 3 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, we will learn about how to give advice to others who need help, and receive advice from others when in need.	Check the LMS, read Unit 4 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 4 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, we will learn how to discuss daily/weekly/monthly schedules, routines and habits around which our lives revolve.	Check the LMS, read Unit 5 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 5 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, we will learn about how to give compliments to others and how to receive complements from others.	Check the LMS, read Unit 7 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 7 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this lesson, we will learn about how to draw clear boundaries and send clear signals between ourselves and others.	Check the LMS, read Unit 8 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 8 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, we will learn about how to make as well as respond to observations and assessments in appropriate ways.	Check the LMS, read Unit 9 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 9 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, we will learn about how to provide descriptions of past events so that others can understand.	Check the LMS, read Unit 11 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 11 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, we will learn about how to discuss our hobbies with others and appropriately show interest in theirs.	Check the LMS, read Unit 12 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 12 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, we will learn about how to identify, seek information about and suggest solutions to others' problems.	Check the LMS, read Unit 13 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 13 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, we will learn about how to reflect on problematic interaction in order to improve our conversational skills.	Check the LMS, read Unit 14 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 14 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, we will learn about how to engage others in storytelling, as well as how to participate in another's telling of a story.	Check the LMS, read Unit 15 and do the exercises. (90 minutes)	Review Unit 15 and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第15回	During this lesson, we will review the learning in this class and take the in-class test.	Check the LMS, review Units 1-15. (90 minutes)	Reflect on one's learning and performance in the class. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes: 50 In-class test: 50
その他	0	Not applicable

教科書

Finding Connections, Todd Rucynski, Kinseido

参考文献

Will be handed out in class.

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	World Englishes					ナンバリング	2606
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。（知識・技能）」、「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）」等に関連する科目である。この講義は、初年次に学習したBasic oral communication等の科目を礎に、その後に学習する英語科目や国際・異文化コミュニケーション科目の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、世界の多様な英語の学習を通して、グローバル化の進む世界の人々とのコミュニケーションをとるために必要な英語能力を見つめなおすことを1番の目的とする。授業では、それぞれの国で話される多様な英語を用いた学習で、英語の4技能の能力の向上を目指し、学生同士のディスカッションなどといった能動的な学習を中心とした授業を進める。

到達目標

世界の多様なアクセントで話された英語を理解することができるようになることを1番の目的とし、英語の4技能の能力の向上を様々な言語活動を通して目指す。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用してアクティブラーニング形式で進める。また、講義内で行われるさまざまな言語活動を通して、英語の4技能の能力の向上を目指す。各Unit終了後には小テストを行い、学習した語彙や表現の確認を行う。講義のまとめとして、与えられたテーマに応じた英語のプレゼンテーションを行う。

ICT活用

様々なWebアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

小学校・中学校・高等学校・大学と40年以上現場で様々な実践教育を行ってきたことを取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、課題の形式に応じたフィードバックを講義やGoogle classroom等を通じて行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション グローバル社会の中で、世界の人々とのコミュニケーションをとるためにはどのような英語力が求められるか考える。	シラバスと教科書を事前に確認する。また、世界の人々とコミュニケーションをとるためにはどのような英語力が必要になるか事前に考えておく。(90分)	教科書のUnit 1を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	Unit 1 College Life Japan ・挨拶やお互いを知るための表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。 ・Three circles of Englishについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。Three circles of Englishについて自分で調べておく。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Unit 1 College Life Japan ・大学生活に関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第4回	Unit 2 Mobile Phones England ・予定を決める際、電話の会話に使う表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。 ・世界の英語話者の割合について学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第5回	Unit 2 Mobile Phones England ・携帯電話に関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。 ・第4回で学んだ表現などを用いた発展的なスピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Unit 3 Movies India ・招待に関する表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第7回	Unit 3 Movies India ・映画に関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第8回	Unit 4 Dating Mexico ・誰かを描写する表現や語彙を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第9回	Unit 4 Dating Mexico ・メキシコに関するトピックのリスニング、リーディング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第10回	Unit 5 International Food Korea ・リクエスト・レストランで用いる表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第11回	Unit 5 International Food Korea ・海外の料理・レストランに関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第12回	Unit 6 World Englishes Singapore ・繰り返しや明確化要求に使う表現を、リスニング・スピーキングを通して学ぶ。	小テストの準備をする。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第13回	Unit 6 World Englishes Singapore ・シンガポールに関するトピックのリスニング、リーディング、スピーキング活動を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の復習を行い、次の授業でのプレゼンテーションの準備を行う。(90分)
担当教員			
第14回	Oral Presentation ・1週目から13週目までに学習した内容を基に、与えられたテーマに応じた英語のプレゼンテーションを行う。	自分のプレゼンテーションの準備し、確認を行う。(90分)	これまでの講義内容を振り返りまとめの試験の準備をする。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ(授業内試験) ・Unit 1から6までの内容のまとめを行う。	まとめの試験の準備をする。(90分)	講義全体の振り返りを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト・課題:40%、Oral presentation:20%、授業内試験:40%
その他	0	特になし。

教科書

『Global Activator – Your English, My English, World Englishes」塩澤正、Gregory A. King 著　金星堂

参考文献

講義中に紹介する。

履修条件・留意事項等

授業には真剣に取り組み、課題の締め切りは厳守すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Written Communication Ⅱ［E2-1］					ナンバリング	2602
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能 力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目であり、「English Written CommunicationI」の発展科目である。

授業の概要

この授業は、English Written Communication Ⅰの発展の授業として位置づけられる。実際の授業ではビジネス場面でやり取りが行われているe-mailやSNS、text message、広告の内容を理解すること。そしてそれらの媒体でよく用いられる文法事項の確認、定型表現の習得及び関連する語彙力の増強、そして実際にそれぞれの媒体に応じた英語の文章を書けるようになることを最終目標とする。

到達目標

Understand the contents of e-mails, social networking sites, text messages, and advertisements that are exchanged in business situations, and be able to write using the grammar, standard expressions, and vocabulary acquired through exchanges using these media.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this class, students will learn how to proceed with the class, assignments, and evaluation.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, students will review the skills they learned in English Writing and Communication 1 and learn how to write emails, descriptive paragraphs, review paragraphs, and problem-solving paragraphs.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, students will learn the skills needed to write an email invitation. Students will do in-class writing #1.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, students will learn the skills needed to analyze the characteristics of an email invitation.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, students will learn the skills needed to write a reply (acceptance or rejection) to an email invitation. In this lesson, students will do take-home assignment #1.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, students will learn the skills needed to write a descriptive essay about a region or culture.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, students will learn the skills necessary to study the structure and connectors of an essay. Students will do in-class writing # 2.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this lesson, students will learn the skills needed to write a reflection on their high school years.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, students will learn useful vocabulary related to learning experiences and the skills needed to practice punctuation. Students will do take-home assignment #2.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, students will learn the skills needed to write an email giving feedback on some technology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, students will learn the skills needed to describe problems with computer technology. Students will do in-class writing #3.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, students will learn the skills needed to request assistance with technology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, students will learn the skills needed to write an opinion piece. Students will do take-home assignment #3.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, students will learn the skills needed to learn useful expressions for writing structured opinion pieces.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第15回	In this lesson, students will review what they have learned in this class and take an in-class exam.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, reflect on study plan. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	In-class writing: 30 Take home assignments: 30 In-class test: 40
その他	0	Not applicable

教科書

Effective Writing for Global Communication, Kazumichi Enokida et al., EIHOSHA

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable.

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Written Communication Ⅱ［E2-2］					ナンバリング	2602
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能 力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目であり、「English Written CommunicationI」の発展科目である。

授業の概要

この授業は、English Written Communication Ⅰの発展の授業として位置づけられる。実際の授業ではビジネス場面でやり取りが行われているe-mailやSNS、text message、広告の内容を理解すること。そしてそれらの媒体でよく用いられる文法事項の確認、定型表現の習得及び関連する語彙力の増強、そして実際にそれぞれの媒体に応じた英語の文章を書けるようになることを最終目標とする。

到達目標

Understand the contents of e-mails, social networking sites, text messages, and advertisements that are exchanged in business situations, and be able to write using the grammar, standard expressions, and vocabulary acquired through exchanges using these media.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this class, students will learn how to proceed with the class, assignments, and evaluation.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, students will review the skills they learned in English Writing and Communication 1 and learn how to write emails, descriptive paragraphs, review paragraphs, and problem-solving paragraphs.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, students will learn the skills needed to write an email invitation. Students will do in-class writing #1.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, students will learn the skills needed to analyze the characteristics of an email invitation.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, students will learn the skills needed to write a reply (acceptance or rejection) to an email invitation. In this lesson, students will do take-home assignment #1.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, students will learn the skills needed to write a descriptive essay about a region or culture.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, students will learn the skills necessary to study the structure and connectors of an essay. Students will do in-class writing # 2.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Unit 2 Festivals ② Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this lesson, students will learn the skills needed to write a reflection on their high school years.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, students will learn useful vocabulary related to learning experiences and the skills needed to practice punctuation. Students will do take-home assignment #2.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, students will learn the skills needed to write an email giving feedback on some technology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, students will learn the skills needed to describe problems with computer technology. Students will do in-class writing #3.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, students will learn the skills needed to request assistance with technology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, students will learn the skills needed to write an opinion piece. Students will do take-home assignment #3.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, students will learn the skills needed to learn useful expressions for writing structured opinion pieces.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第15回	In this lesson, students will review what they have learned in this class and take an in-class exam.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, reflect on study plan. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	In-class writing: 30 Take home assignments: 30 In-class test: 40
その他	0	Not applicable

教科書

Effective Writing for Global Communication, Kazumichi Enokida et al., EIHOSHA

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Reading［E2-1］					ナンバリング	2608
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能 力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目で、「関心・意欲・態度」と関連する。

授業の概要

この授業は、身の回りで起きている事象に関するさまざまなジャンルの英文テクストに対する読解能力の向上を目的とする。授業では、高い構文把握能力及び語彙力の増強の他、既有知識を用いて理解を促す読解方略の習得を目指す。

到達目標

To be able to read and understand English texts of various genres using their existing knowledge, and to gain information about events happening around them while expanding their syntactic grasp and vocabulary.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this class, students will learn how to proceed with the class, assignments, and evaluation.	Check the LMS, read the textbook and create questions for the teacher. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, students will practice skills such as scanning numbers and using T-charts while reading reports and online articles.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, students will practice previewing and other skills while reading articles and online posts.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, students will review, expand, and deepen the learning you did in Units 1-2.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, students will practice their skills in searching for main ideas and making inferences while reading online articles and essays.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, students will read excerpts from books and articles to practice their skills in reading for details and using their knowledge to predict content.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, you will review, expand and deepen the learning you did in Units 3-4.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this lesson, students will practice skills such as scanning online articles and posts to predict content while reading.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, students will read questionnaires and online art files, derive meaning from context, and annotate.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, you will review, expand, and deepen the learning you did in Units 5-6.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, students will practice skills such as using a Venn diagram while reading a blog post.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, students will practice skills such as identifying the author's purpose while reading an online article or essay.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, you will review, expand, and deepen the learning you did in Lessons 7 and 8	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, you will review, expand and deepen the learning you have done in lessons 2 through 13, and prepare for the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第15回	In this lesson, students will summarize the class and take an in-class exam.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, reflect upon study plan. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes: 50 In-class test: 50
その他	0	Not applicable

教科書

PRISM READING, Michele Lewis & Richard O'Neil, CAMBRIDGE

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable.

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Reading［E2-2］					ナンバリング	2608
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能 力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目で、「関心・意欲・態度」と関連する。

授業の概要

この授業は、身の回りで起きている事象に関するさまざまなジャンルの英文テクストに対する読解能力の向上を目的とする。授業では、高い構文把握能力及び語彙力の増強の他、既有知識を用いて理解を促す読解方略の習得を目指す。

到達目標

To be able to read and understand English texts of various genres using their existing knowledge, and to gain information about events happening around them while expanding their syntactic grasp and vocabulary.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this class, students will learn how to proceed with the class, assignments, and evaluation.	Check the LMS, read the textbook and create questions for the teacher. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, students will practice skills such as scanning numbers and using T-charts while reading reports and online articles.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, students will practice previewin g and other skills while reading articles and online posts.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, students will review, expand, and deepen the learning you did in Units 1-2.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, students will practice their skills in searching for main ideas and making inferences while reading online articles and essays.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, students will read excerpts from books and articles to practice their skills in reading for details and using their knowledge to predict content.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, you will review, expand and deepen the learning you did in Units 3-4.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this lesson, students will practice skills such as scanning online articles and posts to predict content while reading.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, students will read questionnaires and online art files, derive meaning from co ntext, and annotate.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, you will review, expand, and deepen the learning you did in Units 5-6.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, students will practice skills such as using a Venn diagram while reading a blog post.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, students will practice skills suc h as identifying the author's purpose while reading an online article or essay.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, you will review, expand, and d eepen the learning you did in Lessons 7 and 8	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, you will review, expand and deepen the learning you have done in lessons 2 through 13, and prepare for the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, adjust study plan. (90 minutes)
担当教員			
第15回	In this lesson, students will summarize the class and take an in-class exam.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes and the textbook, reflect upon study plan. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes: 50 In-class test: 50
その他	0	Not applicable

教科書

PRISM READING, Michele Lewis & Richard O'Neil, CAMBRIDGE

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable.

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	TOEIC Preparation Ⅰ					ナンバリング	1611
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけるための科目で【関心・意欲・態度】と関連する。本科目はTOEIC500点対策科目であるが、TOEIC600点対策科目の「TOEIC Preparation Ⅱ」がある。

授業の概要

この授業は、英語によるコミュニケーション能力を評価するために世界の多くの国で実施されているテスト、TOEIC(Test of English for International Communication)で500点程度の得点を取ることができる英語力の習得を目指すものである。実際のTOEICの出題形式に沿った教材を使い、出題分野を網羅する総合的なTOEIC対策の授業である。英語力を伸ばすことに加えて、TOEICで高得点を取るためのポイントをつかむことにより、短期間で効率よくTOEIC対策ができる。

到達目標

・文法や語彙、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングなどを学び総合的かつ実践的英語を使用することがことができる。
・TOEICで解答するためのポイントをつかむことは短期間で効率よく得点を伸ばすことに適用することができる。
・この授業での学びはTOEICに限らず一般的な英語学習への興味・関心を高めることに応用することができる。

授業の方法

教科書、板書、配布印刷物を使って授業を行う。また、単語テストを毎回行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中、質問を受け、解説を行う。また、単語テスト後には関連語彙について解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 評価の仕方の説明を受ける。 その後、Pre-testの実施により、学習を始める前の実力を確認する。	教科書の構成と使い方を読んでおくこと。(100分)	pre-testの単語を確認しておくこと。(80分)
担当教員			
第2回	Unit 1 リスニング問題を学習する。	Unit1の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit1の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第3回	Unit 2 リーディング問題を学習する。	Unit2を読んでくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit2の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			

第4回	Unit3 リスニング問題を学習する。	Unit3の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit3の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第5回	Unit4 リーディング問題を学習する。	Unit4を読んでくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit4の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第6回	Unit 5 リスニング問題を学習する。	Unit5の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit5の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			

第7回	Unit6 リーディング 問題を学習する。	Unit6を読んでくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit6の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第8回	Unit7 リスニング問題を学習する。	Unit7の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit7の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第9回	Unit8 リーディング問題を学習する。	Unit8を読んでくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit8の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			

第10回	Unit9 リスニング問題を学習する。	Unit9の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit9の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第11回	Unit10 リーディング問題を学習する。	Unit10を読んでくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit10の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第12回	Unit11 リスニング問題を学習する。	Unit11の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit11の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			

第13回	Unit12 リーディング問題を学習する。	Unit12を読んでくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)	Unit12の復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第14回	Unit13 リスニング問題を学習する。	Unit13の音声を聴いてくること。(50分) 指定された範囲の単語テストの単語を覚えてくること。(50分)。	Unit13までの復習をしておくこと。(80分)
担当教員			
第15回	Unit1からUnit13までのまとめをする。	Unit1からUnit13までを見返しておくこと。(100分)	Unit1からUnit13までを復習すること。(80分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験50% 単語テスト30% 授業内発表、課題等20%
その他	0	特になし

教科書

BEFORE-AFTER PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST<Revised Edition> /Jonathan Lynch他／センゲージラーニング株式会社

参考文献

授業内で指示する。

履修条件・留意事項等

しっかりと事前、事後学習を行うこと。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	TOEIC Preparation Ⅱ					ナンバリング	2612
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

グローバル社会の中で、世界の人々と共生・共働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけるための科目で【関心・意欲・態度】と関連する。本科目はTOEIC600点対策科目であるが、TOEIC500点対策科目の「TOEIC Preparation Ⅰ」がある。

授業の概要

この授業は、英語によるコミュニケーション能力を評価するために世界の多くの国で実施されているテスト、TOEIC(Test of English for International Communication)で600点程度の得点を取ることができる英語力の習得を目指すものである。実際のTOEICの出題形式に沿った教材を使い、出題分野を網羅する総合的なTOEIC対策の授業である。英語力を伸ばすことに加えて、TOEICで高得点を取るためのポイントをつかむことにより、短期間で効率よくTOEIC対策ができる。

到達目標

・文法や語彙、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングなどを学び総合的かつ実践的英語を使用することがことができる。
・TOEICで解答するためのポイントをつかむことは短期間で効率よく得点を伸ばすことに適用することができる。
・この授業での学びはTOEICに限らず一般的な英語学習への興味・関心を高めることに応用することができる。

授業の方法

教科書、板書、配布印刷物を使って授業を行う。また、単語テストを毎回行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中、質問を受け、解説を行う。また、単語テスト後には関連語彙について解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Unit 1 高得点ポイントとして名詞・代名詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第2回	Unit 2 高得点ポイントとして形容詞・副詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	Unit 3 高得点ポイントとして比較に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			

第4回	Unit 4 高得点ポイントとして現在形・過去形・未来形に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第5回	Unit 5 高得点ポイントとして完了形・進行形に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	Unit 6 高得点ポイントとして受動態・使役に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			

第7回	Unit 7 高得点ポイントとして主語動詞の一致に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	Unit 8 高得点ポイントとして前置詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	Unit 9 高得点ポイントとして接続詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			

第10回	Unit 10 高得点ポイントとして分詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第11回	Unit 11 高得点ポイントとしてto不定詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	Unit 12 高得点ポイントとして動名詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			

第13回	Unit 13 高得点ポイントとして関係詞に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	Unit 14 高得点ポイントとして仮定法に関わる注意点を学ぶ。	Word Check 、例題、Part 5を予習しておく。(90分)	Part1からPart4、Part6とPart7を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	Unit 15 まとめをする。 授業内試験をする。	総復習をしておく。(90分)	模擬試験を受けてみる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験50% 単語テスト30% 授業内発表、課題等20%
その他	0	特になし。

教科書

ADVANCE YOUR PRACTICALSKILLS FOR THE TOEIC L&R TEST
TOEIC L&Rテスト パート別トレーニング
鈴木淳 / 高橋哲徳 / Simon Cooke / 徳永慎也 著　松柏社

参考文献

授業内で指示する。

履修条件・留意事項等

事前学習、事後学習をしっかりすること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	Introduction to English Linguistics					ナンバリング	2614
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼を置いた英語の高度な運用能力を身につける科目である。【知識・技能】と関連する。科目の関連性から言えば、この科目は英語という言語はどのような言語であるかを学ぶ科目であるので、すべての英語科目に関連しているということができる。

授業の概要

この授業は、英語学概論という科目の守備範囲は驚くほど広いものである。中核的な統語論、意味論、形態論、音韻論、英語史などに加えて、語用論、文体論、英語の変種、言語習得、言語と社会、コミュニケーションなども含まれるだろう。しかし、時間が限られているので、この授業では扱う範囲を、英語の世界に果たす役割と英語の変種、英語史、英語音声学、統語論、意味論に限定する。とくに統語論に比較的多くの時間があてられ、学生は統語論から英語学の世界へいざなわれる。

到達目標

・英語とはどのような言語であるかを理解している。
・英語学に関する基礎的知識を得ている。

授業の方法

教科書、板書、配布印刷物を使った講義形式で授業を行う。

ICT活用

Google Classroomのプラットフォームを利用する

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に確認テストを行い、その解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業内容を説明する。評価方法を説明する。実際に少し進めながら、授業方法を説明する。 世界の中の英語(1) 世界語としての英語について学ぶ。	英語の地理的分布、使用人口、使用分野について確認しておく。(90分)	古英語の背景について確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	英語の歴史(1) 古英語について学ぶ。	古英語の背景について確認しておく。(90分)	ごく大雑把でいいので古英語と現代英語の違いを記憶しておく。(90分)
担当教員			
第3回	英語の歴史(2) 中英語、近代英語について学ぶ。	中英語とフランス語の影響について確認しておく。(90分)	中英語と近代英語の発音の違いの原因、大母音推移について整理しておく。(90分)
担当教員			

第4回	音声学 発音器官、母音と子音について学ぶ。	英語にはどのような母音と子音があるのか、確認しておく。(90分)	調音位置、調音法による音の分類を整理してく。(90分)
担当教員			
第5回	音韻論 音韻過程について学ぶ。	英語にはどのような母音と子音があるのか、確認しておく。(90分)	連結、同化、脱落などの音変化について整理しておく。(90分)
担当教員			
第6回	形態論 語の内部構造について学ぶ。	形態素とはどのようなものなのか、確認しておく。(90分)	語形成の方法について整理しておく。(90分)
担当教員			

第7回	統語論(1) 文の構造 構成素、統語範疇、樹形図などを学ぶ。	各統語範疇の英語名、略記を覚えてくる。(90分)	樹形図に盛り込まれている情報を理解しておく。(90分)
担当教員			
第8回	統語論(2) 句の構造 句構造規則を学ぶ。	教科書を読んでくる。(90分)	いろいろな句を句構造規則で表せるようにしておく。(90分)
担当教員			
第9回	統語論(3) Xバー理論 句の間の共通性について学ぶ。	句の種類に関係なく、構成が似ていることを確認しておく。(90分)	Xバー原型が句の構成に関して明らかにしていることを整理しておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	統語論(4) 節の構造 Xバー原型に合わせると、文は助動詞中心に構成され、従属節は補文標識中心に構成されていることを学ぶ。	参考文献で助動詞と時制要素が二者択一であることを確認しておく。(90分)	主要部、補部、付加部、指定部などをすぐに区別できるようにしておく。(90分)
担当教員			
第11回	統語論(5) 文と文との近縁関係からD構造とS構造を仮定したことを学ぶ。	参考文献でD構造とS構造を結びつける操作を確認しておく。(90分)	移動があった証拠となるものをいくつか記憶しておく。(90分)
担当教員			
第12回	意味論(1) さまざまな意味関係のうち、多義性と同義性について学ぶ。	多義性の多様性について確認しておく。(90分)	能動文と受動文の同義性について考えてみる。(90分)
担当教員			

第13回	意味論(2) 意味変化について学ぶ。	意味変化の種類について確認する。(90分)	意味変化のメカニズムについて考えてみる。(90分)
担当教員			
第14回	意味論(3) 意味役割について学ぶ。	素性で表したほうが、共通性を捉えることができることを理解してくる。(90分)	項と意味役割の受け渡しについて復習しておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 総まとめをする	総復習をしてくること。(90分)	この授業のポイントを整理しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験 60% 課題提出　20% 小テスト　20%
その他	0	なし。

教科書

『新 えいご・エイゴ・英語学』稲木昭子 堀田知子 沖田知子著 松柏社

参考文献

『ファンダメンタル英語学 改訂版』中島平三著 ひつじ書房

履修条件・留意事項等

事前事後学習をしっかりすること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Literature Ⅰ					ナンバリング	2616
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	及川　陽子						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼を置いた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけ、またグローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけるための科目である。English Literature Ⅱと関連する。

授業の概要

この授業は、アングロ・サクソン時代からルネッサンス時代、エリザベス朝、ピューリタンの時代、ロマン派、ビクトリア朝から現代までの英文学の歴史と植民地時代からロマンティシズム時代、リアリズム時代までの米文学の歴史を駆け足で概観する。ごく少数ではあるが、実際に代表的な作品に触れることによって(もちろん古い時代のものは現代英語の対訳付き)、学生は努力することによって深く読む力が付くことを実感し、大きな喜びを得る。同時に文学とは人生についての英知を与えてくれるものであるということを理解する。

到達目標

1)文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。2)文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解している。3)英語で書かれた代表的な文学について理解している。

授業の方法

教科書を中心として作品を読むことはもちろん、文学を理解するための講義を随時取り入れていく。また、グループ学習や小テストなどの主体的方法をとる。

ICT活用

Google Classroomを活用します。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ある作品についての感想などは驚くほど多様なものとなるはずである。したがって、それぞれの学生たちの
意見をできるだけ教室内で共有し、個々の視野を広げていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の実施方法に関するオリエンテーション	これまで読んできた、あるいは知っている英語で書かれた作品について訊くので答えられるよう準備しておくこと。 90分	学んだ知識を整理して今後の学習のために定着させておくこと。 90分
担当教員			
第2回	英語文学についての総論(1) 文学に関する用語や分野などについて確認する。	英語文学について知るべきことを確認し、作品を読む準備をすること。90分	学んだ知識を整理しておくこと。 90分
担当教員			
第3回	マザー・グースの動物たち(1) 英文学における代表的な一分野、詩の大本となるマザー・グースの詩を味わう。具体的には単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「がちょうおばさん」 「フィドルを弾くねこ」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			

第4回	マザー・グースの動物たち(2) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「めえめえ黒い羊」「てんとう虫」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第5回	マザー・グースの自然 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「きらきら星」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第6回	マザー・グースの男と女(1) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「金髪巻き毛のお嬢さん」「いないいないばあ」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			

第7回	マザー・グースの男と女(2) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「ジャックとジル」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第8回	マザー・グースの男と女(3) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「笛吹きトム」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第9回	歴史を伝えるマザー・グース(1) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「ロンドン橋落ちた」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			

第10回	歴史を伝えるマザー・グース(2) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「誰が駒鳥殺したの」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第11回	遊び歌とナンセンス歌(1) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「ハンプティ・ダンプティ」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第12回	遊び歌とナンセンス歌(2) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「ぺったん、ぺったん」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			

第13回	遊び歌とナンセンス歌(3) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「ジャックのおうち」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第14回	遊び歌とナンセンス歌(4) 単語や表現を確認し、その歌を聴き、内容について考える。考えを発表しあい、議論する。「きりなし歌」	指定された詩について自分なりの解釈をしておくこと。文法や語彙の確認をしておくこと。90分	必ず時間をとって自分でも詩を口に出して読んでみること。内容を考えながら繰り返すことで英語のリズムが身につくと知ること。90分
担当教員			
第15回	英語文学についての概論(2)文学史の流れ 授業内試験 学んだ内容について筆記試験を行う。	今までの内容についてしっかりと理解しておくこと。文法や語彙の確認をして試験に備えておくこと。90分	全体の復習をすること。90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度、小テスト、課題 50% 授業内試験 50%
その他	0	

教科書

The Illustrated World of Mother Goose Poetry, Makiko Miyahara, Hisayo Nakashima, Maki Ito, Naomi Miki and Yumiko Kida, eds.
開文社出版

参考文献

『現代イギリス読本』川成洋・長尾輝彦 編、丸善。

履修条件・留意事項等

辞書を活用すること。また、積極的に授業に参加すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Literature Ⅱ					ナンバリング	2617
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	及川　陽子						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼を置いた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけ、またグローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけるための科目である。English Literature Ⅰの後を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、英米の作家の中から、短編、小説、詩、劇、随筆などを取り上げて読む。読むと言っても、学生はただ自己流にたくさん読んで数をこなすということではない。この授業で身に 付けなければならないことは鑑賞のための方法論を得ることである。担当教員は作品を取り上げ る際、作者の伝記的事実の説明したり、語句に関する解説をしたり、恣意的な解釈を与えるだけ ではない。学生は小説の読み方、演劇や詩の構造についての原則を学んでいくことになる。あわ せて文学作品から英語表現や英米の文化についても学んでいく。

到達目標

1)文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。2)文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解している。3)英語で書かれた代表的な文学について理解している。

授業の方法

教科書を中心として作品を読むことはもちろん、文学を理解するための講義を随時取り入れていく。また、グループ学習や小テストなどの主体的方法をとる。

ICT活用

Google Classroomを活用します。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

単純な文法事項から、文化的な相違まで、作品を楽しみながら様々な角度から英語および英文学を学ぶため、わずかな疑問でも話し合い、あるいは調べていくことで視野を広げる努力をする。疑問点には次回確実に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の実施方法に関するオリエンテーション	これまで読んできた、あるいは知っている英語で書かれた作品について訊くので答えられるよう準備しておくこと。 90分	学んだ知識を整理して今後の学習のために定着させておくこと。 90分
担当教員			
第2回	英語文学についての総論(1) 英文学の特徴、その歴史や文化を学ぶ。	英語文学について知るべきことを確認し、作品を読む準備をすること。90分	復習すること。疑問点があればまとめておくこと。90分
担当教員			
第3回	The Red-Headed League (1) An Easy Job 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			

第4回	The Red-Headed League (2) Mr.Wilson Is Put to a Test 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			
第5回	The Red-Headed League (3) A Job Suddenly Ends 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			
第6回	The Red-Headed League (4) Holmes Gathers Information 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			

第7回	The Red-Headed League (5) Setting the Trap 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			
第8回	The Red-Headed League (6) Holmes Explains the Plan 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			
第9回	The Adventure of the Copper Beeches (1) A Job with Strange Requirement 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			

第10回	The Adventure of the Copper Beeches (2) The Work Begins 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			
第11回	The Adventure of the Copper Beeches (3) A Strange Observer 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			
第12回	The Adventure of the Copper Beeches (4) Miss Hunter Looks Around 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			

第13回	The Adventure of the Copper Beeches (5) Mr. Holmes Has an Idea 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習すること。小テストのための準備学習をすること。90分
担当教員			
第14回	The Adventure of the Copper Beeches (6) Mr. Rucastle's Terrible Fate 単語や表現を確認し、リスニングをした上で内容をつかむ。小テストをして確認する。	英文をしっかり読み、わからない単語があったら調べること。文法事項を確認すること。90分	復習することjの次回の授業内試験のための準備学習をすること。90分
担当教員			
第15回	英語文学についての総論(2) 英米文学の特徴、文化と思想について学ぶ。 授業内試験 学んだ内容について筆記試験を行う。	ここまで読んできた作品について文法事項をしっかり確認しておくこと。授業内試験の準備をすること。90分	全体の復習をすること。90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度、小テスト、課題 50% 授業内試験 50%
その他	0	

教科書

Mystery Tour with Sherlock Holmes by Atsuko Uemura and Miwako Yamashina, Cengage Learnng.

参考文献

『現代イギリス読本』川成洋・長尾輝彦 編、丸善。

履修条件・留意事項等

辞書を準備し、毎回しっかりと予習・復習をすること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	Integrated English Communication skills［E2-2］					ナンバリング	3618
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけ、また世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるための科目である。国際コミュニケーション学科の英語の総まとめになる科目である。

授業の概要

この授業は、国際コミュニケーション学科の英語科目の総まとめになる授業と位置付けられる。ここまでは英語を用いたやり取りに焦点をあてた学習が主だったが、この授業では、日常場面やビジネスの場面などにおいて、音声を聴いてその内容の概要を発表したりなど口頭での複数の技能を組み合わせることが必要な言語活動を通して、より高度な英語能力の育成を図ることを目標とする。

到達目標

By the end of this course, the students will be able to (1) take part in English conversations and discussions with both their teacher and classmates; (2) use learned vocabulary and expressions to enhance their speaking and listening; (3) make well organized presentations about the topics discussed in class.

授業の方法

We will be using a textbook based on TED Talks, through which students will be exposed to new ideas and ways of making presentations. We will study the first five chapters of the book in the first semester. Each unit will include listening, speaking, critical thinking, pronunciation, note-taking, and presentation skills. All audio and video used in class are available online at https//eltngl.com/sites/21st-century-communication/student/book-1/

ICT活用

Google Classroom will only be used to send announcements or supplementary materials to the students. All assignments should be done on paper and turn in at the beginning of class.

実務経験のある教員の教育内容

N/A

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given in each class regarding discussions and presentations. Any homework will be graded and return the following week.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Orientation to the class. Begin work on Unit 1 (Team Success) Students will briefly review the syllabus and be given the schedule and rules related to the course. Begin Unit 1 by thinking about the topic, working in groups on the vocabulary, and completing the listening exercises. Students will listen for main ideas while using an outline to take notes. After listening, students will critical thinking skills to interpret an infographic and apply those ideas to responses.	Students should purchase the textbook from the school store and preview the book before coming to class. Read pages viii - ix. (90分)	Students will briefly review the vocabulary and listening from Unit 1. (90分)
担当教員			
第2回	Unit 1 Team Success - Speaking, Pronunciation, Preparing to watch the TED Talk video. Students will learn key phrases for giving reasons and use them to express their opinions on topics. In addition, they will practice using stress appropriately to improve communication. Finally, they will prepare to watch the video.	Students will do part ″D Communicate″ for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will review key vocabulary and pronunciation. (90 分)
担当教員			
第3回	Unit 1 – Team Success – Watching the TED Talk video and preparing for discussion/presentation. They will watch the TED Talk video focusing on details, main ideas, and recognizing examples. Then, they will begin preparing for a short presentation on how communities can share their hopes, thoughts, and ideas.	Review the vocabulary and critical thinking skills from the chapter in preparation for watching the TED Talk video. Listen to the audio from class again. Students will do part ″D Communicate″ for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90分)	Students will review the TED Talk video focusing on details, main ideas, and recognizing examples. (90分)
担当教員			

第4回	Unit 1 Team Success - Short vocabulary Quiz, Presentation, Unit 2 The Power of One - Introduction, Vocabulary Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 2.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students review the vocabulary for Unit 2. (90分)
担当教員			
第5回	Unit 2 - The Power of One - Listening, Speaking, Pronunciation Students will listen for main ideas and focus on understanding details. They will learn how to talk about cause and effect and discuss reduced vowel sounds. If time permits, we will prepare to watch the video.	Students will do part D ″Communicate″ for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will review the listening and cause and effect words. (90分)
担当教員			
第6回	Unit 2 The Power of One (Watch video, Prepare for group discussion/presentation) Review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on note-taking skills. Then, they will begin preparing for a short presentation.	Students will do part ″D Communicate″ for homework. They will write a short answers and share them in the next class. (90 分)	Students will review and further develop their presentations for the next class. (90分)
担当教員			

第7回	Unit 2 The Power of One (Presentation) Unit 3 Big Decisions (Introduction, Vocabulary, Listening) Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 3.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students will review the vocabulary and listening from class. (90分)
担当教員			
第8回	Unit 3 - Big Decisions - Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and details focusing on inferred meaning. They will also work on ways to check understanding through their speech. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part D ″Communicate″ for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will will review the listening, speaking , and pronunciation sections of the book presented in class. (90分)
担当教員			
第9回	Unit 3 - Big Decisions - Watch TED Talk video and prepare for discussions/presentation Students will review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on evaluating carreer paths. Then, they will begin preparing for a short presentation.	Students will do part D ″Communicate″ for homework. They will write short conversations and share them in the next class. (90 分)	The students should watch the video again and further prepare for their presentations. (90分)
担当教員			

第10回	Unit 3 Big Decisions – Presentation/Vocabulary Quiz Unit 4 Changed by Technology – Introduction, Vocabulary, Listening Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 4.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Review vocabulary and listening that were discussed in class. (90分)
担当教員			
第11回	Unit 4 - Changed by Technology – Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and details focusing on inferred meaning. They will also work on ways to check understanding through their speech. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part ″D Communicate″ for homework. They will write their answers and share their answers in the next class. (90 分)	Students should review the listening speaking and pronunciation that was discussed in class. (90分)
担当教員			
第12回	Unit 4 - Changed by Technology – Watch TED Talk video and prepare for discussions/presentation Review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on watching for detail. Then, they will begin preparing for a short presentation on technology topic important to you.	Do ″D Communicate″. Write your answers on a piece of paper and be prepared to share them in groups at the beginning of class. (90分)	Students should review the chapter and prepare for their presentations. (90分)
担当教員			

第13回	Unit 4 Changed by Technology - Presentation and Vocabulary Quiz Unit 5 Give Thanks - Introduction, Vocabulary Listening Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 4.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students should review the key sections of Unit 5 presented in class. (90分)
担当教員			
第14回	Unit 5 - Give Thanks - Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video. Students will listen for main ideas and references to key terms. In addition, they will understand how to use those key terms in taking notes. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part "D Communicate" for homework. They will write their answers and share their answers in the next class. (90 分)	Students should review the vocabulary, speaking tips, and pronunciation for all of the chapters covered for the final quiz the following week. (90分)
担当教員			
第15回	Unit 5 - Give Thanks - Watch the TED Talk video Take a final vocabulary quiz over units 1 - 5 The students will watch the TED Talk video and complete the exercises. They will then complete a comprehensive vocabulary quiz over units 1-5.	Write your answers to "D Communicate". Be prepared to share your answers in groups when you come to class. (90分)	Even though the class is finished, students can continue their learning individually by doing units 6-8. (90 分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Vocabulary Quizzes/Homework = 30% 4 Group Discussions/Presentations @ 10% = 40% Participation in class activities and discussions = 30%
その他	0	該当なし

教科書

21st Century Communication Book 1/ 2017 / Jessica Williams / National Geographic Learning - Cengage Learning.

参考文献

Students should always bring a bilingual dictionary to class.

履修条件・留意事項等

Only English will be used in class.

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	Integrated English Communication skills［E2-1］					ナンバリング	3618
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Patrick Hall						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけ、また世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるための科目である。国際コミュニケーション学科の英語の総まとめになる科目である。

授業の概要

この授業は、国際コミュニケーション学科の英語科目の総まとめになる授業と位置付けられる。ここまでは英語を用いたやり取りに焦点をあてた学習が主だったが、この授業では、日常場面やビジネスの場面などにおいて、音声を聴いてその内容の概要を発表したりなど口頭での複数の技能を組み合わせることが必要な言語活動を通して、より高度な英語能力の育成を図ることを目標とする。

到達目標

By the end of this course, the students will be able to (1) take part in English conversations and discussions with both their teacher and classmates; (2) use learned vocabulary and expressions to enhance their speaking and listening; (3) make well organized presentations about the topics discussed in class.

授業の方法

We will be using a textbook based on TED Talks, through which students will be exposed to new ideas and ways of making presentations. We will study the first five chapters of the book in the first semester. Each unit will include listening, speaking, critical thinking, pronunciation, note-taking, and presentation skills. All audio and video used in class are available online at https//eltngl.com/sites/21st-century-communication/student/book-1/

ICT活用

Google Classroom will only be used to send announcements or supplementary materials to the students. All assignments should be done on paper and turn in at the beginning of class.

実務経験のある教員の教育内容

N/A

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given in each class regarding discussions and presentations. Any homework will be graded and return the following week.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Orientation to the class. Begin work on Unit 1 (Team Success) Students will briefly review the syllabus and be given the schedule and rules related to the course. Begin Unit 1 by thinking about the topic, working in groups on the vocabulary, and completing the listening exercises. Students will listen for main ideas while using an outline to take notes. After listening, students will critical thinking skills to interpret an infographic and apply those ideas to responses.	Students should purchase the textbook from the school store and preview the book before coming to class. Read pages viii - ix. (90分)	Students will briefly review the vocabulary and listening from Unit 1. (90分)
担当教員			
第2回	Unit 1 Team Success - Speaking, Pronunciation, Preparing to watch the TED Talk video. Students will learn key phrases for giving reasons and use them to express their opinions on topics. In addition, they will practice using stress appropriately to improve communication. Finally, they will prepare to watch the video.	Students will do part ″D Communicate″ for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will review key vocabulary and pronunciation (90 分)
担当教員			
第3回	Unit 1 – Team Success – Watching the TED Talk video and preparing for discussion/presentation. They will watch the TED Talk video focusing on details, main ideas, and recognizing examples. Then, they will begin preparing for a short presentation on how communities can share their hopes, thoughts, and ideas.	Review the vocabulary and critical thinking skills from the chapter in preparation for watching the TED Talk video. Listen to the audio from class again. Students will do part ″D Communicate″ for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90分)	Students will review the TED Talk video focusing on details, main ideas, and recognizing examples. (90分)
担当教員			

第4回	Unit 1 Team Success - Short vocabulary Quiz, Presentation, Unit 2 The Power of One - Introduction, Vocabulary Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 2.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students review the vocabulary for Unit 2. (90分)
担当教員			
第5回	Unit 2 - The Power of One - Listening, Speaking, Pronunciation Students will listen for main ideas and focus on understanding details. They will learn how to talk about cause and effect and discuss reduced vowel sounds. If time permits, we will prepare to watch the video.	Students will do part D "Communicate" for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will review the listening and cause and effect words. (90分)
担当教員			
第6回	Unit 2 The Power of One (Watch video, Prepare for group discussion/presentation) Review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on note-taking skills. Then, they will begin preparing for a short presentation.	Students will do part "D Communicate" for homework. They will write a short answers and share them in the next class. (90 分)	Students will review and further develop their presentations for the next class. (90分)
担当教員			

第7回	Unit 2 The Power of One (Presentation) Unit 3 Big Decisions (Introduction, Vocabulary, Listening) Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 3.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students will review the vocabulary and listening from class. (90分)
担当教員			
第8回	Unit 3 - Big Decisions - Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and details focusing on inferred meaning. They will also work on ways to check understanding through their speech. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part D "Communicate" for homework. They will write their a short conversation and share their answer in the next class. (90 分)	Students will will review the listening, speaking , and pronunciation sections of the book presented in class. (90分)
担当教員			
第9回	Unit 3 - Big Decisions - Watch TED Talk video and prepare for discussions/presentation Students will review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on evaluating carreer paths. Then, they will begin preparing for a short presentation.	Students will do part D "Communicate" for homework. They will write short conversations and share them in the next class. (90 分)	The students should watch the video again and further prepare for their presentations. (90分)
担当教員			

第10回	Unit 3 Big Decisions – Presentation/Vocabulary Quiz Unit 4 Changed by Technology – Introduction, Vocabulary, Listening Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 4.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Review vocabulary and listening that were discussed in class. (90分)
担当教員			
第11回	Unit 4 - Changed by Technology – Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video Students will listen for main ideas and details focusing on inferred meaning. They will also work on ways to check understanding through their speech. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part ″D Communicate″ for homework. They will write their answers and share their answers in the next class. (90 分)	Students should review the listening speaking and pronunciation that was discussed in class. (90分)
担当教員			
第12回	Unit 4 - Changed by Technology – Watch TED Talk video and prepare for discussions/presentation Review the homework. They will watch the TED Talk video focusing on watching for detail. Then, they will begin preparing for a short presentation on technology topic important to you.	Do ″D Communicate″. Write your answers on a piece of paper and be prepared to share them in groups at the beginning of class. (90分)	Students should review the chapter and prepare for their presentations. (90分)
担当教員			

第13回	Unit 4 Changed by Technology - Presentation and Vocabulary Quiz Unit 5 Give Thanks - Introduction, Vocabulary Listening Students will take a vocabulary quiz, present and then begin thinking about the topic for Unit 4.	Review the video and further prepare presentation ideas. (90分)	Students should review the key sections of Unit 5 presented in class. (90分)
担当教員			
第14回	Unit 5 - Give Thanks - Listening, Speaking, Pronunciation, preparing to watch the TED Talk video. Students will listen for main ideas and references to key terms. In addition, they will understand how to use those key terms in taking notes. If time permits, students will also prepare to listen to the TED Talk video.	Students will do part ″D Communicate″ for homework. They will write their answers and share their answers in the next class. (90 分)	Students should review the vocabulary, speaking tips, and pronunciation for all of the chapters covered for the final quiz the following week. (90分)
担当教員			
第15回	Unit 5 - Give Thanks - Watch the TED Talk video Take a final vocabulary quiz over units 1 - 5 The students will watch the TED Talk video and complete the exercises. They will then complete a comprehensive vocabulary quiz over units 1-5.	Write your answers to ″D Communicate″. Be prepared to share your answers in groups when you come to class. (90分)	Even though the class is finished, students can continue their learning individually by doing units 6-8. (90 分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Vocabulary Quizzes/Homework = 30% 4 Group Discussions/Presentations @ 10% = 40% Participation in class activities and discussions = 30%
その他	0	該当なし

教科書

21st Century Communication Book 1/ 2017 / Jessica Williams / National Geographic Learning - Cengage Learning.

参考文献

Students should always bring a bilingual dictionary to class.

履修条件・留意事項等

Only English will be used in class.

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English for workplace communication Ⅰ［E2-1］					ナンバリング	3621
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目で、「関心・意欲・態度」と関連する。

授業の概要

この授業は、実際のビジネスの場面での英語を用いたコミュニケーション能力の育成を目的としたものである。授業では、職場での同僚とコミュニケーション、顧客とのコミュニケーションを想定した言語活動を通し、主にスピーキング、リスニング能力の向上を目標とする。

到達目標

スピーキングとリスニングを軸に、ビジネスの場面で必要とされる同僚又顧客との英語によるコミュニケーションを維持することができる。

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers to the exercises, commenting on students' p erformance, and grading assignments, as applicable.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	今回の授業では、授業の進め方、課題、評価について。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み質問を作成する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を立てる。(90分)
担当教員			
第2回	このレッスンでは、自己紹介、挨拶、握手などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第3回	このレッスンでは、会話を作るなどの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第4回	このレッスンでは、動画や読み物を通して会社のことを知るなどの課題に参加していきます。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第5回	このレッスンでは、レッスン2ー5で学んだことを復習しながら、自己紹介や、挨拶、握手、会話を作ること、動画や読み物の活用の仕方等を様々な場面や相手に合わせて応用する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第6回	このレッスンでは、商品提案書の作成などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第7回	このレッスンでは、エレベーターピッチの動画を1本作成するなどの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第8回	このレッスンでは、1本目のエレベーターピッチ動画の作成で覚えたこととその出来を反省し、計画を建ててから2本目のエレベーターピッチ動画を作成する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第9回	このレッスンでは、エレベーターピッチ動画を作成するプロセスを振り返って、コミュニケーションのツールとしての動画という媒体の性質を考え直す課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第10回	このレッスンでは、レッスン6－9で学んだことを復習しながら、エレベーターピッチの動画作成で覚えたスキルを、様々な相手に合わせて動画コンテンツの作成を行うことによって、応用する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第11回	今回のレッスンでは、SWOT分析レポートの企画・アウトライン化などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第12回	このレッスンでは、SWOT分析レポートの作成や編集などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第13回	この授業では、ポスター発表の意義、必要なスキル、プロセス等を検討する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第14回	この授業では、ポスター発表とフィードバック提供を相互に行う課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第15回	この授業では、今まで習ったことを復習して、授業内試験を受けます。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を反省する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes 50 In-class test 50
その他	0	Not applicable

教科書

Widgets Inc. A task-based course in workplace English, Marcos Benevides & Chris Valvona, ATAMA-ii BOOKS

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English for workplace communication Ⅰ［E2-2］					ナンバリング	3621
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Patrick Hall						

授業の位置づけ

この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につ なげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを 可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界と繋がるために地域社会を理解し 、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目で、「関心・意欲・態度」と関連する。

授業の概要

この授業は、実際のビジネスの場面での英語を用いたコミュニケーション能力の育成を目的としたものである。授業では、職場での同僚とコミュニケーション、顧客とのコミュニケーションを想定した言語活動を通し、主にスピーキング、リスニング能力の向上を目標とする。

到達目標

スピーキングとリスニングを軸に、ビジネスの場面で必要とされる同僚又顧客との英語によるコミュニケーションを維持することができる。

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers to the exercises, commenting on students' p erformance, and grading assignments, as applicable.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	今回の授業では、授業の進め方、課題、評価について。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み質問を作成する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を立てる。(90分)
担当教員			
第2回	このレッスンでは、自己紹介、挨拶、握手などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第3回	このレッスンでは、会話を作るなどの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第4回	このレッスンでは、動画や読み物を通して会社のことを知るなどの課題に参加していきます。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第5回	このレッスンでは、レッスン2ー5で学んだことを復習しながら、自己紹介や、挨拶、握手、会話を作ること、動画や読み物の活用の仕方等を様々な場面や相手に合わせて応用する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第6回	このレッスンでは、商品提案書の作成などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第7回	このレッスンでは、エレベーターピッチの動画を1本作成するなどの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第8回	このレッスンでは、1本目のエレベーターピッチ動画の作成で覚えたこととその出来を反省し、計画を建ててから2本目のエレベーターピッチ動画を作成する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第9回	このレッスンでは、エレベーターピッチ動画を作成するプロセスを振り返って、コミュニケーションのツールとしての動画という媒体の性質を考え直す課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第10回	このレッスンでは、レッスン6－9で学んだことを復習しながら、エレベーターピッチの動画作成で覚えたスキルを、様々な相手に合わせて動画コンテンツの作成を行うことによって、応用する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第11回	今回のレッスンでは、SWOT分析レポートの企画・アウトライン化などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第12回	このレッスンでは、SWOT分析レポートの作成や編集などの課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			

第13回	この授業では、ポスター発表の意義、必要なスキル、プロセス等を検討する課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第14回	この授業では、ポスター発表とフィードバック提供を相互に行う課題に参加します。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を調整する。(90分)
担当教員			
第15回	この授業では、今まで習ったことを復習して、授業内試験を受けます。	Googleクラスルームを確認しシラバスを読み、教科書を予習する。(90分)	クラスディスカッションを振り返り、ノートを整理して学習計画を反省する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes 50 In-class test 50
その他	0	Not applicable

教科書

Widgets Inc. A task-based course in workplace English, Marcos Benevides & Chris Valvona, ATAMA-ii BOOKS

参考文献

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English for workplace communication Ⅱ［E2-1］					ナンバリング	3622
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

この科目での学習を通して学術目的の言語使用に主眼をおいた英語の高度な運用能力を身につけることが期待される。

授業の概要

この授業は、English for workplace commnication Ⅰの発展の授業と位置付けられる。English for workplace commnication Ⅰでは一般的なビジネスの場面を想定した英語を用いたコミュニケーション能力の習得が目標であったが、この授業ではフライトアテンダントなどの航空業界の業種、観光にかかわる業種やホテルでの接客を想定した英語コミュニケーション能力の育成を目標とする。

到達目標

フライトアテンダントをはじめとする航空業界や、ホテルとその他の観光業界などにおける接客場面に応じて、英語によるコミュニケーションをすることができる。

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 今回の授業では、授業の進め方、課題、評価について。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第2回	ユニット 4: 市場を知る このレッスンでは、フォーカスグループを行うなどのタスクに参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第3回	ユニット 4: 市場を知る このレッスンでは、スライドショーの作成や配布物の作成などの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	このレッスンでは、スライドショーの作成や配布物の作成などの課題に参加します。Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第4回	ユニット 4: 市場を知る このレッスンでは、フォーマルなプレゼンテーションを行うなどの短いタスクに参加します	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第5回	ユニット 5: 情報を発信する このレッスンでは、ビデオCMの開発などの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第6回	ユニット 5: 情報を発信する この授業では、印刷広告の開発などの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第7回	ユニット 5: 情報を発信する このレッスンでは、ソーシャルメディア戦略の策定などの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第8回	ユニット5: 情報を発信する この授業では、クラスに発表する広告キャンペーンを作成する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第9回	ユニット5: 情報を発信する この授業では、作成した広告キャンペーンをクラスに発表する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第10回	ユニット6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、履歴書の意義、技術、書き方を検討する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第11回	ユニット6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、書いた履歴書を相手に合わせて編集する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第12回	ユニット 6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、カバーレターの企画、下書き、執筆、編集などの課題に参加します	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第13回	ユニット6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、就職面接の概要、落とし穴、戦略等を検討する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第14回	ユニット 6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、就職面接に参加するなどの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第15回	復習と授業内試験 レッスンでは、このコースで学んだことを復習し、授業内試験を受けます。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しません
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎週の小テスト 50%、授業内試験 50%
その他	0	該当しない

教科書

Widgets Inc. A task-based course in workplace English / 2018 / Marcos Benevides & Chris Valvona / ATAMA-ii BOOKS

参考文献

授業内に配られます。

履修条件・留意事項等

該当しない

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English for workplace communication Ⅱ［E2-2］					ナンバリング	3622
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目での学習を通して学術目的の言語使用に主眼をおいた英語の高度な運用能力を身につけることが期待される。

授業の概要

この授業は、English for workplace commnication Ⅰの発展の授業と位置付けられる。English for workplace commnication Ⅰでは一般的なビジネスの場面を想定した英語を用いたコミュニケーション能力の習得が目標であったが、この授業ではフライトアテンダントなどの航空業界の業種、観光にかかわる業種やホテルでの接客を想定した英語コミュニケーション能力の育成を目標とする。

到達目標

フライトアテンダントをはじめとする航空業界や、ホテルとその他の観光業界などにおける接客場面に応じて、英語によるコミュニケーションをすることができる。

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 今回の授業では、授業の進め方、課題、評価について。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第2回	ユニット 4: 市場を知る このレッスンでは、フォーカスグループを行うなどのタスクに参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第3回	ユニット 4: 市場を知る このレッスンでは、スライドショーの作成や配布物の作成などの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	このレッスンでは、スライドショーの作成や配布物の作成などの課題に参加します。Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第4回	ユニット 4: 市場を知る このレッスンでは、フォーマルなプレゼンテーションを行うなどの短いタスクに参加します	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第5回	ユニット 5: 情報を発信する このレッスンでは、ビデオCMの開発などの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第6回	ユニット 5: 情報を発信する この授業では、印刷広告の開発などの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第7回	ユニット 5: 情報を発信する このレッスンでは、ソーシャルメディア戦略の策定などの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第8回	ユニット5: 情報を発信する この授業では、クラスに発表する広告キャンペーンを作成する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第9回	ユニット5: 情報を発信する この授業では、作成した広告キャンペーンをクラスに発表する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第10回	ユニット6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、履歴書の意義、技術、書き方を検討する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第11回	ユニット6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、書いた履歴書を相手に合わせて編集する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第12回	ユニット 6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、カバーレターの企画、下書き、執筆、編集などの課題に参加します	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第13回	ユニット6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、就職面接の概要、落とし穴、戦略等を検討する課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第14回	ユニット 6: 自分を安売りしてはいけない このレッスンでは、就職面接に参加するなどの課題に参加します。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第15回	復習と授業内試験 レッスンでは、このコースで学んだことを復習し、授業内試験を受けます。	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review notes from class, reflect on the discuss and check answers to the exercises. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しません
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎週の小テスト 50%、授業内試験 50%
その他	0	該当しない

教科書

Widgets Inc. A task-based course in workplace English / 2018 / Marcos Benevides & Chris Valvona / ATAMA-ii BOOKS

参考文献

授業内に配られます。

履修条件・留意事項等

該当しない

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	English Linguistics					ナンバリング	3624
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。（知識・技能）
北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。（思考・判断・表現）

授業の概要

この授業では、日常の言語使用において必ずしも気が付かない、規則体系としての言語の内部世界に学生を導く。学生みずから言語データを観察し、分析することによって、その背後にある原理を考える。言語の科学的な研究とはどのようなものであるかを体験する。先行研究の主張を断片的に理解するだけでなく、なぜそのような主張ができたのか、その主張を取り入れた場合どのような帰結が得られるのかまで考える。人間言語がどのようなものなのかの理解を深める。

到達目標

この授業のテーマはどのように実際の文法知識は発達するのかということ、言語学のいくつかの主要な考え、音声学の研究である。到達目標は学生たちが英語のみの環境でこれらテーマを実際に使えるようになることである。

授業の方法

This class will be taught through lectures followed by group discussions. During some classes, students will also be asked to give mini presentations about their own responses to the class content.

ICT活用

Students will be expected to use Google Classroom to study lesson content before each class and review content after the class. Students will also be expected to do their own research using online resources.

実務経験のある教員の教育内容

none

課題に対するフィードバックの方法

All tests will be graded during the course and the results shown to students. Feedback will be provided on how to improve presentation and test scores.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業のテーマ及び到達目標に親しみ、この授業で使われる対話的教授方法に一連の活動を通して慣れる。	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	動物のコミュニケーションと霊長類に身振り言語を教えた人間の歴史に焦点を当てる。文法という概念に関して動物のコミュニケーションと人間の言語の違いに関して議論する。	Study the course content for week 2 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	文法、語彙、機能、スタイルに関して、話しことばと書きことばの違いを探る。	Study the course content for week 3 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	発音記号を学び練習する。そして音声学を使うことによって学生のスピーキング力とリスニング力を伸ばすことができるかどうかを探る。	Study the course content for week 4 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	アメリカ英語とイギリス英語の違いを使って、音声学を実際の授業で活用してみる。加えて、アメリカ英語とイギリス英語のつづり字の違いについても学ぶ。	Study the course content and debate topic for week 5 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	こどもが第1言語を習得する際の語彙と文法の発達段階について焦点を当て学ぶ。	Study the course content for week 6 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第7回	こどもの言語習得に関して経験主義者と生得主義者の主張の違いを検討する。それぞれの立場からの主張とその根拠となる証拠を探る。	Study the course content and debate topic for week 7 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	この科目の前半までの復習と授業内中間試験を行う。	Review the content for the first half of the course and prepare for the midterm test and presentation. 90分	Reflect on the test and presentation. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第9回	次の質問を考えることによって、第1言語習得の実際の応用について議論する。「赤ちゃんが第1言語習得で実際的な文法知識を発達させるのと、私たちが第2言語習得時にその知識を発達させるのの類似点は？」言語習得を学ぶことはいかに第2言語の能力を伸ばすことに役立つのか？	Study the course content for week 9 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第10回	日常生活でのスピーキングとリスニングと語用論について。ときには文法構造よりも言語使用における語用論的文脈の方が重要である例を見る。	Study the course content for week 10 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	FBIのような機関は容疑者の言語の語彙や文法を分析して犯罪を解決するために言語学を使う。この犯罪科学言語学の歴史を学ぶ。	Study the course content for week 11 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	メタファーとメトニミーがどのように定義されるか、日常の言語使用の中でこれらがどれほど重要であるのかと見る。概念メタファー理論の歴史と発達を学ぶ。	Study the course content for week 12 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	私たちが感情、経験、時間、議論、出来事などについて語るときの例を調べながら、引き続 き概念メタファーと概念メトニミーを探る。加えて、メタファーとメトニミーの使用は文法と どのような関係があるのか、母語話者のこれらの使用が学習者にどのような影響を与えるのかを議論する。	Study the course content for week 13 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	応用言語学が学生のリーディングスキルを伸ばすことに役立つかどうかを調べる。この授業で学んだ文法と言語の比喩的な側面の知識がテキストを以前よりも深く読むことができるようになったかを探る。	Study the course content for week 12 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	講義の振り返りを行う。また、確認のための授業内試験を行う。	Review the content of the course and prepare for the final test and presentation. 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極さ 20%, 授業内中間試験 40%, 授業内期末試験 40%
その他	0	

教科書

テキスト 使用しない。

参考文献

『ジーニアス英和辞典 第5版』南出康世(編) 大修館書店

履修条件・留意事項等

none

備考欄

none

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	英語通訳法Ⅰ					ナンバリング	3631
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	川内　裕子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身に付けている（思考・判断・表現）」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている（知識・技能）」とも関係する。

授業の概要

この授業では、通訳の種類とその内容について学び、理解する。シャドーイング、ディクテーション、サイトトランスレーション、リプロダクション、メモ取りなど、通訳技能訓練に関わるさまざまな実践的作業を通して、通訳者の作業について理解を深める。日本語から英語、英語から日本語への通訳演習を通じて、表現や発想など日英言語の違いに注目しながら総合的な英語力を養う。

到達目標

英語・日本語を正確に聞き取り、通訳できる。
英日通訳では、英文を正しく理解し、日本語としてわかりやすい表現に訳出できる。
日英通訳では、正しく発音し、英語のロジックに適った表現に訳出できる。

授業の方法

教科書を使い、音声教材を利用しながら、さまざまなトピックについて学ぶと同時に、通訳技能の訓練を行なう。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

現役の会議通訳者、翻訳者として、英語および日本語の実践的な表現の実例を示し、習得に導く授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

複数回実施する実践的小テストにおいて、各学生のパフォーマンスにコメントと助言を与える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・　授業ガイダンス: a.　通訳という作業について b.　授業の進め方について(教科書の使い方) c.　簡単な通訳演習	教科書に一通り目を通し、扱うトピックを把握する。 Unit 1の単語(E→J、J→E)を調べておく。(90分)	今回の通訳演習についてノートにまとめる。(90分)
担当教員	川内　裕子		
第2回	・E→J、J→Eの演習(先週の続き) ・学生どうしでの通訳練習(日英または英日)	Unit 1について、英語短文練習の訳を考える。日英穴埋め問題を予習する。疑問点を整理する。(90分)	学修したページを声に出して通訳し、内容を確認する。自分のglossaryを作成する。(90分)
担当教員	川内　裕子		
第3回	・E→J、J→Eの演習(先週の続き) ・学生どうしでの通訳練習(日英または英日)	Unit 1の単語、短文の復習。チャレンジコーナーの予習。(90分)	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。(90分)
担当教員	川内　裕子		

第4回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	次のUnitの単語（E→J、J→E）を調べておく。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第5回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	英語短文練習の訳を考える。日英穴埋め問題の予習。疑問点を整理。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第6回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	Unitの単語、短文の復習。チャレンジコーナーの予習。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		

第7回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	次のUnitの単語（E→J、J→E）を調べておく。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第8回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	英語短文練習の訳を考える。日英穴埋め問題の予習。疑問点を整理。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第9回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	単語、短文の復習。チャレンジコーナーの予習。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる（単語小テストの準備）。（90分）
担当教員	川内　裕子		

第10回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・口頭小テスト(I)：単語（→ 評価 1）	次のUnitの単語（E→J、J→E）を調べておく。（90分）	プレゼンテーション通訳の準備。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第11回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	英語短文練習の訳を考える。日英穴埋め問題の予習。疑問点を整理。（90分）	プレゼンテーション通訳の準備と復習。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第12回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	Unitの単語、短文の復習。チャレンジコーナーの予習。（90分）	プレゼンテーション通訳の準備と復習。（90分）
担当教員	川内　裕子		

第13回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・小テスト(II)：通訳実践 E→J（→ 評価 2）	次のUnitの単語（E→J、J→E）を調べておく。（90分）	通訳実践小テストの準備。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第14回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・小テスト(III)：通訳実践 J→E（→ 評価 3）	通訳実践テストの準備。（90分）	単語の復習。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第15回	・E→J、J→Eの演習（先週の続き） ・学生どうしでの通訳練習（日英または英日）	Unitの残りの部分を予習する。（90分）	授業を通して作成したglossary、資料をまとめておく。（90分）
担当教員	川内　裕子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業内で行なう3回のテスト
その他	10	授業中の取り組み

教科書

“Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition>”（通訳とコミュニケーションの総合演習 [改訂版]）斎藤彩子 他著（南雲堂）

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

英語を使う能力を伸ばすことに積極的に取り組む意欲があること。辞書必携。出席日数を自己管理すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	英文法研究					ナンバリング	3634
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼を置いた科目である。【知識・技能】と関連する。科目の関連性から言えば、とくにIntroduction to English Linguistics に関連している。

授業の概要

外国語学習にとって文法は極めて重要なものである。その外国語がどのような仕組みになっているのか、その知識がなければその言語を正確に使いこなすことはできない。文法を軽視していては外国語学習の効果をあげることなど望むべくもない。しかし、文法を無味乾燥でおもしろくないものと思っている人がいることも事実である。この授業では、いくつかの英文法のトピックを取り上げ、高校までとは一味違う観点から分析し、文法研究の面白さを体験する。

到達目標

・英文法研究の大切さ、面白さを理解している。
・統語分析からさまざまな現象を科学的に分析できる目を養うことができている。

授業の方法

教科書、板書、配布印刷物を使った講義形式で授業を行う。

ICT活用

Google Classroomのプラットフォームを利用する

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に確認テストを行い、その解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション　文法記述	教科書の構成を確認し、文法記述について読んでおく。(90分)	文法記述について確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	基本文型と動詞句の構造(1) 動詞句型	教科書の基本文型と動詞句の構造(1) 動詞句型について読んでおく。(90分)	基本文型と動詞句の構造(1) 動詞型について確認しておく。(90分)
担当教員			
第3回	基本文型と動詞句の構造(2) 動詞+前置詞と動詞＋不変化詞の違い	教科書の基本文型と動詞句の構造(2) 動詞+前置詞と動詞＋不変化詞の違いについて読んでおく。(90分)	基本文型と動詞句の構造(2) 動詞+前置詞と動詞＋不変化詞の違いについて確認しておく。(90分)
担当教員			

第4回	主部と名詞句の内部構造(1) 名詞句の内部構造	教科書の主部と名詞句の内部構造(1) 名詞句の内部構造について読んでおく。(90分)	主部と名詞句の内部構造(1) 名詞句の内部構造について確認しておく。(90分)
担当教員			
第5回	主部と名詞句の内部構造(2) 限定詞と属格	教科書の主部と名詞句の内部構造(2) 限定詞と属格について読んでおく。(90分)	主部と名詞句の内部構造(2) 限定詞と属格について確認しておく。(90分)
担当教員			
第6回	付加部	教科書の付加部について読んでおく。(90分)	付加部について確認しておく。(90分)
担当教員			

第7回	前置詞の機能と前置詞句の構造	教科書の前置詞の機能と前置詞句の構造について読んでおく。(90分)	前置詞の機能と前置詞句の構造について確認しておく。(90分)
担当教員			
第8回	否定と助動詞(1) 助動詞の分析と否定節の構造 助動詞の英米語の違い	教科書の否定と助動詞(1) 助動詞の分析と否定節の構造 助動詞の英米語の違いについて読んでおく。(90分)	否定と助動詞(1) 助動詞の分析と否定節の構造 助動詞の英米語の違いについて確認しておく。(90分)
担当教員			
第9回	否定と助動詞(2) 法助動詞の意味と否定の作用域 法助動詞の出現年代	教科書の否定と助動詞(2) 法助動詞の意味と否定の作用域 法助動詞の出現年代について読んでおく。(90分)	否定と助動詞(2) 法助動詞の意味と否定の作用域 法助動詞の出現年代について確認しておく。(90分)
担当教員			

第10回	節タイプ(1) 疑問節 様々な疑問文の音調	節タイプ(1) 疑問節 様々な疑問文の音調について読んでおく。(90分)	節タイプ(1) 疑問節 様々な疑問文の音調について確認しておく。(90分)
担当教員			
第11回	節タイプ(2) 命令節	教科書の節タイプ(2) 命令節について読んでおく。(90分)	節タイプ(2) 命令節について確認しておく。(90分)
担当教員			
第12回	関係節と比較節(1) 関係節の特徴	教科書の関係節と比較節(1) 関係節の特徴について読んでおく。(90分)	関係節と比較節(1) 関係節の特徴について確認しておく。(90分)
担当教員			

第13回	関係節と比較節(2) 比較節の特徴	教科書の関係節と比較節(2) 比較節の特徴について読んでおく。(90分)	関係節と比較節(2) 比較節の特徴について確認しておく。(90分)
担当教員			
第14回	動詞補完節の諸相	教科書の動詞補完節の諸相について読んでおく。(90分)	動詞補完節の諸相について確認しておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	総復習をしておく。(90分)	総復習をしておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験 60% 課題提出　20% 小テスト　20%
その他	0	なし。

教科書

『英米の文法書に学ぶ英文法基礎論』田子内健介著 開拓社

参考文献

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

事前事後学習をしっかりすること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	英語翻訳法					ナンバリング	3636
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける。【思考・判断・表現】に関連する。関連科目としては、「英語通訳法Ⅰ」、「英語通訳法Ⅱ」がある。

授業の概要

この授業は、日英それぞれの言語の思考法・論理展開を理解し、それぞれに則した翻訳とは何かを学ぶ。基本動詞の使い方、数量の表現、英語のロジックにかなった日英翻訳の基本を確認するために、センテンス単位の翻訳から始める。パラグラフ単位の翻訳へとレベルを上げながら、必要な表現や工夫の仕方などの技術を習得する。広い範囲の日常生活に関するフレーズ、実務文書や各種説明文を題材とし、学生自身が訳したものをベースに翻訳の技術を添削・フィードバック・試行錯誤を通して学ぶ。

到達目標

・翻訳とはどのような作業なのかを述べることができる。
・翻訳の基礎的な技術を使用することができる。
・日英語の思考法・論理展開の違いを区別することができる。

授業の方法

教科書、板書、配布印刷物を使った講義形式で授業を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に確認テストを行い、その解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 翻訳とは何か	翻訳について調べておく。(90分)	翻訳について確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	省略の秘訣 補充訳	省略、補充が必要な場合について調べておく。(90分)	省略、補充訳が必要な場合について確認しておく。(90分)
担当教員			
第3回	頭から訳す技法 構文を考える	頭から訳す技法 構文について考えておく。(90分)	頭から訳す技法 構文について確認しておく。(90分)
担当教員			

第4回	態の転換 品詞転換	態の転換 品詞転換が必要な場合について調べておく。(90分)	態の転換 品詞転換について確認しておく。(90分)
担当教員			
第5回	時制と話法	時制と話法について調べておく。(90分)	時制と話法について確認しておく。(90分)
担当教員			
第6回	段階的翻訳術	直訳と決定訳があることを考えておく。(90分)	段階的翻訳術について確認しておく。(90分)
担当教員			

第7回	英語の落とし穴	不得意な文法項目について調べておく。(90分)	英語の落とし穴について確認しておく。(90分)
担当教員			
第8回	誤訳について	誤訳について調べておく。(90分)	誤訳について確認しておく。(90分)
担当教員			
第9回	易しそうな難語と難文	易しそうな難語と難文について調べておく。(90分)	易しそうな難語と難文について確認しておく。(90分)
担当教員			

第10回	体験的把握と分析的把握	体験的把握と分析的把握について教科書を読んでおく。(90分)	体験的把握と分析的把握について確認しておく。(90分)
担当教員			
第11回	視覚体験に関わる表現	視覚体験に関わる表現について教科書を読んでおく。(90分)	視覚体験に関わる表現について確認しておく。(90分)
担当教員			
第12回	時・事象の推移の体験に関わる表現	時・事象の推移の体験に関わる表現について教科書を読んでおく。(90分)	時・事象の推移の体験に関わる表現について確認しておく。(90分)
担当教員			

第13回	感覚・感情体験に関わる表現	感覚・感情体験に関わる表現について教科書を読んでおく。(90分)	感覚・感情体験に関わる表現について確認しておく。(90分)
担当教員			
第14回	プロセス体験指向と結果分析指向	プロセス体験指向と結果分析指向について教科書を読んでおく。(90分)	プロセス体験指向と結果分析指向について確認しておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	総復習をしておく。(90分)	総復習をしておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験 60% 課題提出　20% 小テスト　20%
その他	0	なし。

教科書

『「視点」の違いから見る日英語の表現と文化の比較』尾野治彦 開拓社

参考文献

『英和翻訳の原理・技法』中村保男 日外アソシエーツ

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	英語通訳法Ⅱ					ナンバリング	4632
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	川内　裕子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身に付けている（思考・判断・表現）」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている（知識・技能）」とも関係する。

授業の概要

この授業は、「英語通訳法Ⅰ」の後を受けてリスニング、シャドーイング、ディクテーション、サイトトランスレーション、リーディング、ノートテイキングなどの通訳技能訓練に関わるさまざまな実践的作業を行う。とりわけ、いきなり訳すのではなく、最終的に同じ内容になるような文を用意してから訳す練習をする。この授業では、通訳の中でも同時通訳に焦点を当てる。実際の同時通訳の音声・映像などさまざまな材料を使って初級・中級の同時通訳の練習をする。

到達目標

英語・日本語を正確に聞き取り、通訳できる。
英日通訳では、英文を正しく理解し、日本語としてわかりやすい表現に訳出できる。
日英通訳では、正しく発音し、英語のロジックに適った表現に訳出できる。

授業の方法

教科書を使い、音声教材を利用しながら、さまざまなトピックについて学ぶと同時に、通訳技能の訓練を行なう。また、同時通訳の一形式であるウィスパリングの実践と、ヘッドセットを装着しての同時通訳の実践を行う。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

現役の会議通訳者、翻訳者として、英語および日本語の実践的な表現の実例を示し、習得に導く授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

複数回実施する実践的小テストにおいて、各学生のパフォーマンスにコメントと助言を与える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・授業ガイダンス: a. 通訳という作業について b. 授業の進め方について(教科書の使い方) c. 簡単な通訳演習(自己紹介の通訳)	Unit 1の(E→J、J→E)を復習しておく。疑問点を整理する。(90分)	今回の通訳演習についてノートにまとめる。(90分)
担当教員	川内　裕子		
第2回	・E→J、J→Eの演習(英語通訳法Ⅰで扱った内容 Unit 1) ・同時通訳の表現	Unit 2の(E→J、J→E)を復習しておく。疑問点を整理する。(90分)	学修したページを声に出して通訳し、内容を確認する。自分のglossaryを作成する。(90分)
担当教員	川内　裕子		
第3回	・E→J、J→Eの演習(英語通訳法Ⅰで扱った内容 Unit 2) ・同時通訳の表現	Unit 3の(E→J、J→E)を復習しておく。疑問点を整理する。(90分)	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。(90分)
担当教員	川内　裕子		

第4回	・E→J、J→Eの演習（英語通訳法Ⅰで扱った内容 Unit 3） ・同時通訳の表現	Unit 4の（E→J、J→E）を復習しておく。疑問点を整理する。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第5回	・E→J、J→Eの演習（英語通訳法Ⅰで扱った内容 Unit 4） ・同時通訳の表現	Unit 5の（E→J、J→E）を復習しておく。疑問点を整理する。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第6回	・E→J、J→Eの演習（英語通訳法Ⅰで扱った内容 Unit 5） ・同時通訳の表現	Unit 6を予習する。疑問点を整理する。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		

第7回	・E→J、J→Eの演習（Unit 6） ・同時通訳の表現	Unit 6を予習する。疑問点を整理する。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第8回	・E→J、J→Eの演習（Unit 7） ・同時通訳の表現	Unit 7を予習する。疑問点を整理する。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第9回	・E→J、J→Eの演習（Unit 7） ・同時通訳の表現	Unit 7を予習する。疑問点を整理する。（90分）	通訳練習をして、内容を確認する。Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		

第10回	・E→J、J→Eの演習（Unit 8） ・教科書を使った同時通訳小テスト(I)：（→ 評価 1）	Unit 8を予習する。疑問点を整理する。（90分）	プレゼンテーション通訳の準備。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第11回	・E→J、J→Eの演習（Unit 8） ・プレゼンテーションを使った実践（E→J、J→E） ・同時通訳の表現（ウィスパリング＋ヘッドセット）	Unit 8を予習する。疑問点を整理する。（90分）	プレゼンテーション通訳の準備と復習。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第12回	・E→J、J→Eの演習（Unit 9） ・プレゼンテーションを使った実践（E→J、J→E） ・同時通訳の表現（ウィスパリング＋ヘッドセット）	Unit 9を予習する。疑問点を整理する。（90分）	プレゼンテーション通訳の準備と復習。（90分）
担当教員	川内　裕子		

第13回	・E→J、J→Eの演習（Unit 9） ・プレゼンテーションを使った実践（E→J、J→E） ・同時通訳の表現（ウィスパリング＋ヘッドセット）	Unit 9を予習する。疑問点を整理する。（90分）	通訳実践小テストの準備。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第14回	・小テスト（II）：ウィスパリング通訳実践 E→J（→ 評価 2） ・小テスト（III）：ウィスパリング通訳実践 J→E（→ 評価 3） ・ヘッドセットを使った同時通訳	通訳実践テストの準備。（90分）	Glossaryをまとめる。（90分）
担当教員	川内　裕子		
第15回	・E→J、J→Eの演習 ・ヘッドセットを使った同時通訳	Unitの残りの部分を予習する。（90分）	授業を通して作成したglossary、資料をまとめておく。（90分）
担当教員	川内　裕子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業内で行なう3回のテスト
その他	10	授業中の取り組み

教科書

“Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition>”（通訳とコミュニケーションの総合演習 [改訂版]）斎藤彩子 他著（南雲堂）

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

英語を使う能力を伸ばすことに積極的に取り組む意欲があること。辞書必携。出席日数を自己管理すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	日英対照言語学					ナンバリング	4638
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼を置いた科目である。【知識・技能】と関連する。科目の関連性から言えば、Introduction to English Linguistics, 英文法研究に関連している。

授業の概要

言語を研究する場合、対象を外国語とすると直感が働かないので表面的な観察になりやすいが、意識的な観察ができる。対象を母語にすると、逆に直感が働くので微妙なところまで観察できるが、その直感を意識化することに困難が伴う。微妙な細かい直感を意識的に引き出す能力を引き出す方法として複数言語の対照研究がある。それは言語の教育・学習にも絶大な効力を発揮する。この授業では英語と日本語を対照言語学的に学ぶことでより態かな英語力を身につける。

到達目標

・日本語と対照しながら英語を説明することができる。
・日本語と英語の違い(文法、音声)を区別することができる。
・ことばの不思議に気づき、その解説について論じることができる。

授業の方法

教科書、板書、配布印刷物を使った講義形式で授業を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に確認テストを行い、その解説をする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション	日英対照言語学というものについて調べておく。(90分)	教科書、参考書の指示された部分を読んでおく。(90分)
担当教員			
第2回	日本語の表記と読み方の不思議について学ぶ。	日本語の表記と読み方の不思議について調べておく。(90分)	日本語の表記と読み方の不思議について確認しておく(90分)
担当教員			
第3回	文化による日本語と英語の違いについて学ぶ。	文化による日本語と英語の違いについて調べておく。(90分)	文化による日本語と英語の違いについて確認しておく(90分)
担当教員			

第4回	日本語と英語の否定命令文の応答について学ぶ。	日本語と英語の否定命令文の応答について調べておく。(90分)	日本語と英語の否定命令文の応答について確認しておく(90分)
担当教員			
第5回	日本語と英語の間投詞について学ぶ。	日本語と英語の間投詞について調べておく。(90分)	日本語と英語の間投詞について確認しておく(90分)
担当教員			
第6回	日本語と英語の事態把握について学ぶ。	日本語と英語の事態把握について調べておく。(90分)	日本語と英語の事態把握について確認しておく(90分)
担当教員			

第7回	「うるさい」と'Be Quiet!'の違いについて学ぶ。	「うるさい」と'Be Quiet!'の違いについて調べておく。(90分)	「うるさい」と'Be Quiet!'の違いについて確認しておく(90分)
担当教員			
第8回	「は」に点々がついたら「が」ー言語獲得に見られる過剰一般化ーについて学ぶ。	「は」に点々がついたら「が」ー言語獲得に見られる過剰一般化ーについて調べておく。(90分)	「は」に点々がついたら「が」ー言語獲得に見られる過剰一般化ーについて確認しておく(90分)
担当教員			
第9回	過去形と現在完了形の違いについて学ぶ。	過去形と現在完了形の違いについて調べておく。(90分)	過去形と現在完了形の違いについて確認しておく(90分)
担当教員			

第10回	日本人英語学習者の英文の言語的特徴について学ぶ。	日本人英語学習者の英文の言語的特徴について調べておく。(90分)	日本人英語学習者の英文の言語的特徴について確認しておく(90分)
担当教員			
第11回	日本語を意識した英語発音について学ぶ。	日本語を意識した英語発音について調べておく。(90分)	日本語を意識した英語発音について確認しておく(90分)
担当教員			
第12回	日本語と英語の音節量について学ぶ。	日本語と英語の音節量について調べておく。(90分)	日本語と英語の音節量について確認しておく(90分)
担当教員			

第13回	日本語と英語の長さの感覚について学ぶ。ー「ユーキ」は「勇樹」か「由紀」か	日本語と英語の長さの感覚について調べておく。(90分)	日本語と英語の長さの感覚について確認しておく(90分)
担当教員			
第14回	日本語と英語の音節頭部ー似た者同士は並ばないーことについて学ぶ。	日本語と英語の音節頭部ー似た者同士は並ばないーことについて調べておく。(90分)	日本語と英語の音節頭部ー似た者同士は並ばないーことについて確認しておく(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	総復習をしておく。(90分)	指示された項目につてい確認しておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験60%　課題提出20%　小テスト20%
その他	0	

教科書

『〈不思議〉に満ちたことばの世界(上)』高見健一 行田勇 大野英樹(編) 開拓社

参考文献

授業内で指示する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	中国語基礎Ⅰ［C2-1］					ナンバリング	1650
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

本科目はディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと特に関連性を持っている。そして、「世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている」ことや、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」こととも関係がある科目である。教養科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、後期の「中国語基礎Ⅱ」の基礎となるとともに、前期の「中国語入門Ⅰ」と関連する。

授業の概要

この授業は、入門レベルの文法、基本会話と表現に関する基礎的事項を総合的に学習することによって、入門レベルの中国語の外観を把握し、特に、文法事項や発音のポイントを把握できるようにする。中国語の発音の学習で重要なことは、発音符号であるピンインの読み方とその表記の方法を理解することであるため、発音表記であるピンインとその表記の関係を理解することに力を入れ、その関係を把握できるようにする。

到達目標

中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法を説明できる。単語と会話文を正確に発音することができる。中国語で簡単な自己紹介をすることができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは6回目の授業から毎回行う。
なお、受講者の学習の状況に合わせて、各回の講義内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、中国語とは？　予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分（pp.6～10）について、予習すること。（90分）	オリエンテーションの内容を復習すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。 単母音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。 単母音をマスターした後に、2重母音、3重母音の複母音について訓練する。	学習予定の部分（pp.12～14）について、予習すること。（90分）	母音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、ドリルを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第3回	発音③ 子音（1）を中心にマスターする。 子音（声母）の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。また、中国語の有気音と無気音の違いについては、徹底して発音訓練を行う。	学習予定の部分（pp.16～18）について、予習すること。（90分）	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出。（90分）
担当教員	魯　諍		

第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。	学習予定の部分(pp.20～22)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。 S＋“是”＋O S＋“不是”＋O	学習予定部分(pp.24～27)について、予習すること。(90分)	p.29の振り返りシートを完成すること。p.25の本文をよく読み、録音し、次回授業前日までに提出。(90分)
担当教員	魯　諍		
第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。 S(人)＋“叫”＋フルネーム S(人)＋“姓”＋苗字	授業の前に学習予定の部分(pp.30～33)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.35の振り返りシートを完成すること。p.31の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分(pp.36～39)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.41の振り返りシートを完成すること。p.37の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	Ⅰ、二つ以上の動詞からなる文――連動文 Ⅱ、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分(pp.42～45)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.47の振り返りシートを完成すること。p.43の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	“有”を用いた文型をマスターする。 S＋“有”＋O S＋“没有”＋O “在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。 S＋“在”＋場所 場所＋“有”＋S	学習予定の部分(pp.48～51)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.53の振り返りシートを完成すること。p.49の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第10回	Ⅰ、年月日、曜日の言い方 Ⅱ、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分(pp.54～57)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.59の振り返りシートを完成すること。p.55の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業で提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分(pp.60～63)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.65の振り返りシートを完成すること。p.61の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分(pp.66～69)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.71の振り返りシートを完成すること。p.67の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	Ⅰ、年齢の言い方と尋ね方 Ⅱ、前置詞“在”	学習予定の部分（pp.72～75）について、予習すること。（90分）	よく復習し、p.77の振り返りシートを完成すること。p.73の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第14回	Ⅰ、文末助詞の“了” Ⅱ、動詞の重ね（AA A“一”A “一下”）	学習予定部分（pp.78～81）について、予習すること。（90分）	よく復習し、p.83の振り返りシートを完成すること。p.79の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第15回	小テストおよび授業のまとめを行う。	学習した部分（第1課～14課）を復習すること。（90分）	小テストの内容を確認すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋単語テスト(20%)＋小テスト(50%)
その他	0	

教科書

『いま始めよう！アクティブラーニングーー初級中国語――』陳淑梅 張国璐著　朝日出版社

参考文献

『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	中国語基礎Ⅰ［C2-2］					ナンバリング	1650
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	巫　靚						

授業の位置づけ

本科目はディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと特に関連性を持っている。そして、「世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている」ことや、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」こととも関係がある科目である。教養科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、後期の「中国語基礎Ⅱ」の基礎となるとともに、前期の「中国語入門Ⅰ」と関連する。

授業の概要

この授業は、入門レベルの文法、基本会話と表現に関する基礎的事項を総合的に学習することによって、入門レベルの中国語の外観を把握し、特に、文法事項や発音のポイントを把握できるようにする。中国語の発音の学習で重要なことは、発音符号であるピンインの読み方とその表記の方法を理解することであるため、発音表記であるピンインとその表記の関係を理解することに力を入れ、その関係を把握できるようにする。

到達目標

1. 中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法ができる。
2. 単語と会話文を正確に発音することができる。
3. 中国語で簡単な自己紹介をすることができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは6回目の授業から毎回行う。なお、受講者の学習の状況に合わせて、各回の講義内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、中国語とは？　予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分（pp.6-10）を予習する(90分)。	オリエンテーションの内容を復習する(90分)。
担当教員			
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。 単母音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。 単母音をマスターした後に、2重母音、3重母音の複母音について訓練する。	学習予定の部分（pp.12-14）を予習する(90分)。	母音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、ドリルを完成し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第3回	発音③ 子音（1）を中心にマスターする。 子音（声母）の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。また、中国語の有気音と無気音の違いについては、徹底して発音訓練を行う。	学習予定の部分（pp.16-18）を予習する(90分)。	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			

第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。	学習予定の部分(pp.20-22)を予習する(90分)。	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。 S＋“是”＋O S＋“不是”＋O	学習予定部分(pp.24-27)を予習する(90分)。	p.29の振り返りシートを完成する。p.25の本文をよく読み、録音し、次回授業前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。 S(人)＋“叫”＋フルネーム S(人)＋“姓”＋苗字	授業の前に学習予定の部分(pp.30-33)を予習する(90分)。	よく復習し、p.35の振り返りシートを完成する。p.31の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			

第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分(pp.36-39)を予習する(90分)。	よく復習し、p.41の振り返りシートを完成する。p.37の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第8回	Ⅰ、二つ以上の動詞からなる文――連動文 Ⅱ、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分(pp.42-45)を予習する(90分)。	よく復習し、p.47の振り返りシートを完成する。p.43の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第9回	“有”を用いた文型をマスターする。“在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。	学習予定の部分(pp.48-51)を予習する(90分)。	よく復習し、p.53の振り返りシートを完成する。p.49の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			

第10回	Ⅰ、年月日、曜日の言い方 Ⅱ、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分(pp.54-57)を予習する(90分)。	よく復習し、p.59の振り返りシートを完成する。p.55の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業で提出する(90分)。
担当教員			
第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分(pp.60-63)を予習する(90分)。	よく復習し、p.65の振り返りシートを完成する。p.61の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分(pp.66-69)を予習する(90分)。	よく復習し、p.71の振り返りシートを完成する。p.67の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			

第13回	Ⅰ、年齢の言い方と尋ね方 Ⅱ、前置詞“在”	学習予定の部分（pp.72-75）を予習する（90分）。	よく復習し、p.77の振り返りシートを完成する。p.73の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第14回	Ⅰ、文末助詞の“了” Ⅱ、動詞の重ね（AA A“一”A “一下”）	学習予定部分（pp.78-81）を予習する(90分)。	よく復習し、p.83の振り返りシートを完成する。p.79の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第15回	小テストおよびまとめ。	学習した部分（第1課～14課）を復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋単語テスト(30%)＋小テスト(40%)
その他	0	

教科書

『いま始めよう！アクティブラーニングーー初級中国語――』陳淑梅 張国璐著　朝日出版社

参考文献

『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	中国語基礎Ⅱ［C2-1］					ナンバリング	1651
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことと、「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている」ことと特に関係がある科目である。前期の「中国語基礎Ⅰ」と連携し、更に高いレベルの中国語を修得するための科目である。

授業の概要

この授業は、漢字で表記されている中国語が日本人にとっては他の外国語に比べて親しみやすい外国語と言えるが、入門の段階で最も難しいのは発音である。この授業では、まず発音をマスターすることに重点を置く。正確な発音を通して、中国語の音とリズムに慣れるようにする。中国語の発音学習で重要なことは、発音表記法であるピンインの読み方とその表記方法を理解することである。学習者は、発音→ピンイン、ピンイン→発音の練習を操り返すことにより、中国語の発音を習得し、後日の中国語学習を確実なものとすることができる。

到達目標

中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法を説明できる。四声を区別できる。正確な発音で中国語の基礎的な会話ができる。初級レベルの文法事項について説明することができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは2回目の授業から毎回行う（全13回）。毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、授業の内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された音声宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Ⅰ、オリエンテーション Ⅱ、第15課 経験を表す助詞“过”と比較を表す前置 詞“比”をマスターする。	前期科目「中国語基礎Ⅰ」の内容(pp.6~83)を復習し、学習予定部分(pp.84~87)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.89の振り返りシートを完成すること。p.85の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	第16課Ⅰ、助動詞“会”;Ⅱ、二重目的語構文をマスターする。	学習予定の部分(pp.90~93)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.95の振り返りシートを完成すること。p.91の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	第17課Ⅰ、助動詞“可以”;Ⅱ、副詞“有点儿”と名詞“一点儿”について学ぶ。	学習予定の部分(pp.96~99)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.101の振り返りシートを完成すること。p.97の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第4回	第18課Ⅰ、様態補語;Ⅱ、時間の長さ(時量)について学ぶ。	学習予定の部分(pp.102～105)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.107の振り返りシートを完成すること。p.103の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	第19課Ⅰ、結果補語;Ⅱ、回数の言い方について学ぶ。	学習予定の部分(pp.108~111)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.113の振り返りシートを完成すること。p.109の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第6回	第20課Ⅰ、“是～的”構文;Ⅱ、禁止を表す“別”と“不要”をマスターする。	学習予定の部分(pp.114~117)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.119の振り返りシートを完成すること。p.115の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第7回	第21課Ⅰ、方向補語;Ⅱ、動作行為の完了を表すアスペクト助詞“了”について学ぶ。	学習予定の部分(pp.120~123)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.125の振り返りシートを完成すること。p.121の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	第22課Ⅰ、動作行為の進行を表す表現;Ⅱ、可能補語について学ぶ。	学習予定の部分(pp.126~129)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.131の振り返りシートを完成すること。p.127の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	第23課Ⅰ、前置詞“离”、“从”、“到”;Ⅱ、程度補語をマスターする。	学習予定の部分(pp.132~135)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.137の振り返りシートを完成すること。p.133の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第10回	第24課Ⅰ、助動詞“能”;Ⅱ、助動詞“会”(蓋然性の使い方)をマスターする。	学習予定の部分(pp.138~141)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.143の振り返りシートを完成すること。p.139の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	第25課Ⅰ、使役表現;Ⅱ、主述述語文をマスターする。	学習予定の部分(pp.144~147)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.149の振り返りシートを完成すること。p.145の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	第26課 “把”構文と存現文をマスターする。	学習予定の部分(pp.150~153)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.155の振り返りシートを完成すること。p.151の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	第27課Ⅰ、不定疑問文;Ⅱ、受け身表現をマスターする。	学習予定の部分(pp.156~159)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.161の振り返りシートを完成すること。p.157の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	第28課Ⅰ、助詞“着”;Ⅱ、“就要～了”について学ぶ。	学習予定の部分(pp.162~165)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.167の振り返りシートを完成すること。p.163の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	まとめ、復習、小テスト これまで学習した中国語の基本文型を用いて、場面を設定し実際に会話の訓練をした後、小テスト。	第15課～28課の内容を復習し、十分に準備すること。(90分)	テストの内容を確認すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習、課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋単語テスト(20%)＋小テスト(50%)
その他	0	

教科書

『いま始めよう！アクティブラーニング―初級中国語―』陳淑梅 張国璐著　朝日出版社

参考文献

『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館

履修条件・留意事項等

出席と宿題を重視する。無断欠席は減点要素になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	中国語基礎Ⅱ［C2-2］					ナンバリング	1651
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	巫　靚						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことと、「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている」ことと特に関係がある科目である。前期の「中国語基礎Ⅰ」と連携し、更に高いレベルの中国語を修得するための科目である。

授業の概要

この授業は、漢字で表記されている中国語が日本人にとっては他の外国語に比べて親しみやすい外国語と言えるが、入門の段階で最も難しいのは発音である。この授業では、まず発音をマスターすることに重点を置く。正確な発音を通して、中国語の音とリズムに慣れるようにする。中国語の発音学習で重要なことは、発音表記法であるピンインの読み方とその表記方法を理解することである。学習者は、発音→ピンイン、ピンイン→発音の練習を操り返すことにより、中国語の発音を習得し、後日の中国語学習を確実なものとすることができる。

到達目標

1. 中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法を説明できる。
2. 四声が区別できる。
3. 正確な発音で中国語の基礎的な会話ができる。
4. 初級レベルの文法事項について説明することができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは2回目の授業から毎回行う（全13回）。毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、授業の内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された音声宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Ⅰ、オリエンテーション Ⅱ、第15課 経験を表す助詞“过”と比較を表す前置 詞“比”をマスターする。	前期科目「中国語基礎Ⅰ」の内容(pp.6~83)を復習し、学習予定部分(p.84~p.87)について、予習する(90分)。	よく復習し、p.89の振り返りシートを完成する。p.85の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第2回	第16課Ⅰ、助動詞“会”;Ⅱ、二重目的語構文をマスターする。	学習予定の部分(pp.90~93)を予習する(90分)。	よく復習し、p.95の振り返りシートを完成する。p.91の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第3回	第17課Ⅰ、助動詞“可以”;Ⅱ、副詞“有点儿”と名詞“一点儿”について学ぶ。	学習予定の部分(pp.96~99)を予習する(90分)。	よく復習し、p.101の振り返りシートを完成する。p.97の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			

第4回	第18課Ⅰ、様態補語;Ⅱ、時間の長さ(時量)について学ぶ。	学習予定の部分(pp.102~105)を予習する(90分)。	よく復習し、p.107の振り返りシートを完成する。p.103の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第5回	第19課Ⅰ、結果補語;Ⅱ、回数の言い方について学ぶ。	学習予定の部分(pp.108~111)を予習する(90分)。	よく復習し、p.113の振り返りシートを完成する。p.109の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第6回	第20課Ⅰ、“是～的”構文;Ⅱ、禁止を表す“別”と“不要”をマスターする。	学習予定の部分(pp.114~117)を予習する(90分)。	よく復習し、p.119の振り返りシートを完成する。p.115の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			

第7回	第21課Ⅰ、方向補語;Ⅱ、動作行為の完了を表すアスペクト助詞“了”について学ぶ。	学習予定の部分(pp.120~123)を予習する(90分)。	よく復習し、p.125の振り返りシートを完成する。p.121の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第8回	第22課Ⅰ、動作行為の進行を表す表現;Ⅱ、可能補語について学ぶ。	学習予定の部分(pp.126~129)を予習する(90分)。	よく復習し、p.131の振り返りシートを完成すること。p.127の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第9回	第23課Ⅰ、前置詞“离”、“从”、“到”;Ⅱ、程度補語をマスターする。	学習予定の部分(pp.132~135)を予習する(90分)。	よく復習し、p.137の振り返りシートを完成する。p.133の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			

第10回	第24課Ⅰ、助動詞“能”;Ⅱ、助動詞“会”(蓋然性の使い方)をマスターする。	学習予定の部分(pp.138~141)を予習する(90分)。	よく復習し、p.143の振り返りシートを完成する。p.139の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第11回	第25課Ⅰ、使役表現;Ⅱ、主述述語文をマスターする。	学習予定の部分(pp.144~147)を予習する(90分)。	よく復習し、p.149の振り返りシートを完成する。p.145の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第12回	第26課 “把”構文と存現文をマスターする。	学習予定の部分(pp.150~153)を予習する(90分)。	よく復習し、p.155の振り返りシートを完成する。p.151の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			

第13回	第27課Ⅰ、不定疑問文;Ⅱ、受け身表現をマスターする。	学習予定の部分(pp.156~159)を予習する(90分)。	よく復習し、p.161の振り返りシートを完成する。p.157の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第14回	第28課Ⅰ、助詞“着”;Ⅱ、“就要～了”について学ぶ。	学習予定の部分(pp.162~165)を予習する(90分)。	よく復習し、p.167の振り返りシートを完成する。p.163の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ、復習、小テスト これまで学習した中国語の基本文型を用いて、場面を設定し実際に会話の訓練をした後、小テスト。	第15課～28課の内容を復習し、十分に準備する(90分)。	テストの内容を復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習、課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋単語テスト(30%)＋小テスト(40%)
その他	0	

教科書

『いま始めよう！アクティブラーニング―初級中国語―』陳淑梅 張国璐著　朝日出版社

参考文献

『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館

履修条件・留意事項等

出席と宿題を重視する。無断欠席は減点要素になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	初級中国語Ⅰ					ナンバリング	1652
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことと特に関係がある科目である。そして、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」ことや、「世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている」こととも関係があり、中国語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけるための科目である。「中国語基礎Ⅱ」と関連し、「初級中国語Ⅱ」と連携する科目である。

授業の概要

この授業は、「中国語基礎Ⅱ」とリンクさせた授業である。すぐに使える挨拶ことば、基本文型の習得と語彙の入れ換え練習によって 様々な基本的な表現の文章、基礎語彙の習得を、「中国語基礎Ⅱ」で行う発音の練習や文法の応用と平行させて行い、中国語基礎能力の獲得を更に確実なものとする。そして、連携している「初級中国語Ⅱ」の土台となる文法事項をマスターすることを目的としている。

到達目標

単語（ピンインと簡体字）を正確に読むことと書くことができる。
中国語の学習を継続的に進めていくための初級レベルの文法と表現を実践的に運用できる。
中国語で簡単な自己紹介ができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは3回目の授業から毎回行う（全12回）。履修者の理解度に応じて、講義の内容と授業の進捗状況を微調整する可能性がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス ②ウォーミングアップ（中国語の発音を復習する）	教科書のpp.17~40をよく読み、中国語の発音・ピンインを復習すること。(90分)	よく復習し、第32、34、36頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	第2課 自己紹介――自分の所属や専攻に関する表現を学ぶ。 文法ポイント: 動詞述語文 指示代名詞“这・那・哪”、 場所代名詞“这儿・那儿・哪儿”、 疑問詞疑問文“谁・什么・哪儿・哪个”など	学習予定の部分(pp.50~54)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第54頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	第3課 自己紹介――自分の家族や友達について紹介する。 文法ポイント:所在を表す動詞“在” 所有と存在を表す動詞“有” 名詞述語文など	学習予定の部分(pp.58~62)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第62頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第4回	第4課　お誘いに関する表現を学ぶ。 文法ポイント：前置詞“在” 　　連動文 　　日時に関する表現など	学習予定の部分（pp.66~70）について、予習すること。（90分）	よく復習し、第70頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第5回	第5課 レストラン――注文に関する表現を学ぶ。 文法ポイント： 選択疑問文 願望を表す助動詞“想” 意志を表す助動詞“要”など	学習予定の部分（pp.74~78）について、予習すること。（90分）	よく復習し、第78頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第6回	第6課 買い物――買いたい物の特徴や価格に関する表現を学ぶ。 文法ポイント：形容詞述語文 　　比較に関する表現 　　数字など	学習予定の部分（pp.82~86）について、予習すること。（90分）	よく復習し、第86頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第7回	第7課 道案内――目的地までの道を説明するための表現を学ぶ。 文法ポイント:前置詞“从・到・离” 　　結果補語 　　方位詞など	学習予定の部分(pp.90~94)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第94頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	第8課 趣味に関する雑談――自分の趣味について相手に伝えるための表現を学ぶ。 文法ポイント: 助動詞“会” 動作の完了を表すアスペクト助詞“了” 様態補語 二重目的語をとる動詞など	学習予定の部分(pp.98~102)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第102頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	第9課 旅行の計画――自分の経験や計画について相手に伝えるための表現を学ぶ。 文法ポイント:進行を表す“在” 　　アスペクト助詞“过” 　　主述述語文など	学習予定の部分(pp.106~110)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第110頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第10回	第10課 病院――熱や痛みなどの症状に関する表現を学ぶ。 文法ポイント:“(是)～V的”構文 　　可能性を表す“会”など	学習予定の部分(pp.114~118)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第118頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	第11課 トラブル――盗難や忘れ物などの状況を正確に相手に伝えるための表現を学ぶ。 文法ポイント:“把”構文と受身文など	学習予定の部分(pp.122~126)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第126頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	第12課 ホテル――チェックイン・チェックアウトに関する表現や、フロントに連絡する場合に使う表現を学ぶ。 文法ポイント:方向補語、可能補語 　　使役文など	学習予定の部分(pp.130~134)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第134頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	第13課 約束する――「約束」や「禁止」に関する表現を学ぶ。 文法ポイント:複文 　　禁止を表す副詞“別”など	学習予定の部分(pp.138~142)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第142頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	第14課 掲示板を見る――イベント情報を伝えるための表現を学ぶ。 文法ポイント:アスペクト助詞“着”、V1着V2 　　存現文 　　近接未来“快～了”など	学習予定の部分(pp.146~150)について、予習すること。(90分)	よく復習し、第150頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	まとめ、復習、テスト(筆記) これまで学習した文法ポイントを復習した後、テストをする。	これまで学習した内容を復習し、テスト(筆記)の準備をすること。(90分)	テストの内容を確認すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習、課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(40%)＋単語テスト(20%)＋テスト(40%)
その他	0	

教科書

『中国語でコミュニケーション』沈国威監修 氷野善寛、小嶋美由紀他著　朝日出版社

参考文献

『実用現代漢語語法』劉月華など著 北京 商務印書館

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。出席と宿題を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	初級中国語Ⅱ					ナンバリング	1653
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことと、「世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている」ことと特に関係がある科目である。そして、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」ことや、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」こととも関係がある科目である。聴く、話す、読む、書くの運用能力を高めるための科目である。「中国語基礎Ⅱ」と関連し、「初級中国語Ⅰ」と連携する科目である。

授業の概要

この授業は、外国語を学ぶ過程で、学習の内容や方法をチェックし、客観的な判断によって、自分がどのレベルに達しているかを知ることは大切なことであり、更なる学習へのモチベーションにもつながる。よって、この授業では、忠おg供御基礎Ⅱ、初級中国語Ⅰと連携し、学習内容の達成度を可視化するために、「中国語検定」試験3級のレベル試験に合格できるような内容を授業の中に取り入れる。このことで多方面にわたる「話す、聞く、読む、書く」の総合的能力を向上させ、学習者自身がどのレベルに到達したかを可視化できるようにする。

到達目標

初級レベルの中国語を実践の場で活用することができる。
中国のドラマや映画などの会話シーンを視聴するときに、学んだ単語やフレーズを聞き取れる。日常生活に関する作文を口頭発表することができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。理解度テストは2回目の授業から毎回行う（全13回）。なお、履修者の理解度によって、講義の内容と授業の進捗状況を微調整する可能性がある。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。 Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。理解度テストの完成度・問題点に対し、解説を行い、受講生にアドバイスをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス ②自己紹介ーー自分の名前と国籍や出身に関する表現をマスターする。	教科書「第1課」(p.42~49)をよく読み、理解すること。(90分)	よく復習し、第46頁を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	第2課 自己紹介ーー自分の所属や専攻に関する表現を活用し、ペアワークで会話練習をする。 第2課の「総合練習」(p.195)を完成する。	学習予定の部分(p.54~57)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	第3課 自己紹介――自分の家族や友達について紹介するための表現を活用し、ペアワークで会話練習をする。 第3課の「総合練習」(p.197)を完成する。	学習予定の部分(p.62~65)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第4回	第4課 お誘い 友達と待ち合わせをする場面をイメージし、日時や場所などに関する表現を活用し、ペアワークで会話練習をする。 第4課の「総合練習」(p.199)を完成する。	学習予定の部分(p.70～73)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	第5課 レストラン レストランで食べ物や飲み物を注文する場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第5課の「総合練習」(p.201)を完成する。	学習予定の部分(p.78~81)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第6回	第6課 買い物 デパートやコンビニで買い物をする場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第6課の「総合練習」(p.203)を完成する。	学習予定の部分(p.86~89)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第7回	第7課 道案内 道を尋ねる場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第7課の「総合練習」(p.205)を完成する。	学習予定の部分(p.94~97)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	第8課 趣味に関する雑談 自分の趣味を相手に伝える場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第8課の「総合練習」(p.207)を完成する。	学習予定の部分(p.102~105)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	第9課 旅行の計画 旅行の経験や計画について相手に伝える場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第9課の「総合練習」(p.209)を完成する。	学習予定の部分(p.110~113)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第10回	第10課 病院 自分の症状について医師に伝える場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第10課の「総合練習」(p.211)を完成する。	学習予定の部分(p.118~121)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	第11課 トラブル 忘れ物などのトラブルに遭う状況をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第11課の「総合練習」(p.213)を完成する。	学習予定の部分(p.126~129)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	第12課 ホテル チェックイン・チェックアウトの場面や、フロントに連絡する場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第12課の「総合練習」(p.215)を完成する。	学習予定の部分(p.134~137)について、予習すること。(90分)	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	第13課 約束する 友達と約束する場面（食事や映画など）をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第13課の「総合練習」（p.217）を完成する。	学習予定の部分（p.142~145）について、予習すること。（90分）	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第14回	第14課 掲示板を見る 掲示板に載っているイベントについて友達と話す場面をイメージし、ペアワークで会話練習をする。 第14課の「総合練習」（p.219）を完成する。	学習予定の部分（p.150~153）について、予習すること。（90分）	よく復習し、理解度確認テストを完成し、次回の授業の前日までに提出すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第15回	まとめ、復習、テスト（朗読） これまで学習した内容を復習した後、テストをする。	これまで学習した内容を復習し、テスト（朗読）の準備をすること。（90分）	テストの内容を確認すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習、課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(40%)＋ペアワーク(20%)＋理解度テスト(10%)＋テスト(30%)
その他	0	

教科書

『中国語でコミュニケーション』沈国威監修 氷野善寛、小嶋美由紀他著　朝日出版社

参考文献

『実用現代漢語語法』劉月華など著 北京 商務印書館

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。出席と宿題を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	中国語リーディング					ナンバリング	2655
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	邢　玉芝						

授業の位置づけ

中級レベルの中国語の読解力を養成する科目である。ディプロマポリシーとの関連でいえば、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働を可能とし、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける科目である。1年次の中国語科目の発展科目であるとともに、2年次の中国語科目「総合中国語Ⅰ・Ⅱ」「中国語リスニング」「中国語コミュニケーション」「中国語ライティング」などと関連する科目である。

授業の概要

この授業は、中国語の文章を正しく理解する能力を養成する。現代中国における様々な話題を集めた文章を、その内容が表現されるように音読したり、書かれた内容を考えながら黙読したりする。また、各話題に基づく文章を理解するために、各話題の社会的、文化的背景などを解説する。これらの理解を踏まえて、話しの内容や書き手の意見、書かれた内容や考え方などを理解し、「読む・書く・話す・聞く」の4技能の総合的な能力の育成につなげられるようにする。目的を持って熟読したり、読んだ後に感想などを中国語で表現するなど、目的に合った練習問題に取り組んだりする。

到達目標

(1)ピンインを正確に書く
(2)類義語を正しく使い分ける
(3)語順をまちがえない
(4)長文読解ができる
(5)日中の対訳ができる

授業の方法

教科書を中心に一回の授業で1課を進む。授業の前半は会話本文と文法の説明をする。後半は練習問題の答え合わせをする。要旨をまとめたプリントを配布し、説明にはパワーポイントを多用する。履修者の理解度によって、講義の内容と授業の進捗状況を微調整する可能性がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中で確認する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 第1課「自己紹介」を例にして、準備学習の指導。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第2回	第1課「自己紹介」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第3回	第2課「私の家族」本文と文法ポイントの例文を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			

第4回	第3課「インターネット」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第5回	第4課「デート」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第6回	第5課「温泉旅行」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			

第7回	第6課「私の趣味」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第8回	第7課「友達を作る」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第9回	まとめ、復習、テスト（第1課～第6課）	出題範囲と問題形式を踏まえて総復習する。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			

第10回	第8課「お食事会」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第11回	第9課「目覚まし時計」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第12回	第10課「アルバイト」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			

第13回	第11課「冬休み」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第14回	第12課「留学する」テキストの内容を理解した上で、日本語に訳し、練習問題を完成する。	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第15回	まとめ、復習、テスト 第7～12課に学習した内容を復習した後、テストをする。	出題範囲と問題形式を踏まえて総復習する。（90分）	出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習・復習・課題の完成度及授業への参加度(40%)＋テスト(60%)
その他	0	無断欠席は必ず減点要素になる。

教科書

『2冊目の中国語 講読クラス』、劉頴 柴森 小澤正人 白水社

参考文献

授業中に適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	中国語ライティング					ナンバリング	2656
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	云　肖梅						

授業の位置づけ

中級レベルの中国語の作文力を養成する科目である。ディプロマポリシーとの関連でいえば、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働を可能とし、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける科目である。1年次の中国語科目の発展科目であるとともに、2年次の中国語科目「総合中国語Ⅰ・Ⅱ」「中国語リスニング」「中国語コミュニケーション」「中国語リーディング」などと関連する科目である。

授業の概要

この授業は、中国語の作文の能力を修得する。文章作成は中国語の学習段階で最大の難関と言われる。総合的な運用能力として、語学力、表現力、漢字の知識、中国語の構文に対する理解などの能力が作文力に集約される。本科目は作文訓練を重視し、身近にある物事、自分の経験や思いを作文素材とし、短文から挑戦し、次第に長文としての文章や、体裁のある文章を書けるように訓練する。作文・添削・講評の作業が授業の基本設定であり、基本訓練の積み重ねにより、作文能力のレベルアップを目指す。

到達目標

中国語の基本構造に基づいて、文を正確に組み立てることができる。
大学生活、思い出など身近なテーマをめぐって、自己の経験や意見を文章で表現することができる。
中国語の入力方を操作できる。翻訳アプリとAI翻訳機能を応用できる。

授業の方法

基本的には教科書に沿って授業を進める。授業では講師主導の文型解説と学生自主の応用練習を交代で行う。文型解説にはパワーポイントとCDなどの視聴覚メディアを活用する。応用練習については教師が参加者それぞれの口頭回答をチェックするほか、紙面の解答も配る。

ICT活用

Google Classroomの機能を活用し、書く練習や理解度テストを行い、双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回練習問題をチェックし、学生の理解度を確認する。問題点を授業中で説明する。
小テストに自由に書く質問欄を設け、学生のそれぞれの学習状態を把握し、個別指導を行う。
授業後随時質問に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス（授業の目標、評価方法、および検定試験の種類と受験対策などを紹介する） 作文1	今まで学習した文法項目を復習すること。（90分）	作文1を完成し、添削されたところを直すこと。（90分）
担当教員	云　肖梅		
第2回	ユニットⅠ 第1課　一語文・一句文 第2課　基本構文と主題化	新出単語を調べ、文法を予習すること。（90分。	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。（90分）
担当教員	云　肖梅		
第3回	ユニットⅠ 第3課　時間（時点と時間量） 第4課　場所と存在・移動	新出単語を調べ、文法を予習すること。（90分）	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。翌週の小テスト1を準備すること。（90分）
担当教員	云　肖梅		

第4回	ユニット2 第5課　疑問・否定 第6課　願望・必要	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第5回	ユニット2 第7課　命令・依頼・可能 第8課　推定・伝聞	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。小作文2を提出すること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第6回	ユニット3 第9課　数量表現 第10課 修飾語	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。(90分)
担当教員	云　肖梅		

第7回	ユニット3 第11課　形容詞の程度と動詞の様態 第12課 比較・類似	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。翌週の小テスト2を準備すること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第8回	ユニット4 第13課 時制とアスペクト	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。小作文3を提出すること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第9回	ユニット4 第14課 結果・方向・可能	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。翌週の小テスト3を準備すること。(90分)
担当教員	云　肖梅		

第10回	ユニット4 第15課 二重目的語と対象を表す前置詞	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。小作文4を提出すること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第11回	ユニット4 第16課 使役・受身・”把”	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。翌週の小テスト4を準備すること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第12回	ユニット5 第17課 仮定・条件 第18課 順序・全称	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。翌週の小テスト5を準備すること。(90分)
担当教員	云　肖梅		

第13回	ユニット5 第19課 原因・目的・逆説 第20か 並列・累加	新出単語を調べ、文法を予習すること。(90分)	文末の練習問題を完成し、間違ったところを直すこと。小作文5を提出すること。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第14回	総合復習1 教科書前半の内容を顧みて、疑問点と難点を再確認する。	ユニット1-3各課の復習問題を完成すること。(90分)	復習問題と作文を見直すこと。(90分)
担当教員	云　肖梅		
第15回	総合復習2 教科書前半の内容を顧みて、疑問点と難点を再確認する。	ユニット4-5各課の復習問題を完成すること。(90分)	復習問題と作文を見直すこと。(90分)
担当教員	云　肖梅		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題40％＋小テスト30％＋作文30%
その他	0	

教科書

『書く中国語 改訂版』 董燕 /遠藤光暁 著 朝日出版社
ISBN: 978-4-255-45143-5

参考文献

授業中に随時配布

履修条件・留意事項等

授業全体2/3以上の出席が求められる。無断欠席は減点要素とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	メディア中国語					ナンバリング	3658
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。」と特に関係があり、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」ことや、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。」こととも関係がある科目である。言語プロフェッショナル科目に位置づけられた外国語科目として、「中国語リーディング」「中国語ライティング」とも関連する科目である。中国の新聞、テレビ、インターネットなどのメディアに使用される言葉と表現を理解し、それぞれのメディアで情報を発信する能力を高める。

授業の概要

外国語教育におけるメディアの果たす役割は、年々重要になっているが、新聞、放送、映像などのマスメディア及びインターネット通信では、一般的に使われる中国語とは異なる特殊な語彙や語法が用いられることが多い。この授業では、メディアの中で使われる中国語に注目する。中国語の新聞、出版物などから文字による世界、中国映画、ドフマなど映像の描く世界、放送などから放送による世界を理解し、同時にメディアで使われる専門的な中国語を理解できるようにする。

到達目標

二年の勉強で身につけた初級レベルの「会話と表現」能力の上に、準中級レベルにふさわしい、より高度な表現を応用できる。中国のメディアによく使われている用語と表現を挙げることができる。そして、SNSなどで情報を発信するときに使用できるようになる。

授業の方法

初回の授業はガイダンスを行う（授業の進め方・テキストの指示など）。第2回から、毎回の授業の前半は文章を書くための中国語表現を学ぶ。そして、後半はHSK（3級・4級）の過去問と模擬問題や、中国の新聞、テレビ（ドラマやバラエティー番組も含む）、インターネットなど、各種メディアからのコンテンツを使い、学生たちの中国語の応用能力を鍛える。なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。オンライン動画やライブ配信などの視聴覚コンテンツを取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された課題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①オリエンテーション 授業の進め方を説明する。予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 ②おさえておきたい初級文法を復習する。	これまで学習した中国語の初級文法を復習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	①配布した資料を学習する。 ② 中国の大学生活に関する記事を読む。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	① 配布した資料を学習する。 ② 中国人の飲食に対する理解を反映する動画を見る。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第4回	① 配布した資料を学習する。 ② 北京の通勤事情に関する報道を読む（視聴する）。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	① 配布した資料を学習する。 ②「縁起を担ぐ」をめぐる中国人の考え方に注目する報道を読む（視聴する）。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第6回	① 配布した資料を学習する。 ②「打工人」「躺平」など、インターネットでよく使用されている用語の使い方を学ぶ。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第7回	① 配布した資料を学習する。 ② 中国の大学生の寮生活について紹介する。集団生活によるトラブルを取り上げる新聞記事を読む。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	① 配布した資料を学習する。 ② 中国のネットショッピング事情を紹介する記事を読む。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	① 配布した資料を学習する。 ②「送礼(贈り物をする)」という現象に対する批判的な報道を読む(視聴する)。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第10回	中級レベルの中国語表現を学ぶ① 中級レベルの副詞を学び、練習問題をやる。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	中級レベルの中国語表現を学ぶ② 即使～，也…「たとえ～でも…」「仮に～だとしても…」など、関連語句を学び、練習問題をやる。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	与えられた単語や写真を使い、作文の練習をする。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	与えられた単語や写真を使い、作文の練習をする。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	与えられた単語や写真を使い、作文の練習をする。	配布した資料を予習すること。(90分)	配布した練習問題を完成し、次回の授業で使う資料を予習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	小テストと振り返りを行う。	配布した資料や練習問題を使い、復習すること(90分)	課題を完成し、提出すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋理解度確認テスト(20%)+ペアワーク(20%)+小テスト(30%)
その他	0	

教科書

配布プリントを使用する。

参考文献

『HSK公認テキスト 3級』株式会社スプリックス 中国語教育事業部
『HSK公認テキスト 4級』株式会社スプリックス 中国語教育事業部

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。無断欠席は必ず減点要素となる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	朝鮮語Ⅲ					ナンバリング	4673
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	朴　權浩						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界を繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次の科目「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」の発展科目である。

授業の概要

この授業は、「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」に続き、朝鮮語初級後期レベルの4機能を総合的に学修する。朝鮮語の音韻体系と音韻規則が定着し、朝鮮語の初級基本文法とその運用を学ぶ。授業では、朝鮮語での場面別コミュニケーション能力の養成を中心とするが、短い文章を辞書を読みながら理解語彙を増やす読解練習も行う。その読解練習のテーマに関連した視聴覚教材を使って聴解練習をしたり、平易な朝鮮語で自分の考えをまとめたり、他者との意見交換ができるようにする。

到達目標

「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ基礎文法の学習を通じた短文の読解と聴解、作文が辞書をみずに使用できる。
また多様な場面での練習を通じて状況にあわせた会話が使用できる。
ハングル能力試験4～5級合格程度のレベルまでの韓国語が使用できる。

授業の方法

授業は、3年次に学習した発音の規則と基本文法や文型を基礎にして朝鮮語の多様な表現を視聴覚メディアなどを使用しながら学んでいく。学生1人ひとりの学習レベルと状況にあわせた実践の会話練習を板書、またハンドアウトを通じて全員が積極的にまた楽しく朝鮮語を学んでいくことができるように指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出方法、フィードバック方法については、授業開始時に具体的に提示する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	発音の規則、基本文法(グループごとの活用方法)の総括復習	発音の規則、基本文法(グループごとの活用方法)の総括復習をする。(90分)	発音の規則、基本文法(グループごとの活用方法)の総括復習をする。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第2回	用言の活用:理由・原因の3グループの表現～아서、～어서の活用	用言の活用:理由・原因の3グループの表現～아서、～어서の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第3回	用言の不規則活用:「으」不規則活用	用言の不規則活用:「으」不規則活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第4回	動詞の活用:許可を求める3グループの表現～아/어도 돼요?の活用	動詞の活用:許可を求める3グループの表現～아/어도 돼요?の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第5回	動詞の活用:～すればいいですかの2グループの表現～(으)면 돼요?の活用	動詞の活用:～すればいいですかの2グループの表現～(으)면 돼요?の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第6回	動詞の活用:勧誘の～ましょうかの表現～(으)ㄹ까요?の活用	動詞の活用:勧誘の～ましょうかの表現～(으)ㄹ까요?の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第7回	動詞の活用:目的の～にの表現～(으)러の活用	動詞の活用:目的の～にの表現～(으)러の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第8回	動詞の活用:依頼の～していただけますかの表現～아/어 주시겠어요?と～してくださいの～아/어 주세요の活用	動詞の活用:依頼の～していただけますかの表現～아/어 주시겠어요?と～してくださいの～아/어 주세요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第9回	用言の活用:～ですがや～ますがの表現～습니다만の活用	用言の活用:～ですがや～ますがの表現～습니다만の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第10回	動詞の活用:能力・可能の表現～(으)ㄹ 수 있어요、～(으)ㄹ 수 없어요の活用	動詞の活用:能力・可能の表現～(으)ㄹ 수 있어요、～(으)ㄹ 수 없어요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第11回	動詞の活用:現在進行時制の表現～고 있어요の活用	動詞の活用:現在進行時制の表現～고 있어요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第12回	動詞の活用:過去連体形の～(으)ㄴ、現在連体形～는、～未来連体形～(으)ㄹの活用と 先行動作の～아서、～어서の活用	動詞の活用:過去連体形の～(으)ㄴ、現在連体形～는、～未来連体形～(으)ㄹの活用と 先行動作の～아서、～어서の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第13回	動詞の活用:過去の経験の表現～(으)ㄴ 적이 있어요/없어요と予定・計画の～(으)ㄹ 거예요の活用	動詞の活用:過去の経験の表現～(으)ㄴ 적이 있어요/없어요と予定・計画の表現～(으)ㄹ 거예요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第14回	名詞の連体形～(이)ㄴと形容詞の連体形～(으)ㄴの活用	名詞の連体形～(이)ㄴと形容詞の連体形～(으)ㄴの活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第15回	～けれども、～ですが、～ますがの～(이)ㄴ데、～(으)ㄴ데、～는데の活用	～けれども、～ですが、～ますがの～(이)ㄴ데、～(으)ㄴ데、～는데の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中に小テストの実施、また課題提出や発表などの参加度を総合的に評価する。
その他	0	

教科書

『できる韓国語 初級 Ⅱ(新装版)』/ 李志暎 / アスク

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　言語プロフェッショナル科目						
科目名	朝鮮語Ⅳ					ナンバリング	4674
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	朴　權浩						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界を繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。4年次前期の初級後期レベルの科目「朝鮮語Ⅲ」の発展科目である。

授業の概要

この授業は、「朝鮮語Ⅲ」で学んだ朝鮮語初級後期レベルの基礎定着をはかるとともに、中級レベルの4技能を総合的に学修する。朝鮮語の中級レベルの学習項目の定着・発展練習として、韓国のポップカルチャーを教材に、ある程度まとまった文章や会話文を読んで中級表現語彙を増やしながら相手や場面、目的に合わせた会話力を養う。また、読解練習では、教材に用いたテーマに関連した動画などの視聴覚教材でリスニングや発話練習をし、朝鮮語での依頼や断り、勧誘など機能別に運用できるようになることを目指す。

到達目標

朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ初級レベルの基礎文法の定着、さらに応用できる。
また多様な場面での練習を通じて状況に応じた日常の会話が使用できる。
ハングル能力試験4～5級合格程度の会話が使用できる。

授業の方法

授業は、学生1人ひとりの学習レベルと状況にあわせた実践の会話練習を板書、また視聴覚メディアなどを使用しながら全員が積極的にまた楽しく朝鮮語を学んでいくことができるように指導する。また、韓国の多様な文化や韓国人の日常の生活などを紹介するハンドアウトや動画を教材に、リスニング練習なども積極的に指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出方法、フィードバック方法については、授業開始時に具体的に提示する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	用言の不規則活用：ㅂ不規則活用と 理由：～(으)니까の活用。	ㅂ不規則活用と 理由：～(으)니까の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第2回	用言の不規則活用：ㄷ不規則活用と 義務の表現～しなければならない：～ 아/어야 되다の活用。	用言の不規則活用：ㄷ不規則活用と 義務の表現～しなければならない：～ 아/어야 되다の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第3回	用言の不規則活用：ㅅ不規則活用と ～ためにの表現：名詞＋때문에・用言＋～기 때문에の活用。	用言の不規則活用：ㅅ不規則活用と ～ためにの表現：名詞＋때문에・用言＋～기 때문에の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第4回	用言の不規則活用:ㄹ不規則活用と ～するじゃないですかの表現:～잖아요の活用。	用言の不規則活用:ㄹ不規則活用と ～するじゃないですかの表現:～잖아요の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第5回	用言の不規則活用:ㅎ不規則活用と ～してみるの表現:～아/어 보다の活用。	用言の不規則活用:ㅎ不規則活用と ～してみるの表現:～아/어 보다の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第6回	用言の不規則活用:ㄹ不規則活用と 意志・約束・決意の表現:～(으)ㄹ게요の活用。	用言の不規則活用:ㄹ不規則活用と 意志・約束・決意の表現:～(으)ㄹ게요の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第7回	完了状態の継続の表現:～아/어 있다と ～しないでくださいと～しないでの表現:～지 마세요/～말고の活用。	完了状態の継続の表現:～아/어 있다と ～しないでくださいと～しないでの表現:～지 마세요/～말고の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第8回	～そうだと～と思うの表現の活用 :動詞の～(으)ㄴ/는/(으)ㄹ 것 같다 :形容詞の～(으)ㄴ/(으)ㄹ 것 같다 :名詞の～인/일 것 같다の活用。	～そうだと～と思うの表現の活用 :動詞の～(으)ㄴ/는/(으)ㄹ 것 같다 :形容詞の～(으)ㄴ/(으)ㄹ 것 같다 :名詞の～인/일 것 같다の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第9回	～する前にと～した後の表現:～기 전에/～(으)ㄴ 후에/～(으)ㄴ 다음에の活用。	～する前にと～した後の表現:～기 전에/～(으)ㄴ 후에/～(으)ㄴ 다음에の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第10回	～する方だの表現：～ 는/(은) 편이다の活用と ～く・～に・～するようにの表現：～게の活用。	～する方だの表現：～ 는/(은) 편이다の活用と ～く・～に・～するようにの表現：～게の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第11回	時間の経過を表す～てから～経つの表現：～(으)ㄴ 지～되다の活用と ～しようと思うの表現：～(으)려고 하다の活用。	時間の経過を表す～てから～経つの表現：～(으)ㄴ 지～되다の活用と ～しようと思うの表現：～(으)려고 하다の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第12回	～すること・～さの表現：～기の活用と ～しやすい・～しにくいの表現：～기 쉽다・～기 어렵다の活用。	～すること・～さの表現：～기の活用と ～しやすい・～しにくいの表現：～기 쉽다・～기 어렵다の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		

第13回	～でしょう・～でしょうねの表現：～겠어요・～겠네요の活用と ～するとき・～した時の表現：～(으)ㄹ 때・～았/었을 때の活用。	～でしょう・～でしょうねの表現：～겠네요・～겠네요の活用と ～するとき・～した時の表現：～(으)ㄹ 때・～았/었을 때の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第14回	～してあげる・～してくれる：～아/어 주다と ～してさしあげる：～아/어 드리다と ～してくださる：～아/어 주시다の活用。	～してあげる・～してくれる：～아/어 주다と ～してさしあげる：～아/어 드리다と ～してくださる：～아/어 주시다の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
第15回	意志の表現～しますの～(으)ㄹ래요と 願望の表現～たらよいですねの았/었으면 좋겠어요の活用。	意志の表現～しますの～(으)ㄹ래요と 願望の表現～たらよいですねの았/었으면 좋겠어요の活用を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴　權浩		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中に小テストの実施、また課題提出や発表などの参加度を総合的に評価する。
その他	0	

教科書

『できる韓国語 初級 Ⅱ(新装版)』/ 李志暎暎 / アスク

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	コミュニケーション学概論					ナンバリング	1700
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業では、世界の人々と協働していける異文化コミュニケーション能力を養成していくための（思考・判断・表現）基礎科目となる。日本語話者と英語話者のコミュニケーションストラテジーの違いを知り（知識・技能）、その表現方法を分析していくことで（思考・判断・表現）、多様な言語話者と共生していく姿勢を築いていく（関心・意欲・態度）。
「コミュニケーション技法」と連動し、2年次以降の「国際コミュニケーション論」「異文化コミュニケーション論」だけでなく、キャリア科目にもつながる第一歩となる科目である。

授業の概要

コミュニケーション学の入門として、コミュニケーションにかかわる専門用語や基礎理論を講義形式で進める。学生は事前課題を行った上で受講し、それらに関する事柄についての発表をしたり、問題解決の方法をディスカッションしたりして、自己のコミュニケーションストラテジーを客観的に見ていく。

到達目標

1. 異なる言語文化の人々と、積極的に交流を持とうとする姿勢になる。
2. 大事なことは、ことばを省略せずに丁寧に伝えることが常に意識できるようになる。
3. 自分のコミュニケーションスタイルをモニターできる。

授業の方法

授業は、講義だけでなく授業内容と関連するコミュニケーション事項について、グループまたはペアの発表や、ワークショップやシミュレーションゲームを行う。これらは「振り返り」活動を重視する。

ICT活用

Google Classroomを活用し、授業資料の配信や課題の提示、評価を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題はすべて次回の授業時までに個別にコメントを添えて返却し、クラスで各課題ごとに全体講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション コミュニケーションのしくみ	多数の「コミュニケーション」の定義から、もっともよいと思う定義を3つ選んでおく(90分)	コミュニケーションのしくみをまとめておく(90分)。
担当教員			
第2回	コミュニケーションの記号と解釈 ノイズの存在とミスコミュニケーション	自身のミスコミュニケーション事例を描写しておく(90分)	ミスコミュニケーションの記号解釈・描写を修正しておく(90分)
担当教員			
第3回	非言語コミュニケーションの意味と解釈 表情やしぐさだけでなく、対人距離、音声やにおい、装飾品の表出型を概観する。	意味は異なるが類似した非言語コミュニケーション10例をまとめておく(90分)	パラ言語の種類をまとめておく(90分)
担当教員			

第4回	日本人の非言語コミュニケーション 学生は外国人が誤解しがちな日本人の非言語メッセージ例を発表する。	ネットで、日本人ならではの非言語行動を30以上集めておく(90分)	日本人が海外で誤解されやすい非言語行動を確認しておく(90分)
担当教員			
第5回	ウチとソトのコードスイッチング ウチ・ソト・セケンの談話構造	一日で対話した人とその会話の一部を記録しておく(90分)	コードスイッチングの機能をまとめておく(90分)
担当教員			
第6回	マイクロアグレッションとことば狩り 意図しないことばのコミュニケーションブレーク	自分がこれまでに傷ついたことばを3つ以上探しておく(90分)	ことばのTPOとそのタブー理由を確認しておく(90分)
担当教員			

第7回	高コンテキスト文化と低コンテキスト文化のコミュニケーション 高／低コンテキスト会話を作成し、その談話パターンを確認する。	課題シートに会話文を書いておくこと(90分)	低コンテキスト文化の会話を作成し、提出する(90分)
担当教員			
第8回	きくコミュニケーション 「聴く」とはどのような行為か	サイトで「きき上手」「傾聴」の意味を調べておく(90分)	自分の対人関係におけるきき方をふりかえっておく(90分)
担当教員			
第9回	多文化共生社会におけるろう文化 ゲスト講師により、手話文化を学ぶ。	動画で日本語手話を見て、手話であいさつ表現ができるようにしておく(90分)	50音声表と手話対応を覚える(90分)
担当教員			

第10回	少数派言語文化と多数派言語文化のコミュニケーション 言語権利	国内の多言語情報で発信しているサイトを調べておく(90分)	国内の外国人児童・ろう児への言語教育環境を調べておく(90分)
担当教員			
第11回	手話を学ぼう ゲスト講師による、日本語の手話入門	災害時など緊急時に必要な情報告知例を調べておく(90分)	手話で避難所生活の最小限の情報が案内できるようにする(90分)
担当教員			
第12回	手話で伝えること ろう者との交流からコミュニケーションを考える	これまでの手話の復習をしておく(90分)	手話で飲食・宿泊客に接客できるようにする(90分)
担当教員			

第13回	手話確認テストと復習 言語サービスの現在	手話の復習をして、表現を増やしておく(90分)	指文字を再度確認しておく(90分)
担当教員			
第14回	地域社会における共生としての言語保障 北海道における少数言語話者と言語権	北海道と恵庭市の外国人居住者数の動向を調べておく(90分)	母語話者どうしのコミュニケーションの利点をまとめておく(90分)
担当教員			
第15回	「復習テスト」とまとめ	これまでの復習(120分)	確認テストの修正提出(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト・復習テスト60％、課題提出20％、発表20％
その他	0	

教科書

プリントを配布／配信する。

参考文献

『異文化コミュニケーション・トレーニング―「異」と共に成長する』山本志都ほか、三修社。『コミュニケーション学 その展望と未来 増補版』末田清子ほか、松柏社、等、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	国際コミュニケーション論					ナンバリング	2702
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力を身につける（思考・判断・表現）ために、主として移民の社会統合を考えて行く。伝統的な移民受入れ国の社会背景や日本の現状を、適切な情報収集によって理解する。移民受入れ国の課題は、文化差とことばの壁が大きい。言語習得が難しいとされる言語間の構造等の違いを学び（知識・技能）、多様な価値観の人々との共生を目指して、自己の異文化コミュニケーション能力（思考・判断・表現）を養成する。本授業は世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて行動できる国際感覚（関心・意欲・態度）を身につけるための「国際・異文化コミュニケーション科目」群の1科目である。「国際コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」と併せて履修し、3年次の「異文化コミュニケーション論」へつなげていく。

授業の概要

この授業では、1年次に学んだ「コミュニケーション学概論」を基盤として多岐分野にわたる国際コミュニケーション学をメディア社会の共生と連携から考察していく。国家と国家の情報の入手・開示の仕方と世論操作・イメージ形成の問題を、メディアコミュニケーション理論を中心に概説する。世界の国々は、どんな大国であってもすべてを自給自足することは難しく互いに依存し合いながら発展している。相互依存は、単に経済面だけではなく、政治、文化、その他の面でも世界は一つの有機体として結びついている。このような国際関係の下、国家レベルの接触・交流機会の増加とともに、その適切な情報分析が必要不可欠となっている。ここでは、現代の日本の外交からヒト・モノ・カネ・コトがどのような情報で人々のイメージや経済・文化交流意識を作り上げているのかを見ていく。

到達目標

1. 日本の外国人受入れ政策の現状とその概要が説明できる。
2. 日本の多文化共生社会への実現に何が問題かを述べることができる。
3. 外国・外国人とコミュニケーションするために、自国・自文化について説明できる。

授業の方法

授業は資料配付やパワーポイントによる講義形式と、学生のグループワークによる調査とプレゼンテーションを行う。（全3回）
プレゼンテーション後にはグループディスカッションを行い、各グループで内容をまとめて発表し、全体で共有する。

ICT活用

学生のプレゼンテーション（パワーポイントを使用）における参考資料や引用は、著作権やファクトチェック等に留意させる。課題や資料配付、質問はGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は、次回の授業時までに個別にコメントを添えて返却し、授業内で全体の講評をする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 「国際コミュニケーション」とは何か	国際コミュニケーションとは何かをウェブサイトで検索しておく(90分)	国際コミュニケーションのいろいろな定義をまとめておく(90分)
担当教員			
第2回	世界の移民人口 「移動の時代」の外国人労働力	世界の人口問題について最新の情報を収集しておくこと(90分)	難民も含めた移民受入れの動向をEU加盟国のサイト等で確認しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	世界の移民政策 多文化主義と同化主義	多文化主義とは何か、調べておく(90分)	多文化主義、同化主義の弊害を確認しておく(90分)
担当教員			

第4回	日本の労働力人口 深刻な労働力不足と外国人労働者	日本の総人口の推移、外国人構成比、留学生数等の身分割合を調べておく(90分)	日本の労働力不足の産業分野における外国人受入れ環境を調べておく(90分)
担当教員			
第5回	多文化共生社会の実現 移民の社会統合課題から何を学ぶか	外国人居住者の多い地域社会の問題点をサイトで調べておく(90分)	英語話者国の移民受入れ史とその政策について確認しておく(90分)
担当教員			
第6回	ことばの壁 英語母語話者から見た外国語の難易度を踏まえ、日本語学習者にとっての日本語の難しさをディスカッションし、やさしい日本語はリンガフランカになれるかを考える。	「やさしい日本」のつくり方を復習し、2つ以上の地方自治体の多言語サイトで、「やさしい日本語」文を比較しておく(90分)	日本語はどこが難しいのかをまとめておく(90分)
担当教員			

第7回	多文化共生社会の実現に向かって 地方自治体と企業の取り組み事例	文化庁「外国人生活者のための日本語」、厚労省「外国人とのコミュニケーション」サイトを見ておく（90分）	「やさしい日本語」で、公共表示や情報を書き直す（90分）
担当教員			
第8回	多言語情報の壁 日本における多言語情報媒体と情報格差	政令都市の多言語情報や災害時の「やさしい日本語」サイトを比較チェックしておく（90分）	NHK Web「やさしいことばニュース」や西日本新聞の「やさしい日本語」ニュースを読んで、書き換え方法を復習しておく（90分）
担当教員			
第9回	「やさしい日本語」と「プレイン・イングリッシュ」 「やさしい日本語」の運用と在留外国人とのコミュニケーションのあり方を演習を通して考えていく。	やさしい日本語研究会ほか、東京都等の「やさしい日本語」の言い換え案内サイトを見ておくこと（90分）	「やさしい日本語」の基礎知識を復習し、新語が言い換えができるようにしておく（90分）
担当教員			

第10回	確認テスト 「やさしい日本語」の基礎知識と運用	「やさしい日本語」の書き換え方法を各種サイト、または市販の書籍で確認しておく(90分)	クレア「やさしい日本語」等、各自治体サイトのやさしい日本語の表現方法ポイントと用例を確認しておく(90分)
担当教員			
第11回	日本の社会事情Ⅰ 学生のプレゼンテーション：人口減少社会に突入した日本の労働力不足と外国人労働者受入れ	日本の外国人材受入れの現状と課題について、人手不足産業分野に関するプレゼン準備(150分)	SDGsと日本の共生社会づくりについてをまとめておく(30分)
担当教員			
第12回	日本の社会事情Ⅱ 学生のプレゼンテーション：日本が海外から影響を受けている大衆文化と、世界に発信していくべき大衆文化	プレゼン準備(120分)	プレゼン後のディスカッションをレポートにする(60分)
担当教員			

第13回	日本の難民受入れと法整備 日本の外国人労働者受入れの歴史と日本人の労働移民史	日本で暮らす外国人が困難に感じていることを調べておく。(90分)	日本の難民受入れと、世界の難民受入れ国の動向についてのデータを集めておく。(90分)
担当教員			
第14回	国際コミュニケーションにおけるコンフリクト グループで世界の紛争地図をつくる	現在の紛争をネットで調べておく(90分)	各対立の要因をまとめておく(90分)
担当教員			
第15回	確認テストとまとめ	これまでの授業を復習しておく(120分)	確認テストの誤答には補足説明を記して再提出する(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼン、ディスカッション等を含めた授業参加度60%、課題20%、確認テスト20%。
その他	0	

教科書

講義プリントを配布する。

参考文献

国連ホームページから最新の「International Migration」報告書、文化庁サイトの「日本語教育」施策、出入国在留管理庁「在留外国人統計」ほか、授業で適切な情報アクセスサイトや書籍を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	国際コミュニケーション演習Ⅰ					ナンバリング	2704
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

この科目での学習を通して学術目的の言語使用に主眼をおいた英語の高度な運用能力を身につけることが期待される。

授業の概要

この授業は、国際コミュニケーションにおける言語と異文化コミュニケーションについて演習を通じてその理解を深化させる科目である。したがって、授業での達成目標は、「外国語の実践的運用」と「自分の文脈での異文化理解」を掲げる。授業では、外国人留学生と日本人学生が混在する協働学習を軸とし、教員から提示される時事問題(SDGsを参照とする)についてグループで意見を集約し、2回のプレゼンテーションを行う。なお一回目のプレゼンテーションの使用言語は英語、二回目は日本語とするが、作業過程での使用言語は問わないことで複言語環境に慣れることを目指す。このことで、本学科で提供される外国語とそのコミュニケーション関連科目等の有機的な連携を実現し、異文化理解とはどのようなものなのか、グループ内で起こるコンフリクトを自分の文脈で理解できるようになる。

到達目標

After completing this course, students will be able to:
1. Better understand the communication process.
2. Negotiate meaning through both language and recasting.
3. Use English in meaningful ways to explain processes and accomplish a goal.

授業の方法

We will be using three different types of games: cooperative, competitive and pair games. Thus, students will be divided into groups where they will keep a journal to record information, such as vocabulary, the back story and rules about the game. Once the students understand their games, they will present their game to students from other groups, write a summary of the game, take a quiz about the game and also present the game to the teacher.

ICT活用

Students will use Google Classroom to access class information and to receive directions regarding the class.

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive immediate feedback from other students and the teacher during their group work in class. They will also have individual feedback regarding quizzes, summaries and presentations to the teacher.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Orientation to the class and what PBL is.	Think of games that you enjoy playing and write down how you would explain this to someone. (90分)	Learn what PBL is and how we will use this with games. Understand the syllabus and expectations. (90 分)
担当教員			
第2回	Cooperative Games - Learning the basics - Flash Point - Castle Panic - Magic Maze - Forbidden Island	Do a Google search to understand what cooperative games are. Write a brief description of a cooperative game. Give an example. (90分)	Check understanding of PBL and Cooperative Games. Get into group assignments and decide on the game for each group. Begin going over the rules. Enter information into journals. (90 分)
担当教員			
第3回	Cooperative Games - Understanding your game.	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Set up games and begin play. (90 分)
担当教員			

第4回	Cooperative Games - Teach your game to others.	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90 分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90 分)
担当教員			
第5回	Cooperative Games - Demonstrating knowledge	Review journal and summary. Compare with other group members and revise accordingly. Prepare for quiz. (90 分)	Take a quiz on the game contents. Continue teaching your game and learning about other group members' games. (90 分)
担当教員			
第6回	Cooperative Games – Test of English and Game knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			

第7回	Competitive Games - Learning the basics - Ticket to Ride - Broom Service - Niagara - Stella Dixit	Do a Google search to understand what competitive games are. Write a brief description of a competitive game. Give an example. (90分)	Get into group assignments and decide on the game for each group. Begin going over the rules. Enter information into journals. (90 分)
担当教員			
第8回	Competitive Games - Understanding your game	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Set up games and begin play. (90 分)
担当教員			
第9回	Competitive Games - Teaching your game to others	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90 分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90 分)
担当教員			

第10回	Competitive Games - Demonstrate knowledge	Review journal and summary. Compare with other group members and revise accordingly. Prepare for quiz. (90 分)	Take a quiz on the game contents. Continue teaching your game and learning about other group members' games. (90 分)
担当教員			
第11回	Competitive Games - Test of English and Game Knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			
第12回	Pair Games - Understanding the Game - Battle Lines - Hive - Herbaceous - Truffle Shuffle - Jaipur	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Review the instructions. Set up games and begin play. (90 分)
担当教員			

第13回	Pair Games - Teaching Your Game to Others	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90 分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90 分)
担当教員			
第14回	Pair Games – Test of English and Game Knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			
第15回	Comprehensive Test/ Class Questionnaire	Review the three game types and specific points. (90 分)	Take the test. (90 分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	該当しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	25% Quiz of each type of game 25% Written summary of the game 25% Presentation of the game 25% Participation in the class discussions
その他	0	該当しない

教科書

All of the games will be provide by the teacher. Handouts will also be distributed in the class.

参考文献

Reference materials will be introduced in the class.

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	国際コミュニケーション演習Ⅱ					ナンバリング	2705
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

この科目での学習を通して学術目的の言語使用に主眼をおいた英語の高度な運用能力を身につけることが期待される。

授業の概要

この授業は、国際コミュケーション演習Ⅰで学んだ「外国語の実践的運用」と「自分の文脈での異文化理解」をもとに学外機関との連携授業にて適切な解を提示する科目である。したがって、授業での達成目標は、「協働学習で問題解決を検討し、適切にソリューションを提示し社会実装まで到達する」こととする。
当該授業では、学外機関が現在直面している課題とそれに係る諸条件（状況、必要経費等）を受け取り、その課題に対して「国際コミュニケーション演習Ⅰ」で学んだスキルをもとに、文献調査、定性的・定量的調査を外国人と日本人学生との混在グループで行い、学外機関へのソリューションの提案を行う。採用されたアイディアは、実際に実施してもらうこととし、学生が運営・実施に携わる。なお、学外機関は、恵庭市の企業や機関とすることで、学生によるアウトリーチ活動での地域貢献を果たす。
国際コミュニケーション演習Ⅰでの教室内での練習と当該授業による実社会への実装を多様な社会背景を持つグループで体験することで、本学が目指す「国際コミュニケーション力」の涵養を総合的に目指す。

到達目標

Upon completing this course, students will be able to:
1. Make presentations that incorporate the language and content knowledge of a particular game adequately so others who have not played the game before can complete the game.
2. Negotiate meaning through both questioning and recasting.
3. Use English in meaningful ways to explain processes and accomplish goals.

授業の方法

Students will expand upon what they learned in the first semester by introducing new games: cooperative, competitive and pair games in the three separate categories. Students will work in groups keeping a journal to record information, such as vocabulary, the back story and rules about the game. Once the students understand their games, they will present their game to students from other groups, write a summary of the game, take a quiz about the game and also present the game to the teacher. Therefore, students will be incorporating all four skills (speaking, listening, reading, and writing).

ICT活用

Students will use Google Classroom to access class information and any announcement the teacher makes. They can also access YouTube videos on how best to play the games.

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive immediate feedback from other students and the teacher during their group work in class. They will also have individual feedback regarding quizzes, summaries and presentations to the teacher.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Orientation to the class	Students will work in groups to explain the different types of games to orient students not in the first semester class. (90分)	Explain why the class is designed this way and how Problem Based Learning helps students to learning and practice language more. Understand the syllabus and expectations. (90 分)
担当教員			
第2回	Cooperative Games - - Unlock 1 - Unlock 2 - Unlock 3 - Mysterium - Horrified - Back to the Future	Do a Google search of cooperative games. Write and explanation of what they are. Write a brief description of a cooperative game you have played before. Give an example. (90分)	Check understanding of PBL and Cooperative Games. Get into group assignments and decide on the game for each group. Begin going over the rules. Enter information into journals. (90 分)
担当教員			
第3回	Cooperative Games - Understanding your game	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90 分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Set up games and begin play. (90 分)
担当教員			

第4回	Cooperative Games - Teaching your game to others	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90 分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90 分)
担当教員			
第5回	Cooperative Games - Demonstrating knowledge	Review journal and summary. Compare with other group members and revise accordingly. Prepare for quiz. (90 分)	Take a quiz on the game contents. Continue teaching your game and learning about other group members' games. (90 分)
担当教員			
第6回	Cooperative Games – Test of English and Game knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			

第7回	Competitive Games - Learning the basics - Splendor - Niagara - Tiny Towns - Magic Maze - King of Tokyo - Ticket to Ride	Do a Google search to understand competitive games. Write a brief description of a competitive game. Give an example. (90分)	Get into group assignments and decide on the game for each group. Begin going over the rules. Enter information into journals. (90 分)
担当教員			
第8回	Competitive Games - Understanding your game	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Set up games and begin play. (90 分)
担当教員			
第9回	Competitive Games - Teaching your game to others	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90 分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90 分)
担当教員			

第10回	Competitive Games - Demonstrate knowledge	Review journal and summary. Compare with other group members and revise accordingly. Prepare for quiz. (90 分)	Take a quiz on the game contents. Continue teaching your game and learning about other group members' games. (90 分)
担当教員			
第11回	Competitive Games - Test of English and Game Knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			
第12回	Pair Games - Understanding the Game - Battle Lines - Hive - Cribbage - Battle Lines - Hive - Truffle Shuffle - Azul - Jaipur	Watch YouTube tutorial on how the game is played. Review vocabulary that is new to you. (90 分)	Share what you learned about the game with group members. Make notes in journal. Review the instructions. Set up games and begin play. (90 分)
担当教員			

第13回	Pair Games - Teaching Your Game to Others	Write a summary of the game to be handed in for grading. (90 分)	Play the game again to make sure you have a clear understanding of how it is played and the rules. Get into new groups and teach your game to others and learn about other games. (90 分)
担当教員			
第14回	Pair Games – Test of English and Game Knowledge	Review notes and summary. Watch the game being played on YouTube. (90 分)	With a partner, explain the game to the teacher. You will be graded on game knowledge and the English you used to explain. (90 分)
担当教員			
第15回	Comprehensive Test/ Class Questionnaire	Review the three game types and specific points. (90 分)	Take the test. (90 分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Quizzes over each type of game (25%) Presentation of the game (25%) Written Summaries (25%) Participation in class activities (25%)
その他	0	該当なし

教科書

All of the games and handouts will be supplied by the teacher in class.

参考文献

Reference materials will be introduced in the class.

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	English for Tourism Hospitality					ナンバリング	1720
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、および世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、およびそれらを活用する技能を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、日常場面から接客の場面において訪日外国人に対応する際の英語による会話能力の向上を目的とする。授業では、想定される「おもてなし」の場面のロールプレイなどの言語活動を通して、英語能力の向上を図るほか、海外にはない日本の「おもてなし」とはどのようなものなのかを理解することを最終目標とする。

到達目標

この授業は、海外からの観光客を相手にした日本のサービス業に参加するための準備のためのものである。観光業に関連した幅広い実践的な場面で、自然に英語でコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。

授業の方法

Text analysis, vocabulary building, group discussions, and dialogue preparation and practice will be the main components of this course.

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material.

実務経験のある教員の教育内容

none

課題に対するフィードバックの方法

Answers to vocabulary tests will be given after the tests have been completed and individual and class feedback will be provided on the midterm writing assignment and group dialogues.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースのテーマや目標を知り、シラバスを確認し、オリエンテーションを行う。	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	交通機関に関する重要な語彙を学習する。また、パートナーとの対話を練習する。ホテルのチェックインカウンターに関する重要語彙を学習する。	Study the course content for week 2 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	チェックインに関する会話やアクティビティを練習し、部屋のタイプや、インターネットやシャトルバスの利用、朝食やルームサービスの案内などのサービスの説明に重点を置く。ホテルの主要な施設やサービスに関連した重要な語彙を習得する。	Study the course content for week 3 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	宿泊客からの様々な施設やサービスに関する質問を聞き取り、効果的に対応する能力を身につける。メニューやガイドを理解し、その内容を相手に伝えることができるようになる。日本語に訳さずに英語で直接説明する方法を頭の中で考える。指示に関連した重要な語彙を学習する。	Study the course content for week 4 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	ダイアログを使って、様々な場面での道案内を練習する。また、観光地の情報を理解し、相手に伝えることができるようになる。旅行を勧める際に必要な語彙を身につける。	Study the course content for week 5 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	本を読んで観光地の情報を吸収し、対話をして観光客へのアドバイスできる力を養う。食事に関連した語彙を勉強し、料理の勧め方を練習します。	Study the course content for week 6 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第7回	料理の英語名を知っているだけでなく、その料理がどんなもので、どのように調理されているのかを説明できるようになる。ヴィーガンとベジタリアンの違い、コーシャやオーガニックフードなどのカテゴリーなど、レストランで使われる重要な用語を理解する。日本での食事に必要な語彙を調べ、パートナーとの会話の中でその語彙を練習する。	Study the course content for week 7 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	前半の復習と中間テストを行う。	Review the content for the first half of the course and prepare for the midterm test and group dialogue. 90分	Reflect on the test and group dialogue. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第9回	日本の一般的な米料理やおやつについて学び、自然な会話の中でそれらの料理について話す練習をする。ツアーを手配する際に必要な単語を覚える。ツアーのスケジュールや電車やホテルの情報を調べ、それらのスケジュールやパッケージについて話す練習をする。	Study the course content for week 9 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第10回	旅館に泊まる際に必要な語彙を中心に学習する。旅館の特徴やルール、マナーなどを探り、相手に自然に説明できるように練習する。日本の文化を説明するのに役立つ語彙について考える。	Study the course content for week 10 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	日本文化の体験談を英語で読み、海外からのお客さんにお祭りやショー、イベントなどを勧めるロールプレイの練習をする。	Study the course content for week 11 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	日本文化体験に関連した会話の練習を通して、日本のお土産の種類に関連した重要な語彙に慣れる。また、英語で説明する練習をした上で、海外からの観光客からのお土産や購入先についての質問に答える力を養う。	Study the course content for week 12 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	健康上の問題や緊急時に対応するための重要な語彙を中心に学習する。様々な症状や予期せぬ事態についての話し方を学び、健康に問題を抱えた人を効果的に助けたり、緊急時に人に指示を出したりするための対話の練習をする。	Study the course content for week 13 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	苦情やアクシデントに関する語彙を覚える。宿泊客が自分の部屋やホテルのサービス、紛失物などについての様々な心配事を調べ、そのような状況にどのように対応するかに焦点を当てたダイアログを練習する。	Study the course content for week 14 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	講義の振り返りを行う。また、確認のための授業内試験を行う。	Review the content of the course and prepare for the final test and group dialogue. 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	contribution: 10%, group dialogue: 20%, first test: 35%, second test: 35%
その他	0	

教科書

Hospitality on the Scene by Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Matsushima, Takehiro Kozue, and Jacob Schere. Publisher: Kinseido. ISBN: 978-4-7647-4067-9.

参考文献

大修館書店; Taishukan's Genius English - Japanese Dictionary, 第5 edition

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	観光中国語					ナンバリング	2740
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	大沼　尚子						

授業の位置づけ

本授業の目標は1年次に習得した中国語能力をさらに伸ばし、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能の向上を図ることにある。ただし、学習者それぞれのニーズは自ずと異なることから、授業では最低限度必要な知識を教え、今後学生が自分で目標を立てて中国語能力を高めていけるための基礎訓練に力を入れている。また学生個々のニーズによって自主的に学習目標を立ててくれることを期待している。広い視野を持ち，深い知識と技能を修得し，観光ビジネスの現場で実践的に使うことができる。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけ、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟性で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。

授業の概要

観光に必要な様々な中国語表現を学び、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。また、観光中国語の様々な特徴や、発話・リスニングの際のコツを指導する。観光分野に関する様々な中国語語彙,表現を身につけて,基本的な接遇ができるようになる。

到達目標

観光の現場では，日常会話のみならず，特定の用語や表現等の理解することができる。
本科目では，日常会話力の向上と観光現場で必要となる用語・表現等の修得することができる。
空港やホテルなどの海外旅行で接する会話場面を想定し，旅行者としてまた観光業従事者として必要となる表現をできるようになる。

授業の方法

毎回必ず出席をとり、授業時に毎回何名かの学生に発音させたり、練習問題を書かせたりする。さらに各1~2 回の授業で1課を終える進度でテキストを学んでいく。たまには中国に関するビデオを見せます。小テストも行う。詳しいことはガイダンスの時に説明する。
予習:テキスト付属のCDを聞いてくる。教科書を読んでみて分らない単語を調べていく。説明が載っている文法 の部分を読んでいく。 復習:その日の授業で習ったところの意味をよく考えながら音読しよう。ノートを見直そう。また、先生に積極的 に質問していこう。小テストや定期考査前には、再度、復習する必要があるので取り組もう。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前また後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	習っていた中国語の文法を復習する	観光中国語について知っていることを調べること(90分)	第一課の予習。(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第2回	第一課 旅行の計画 (1)“都”について (2)兼語文	第1課の単語を調べると文法をじっくり読む(90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第3回	第二課 航空券を予約する (1)前置詞“把” (2)動詞＋“一下”	第2課の単語を調べると文法をじっくり読む(90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員	大沼　尚子		

第4回	第1・2課の復習	第1・2課の単語、文法とドリルを復習する(90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第5回	第三課 上海浦東空港にて (1)連用修飾語“地” (2)会～的	第3課の単語を調べると文法をじっくり読む(90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第6回	第四課 昆明飛行場の出口にて (1)アスペクト“着” (2)使役表現	第4課の単語を調べると文法をじっくり読む(90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員	大沼　尚子		

第7回	第1～4課の復習	第1～4課の単語、文法とドリルを復習する(90分)	第1～4課の復習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第8回	中間テスト及びまとめ	習った内容を総復習する(90分)	第6課の予習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第9回	第六課 乗り換え (1)呼応関係 (2)多＋形容詞、多＋動詞文	第6課の単語を調べると文法をじっくり読む(90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員	大沼　尚子		

第10回	第7課 買い物 (1)「才」+数量/時量 (2)「尽管～但是～」	第7課の単語を調べると文法をじっくり読む(90分)	第七課の単語と文法を復習する(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第11回	第六・七課の復習	第6・7課の単語、文法とドリルを復習する(90分)	第8課の復習
担当教員	大沼　尚子		
第12回	第八課 病気を見てもらう (1)「最好～」(2)「只要～就～」	第8課の単語を調べると文法をじっくり読む(90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員	大沼　尚子		

第13回	第十二課 中国観光客に偶然出会った (1) 程度補語 (2)「即使～也～」	第12課の単語を調べると文法をじっくり読む(90分)	音声を聴きながら復習すること(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第14回	口述試験及び復習	口述試験に関する会話の準備(90分)	後期習った内容の復習(90分)
担当教員	大沼　尚子		
第15回	総復習	第6～12課の復習(90分)	試験のまとめ(90分)
担当教員	大沼　尚子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点は40%(授業参加度10%、小テスト20%、口頭試験10%)、授業中に行う3回小テストなど(60%)
その他	0	

教科書

書名/「体感中国語」～初級からのステップアップ～、著者/奈良行博・大沼尚子など著、出版社/同学社

参考文献

Why？にこたえる初めての中国語の文法書／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社

履修条件・留意事項等

予習：テキスト付属のCDを聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。
復習：その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。

備考欄

出席と宿題を重視します。無断欠席は必ず減点要素になります。

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	ビジネス中国語					ナンバリング	3742
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	邢　玉芝						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。1年次科目「中国語入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、2年次科目「総合中国語Ⅰ・Ⅱ」などの実用発展科目である。

授業の概要

中国の急速な経済成長に伴い、世界における中国の地位も高まり、日中貿易は飛躍的な広がりをみせている。日本企業の中国への進出に伴い、貿易、ビジネスの場面で中国語を操ることができる人材が急速に求められている。この授業では、ビジネスの場面で必要となる用語の修得、ビジネスの場面で使われる公文書作成に必要な技能の修得、ビジネス会話に必要な技能の修得を念頭に、実際の場面を想定して講義を進める。講義修了時には、国際ビジネスの舞台で即戦力として役立つ技能を身につけることができるようにする。

到達目標

(1)正確で自然な発音ができる
(2)中級レベルの語彙と文法が理解できる
(3)中国語検定3級レベルに到達する
(4)貿易、ビジネスの場面での専門用語を操ることができる

授業の方法

教科書を中心に一回の授業で1課を進む。
授業の前半は会話本文と文法の説明をする。要点をまとめたプリントを配布する。
後半は学生の板書を添削する方法で練習問題の答え合わせをする。
履修者の理解度によって、講義の内容と授業の進捗状況を微調整する可能性がある。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中に確認する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1 ガイダンス:授業の進み方、評価の説明 第1課 三大産業の区分	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			
第2回	第2課 銀行サービスのご案内	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を完成させ指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			
第3回	第3課 不動産業界	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を完成させ指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			

第4回	第4課 会社業務の説明	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を完成させ指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第5回	第5課 パソコンの新製品	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第6回	第6課 理事会会議事録	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			

第7回	第7課 生産部門	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第8回	第8課 ソーシャルサイト	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			
第9回	第9課 物流業界	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。（90分）	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。（90分）
担当教員			

第10回	第10課 投資方法のご紹介	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			
第11回	第11課 経営管理の課題	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			
第12回	第12課 環境／再生利用	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			

第13回	第13課 労働契約の締結	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			
第14回	第14課 アフターサービスの方針	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			
第15回	第15課 会計と財務	音源のまねをして、本文と文法ポイントの例文を正確かつ流暢に読めるようにする。 練習問題にチャレンジしてみる。(90分)	習った内容を復習し、出された課題を解いて、指定期間中にクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題50％ 小テスト50％
その他	0	

教科書

『商経学部生のための読む中国語』大羽りん 趙青 白水社

参考文献

授業中に適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業開始から10分間ほど、小テストを行いますので、遅刻することのないように。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	エアポート中国語					ナンバリング	3744
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	邢　玉芝						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。1年次科目「中国語入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、2年次科目「総合中国語Ⅰ・Ⅱ」などの実用発展科目である。

授業の概要

日本と中国の交流が盛んになる中、エアポートにおける中国語を操る人材の必要度が年々高まっている。この授業では、エアポート勤務を想定し、この勤務をこなすために必要な専門的な中国語力を養成する。同時にエアポート勤務者として必要な基本的考え方や態度を養成する。中国語で書かれたエアポート勤務者として必要な基本フレーズに慣れ親しみ、これらに秘められた意味も理解した上で、中華圏の人々の様々な案内をすることを想定した中国語力を要請する。これらに加え、エアポート勤務に必要な基本的知識や、日本人としての「おもてなし」の態度なども養成する。

到達目標

(1) 中国語検定3級合格できる総合的な語学レベルに到達する
(2) 中華圏の観光客を相手に、エアポートの施設案内できる
(3) エアポート関連分野のお問い合わせに対応できる

授業の方法

①チケット購入から搭乗まで様々な場面に関連する語彙を習ったうえ、リスニング課題を解いて、クラスルームに提出する。
②リスニング課題の答え合わせをする。
③練習問題で語音、語彙、文法の面からトレニンーグする。
④二人一組で設定した場面のなかの役を実演する。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題を添削する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス ②『チケットの予約』に関する語彙と表現を学習する。	中国語で自己紹介も含む2分間スピーチを準備する。(90分)	学習した内容を復習して、リスニング課題を解いてクラスルームに提出する。 次回リスニング課題から出題する小テストをするので、真剣に取り込んでください。(90分)
担当教員			
第2回	『チケットの予約』 ①前回の学習内容の確認小テスト ②練習問題を解く ③ペアでロールプレイ	「練習問題」を事前に解いておく。(90分)	スタッフと客のやり取りを台本にまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	『チケットの払い戻しと変更』 ①小テスト ②リスニング課題の答え合わせ ③練習問題を解く(1)	リスニング課題を解いてクラスルームに提出する。 リスニング課題から出題する小テストをするので、真剣に取り込んでください。(90分)	習った内容を復習し、たくさん音読する(90分)
担当教員			

第4回	『チケットの払い戻しと変更』 ①練習問題を解く(2) ②ペアでロールプレイ	「練習問題」を事前に解いておく。(90分)	スタッフと客のやり取りを台本にまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	『荷物の重量オーバー』 ①小テスト ②リスニング課題の答え合わせ ③練習問題を解く(1)	リスニング課題を解いてクラスルームに提出する。 リスニング課題から出題する小テストをするので、真剣に取り込んでください。(90分)	習った内容を復習したくさん音読する(90分)
担当教員			
第6回	『荷物の重量オーバー』 ①練習問題を解く(2) ②ペアでロールプレイ	「練習問題」を事前に解いておく。(90分)	スタッフと客のやり取りを台本にまとめる。(90分)
担当教員			

第7回	『両替所案内』 ①小テスト ②リスニング課題の答え合わせ ③練習問題を解く(1)	リスニング課題を解いてクラスルームに提出する。 リスニング課題から出題する小テストをするので、真剣に取り込んでください。(90分)	習った内容を復習し、たくさん音読する(90分)
担当教員			
第8回	『両替所案内』 ①練習問題を解く(2) ②ペアでロールプレイ	「練習問題」を事前に解いておく。(90分)	スタッフと客のやり取りを台本にまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	『セキュリティーチェック』 ①小テスト ②リスニング課題の答え合わせ ③練習問題を解く(1)	リスニング課題を解いてクラスルームに提出する。 リスニング課題から出題する小テストをするので、真剣に取り込んでください。(90分)	習った内容を復習し、たくさん音読する(90分)
担当教員			

第10回	『セキュリティーチェック』 ①練習問題を解く(2) ②ペアでロールプレイ	「練習問題」を事前に解いておく。(90分)	スタッフと客のやり取りを台本にまとめる。(90分)
担当教員			
第11回	『フライトの遅れ』 ①小テスト ②リスニング課題の答え合わせ ③練習問題を解く(1)	リスニング課題を解いてクラスルームに提出する。 リスニング課題から出題する小テストをするので、真剣に取り込んでください。(90分)	習った内容を復習し、たくさん音読する(90分)
担当教員			
第12回	『フライトの遅れ』 ①練習問題を解く(2) ②ペアでロールプレイ	「練習問題」を事前に解いておく。(90分)	スタッフと客のやり取りを台本にまとめる。(90分)
担当教員			

第13回	『免税品販売』 ①小テスト ②リスニング課題の答え合わせ ③練習問題を解く(1)	リスニング課題を解いてクラスルームに提出する。 リスニング課題から出題する小テストをするので、真剣に取り込んでください。(90分)	習った内容を復習し、たくさん音読する(90分)
担当教員			
第14回	『免税品販売』 ①練習問題を解く(2) ②ペアでロールプレイ	「練習問題」を事前に解いておく。(90分)	スタッフと客のやり取りを台本にまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ、復習、発表	ペアで今まで学習した内容を取りれたスタッフと客のやり取りを10分ほど準備する。(90分)	発表したことを台本にしてクラスルームに提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を実施しません
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋ペアワーク(20%)＋小テスト(50%)
その他	0	

教科書

資料配布

参考文献

授業内で適宜指示する。

履修条件・留意事項等

「総合中国語Ⅱ」を終了することが望ましい

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	エアラインビジネス					ナンバリング	2724
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	牧野　正恵						

授業の位置づけ

航空業界の専門的な知識を学ぶことにより、観光・ビジネス業界などの関連性を理解し、実践に応用可能な幅広い教養を身に着けるための科目である。ディプロマポリシーのうち、世界と地域の観点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、世界各地域の活性化をつなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟性で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身に着ける科目である。

授業の概要

この授業は、将来、航空業界・旅行業界関係の仕事に就くことを目指す学生のための授業である。国際運輸の現状と課題を概観し、国内航空産業の現状を講義する。学生は、航空関係に資料を集め、これからの航空ビジネスはどうあるべきか、グループで調査し、発表していく。また、航空業界に共通する、おもてなしを表す非言語行動も合わせて演習していく。

到達目標

1. 航空業界の基礎知識・業務やサービスの多様化を理解し説明できる。
2. 航空機を利用した、国内・海外旅行に必要な情報を精査し、企画・立案できる。
3. 接客業に必要な接遇マナーを習得し実践できる。
4. 航空会社の企業研究・海外の観光地を調べ、旅行の企画をプレゼンテーションを実践することにより、就職活動に役立てることができる。″

授業の方法

1. 板書・プリント配布
2. 講義形式
3. グループディスカッション・プレゼンテーション
4. レポート提出

ICT活用

視覚メディア活用

実務経験のある教員の教育内容

航空業界・国際線客室乗務員

課題に対するフィードバックの方法

レポート・プレゼンテーションに対しコメントします

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	″オリエンテーション・・・授業の進め方・評価方法・受講時の注意点の説明 現在の航空業界の動向につてディスカッション″	講義を受講するにあたり、抱負と期待することを考えておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておく（90分）
担当教員			
第2回	″プレゼンテーションについての内容説明・グループ分け・スケジュール確認 ツアーコンダクターとして 海外旅行を企画・又はインバウンド向け日本国内旅行の企画・・・旅行先の国の選択・使用する航空会社の企業研究・航空運賃・その国の歴史・観光地・習慣の違いなど″	どこの国に旅行に行こうか企画立案を考えておくこと プレゼンテーションに必要な内容を調べPowerPointを使用し資料作成（90分）	プレゼンテーションの内容を復習しまとめておく（90分）
担当教員			
第3回	″航空機の歴史と変遷 仕組み・種類″	世界の航空機の種類と仕組みにつて調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておく（90分）
担当教員			

第4回	″接客接遇・就職面接に必要なマナーについて 第一印象の重要性・身だしなみ、・立ち居振る舞い・言葉遣いなど″	サービス業・就職試験時に必要なマナーとは何かを考えておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておく(90分)
担当教員			
第5回	″日本と海外の航空会社について・・・ 歴史・変遷・FSC・LCCとは 日本と世界の空港について″	FSC・ LCCの違いについて調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておく(90分)
担当教員			
第6回	″プレゼンテーション 旅行を企画・・・使用する航空会社の航空運賃・企業研究・その国の歴史・観光地・習慣の違いなど″ (グループ1・2の発表)	プレゼンテーションに必要な内容を調べPowerPointを使用し資料作成(90分)	授業内容を復習しまとめておく(90分)
担当教員			

第7回	″プレゼンテーション 旅行を企画・・・使用する航空会社の航空運賃・企業研究・その国の歴史・観光地・習慣の違いなど″ (グループ3．4の発表)	プレゼンテーションに必要な内容を調べPowerPointを使用し資料作成(90分)	授業内容を復習しまとめておく(90分)
担当教員			
第8回	″プレゼンテーション 旅行を企画・・・使用する航空会社の航空運賃・企業研究・その国の歴史・観光地・習慣の違いなど” (グループ5・6の発表)	プレゼンテーションに必要な内容を調べPowerPointを使用し資料作成(90分)	授業内容を復習しまとめておく(90分)
担当教員			
第9回	″プレゼンテーション 旅行を企画・・・使用する航空会社の航空運賃・企業研究・その国の歴史・観光地・習慣の違いなど″ (グループ7・8の発表)	プレゼンテーションに必要な内容を調べPowerPointを使用し資料作成(90分)	授業内容を復習しまとめておく(90分)
担当教員			

第10回	″航空業界にかかわる異業種Ⅰ 航空管制官（DVD鑑賞）″レポート提出	航空管制官の仕事とは何かを調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておく（90分）
担当教員			
第11回	航空業界にかかわる異業 税関管理官・検疫官・出入国管理官など″	税関検査・検疫・出入国検査について調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておく（90分）
担当教員			
第12回	″航空業界にかかわる異業種Ⅲ 機内食にかかわるケータリング（DVD鑑賞）″レポート提出	ケータリング業・機内食の違いについて調べておくこと（90分）	授業内容を復習しまとめておく（90分）
担当教員			

第13回	″航空会社の主要な職種 キャビンアテンダント・グランドスタッフについて″ 就職面接時の質問をグループディスカッション	キャビンアテンダント・グランドスタッフの仕事について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておく(90分)
担当教員			
第14回	航空業界に関わる異業種Ⅳ 羽田空港の世界一の清掃員のホスピタリティーについて(DVD鑑賞)・レポート提出	空港に関わるその他の職種について調べておく(90分)	授業内容を復習しまとめておく(90分)
担当教員			
第15回	航空機を出発させるために関わる航空会社の流れについて映画鑑賞し、レポート提出	航空業界の関わる業務内容について復習しておくこと(90分)	航空業界について学習した内容についてをまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(20%) グループディスカッション・レポート提出(30%) プレゼンテーション(50%)
その他	0	

教科書

授業時にプリント配布

参考文献

適宜指示

履修条件・留意事項等

″受け身ではなく、自ら学び自己を高める意識を持っていること。
航空業界・旅行業界に興味を持って授業に取り組めること。″

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	異文化接触論					ナンバリング	1780
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸　卓						

授業の位置づけ

世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている。（知識・技能）

授業の概要

この授業は、異文化接触とその適応を中心に学んでいく。受講者の興味関心がある国・地域、集団・組織等を想定し、その集団の宗教や信条、価値観、思考様式、規範などを調べ、そこで自分を失わずに適応していくには、どのような文化受容が求められるかを考えていく。異文化接触は外国に限らず、入学や転校、就職、結婚など人生の節目ごとに新たな集団文化への適応が求められる。適応には個人差があるものの、各人がマインドフルでレリジエントであるための方法を演習を通して学んでいく。

到達目標

The goal of the course is:
(1) Introduce students to the notion of intercultural contact.
(2) Develop students' abilities to understand and appreciate different ways of looking at the world.
(3) Improve students' awareness of their own culture by getting them to think about other cultures.

授業の方法

Text analysis, lectures, and group discussions will be the main components of this course.

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material.

実務経験のある教員の教育内容

none

課題に対するフィードバックの方法

Model answers to test questions will be given after the tests have been completed and feedback will be provided with a focus on questions the students found difficult.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Familiarize yourself with the course theme and goals and orientate yourself through a series of activities to the cultures of the target countries explored in these classes.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	Explore the relationship between language and different cultures and the challenges this creates for using dictionaries and trying to guess the meaning of unfamiliar words and concepts in a foreign language.	Study the course content for week 2 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	Examine the notions of culture shock and reverse culture shock and the situations where these are likely to be experienced. Read and listen to accounts of culture shock in a range of different countries. Discuss strategies for managing and overcoming the negative aspects of these experiences.	Study the course content for week 3 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	Explore different styles and ways of greeting and communicating through speech, body language, touch, and positioning. Discuss key differences between Japanese, Thai, Turkish, and British styles.	Study the course content for week 4 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	Investigate the notion of face and the importance of appearances and how some Western cultures respond to these elements. Discuss the case of traditional British society where elements of face appear to coexist in tension with other ways of managing relationships and presenting yourself to others.	Study the course content for week 5 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	Examine the connections and overlapping relationships between individualism, collective thinking, and national identity in different cultures with a particular focus on the United States, the United Kingdom, Japan, and Thailand.	Study the course content for week 6 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第7回	First part of the lesson: Student presentations related to topics covered so far in the course. Explore the importance of equality and hierarchy, formality and informality in different cultures and social contexts. Discuss why hierarchy and formality are so crucial in some cultures, such as Japan, while the principle of egalitarianism and the appearance of informality are so important in others, such as the United Kingdom and the United States.	Study the course content for week 7 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	Review the first half of the course and complete the midterm test.	Prepare by studying the vocabulary and main topics from the first half of the course. 90分	Reflect on the test and try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them.90分
担当教員			
第9回	Think about the difficult relationship between social harmony and critical thinking and examine different approaches to conflict and conflict resolution among different cultures. Discuss some case studies related to these aspects from various countries.	Study the course content for week 9 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第10回	Explore alternative approaches to education and language learning across different cultures and variations within a single culture in terms of the goal of studying, the relationship between education and morality, the role and status of the teacher, and how we should define a good or bad student and a good or bad lesson.	Study the course content for week 10 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	Think about different traditional and progressive cultural dimensions within society and apply them to varying attitudes and approaches to work and leisure time. Compare Japanese attitudes to attitudes in some European countries.	Study the course content for week 11 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	Continue to explore various traditional and progressive cultural dimensions within society by examining attitudes towards marriage and family and the cultural shift from being single to being married and possibly being divorced. Consider case studies from Japan, Thailand, Turkey, and the United Kingdom.	Study the course content for week 12 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	Student presentations related to topics covered so far in the course.	Study the course content for week 13 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Student presentations related to topics covered so far in the course.	Study the course content for week 14 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	Complete presentations and review the content of the course and reflect on the core concepts related to intercultural communication that you have explored.	Prepare by studying the vocabulary and topics covered during this course. 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 20%; midterm presentation and test: 40% final presentation and test: 40%
その他	0	

教科書

none

参考文献

none

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	異文化理解論					ナンバリング	1782
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部　淳						

授業の位置づけ

この授業は、世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、およびそれらを活用する技能を身につけ、またグローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。1年次前期科目の「異文化接触論」、および他の国際コミュニケーション科目と関連する。

授業の概要

この授業は、世界の言語とその背景にある文化や社会の多様性を学びながら、異文化理解の現状と課題について学び、また異文化を背景に持つ他者への理解を深める、他者とのコミュニケーション力を育成する。英語が使われている国や地域の文化を中心に、外国語による表現や思想への理解を深める。

到達目標

学生が、世界各地域の言語や文化の多様性を概観することができる。各地域の慣習・思考様式の背景にある文化と歴史を理解することができる。各地域の文化の生成における異文化の役割と異文化間交流について理解することができる。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
授業内容に関連するホームページや動画など。動画等の視聴による自主学習支援。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。（90分）
担当教員			
第2回	世界の言語、宗教などの文化的な広がりを俯瞰する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。（90分）
担当教員			
第3回	交流から生まれる文化:自文化と他文化の関係性から異文化を考える。 日本の文化が世界とのどのような交流によって生成しているか学生に考えさせ、史実に沿って学習しながら、日本の文化に内在する世界のさまざまな文化や価値観への気づきを促す。	レポート課題など指定された課題を行うこと。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。（90分）
担当教員			

第4回	東アジア地域の文化:日本の文化と東アジア地域のつながりについて	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	東南アジア地域の文化:日本とのつながりと歴史の多層性と文化的多様性について 映像資料を用いて、音楽や芸術などの日本との類似点について、中国も含めた大きな文化交流の視点から考えさせる。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	南アジア地域の文化:日本とのつながりと多言語主義について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	西アジア地域の文化:ペルシアとイスラームの思想と文化について 担当教員が実際に中東に行った時の体験談や撮影した写真から、学生のイメージと実際の現地の実態のギャップを考察させ、世界の文化の多様性や奥深さへの気づきへと導く。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	西ヨーロッパ地域の文化:古代ギリシア・ローマとルネサンス以降の文化について ルネサンスや宗教改革が、イスラームやモンゴルなどの外部世界との交流によってもたらされ ていることを、具体的な史実に沿って学習し、ヨーロッパ文化にとっての異文化の意味を考察す る。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	イギリスの文化:英語発祥の地の歴史と文化について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	コモンウェルスの文化:英連邦の文化について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	アメリカの文化(1)超大国の歴史と文化について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	アメリカの文化(2)現代社会の文化と表現について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	グローバル空間での新しい文化の生成:IT時代のコミュニケーション文化について	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	これまでの振り返りと、各自の考えをまとめる小論文の作成	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	小論文の講評とグローバル化時代の文化へのアプローチ	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度と積極性20% 授業課題で提出するレポート50% 小論文30%
その他	0	なし

教科書

特になし。

参考文献

各授業内容と関連する参考文献や資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

異なる複数の文化の相違点に関心を持つ学生の参加を歓迎する。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	中華圏の文化					ナンバリング	2760
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

1年次の中国語学習で触れた中国の文化を踏まえながら、さらに広い「中華圏」の文化について学び、実際に中華圏の人々とのコミュニケーションに活かす方法を理解するための科目である。ディプロマポリシーの「世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、およびそれらを活用する技能を身につけている」と密接に関連し、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力」および「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」と関連している。

授業の概要

この授業は、これまでの中国語学習で得た中国の文化知識をさらに深めるため、中華圏での伝統や習慣、社会を中国語で学んでいく。世界中で中国語話者ネットワークが広がっているが、その地域や国、集団の文化や社会は、中国本土の文化とはやや異なっている。香港、台湾、シンガポール、マレーシア、オーストラリアにおける中国文化の特徴と、中国本土の文化様式を調査発表したり、ディスカッションを行い、現代の中国文化を眺める。

到達目標

中華圏の文化の特徴について説明することができる。講義で取り上げる内容について、自らの意見を述べることができる。中華圏の文化と日本の文化や他の地域の文化との違いについて論じることができる。

授業の方法

週2回で行う授業であるため、1回目は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進め、2回目は討論を中心とする授業を展開する。受講者は前回の講義内容にコメントし、課題とした文献についての報告も行う。そして、受講者のプレゼンテーションも2回行う（第8回と第14回）。なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業で、受講者と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①オリエンテーション ②「文化」や「中華」などの概念について学ぶ。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	第2回　前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	第3回 漢字文化圏と文学 中華圏のみならず、日本や韓国における漢字の影響力について考察する。そして、詩歌や、＜注釈＞という言説形態の影響についても説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第4回	第4回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	第5回 服飾と化粧 「漢服」、「呉服」、「韓服」、「チャイナドレス」の歴史について学ぶ。そして、近年「漢服」と「韓服」を巡る中韓両国の若者の論争について説明し、論争の問題点を考える。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第6回	第6回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第7回	第7回 食文化 食文化からみる中国の南北差異 小籠包、餃子、飲茶、麻婆豆腐など、日本人にもよく知られている中華料理はそれぞれどの地域のものなのかを紹介する。各地の食事マナーも紹介する。	指示する文献（プリント）を熟読し、授業までにレジュメ（プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど）を提出すること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第8回	第8回 プレゼンテーション Ⅰ 関心を持つテーマについて、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明する。必ず具体的な研究方法を説明すること。	関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）	プレゼンテーションの内容を振り返り、配布プリントと講義の内容をノートなどで復習する。（90分）
担当教員	魯　諍		
第9回	第9回：仏教と儒教の伝播と受容 儒教は「宗教」なのかを考える。北伝仏教の特徴を説明する。	指示する文献（プリント）を熟読し、授業までにレジュメ（プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど）を提出すること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第10回	第10回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	第11回 祝祭日 日本の季節や農耕、通過儀礼に関する祝祭日の多くは中国に起源を持ち、日本で土着の風習と混じり合い継承、発展してきた。日中両国の文化交流の歴史について学ぶ。ユネスコ世界無形文化遺産に登録された韓国の「江陵端午祭」と中国の「端午節」との関係を説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	第12回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	第13回 中華圏と他の国や地域との文化交流について学ぶ。 例：東洋と西洋を繋ぐシルクロード	指示する文献（プリント）を熟読し、授業までにレジュメ（プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど）を提出すること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第14回	第14回 プレゼンテーションⅡ 関心を持つテーマについて、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明する。必ず具体的な研究方法を説明すること。	関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。（90分）
担当教員	魯　諍		
第15回	講義のまとめ：講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。（90分）	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。（90分）
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(30%)、文献の報告及び口頭発表(30%)、期末レポート(40%)
その他	0	

教科書

プリントを配布または配信する。

参考文献

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	日中文化比較					ナンバリング	3762
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、およびそれらを活用する技能を身につけている」と密接に関連し、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」と関係がある科目である。この授業では、異文化間コミュニケーション(intercultural communication)の視点から、日中両国の文化的交渉の歴史的プロセスを考察する方法を学ぶ。日本と中国の文化における共通点や相違点を見出し、両国の文化の交流に関する諸問題を考察する。

授業の概要

この授業は、日本と中国の交流、市民レベルでの「共生」を図っていくためには、ステレオタイプから脱却し、両国の文化を理解することが必要である。何よりも異文化交流の視点から「中国文化」を理解することが不可欠である。中国文化を知ることで、グローバル社会の中で自国の「日本文化」を再発見し、自己認識を深めていくことになる。ここでは中国語で、中国文化と中国現代社会の概要を把握していく。まず、中国的””日本的”な文化とはなにか、日中交流史からみた中国人の対日イメージ、日本人の対中イメージの変遷を概観し、結婚式、酒文化、美意識などから比較文化の分析と検討を行う。

到達目標

日本と中国の文化の異同について指摘することができる。日本と中国の文化交流の様々な現象あるいは論点について述べることができる。自らの関心を持っているテーマについて調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明することができる。

授業の方法

週2回で行う授業であるため、1回目は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進め、2回目は討論を中心とする授業を展開する。受講者は前回の講義内容にコメントし、課題とした文献についての報告も行う。そして、受講者のプレゼンテーションも2回行う（第8回と第14回）。
なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①オリエンテーション（授業の進め方や成績評価などについて説明する） ②文化の概念について学ぶ。 ③日中漢字文化の循環関係Ⅰ：音読み（呉音と漢音）や簡体字比較と日本の「国字」について学ぶ 日本語の漢字の音読みに呉音と漢音があり、それが中国の古語に由来することを認識することは、日中言語文化のうち漢字文化を理解する基礎となる。 近代以降、日中ともに漢字の簡略化が進んだが、中国大陸がより徹底して行われ、台湾と香港と異なる簡体字文化を持つことになる。日本もまた独自の簡略化が進み、中国人の読めない日本の漢字、例えば「売」「仏」など、が生まれた。そして、日本ならではの文化を、中国にはない漢字で表現するために、日本人は独自の和製漢字「国字」を作り出した。「鰯」など魚に関するものや、「峠」「凪」など気候風土に関するものがあげられる。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。（90分）	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。（90分）
担当教員	魯　諍		
第2回	第2回　前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第3回	第3回 日中漢字文化の循環関係Ⅱ：近代の翻訳語と外来語について学ぶ。 近代において西洋の概念を翻訳する際、「四書五経」に親しんだ当時の知識人（旧武士階級）が中国の古典から多くを引用し、かつ中国がそれをスムーズに受け入れたことは、日中漢字文化の循環関係を示す顕著な例である。「権利」「科学」「哲学」「社会主義」など、その数は1000を超えるといわれる。しかし現代では、日本においては欧米の先端科学技術や文化の外来語を中心にカタカナの多用が目立つ一方、中国では意訳が主流である。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第4回	第4回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	第5回 日中漢字文化の循環関係Ⅲ:インターネット時代における日中の言語の変化について学ぶ。 インターネットによって瞬時に情報が行き交う中、日中間で漢字の共有も急速に進んでいる。「元気」「居酒屋」などの日本語はすでに中国の日常語として定着している。日本でも一部若者の間で「偽中国語」が使われ始め、中国語の発音に由来する流行語も現れる。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第6回	第6回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第7回	第7回 日中の文学について学ぶ。 日清戦争以前は日本は中国から影響を受けることが多かったが、日清戦争以降は、中国人の日本留学をきっかけに、日本文学が中国文壇に影響を与えることが多くなった。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	第8回 プレゼンテーションⅠ 関心を持つテーマについて、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明する。必ず具体的な研究方法を説明すること。	関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)	プレゼンテーションの内容を振り返り、配布プリントと講義の内容をノートなどで復習する。(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	第9回 日本と中国の食文化について学ぶ。 例:なぜ和食はユネスコ無形文化遺産に登録され、世界三大料理の一つである「中華料理」はされていないのか？ ⇒中国の多様な地方文化について考える。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第10回	第10回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	第11回 「対」の中国文化と「非対称」の日本文化を比較する。 中国では「はい」は「対」、春節の飾りも「対聯」、世界の構造を説明するのも「陰陽」の対が用いられる。一方、日本では「わびさび」や茶道華道に代表されるように、自然そのままの非対称、不完全、未完成が重んじられる。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	第12回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	第13回 日本と中国の祝祭日について比較する。 日本の季節や農耕、通過儀礼に関する祝祭日の多くは中国に起源を持ち、日本で土着の風習と混じり合い継承、発展してきた。節分の豆まきや雛祭り、五月の節句、七夕などのほか、成人式、還暦の祝いなど。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	第14回 プレゼンテーションⅡ 関心を持つテーマについて、調べ、考察した内容を、論理的にかつ明快に説明する。必ず具体的な研究方法を説明すること。	関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	講義のまとめ：講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業・討論への積極的な参加度(25%)、課題の完成度(15%)、口頭発表(30%)、期末レポート(30%)
その他	0	

教科書

プリントを配布または配信する。

参考文献

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	異文化コミュニケーション論					ナンバリング	3784
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、「コミュニケーション学概論」「国際コミュニケーション論」「異文化接触論」と関連し、グローバル社会のなかで、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーシ能力を備え（関心・意欲・態度）、地域社会の活性化につなげるために異文化コミュニケーション能力を身につける（思考・判断・表現）科目である。この授業の実践として「異文化ビジネスコミュニケーション」に発展する。

授業の概要

この授業は、主義や信条、思考様式、コミュニケーションスタイルなど文化の異なる人々との対人コミュニケーションに焦点を当て、その理論講義と演習で異文化コミュニケーション能力を養成する。異文化に起因するトラブルや誤解、ミスコミュニケーション、対立の問題は、日本人と外国人の間だけでなく日本人同士でも起こる。本授業では、1年次科目、「異文化理解」「異文化接触論」および、必修科目「短期語学研修」や「ニセコ国際研修」での海外留学体験や外国人とのビジネス体験をもとに、異文化コミュニケーション理論をさらに発展させ理解していくために、文化の違いがどのような問題を引き起こすのか、それをどう受容・解決していけばよいか、対人レベルから集団間レベルまでの異文化間のすれ違い等を、外国人ゲストとの交流や演習などをとおして、学習者どうしでその振り返りを共有していく。

到達目標

1. これまでに体験した異文化環境における失敗や誤解を客観的に振り返り、自己のステレオタイプや自文化を分析できるようになる。
2. 異文化の人々と積極的にかかわり、異なる価値観も寛容に受入れ、理解しようと努力することができるようになる。
3. 異文化コミュニケーションの代表的な理論を5つ以上説明できるようになる。

授業の方法

授業では、配布プリントとスライドでホフステード等の代表的な理論を概説し、その各理論を深めるために、事例やシミュレーション等を通して、文化の異なりによる問題点と対応方法をディスカッションやグループ発表で共有していく。これらの教室活動の振り返りを課題・評価する。また各理論の復習として確認テストを1回行う。

ICT活用

課題提出をはじめ授業の資料配信や質問にはGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業時までにコメントを添えて個別に返却し、授業内で全体を講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション：異文化コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義としくみを復習しておく。(90分)	コミュニケーションの問題点を再確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	異文化適応の諸相： 留学体験やアルバイトなど、各自の異文化接触とその適応過程を客観的に振り返る演習を行う。	異文化コミュニケーションの定義を2つ以上調べておく。(90分)	異文化間でのコミュニケーション問題の主な要因をまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	高コンテキスト文化と低コンテキスト文化のコミュニケーション： 「ニセコ国際研修」やインターンシップ等で体験した接客ビジネスにおけるミスコミュニケーションを振り返り、コミュニケーションギャップについて確認していく。	これまでの異文化体験ととまどいを振り返っておく。(90分)	海外語学研修時の異文化適応曲線を作成する。(90分)
担当教員			

第4回	文化の諸相と非言語メッセージ: 留学生や海外協定校の学生と、オンラインで相互の非言語コミュニケーションの異なりを共有する。	配布プリントをよく読んでおくこと。(90分)	海外語学研修時の異文化適応曲線に詳細な描写を記し、各自の適応段階を振り返っておく。(90分)
担当教員			
第5回	個人主義社会と集団主義社会: 交渉のシュミレーションゲームを通して価値観の受容を考える。	個人主義と自己中心・利己主義の違いを確認しておく。(90分)	集団主義的文化と個人主義的文化の基本的な価値観の違いを整理しておく。(90分)
担当教員			
第6回	権力格差と不確実性回避の大きい社会: ホフステードらの調査報告を批判的に読み、文化相対主義の意識化をはかる。	義務教育から高校までの学校の規則を思い出し、共通する事項を記しておく。(90分)	集団主義的社会と個人主義的社会の社会問題をまとめておく。(90分)
担当教員			

第7回	ステレオタイプと偏見を考える: 事前課題として、地域の外国人生活者や留学生に、日本人／日本文化についてインタビューし、授業で発表する。同時に、各自が抱く特定の国・地域に対するステレオの演習から、否定的なステレオタイプはなぜ生まれたかを確認していく。	初対面の外国人にどのような質問をして交流するか、質問を10以上挙げておく。(90分)	不確実性の回避の弱い社会と強い社会の基本的な違いを整理しておくこと。(90分
担当教員			
第8回	情報社会のメディアリテラシー: 一つの出来事に対するインターネットにおけるフェイクニュースや動画情報、大手通信社等の英語表現を比較分析し、メディアのバイアスに気づく。	子どものころに読んで影響を受けた童話や昔話を一つ選び、読み直しておく。(90分	各自が所属する組織や社会におけるジェンダーレスの文化移行状況を確認しておく。(90分)
担当教員			
第9回	非言語メッセージから日本文化を知る: 自文化を知る一歩として、事前に外国人から見た日本・日本人のインタビュー調査を行い、授業でグループごとに発表し、沈黙の意味やスマイルなど日本文化の表現方法を確認する。	アルバイト先など職場で不平等だと思うことを3つ挙げておく。(90分)	組織における権力格差と男らしさ社会の共通点をまとめておく。(90分)
担当教員			

第10回	東洋的価値観と西洋的価値観： 日本の諺や格言、名言などの英語翻訳ゲームを通して、比喩を中心とした言語文化の異なりを発見していく。	社会生活で不平等であると思うことを5つ挙げておくこと。(90分)	権力格差の大きい社会と小さい社会の基本的な違いを確認しておく。(90分)
担当教員			
第11回	平易な英語とやさしい日本語： 恵庭市の広報ホームページにおける「やさしい日本語」と「平易な英語」の書き換え演習を通して、外国人だけでなく年少者や高齢者とのコミュニケーションを考えていく。	ネットニュースから、フェイクやゴシップ、スキャンダルニュースの伝播をたどってみよう。(90分)	指定の話題についてネットでファクトチェックをしてみよう。(90分)
担当教員			
第12回	移民・難民から考える多文化社会： 地域の外国人生活者をゲストに迎え、日本での生活や働くうえで困難に感じていることについてトークセッションしていく。	自身の職業に関するステレオタイプを6つ挙げておく。(90分)	ニュースサイトや新聞の紙面構成からゲートキーパーの価値観を読み解く。(90分)
担当教員			

第13回	共生社会であるために: 地域の外国人居住者やろう者をゲストに迎え、「共生」社会であるために求められていることは何かをディスカッションしていく。	傾聴するための具体例を調べておく。(90分)	各自の「きく」行動を振り返っておく。(90分)
担当教員			
第14回	アサーティブコミュニケーションと確認テスト: 相互理解のための「アクティブリスニング」と「わたし文」で伝えるための演習を行う。	アイメッセージ／アイステートメントとは何かを調べておく。(90分)	アイステートメントでコミュニケーションするための方法をまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	確認テストのフィードバックと多文化社会のまとめ	これまでの異文化コミュニケーション理論の専門用語と意味、具体例を復習しておく。(120分)	確認テストの誤答訂正と補足説明を記入しておく。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回授業の振り返り30%、確認テスト20%、課題提出50%
その他	0	

教科書

『グローバル社会における異文化コミュニケーション』池田理知子編著、三修社

参考文献

『多文化世界 ー違いを学び未来への道を探る 原書第3版』G. ホフステード他著、岩井八郎他訳、有斐閣。『異文化トレーニング 改訂版』矢代京子他、三修社他、適宜授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	異文化ビジネスコミュニケーション					ナンバリング	3786
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

国際・異文化コミュニケーション科目における異文化関連授業の発展科目で、特に「異文化コミュニケーション論」に連携する。グローバルな企業の内・間での共生・協働することを可能とする国際性や柔軟性で前向きなコミュニケーション能力と、世界につながるための地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけ（関心・意欲・態度）、ビジネス交流するための科目である。

授業の概要

この授業は、国内外の企業や組織等で、ビジネスパーソンに必要な異文化間のコミュニケーション能力とは何かを、異文化間コンフリクトの事例を通して考えていく。日本で働く外国人の増加だけでなく、情報技術の進化は誰もが自国にいながら世界中の人々と仕事をする時代になってきた。外国語が得意でも、コミュニケーションスタイルをはじめ、考え方や仕事の進め方、意思決定、交渉方法など、異文化間でのコンフリクトが起こりやすい環境にある。多様化しているビジネスカルチャーに対応していくために、海外赴任ビジネスパーソンとローカル従業員とのトラブル事例を中心に、ディスカッションを通して外国企業や多国籍企業など、多文化社会・組織で働くための異文化コミュニケーション能力とはなにか、各自の「気づき」を促進していく。

到達目標

1. グローバル企業の異文化コミュニケーション対応例が挙げられる。
2. 多様なコミュニケーションスタイルに寛容になれる。
3. 世界の諸英語を理解し、母語文化の影響を受けた英語を堂々と発信できる。

授業の方法

授業の前半は講義プリントやスライドで講義形式で行う。後半は異文化ビジネスのトラブル事例をグループでディスカッションする。課題レポート1回、課題発表およびグループプレゼンテーション2回、確認テストを1回行う。

ICT活用

課題や調査発表に、書籍だけでなくインターネットでのデータ収集を行う。課題はGoogle Classroomを活用し、提出投稿および返却を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題には、次回の授業時までにコメントを記して個別に返却する。講評は次回の授業内で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション グローバル企業とは、どのような異文化対応で世界戦略をしているかを眺める。	マクドナルドの英語非母語話者国での英語使用サイトを読んでくる。(90分)	マクドナルドの世界展開を確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	日本企業の外国人採用とその問題点 求める日本語能力と英語能力	英語を社内公用語としている企業を調べてくる。(90分)	企業の日本語／外国語能力評価基準についてまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	グローバル社会の英語コミュニケーション能力 英語非母語話者の英語を理解するために:シンガポールを事例として	世界の英語使用者人口と分布を 調べておく。(90分)	リンガフランカとしての英語の役割をまとめておく。(90分)
担当教員			

第4回	世界の諸英語 受講者はインド英語、マレーシア英語、ニホン英語等の英語非母語話者国の英語の特徴を調査発表し、多様な英語への理解を深める。	発表準備。(120分)	諸英語の国別特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第5回	ダイバーシティー・マネジメントの問題Ⅰ フレームファーストか、メインファーストか等、コミュニケーションスタイルの特徴を概説する。	特定企業を想定し、英語で就活用の自己PR文を作成しておく。(90分)	自己PR文を2パターン書き直しておく。(90分)
担当教員			
第6回	ダイバーシティー・マネジメントの問題Ⅱ 企業事例を通して意思決定と言語管理の在り方を考える。	コカコーラ社サイトから、そのグローバル展開史を読んでおく。(90分)	ディズニーの海外マネジメントを調べておく。(90分)
担当教員			

第7回	英語で日本文化を紹介するⅠ 外国人ビジネスピープルがよくする質問	特定の国を想定し、日本人が現地外国人ビジネスピープルによくする質問を10考えておく。(90分)	日本企業文化の価値観を確認しておく。(90分)
担当教員			
第8回	英語で日本文化を紹介するⅡ 外国人ビジネスピープルに説明しておきたい日本事情の発表	発表準備(120分)	各発表内容をまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	食品メーカーのグローバル戦略Ⅰ 食文化と宗教	国内外の飲料・食品メーカーから一つを選び、そのグローバル対応を調べておく。(90分)	アルコール飲料をはじめとする日本の飲料メーカーのグローバル戦略をまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	食品メーカーのグローバル戦略Ⅱ 現地文化と日本文化	北海道の食品や農産物などの中小企業団体からひとつ選び、その世界展開案を考えておく。(90分)	海外における北海道物産展を成功させるためのセールス文を考える。(90分)
担当教員			
第11回	異文化間コンフリクトへの対応Ⅰ 中国人ビジネスパーソンとの対立管理から	配布資料を読んでおくこと。(90分)	中国文化における面子の概念を理解しておくこと.(90分)
担当教員			
第12回	異文化間コンフリクトへの対応Ⅱ 外国人ビジネスパーソンの対立管理から	配布資料を読んでおくこと。(90分)	外国人観光客とのトラブル事例をまとめておく。(90分)
担当教員			

第13回	異文化間の言語文化管理 翻訳・通訳の誤訳とすれ違い	サイトで外国映画の翻訳テクニックを調べておくこと.（90分）	指定文章を限られた文字数で和訳する。（90分）
担当教員			
第14回	AIと翻訳・通訳の現状 文化背景を訳すことの難しさ	一つの地域ニュースを2つの自動翻訳サービスで英訳して読み比べておく。（90分）	通訳・翻訳者に必要な異文化知識をまとめておく。（90分）
担当教員			
第15回	まとめ 確認テストと復習	授業で提示した項目およびディスカッションテーマを復習しておくこと。（90分）	テストの誤答を訂正し、補足説明を記しておくこと。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出20%、課題発表40%、ディスカッション等の授業参加度30%、確認テスト10%。
その他	0	

教科書

講義プリントを配布する。

参考文献

『国際コミュニケーションマネジメント入門』竹下裕子・荒川洋平編著、アスク出版。『多共生共生時代に学ぶ英語』本名信行、玉川大学出版部。『共生社会の異文化間コミュニケーション』本名信行・竹下裕子編、三修社。このほか、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	国際コミュニケーション科目　国際・異文化コミュニケーション科目						
科目名	ホスピタリティマネジメント					ナンバリング	3722/3558
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田　健						

授業の位置づけ

ホスピタリティの基本を学び、グローバルな視点でも理解を深めホスピタリティマインドの実践のための科目である。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーションを身につけ、グローバル社会の中で世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。

授業の概要

この授業は、相手の気持ちや望みを素早く読み取って、心からおもてなしするホスピタリティは、AIにはできない人間ならではの行動だといわれる。この授業では、おもてなしの心は「相手に喜んでもらうことが自分の喜び（ホスピタリティーマインド）」になり、それが他者や社会の貢献になることを演繹的に学んでいく。航空関係や宿泊業、医療機関などサービス関係の仕事に限らず、多くの企業が経営方針にホスピタリティ教育に取り入れ、それが職場環境を好転させること（ホスピタリティマネジメント）の重要性をあげている。この授業では、TDRのキャストを事例に、おもてなしで顧客の満足度が向上することで、個人のホスピタリティマインドが生まれ、それがスタッフ間においても喜びを与えるようになり、自分自身も誇りや働きがいが持てるようになる、といった循環モデルを学び、自ら相手の立場に立って物事を考え、さらに深いニーズに応えて相手を喜ばせていく仕事観や生き方を考えていく。

到達目標

1. ホスピタリティの基本と重要性が理解できる。
2. ホスピタリティを理解し就職活動に役立てることができる。
3. 企業・職種・身近な生活にもホスピタリティが存在し、理解することで実践することができる。

授業の方法

1. 準備学習の確認
2. 板書・プリント配布・視聴覚メディア（DVDなど）
3. 講義形式
4. グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート

ICT活用

資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。

実務経験のある教員の教育内容

約20年間民間企業等で、観光や広告宣伝部門の業務に携わる。また、直近の8年間は、学生が地域をフィールドに、街の活性化に取り組む学外実践授業のコーディネーターとして、40以上のプロジェクトの実施とサポートを行う。また、日本PBL研究所のアドバイザー資格を有し、講師なども担当している。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション →授業の進め方・評価方法・受講時の留意点	ホスピタリティとは何かを考えておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第2回	ホスピタリティとはⅠ ホスピタリティの社会的背景と重要性を考える	自分が体験したホスピタリティについて考えておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第3回	ホスピタリティとはⅡ ホスピタリティの社会的背景と重要性を理解する	身近なマナーについて考えておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第4回	ホスピタリティとはⅢ ホスピタリティの効果について考える	自己紹介の内容をまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第5回	ホスピタリティとはⅣ ホスピタリティの効果について理解する	プレゼンテーション準備(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第6回	これからの社会に必要なホスピタリティとはⅠ 外国人の場合 ＊第2回～第5回までの小テスト	小テスト準備(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第7回	これからの社会に必要なホスピタリティとはⅡ 子供の場合／事例について個人で考えてみる（取材含む）	自分の将来で起こりえる出来事について考えまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第8回	これからの社会に必要なホスピタリティとはⅢ 子供の場合／事例についてグループで考えてみる	プレゼンテーション準備(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第9回	これからの社会に必要なホスピタリティとはⅣ 高齢者の場合／事例について個人で考えてみる（取材含む）	プレゼンテーション準備（90分）	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第10回	これからの社会に必要なホスピタリティとはⅤ 高齢者の場合／事例についてグループで考えてみる ＊第6回～第9回までの小テスト	小テスト準備(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第11回	ホスピタリティ・マインドⅠ 心の知能指数検定とEQを伸ばすために必要な5つのこと	EQについて調べまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第12回	ホスピタリティ・マインドⅡ TA〈交流〉分析：人間が持つ5つの自我について	TAについて調べまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第13回	ホスピタリティ・アクションⅠ ホテル業界のホスピタリティについて	サービス業、観光業界について調べまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第14回	ホスピタリティ・アクションⅡ 社会人に必要なルールやマナーについて	学生と社会人の違いについて考えてまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第15回	これまでの講義の振り返りと最終レポート →チーム編成をして、これまでの振り返りのためのディスカッションと発表を行う →最終レポート提出	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況、最終レポート(これまでの授業の理解度の確認。レポートのテーマについては最終日に伝える)
その他	0	

教科書

なし(資料は随時配布します)

参考文献

各、授業内でお伝えしていきます

履修条件・留意事項等

ホスピタリティを学ぶ授業であるため、大学の基本事項となる授業の無断欠席や、遅刻等が多い学生の履修はNGとします。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　社会人基礎力						
科目名	キャリア入門					ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田　健						

授業の位置づけ

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。この授業では私たちが社会生活をしていく上で、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要になることに鑑み、入門のキャリア教育を行う。本科目は、初年次教育の一環とて、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけ、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている（知識・技能）」「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている（関心・意欲・態度）」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、自己のキャリアを考察するにあたり、スタート地点となるべき授業である。世の中にどのような仕事があり、先人がどのようにして道を切り開いてきたのかを考える。自分のやりたいこと、目指したい目標を見つけるきっかけになることを目指した授業である。キャリアプランを考える際に重要な2つの視点は、自分を知ることと、相手（仕事や会社）を知ることである。自分がどのような仕事を したいと望むのか、そして、その仕事を遂行するための資質とは何かを探ることで自分を知ることができる。また、そのような仕事が実際 に存在するのか、そしてどのようにしたら、その仕事に就けるのかを考えることが、相手を知ることである。ここでは、この2 点を理解するための授業を展開する。

到達目標

1. 他者について、表面的なことだけでなく内面的なことも理解し、配慮や協調を持って接することができるようになる。
2. 自分についての強みや弱みを把握し、説明ができるようになる。
3. 置かれている状況の機会や脅威を予測し、仮説を立てて行動ができるようになる。
4. 自分の社会人・職業人としての具体的な方向性をイメージし、それに向けた目標を立てて行動をすることができるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーション（授業の進め方） この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる内容が理解できるようになる	これまでの人生について振り返り、行ってきたことをまとめておくこと〈90分）	授業内容を復習しまとめておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第2回	これからの大学生活についてⅠ →本学での4年間に学んでいくことの再把握と、個々に取り組んでいくことを再認識してもらいます。	大学生活の4年間で達成したい具体的目標を3つ考えてきてください。また、それを達成するために4年間どのように取り組むのかを具体的に書いてきてください（90分）	本日の内容の振り返りをしておくこと（重要点の把握と整理）（90分）
担当教員	小山田　健		
第3回	これからの大学生活についてⅡ →社会人基礎力についての把握。社会人基礎力の現状分析と、「他者とかかわる力（コミュニケーション力について）」の把握。 また、4年間一緒に取り組む同じ科や学部の学生についても把握いただきます。	「社会人基礎力」とは何かを調べておくこと。また、それらの力について、自分が備わっているかを分析しておくこと。（90分）	本日の内容の振り返りをしておくこと（重要点の把握と整理）（90分）
担当教員	小山田　健		

第4回	他者理解Ⅰ →なぜ、他者理解が必要であるのかを、大学在学中や社会人になってからのことを考えながら、理解していただきます。	自分の得意なことについて1分間で話せるようにしていくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田　健		
第5回	他者理解Ⅱ →なぜ、他者理解が必要であるのかを、大学在学中や社会人になってからのことを考えながら、理解していただきます。	自分の苦手なことについて1分間で話せるようにしていくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田　健		
第6回	自己分析Ⅰ／自分といえば(6つの自分の特徴を話せるように) →これからの履歴書作成や外部学修へ活かしていくため、6つの自分の特色を話せるようになるための自己ワークを行い、その後、発表をしていただきます。	自己肯定感を高めるために必要なことを考えまとめておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田　健		

第7回	自己分析Ⅱ／過去・現在・未来 →フレームワークを使った分析や戦略立案ができるようになるため、過去・現在の取り組みを自己分析をいただき、そこから、自分の未来について戦略立案をしてもらいます。	小・中・高・他（専門学校、日本語が学校など）におこなってきたことをまとめておくこと（90分）	本日の内容の振り返りをしておくこと（重要点の把握と整理）（90分）
担当教員	小山田　健		
第8回	SPI試験対策と把握 →SPI試験とは何か、最近の就職事情などをお伝えします。また、就職活動がはやまっているため、就職支援会社にご協力をいただき、SPI試験（模擬版）の実施し、実際にどのようなことが今後の就活で行う必要があるのかを理解してもらいます。	2－3人の学部の先輩たちから、就活をどのように行っているかを聞き出し内容を把握すること（90分）	本日の内容の振り返りをしておくこと（重要点の把握と整理）（90分）
担当教員	小山田　健		
第9回	課題解決分析 →客観的に見た自分の強みや弱みや、外部の機会や脅威などを理解できるようになる。	SWOT分析とは何かを事前に調べておくこと（90分）	本日の内容の振り返りをしておくこと（重要点の把握と整理）（90分）
担当教員	小山田　健		

第10回	これからの大学生活についてⅢ →第6回、第7回でおこなった内容を、第9回で行ったSWOT分析で再度考察していく。また、SWOT分析からの戦略立案方法も把握していく。	第6回、第7回で行ったワークの内容を再度取り組み、ブラッシュアップしておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田　健		
第11回	これからの大学生活についてⅣ →先輩の取組ついて把握(身近にいる先輩から学んでいく)＊第10回の内容をさらに掘り下げていきます。	在学中に英語を話せるようになった先輩が、1年生からどのような勉強や取り組みをしていたかを考え書き出しておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田　健		
第12回	これからの大学生活についてⅤ →就活のために行うことが増えているインターンシップについてと、他の大学生の取り組みなどを、外部の方をお招きしながらお伝えしていきます。	本学の就職センターにいき、どのようなインターンシップがあるのかを見たり聞いたりしてくること(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田　健		

第13回	他者理解Ⅲ →インターンシップで重要となる「他者と働く力（コミュニケーション力）」についての再把握（第4回、第5回も踏まえて）と、ゲーム手法を使った実践演習で、それらの強化と測定を行っていきます。	事前に配布する資料を読み、内容を理解しておくこと（90分）	本日の内容の振り返りをしておくこと（重要点の把握と整理）（90分）
担当教員	小山田　健		
第14回	履歴書の作成～夏季に向けての準備～ →インターンシップや外部と関わる学外学修を行うために、しっかりとした履歴書が書けるようにします。	履歴書の作成（90分）	履歴書の完成（90分）
担当教員	小山田　健		
第15回	最終レポート →これまでの内容を踏まえて、これからの大学生活での目標と、具体的に取り組んでいくことを考え書き出してもらいます。	これまで取り組んできたことを整理していくこと（90分）	これまで取り組んできたことを整理しておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○履歴書の内容(第14回、第15回で行います) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため、最終レポートの作成を行っていただきます。最終回第15回に御乞います。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　社会人基礎力						
科目名	キャリアデザイン					ナンバリング	3402
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田　健						

授業の位置づけ

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。私たちが社会生活や職業生活をしていく上では、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要となる。本講義は、自身のキャリア形成を設計し就業に向けての方策を主体的にプランニングし(関心・意欲・態度)、その基盤となる家庭生活や社会生活といった人生設計を意識化する。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、就活真っ只中の3年生以上を対象とする就職活動準備講座である。職業を通じて社会に貢献し、生計を立てていけるよう、これからの1年間は最大限の準備をすることが求められる。その就職活動の手順やルールについて学びながら、豊かに自己を表現できることを目指す。就職活動に必要な基本的知識や実践を身につけることを課する。自分の進路についての考え方や、採用する企業の視点について理解し、就職活動において必須となる基本的なルール、企業情報の検索や活用、エントリーシートや履歴書の書き方、面接の傾向と対策など就職活動に直結する具体的かつ実践的な能力を身につけることを目標としている。

到達目標

この講義では、キャリアプランニングの方法論を学んだ上で、自身の希望する職業について調べ、職業と家庭生活や社会生活のバランスを図りながら、生涯を通して自己実現と多様な人々との共生をどのようにしていくのかについての人生設計・プランニングを行うことを目的とする。

授業の方法

アクティブラーニング(AL)のために、発表、討論、ゲーミング、調べ学習、グループ学習等、様々な授業方法を活用する。

ICT活用

スマートフォン、パソコンなどのICT機器やインターネットやWebコンテンツなどを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーション →この科目で何を学ぶのか、授業の進め方や日程についてお伝えしていきます。また、皆さんの状況を調査するためのアンケートや、就活支援会社の登録なども行います。	現在までの就活の取り組みを書き出し、自己分析しておいてください。また、進路決定後の新たな目標と、その取り組み方法を考え書き出してください(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第2回	○自己分析Ⅰ 本学就職課の協力をいただき、自分の興味・志向・価値観を客観的に分析できる職業適性診断を行います。 また、後半では、会社について(大企業、中小企業の違い)の講義を行います。	日本における「大企業」「中小企業」の割合と、その違いについて調べておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第3回	○自己分析Ⅱ(「目的」と「手段」／自分の軸、探し) →これから社会に出るにあたって、「なぜ、あなたは働くのか」「あなたの働く目的は何のか」をはっきりさせるための講義、ワークを行っていきます。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第4回	○SPI対策試験 →SPIとは何かを講義し、対策模擬試験を行います。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第5回	○業界分析研究と企業分析ノートの作成 →各種業界についての把握と、企業分析について理解いただきます。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第6回	○就活実践Ⅰ →第2回で行った職業適性診断の結果を踏まえ、再度内容自己分析を行っていきます。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		

第7回	○就活実践Ⅱ →履歴書・エントリーシート対策（1回目）基礎的内容を把握し、書けるようになる。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと（90分）	これまで行ってきたことを整理しておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第8回	○就活実践Ⅲ →履歴書・エントリーシート対策（2回目）個性が伝えられる内容を把握し、書けるようになる。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと（90分）	これまで行ってきたことを整理しておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第9回	○就活実践Ⅳ →面接対策（1回目）	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと（90分）	これまで行ってきたことを整理しておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第10回	○就活実践Ⅴ →面接対策（2回目）	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと（90分）	これまで行ってきたことを整理しておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第11回	○就活実践Ⅵ →企業研究を、採用する企業側の視点で考えていきます。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと（90分）	これまで行ってきたことを整理しておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第12回	○就活実践Ⅶ →インターンシップの取り組み方について	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと（90分）	これまで行ってきたことを整理しておくこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第13回	○就活実践Ⅷ →先輩やOBを招いて(学生側、企業側の視点での考え方):学生の皆さんへアンケートを取り行って希望が多い企業を紹介する。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第14回	○就活実践Ⅸ →先輩やOBを招いて(学生側、企業側の視点での考え方):就職課と教員がセレストした国際学部の学生へおススメしたい企業を紹介する。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
第15回	○最終レポート これまでの内容を踏まえて ①働く目的 ②これまでの取り組みの整理と、これから行うことの整理 ③就活終了後の目標と取り組み ④社会人になってからの目標と取り組み	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田　健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため、最終レポートの作成を行っていただきます。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　社会人基礎力						
科目名	経営マネジメント					ナンバリング	3432
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝　香						

授業の位置づけ

グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚」を身につけること「関心・意欲・態度」に関係する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化に対応するためのマネジメントについて学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。

授業の概要

この授業は、経営とはなにか、ドラッカーの『マネジメント：基本と原則』をベースに、現代社会と組織・企業におけるマネジメントの課題・責任・実践および事業の成果を上げるためのマネジメントについて、その基礎的な考え方を学ぶ。経営学としてのマネジメントは「ひとりではできないことをやり遂げるために、人の協働と分業の仕組みを作り、その経営資源（モノ・カネ・情報）を含めて、適切に育て活用していくこと」である。マネジメントは、経営学、会計学、商学、生産システム等、複合的な視点から経営問題を考えていく必要があるが、ここでは、組織の社会性と個人、組織における人間行動、人的資源管理に焦点を当て、企業のヒトを活用した経営戦略「人材マネジメント」事例から学ぶ。

到達目標

本授業の到達目標は、以下の3点である。
1)授業やテキストで取り上げたレベルの経営学の基本的な考え方を説明できる。
2)企業の活動を経営学の視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。
3)興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。

授業の方法

授業では、前半は事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。後半はフィードバックとして理解度を確認するためパワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進める。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

ICT活用

本授業ではGoogleDirveやGoogle Docs、Office365などのクラウドサービスを中心としたOfficeツールを積極的に活用した授業を実施する。具体的には、GoogleClassRoomを用いて事前課題、事後課題を提出するなどの学習管理を実施し、課題にはGoogle SpreadやMicrosoft PowerPointでのプレゼンテーション資料の作成に取り組み、プレゼンテーションをグループ毎に発表するなどのアクティブラーニング型授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営、人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	伝統的組織管理論とモチベーション 伝統的な組織管理の経営学説から現代のマネジメントに至るまで人のやる気を上げるためにどのように取り組んできたのかを学ぶことで、モチベーション向上させることと働きがいとは何かについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第2回	組織のマネジメントに必要な5つの能力 マネジメントには「目標設定」「組織づくり」「コミュニケーション」「評価測定」「人材開発」の5つ能力が必要とされる。この5つについての能力がなぜ組織のマネジメントに必要なのかについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第3回	伝統的組織管理論とモチベーション 伝統的な組織管理の経営学説から現代のマネジメントに至るまで人のやる気を上げるためにどのように取り組んできたのかを学ぶことで、モチベーション向上させることと働きがいとは何かについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		

第4回	経営組織の構造と形態 マネジメントは権力ではなく人を活かす責任であるとされる。組織において目標到達のためには適切な権限を持つものが適切な範囲で権力を行使しなければならないことを組織の構造と形態を学ぶことで理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第5回	目標設定とKPI 組織が成果を上げるためには組織のメンバー全員が共通認識を持つことができる明確な目標を立てその方向性を確立することが求められる。どのような目標を設定すれば良いのかKPI(重要業績指標)について学ぶことで目標設定の重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第6回	経営者やマネージャーに必要なリーダーシップ 組織が成果をあげるためには経営者やマネージャーといった組織のリーダーによる動機付けと適切なコミュニケーションが必要であることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		

第7回	外部環境の変化と組織戦略 グローバル化の進展、パンデミック、社会課題の変化などにより、企業や組織を取り巻く外部環境は大きく変化する。変化する環境のなかで優れた解決手法があったとしてもその手法を活かせる組織になっていなければならないことから、どのように組織をデザインすれば変化に対応できる組織となるのかを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第8回	経営戦略とは 戦略の歴史から現代の組織がどのようにして経営戦略に取り組んできたのかということを学ぶことで、経営戦略の基本的な考え方を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第9回	ポジショニングアプローチ ポーターが提唱したポジショニングアプローチによる基本戦略について学ぶことで競合がいる環境下での競争に対応するための考え方について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			

第10回	コトラーの市場地位別戦略 企業が保持している経営資源の質と量により、業界内の各企業を、リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワーの4つに分類し、それぞれの地位に基づいた戦略があることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			
第11回	内部環境分析(BCGとVRIO分析) 企業や組織が保有するリソース(経営資源)に着目し、資源の獲得が競合企業との競争で優位に立てるというリソース・ベースド・ビュー”(Resource-based view)という考え方と分析するフレームワークとしてBCGとVRIO分析を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			
第12回	顧客価値とイノベーション 企業の存在価値を決めるのは顧客であり、企業はイノベーションによって顧客価値の創出を目指さなければならないことをさまざまなイノベーションのケーススタディを学ぶことでその重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			

第13回	財務分析の基礎（財務3表） 企業分析に必要となる財務諸表による企業活動の理解のため、財務3表の構造と意味について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。（90分）
担当教員			
第14回	財務分析の基礎（収益性、安全性、活動性、成長性） 財務諸表分析とも呼ばれる経営分析として、財務諸表の定量的なデータを用いて会社の財務状況の分析手法を学ぶことで、客観的に経営状況を把握し就職活動に役立てる方法について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。（90分）
担当教員			
第15回	戦略と組織の融合としてのビジネスモデル 経営資源（ヒト、モノ・カネ・情報）を含めたすべてを俯瞰的にみることが可能なビジネスモデルキャンバスのフレームワークを学ぶことで、ビジネスを成功に導くためのアプローチについて理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容とグループワークなどの授業参加の積極性を総合的に評価する。
その他	15	特に授業参加の積極性を評価する。

教科書

必要に応じて配布資料を提示する。

参考文献

授業内で資料を提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　社会人基礎力						
科目名	マーケティング論					ナンバリング	3434/3676
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝　香						

授業の位置づけ

グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解」することに関係する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化を分析するマーケティング志向を学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。

授業の概要

この授業は、マーケティングの基本を学んだ上で、「21世紀型マーケティング」の概念を学ぶ。マーケティングの歴史とコンシューマリズムを踏まえ、マーケティングの神様と称されるフィリップ・コトラーの手法をベースに、実践的なマーケティング戦略を理解し、私たちの実際の生活の中でマーケティングがどのように生活に関わっているのかを学ぶ。

到達目標

本授業の到達目標は、以下の3点である。
1)授業やテキストで取り上げたレベルのマーケティングの基本的な考え方を説明できる。
2)企業の活動をマーケティングの視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。
3)興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。

授業の方法

授業では、パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進め事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

ICT活用

本授業ではGoogleDirveやGoogle Docs、Office365などのクラウドサービスを中心としたOfficeツールを積極的に活用した授業を実施する。具体的には、GoogleClassRoomを用いて事前課題、事後課題を提出するなどの学習管理を実施し、課題にはGoogle SpreadやMicrosoft PowerPointでのプレゼンテーション資料の作成に取り組み、プレゼンテーションをグループ毎に発表するなどのアクティブラーニング型授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営や人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクションとして、マーケティング論の授業の概要と進め方を説明する。 マーケティングとは何か。マーケティングの発想と市場戦略としてのマーケティングの役割と課題について学ぶ。	「マーケティングとは」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第2回	環境分析(PEST、SWOT) 競合他社の動向や、政治や経済の変化など、自社の事業運営に影響をもたらす要因を分析する「外部環境分析」をPEST分析やSWOT分析のフレームワークを学ぶ。	「PEST分析、SWOT分析」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第3回	環境分析(3C→SWOT) 「Customer(市場・顧客)、Competitor(競合)、Company(自社)」の3つの視点から自社と競合他社、市場環境の関係を明らかにしたうえでSWOT分析を行う一連のフレームワークの使い方を学ぶ。	「3C分析」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		

第4回	事業戦略（STP） Segmentation（セグメンテーション）、Targeting（ターゲティング）、Positioning（ポジショニング）という3つの視点で市場における顧客やニーズを整理し、ターゲット市場を明らかにするSTP分析のフレームワークを学ぶ。	「事業戦略（STP）」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。（90分）
担当教員	芝　香		
第5回	第2回～第4回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第2回～第4回で学んだフレームワークを復習しておく。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。（90分）
担当教員	芝　香		
第6回	マーケティング戦略（製品と価格） マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P（「製品（Product）」「価格（Price）」「流通（Place）」「プロモーション（Promotion）」のうち、「製品（Product）」「価格（Price）」の戦略について学ぶ。	「製品戦略、価格戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。（90分）
担当教員	芝　香		

第7回	マーケティング戦略（広告） マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P（「製品（Product）」「価格（Price）」「流通（Place）」「プロモーション（Promotion）」のうち、「プロモーション（Promotion）」の戦略として広告戦略、パブリシティ戦略について学ぶ。	「広告戦略、パブリシティ戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。（90分）
担当教員	芝　香		
第8回	マーケティング戦略（チャネル） マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P（「製品（Product）」「価格（Price）」「流通（Place）」「プロモーション（Promotion）」のうち、「プロモーション（Promotion）」戦略としてのチャネル戦略を学ぶ。	「チャネル戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。（90分）
担当教員	芝　香		
第9回	マーケティング戦略（プロセス） これまでに学んだマーケティング分析のフレームワークをより効率的に分析するための一連の流れとしての手順や考え方を学ぶ。	「マーケティングプロセス」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。（90分）	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。（90分）
担当教員	芝　香		

第10回	第6回～第9回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第6回～第9回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第11回	顧客関係の構築(リレーションシップ) 顧客と良い関係を築いて距離を縮め、結果的に商品やサービスの成約率を向上させるリレーションシップ・マーケティングについて学ぶ。	「顧客関係の構築」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第12回	消費者行動 企業が提供する製品やサービスを購入・利用する人々(＝消費者)が、一つの商品の購入に至るまでの行動について、購買行動モデルの考え方について学ぶ。	「消費者行動」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		

第13回	ブランド戦略 企業の製品やサービス、あるいは企業そのもののコンセプトを明確にして、「誰にどんな場面で使ってほしい製品なのか」「自分たちはどんな企業なのか」をユーザーにわかりやすく提示するブランディングの考え方を学ぶ。	「ブランド戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第14回	リーンキャンパス 9つの項目からビジネスモデルをまとめるフレームワークである「リーンキャンパス」の考え方を応用することで、誰に対して、どのような価値を提供しているのか、そして、その価値をどのようなチャネルを通じて顧客に届けるのかというこれまでに学んだマーケティング戦略を活用した実践的なマーケティング戦略の立案手法について学ぶ。	「リーンキャンパス」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
第15回	第14回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第14回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝　香		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない 。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容とグループワークなどの授業参加の積極性やプレゼンテーションを総合的に評価する。 したがって、課題を提出しない場合には出席日数が規定を充たしていても不合格となる場合があることに留意すること。
その他	15	特に授業参加の積極性を評価する。

教科書

必要に応じて配布資料を提示する。

参考文献

授業内で資料を提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　社会人基礎力						
科目名	インターンシップ					ナンバリング	2420/1144
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田　健、小西　正人、宮本　融、青　晴海						

授業の位置づけ

卒業後に殆どの皆さんが身を置くことになる企業・各種団体で実際の業務を研修し、企業・団体組織の仕組や規律、社会人としての心構えを学ぶ為の授業である。また、学生同士の同質組織と様々な背景を持つ人々による異質組織がどのように運営され機能しているかをこの研修で学び、来るべき職業人としての生活に飛び込む為の準備の授業でもある。そのことで、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につけていく。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている（知識・技能）」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、卒業後に殆どの皆さんが身を置くことになる企業・各種団体で実際の業務を研修し、企業・団体組織の仕組や規律、社会人としての心構えを学ぶ為の授業である。学生同士の同質組織と様々な背景を持つ人々による異質組織がどのように運営され機能しているかをこの研修で学び、来るべき職業人としての生活に飛び込む為の準備の授業でもある。

到達目標

・就業の現場を知り、働くとはどういうことなのかが討議できるようになる。
・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。
・自身に足りない力や強みを自覚し、今後の大学生活で身につける力や伸ばすべき力を把握し、目標を明確化する。
・プレゼンテーション能力を身につける。

授業の方法

「オリエン・面談（審査）」「事前研修」「インターンシップ」「事後研修」の4つの方式で行う。
「事後研修」では、行ってきたことのプレゼンテーションと、複数のチームに分かれて、得てきた学びやスキルを共有するためのグループディスカッションを行う。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

約20年間民間企業等で、観光や広告宣伝部門の業務に携わる。また、直近の8年間は、学生が地域をフィールドに、街の活性化に取り組む学外実践授業のコーディネーターとして、40以上のプロジェクトの実施とサポートを行う。また、日本PBL研究所のアドバイザー資格を有し、講師なども担当している。

課題に対するフィードバックの方法

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーションⅠ／科目としての「インターンシップ」について 科目説明、スケジュール、予定インターンシップ先などについて ※春季休暇等を利用して集中的に実施する実習が主になることから、ガイダンス等で配布する資料や掲示等に注意を払うこと。なお、コロナ禍であるため、各内容については、間際で変更される場合もある。 注:このオリエンテーションの説明を聞いて、履修を決めること。	インターンシップとは、何を学ぶために行うのかを各自が考え調べておくこと(90分)	これまでの大学生活で取り組んだことをまとめておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融、青　晴海		
第2回	オリエンテーションⅡ／受け入れ企業等の紹介と今後について 1. インターンシップ参加手続き、ビジネスマナー等について 2. インターンシップ先企業等の企業研究について	働くことが考えられる職種(業種)や仕事についてまとめ、その内容を整理しておくこと(90分)	絞り込んだ職種(業種)には、どのような会社があるのか、世界・日本・道内の視点で調べ整理しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融、青　晴海		
第3回	オリエンテーションⅢ／面談とレポートの作成 ・面接方式で教員との面談を行う。 ・希望するインターン先についての企業分析等を行い、与えられるレポートが書けるようにしておくこと。	面接でのルールやマナーについて各自が調べ、先生との面談に準備しておくこと(90分)	面談の振り返り(反省と改善)をレポートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融、青　晴海		

第4回	○事前研修 履歴書の作成、企業分析、個人の強み・弱みの把握（研修日誌の作成①	履歴書を作成し、就職課の添削を受け修正したものを、準備しておくこと。また、顔写真についても忘れず貼ること。（90分）	自己分析、企業分析から、インターンシップをとおして、学びたいことを書き出しておくこと（90分）
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融		
第5回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第6回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第7回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第8回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第9回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第10回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	小山田　健		
第11回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	小西　正人		
第12回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	小山田　健		

第13回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	宮本　融		
第14回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り（できたこと、できなかったことの整理）と小さな達成目標の設定（90分）	就業後に、研修日誌の作成を行うこと（90分）
担当教員	青　晴海		
第15回	○事後研修 ・研修日誌（振り返りと反省など）の作成 ・プレゼンテーションの準備 ・インターンシップ報告（プレゼンテーション） ・最終レポート（課題は当日発表）の作成	インターンシップを終えての振り返りと事後研修報告会プレゼンテーションの準備（90分）	これまで取り組んできたことを就職活動に活かせるようにまとめておくこと（90分）
担当教員	小西　正人、小山田　健、宮本　融、青　晴海		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席(学内:オリエンテーション・事前研修・事後研修)、実習態度(インターンシップ先での就業内容)＋受け入れ先からの評価、研修日誌、プレゼンテーション発表、最終レポートの各点数の合計で総合的に評価する。
その他	0	

教科書

なし(資料は随時配布します)

参考文献

履修条件・留意事項等
〈履修条件〉各科目の単位が修得できている学生、インターンシップ参加企業の希望条件にあう学生など。〈留意事項等〉履修登録者へ、インターンシップ参加企業の希望を伺う。その後、面談を行った後、インターンシップ先企業と協議して派遣する学生を決定する。＊詳細は、後期オリエンテーションでお伝えする。
備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　社会人基礎力						
科目名	ファイナンシャルプランニング					ナンバリング	3436/1142
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西　正人、宮本　融						

授業の位置づけ

社会人として必須の金融管理の知識を身に付ける。授業内容は日本FP協会認定資格の取得を目指した授業となる。主として同資格を取得したい学生向けの授業であるが、授業内容の性質上、幅広く金融に関する知識を修得したいという学生であれば資格取得を目的としない学生についても歓迎する。「経営財務分析」の基礎となる。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。（思考・判断・表現）。問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる（思考・判断・表現）。

授業の概要

本講は金融に関する知識と経済の仕組みを包括的に学ぶことを目的とする講座である。具体的にはファイナンシャル・プランニングの資格取得を目標とする。個人をとりまく経済・金融環境が急速に変化し、生活者としての個人にも自己責任が求められる場面が増え、「生きる力」の養成が急務となっている。このような環境の下で、ファイナンシャル・プランニングの資格検定学習を通じて、金融の包括的かつ実践的な知識を身につけ、今後の人生に資する力を身につけることを目指す。

到達目標

1. 自分のライフスタイルや価値観、経済環境を確認できる。
2. 自分の家族状況、収入と支出の内容、資産、負債、保険などのデータから、現状を分析できるようになる。
3. 様々な領域にわたる包括的なアプローチによって、必要なファイナンシャル・プランナーとして最小限必要な知識を学び、少なくても国家資格（FP技能士）3級取得へ意識化できる。

授業の方法

配布教材とプリントを配布して講義形式ですすめる。夏季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。
フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

外部講師より（詳細はオリエンテーション時にお伝えします）

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、指定教科書、勉強方法などを説明し、FP3級資格に求められる基本知識を概説する。	FP資格の活かし方を考えてレポート形式でまとめておくこと（90分）	FP資格取得に向けたスケジュールの作成（90分）
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第2回	ライフプラニングと資金計画（1） FPの倫理、関連法規、FPの考え方・手法について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集で確認し、まとめておくこと（90分）
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第3回	ライフプラニングと資金計画（2） 社会保険、年金、年金と税金、資金計画、ローンとカードについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		

第4回	リスク管理(1) リスクメネジメント、保険制度全般、生命保険の基礎・商品について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第5回	リスク管理(2) 損害保険の基礎・商品、第三分野の保険、保険と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第6回	金融資産運用(1) マーケット環境、預貯金・金融類似商品、投資信託、債券投資について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		

第7回	金融資産運用(2) 株式投資、外貨建商品、金融派生商品、ポートフォリオについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第8回	金融資産運用(3) 金融商品と税金、セーフティネット、関連法規について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第9回	タックスプランニング(1) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		

第10回	タックスプランニング(2) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第11回	不動産(1) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第12回	不動産(2) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと (90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		

第13回	相続・事業承継（1） 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第14回	相続・事業承継（2） 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
第15回	重要ポイントのまとめ 試験出題頻度の高い項目の再学習を行う。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人、宮本　融		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(授業内タスクシート作成含む)70%、課題30%。
その他	0	

教科書

事前説明会にて説明を行うので、事前説明会には必ず出席すること。

参考文献

FP技能士資格取得に推奨できるテキスト、問題集を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

事前説明会および初回ガイダンスには必ず出席する。
また全ての回の講義への積極的参加を必須とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　社会人基礎力						
科目名	公務員講座Ⅰ					ナンバリング	3441/1146
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、主に国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための授業で、「公務員講座Ⅱ」と連動する。公務員試験に合格するためには、幅広い一般常識と高度な専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。授業は講義形式で公務員試験の出題範囲を網羅すべくポイントを解説していくので、受講者は予習復習はいうまでもなく、すべての課題に深く取り組んでいくこと。数回行う確認テスト以外にも自己研鑽していくことを求める。

到達目標

大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる学力の修得を目標とする。
公務員をいう仕事に対する理解が深まり、公務員を志す理由が明確になり、合格するにはどのような努力が必要なのか明確になる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。春季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	判断推理（1）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	判断推理（2）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	判断推理（3）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	判断推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	日本史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	日本史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	図形（1）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図形（2）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	図形（3）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	図形（4）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	世界史（1）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	世界史（2）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	数的推理（1）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	数的推理（2）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	数的推理（3）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加姿勢／意欲を総合的に評価する 課題レポート(チャレンジテスト)等
その他	0	

教科書

資格の大原 公務員講座テキストを使用する。

参考文献

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

留意事項等
全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等ににについて学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　社会人基礎力						
科目名	公務員講座Ⅱ					ナンバリング	3442/1147
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。「公務員受験講座Ⅰ」の履修学生が対象である。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、主に国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための授業で、「公務員講座Ⅱ」と連動する。公務員試験に合格するためには、幅広い一般常識と高度な専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。授業は講義形式で公務員試験の出題範囲を網羅すべくポイントを解説していくので、受講者は予習復習はいうまでもなく、すべての課題に深く取り組んでいくこと。数回行う確認テスト以外にも自己研鑽していくことを求める。

到達目標

大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる学力の修得を目標とする。
公務員をいう仕事に対する理解が深まり、公務員を志す理由が明確になり、合格するにはどのような努力が必要なのか明確になる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。春季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	地理（1）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	地理（2）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	数的推理（1）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	数的推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	政治経済（1）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	政治経済（2）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	政治経済（3）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	政治経済（4）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	政治経済（5）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	政治経済（6）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと（90分）	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	時事（1）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	時事（2）国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	チャレンジテスト いままで受講してきた内容を理解できているかどうかの確認を公務員模擬試験によって行う。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと (90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加姿勢／意欲を総合的に評価する
その他	40	課題レポート(チャレンジテスト)等

教科書

資格の大原 公務員講座テキストを使用する。

参考文献

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等ににについて学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語表現技法Ⅰ（プレゼンテーション）					ナンバリング	1301
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

本授業では「（母語である）日本語で表現すること」を中心に各受講生がそれぞれの発信方法を見つけ出すことを目標とする。本科目は初年次教育の一環として、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を育てるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。文章表現中心の「日本語表現技法Ⅱ（文章表現）」と補完的科目であり、「日本語コミュニケーション技法」「日本語ビジネスライティング」の基礎的科目となる。

授業の概要

この授業は、効果的なプレゼンテーションの方法を演習を中心に学ぶ。「話したいこと」だけを話す自分勝手で伝わらないプレゼンテーションを排し、聞く人が聞いてよかった・楽しかったと思えるような（そしてそれゆえにしっかりと内容が伝わるような）win-winのプレゼンテーションの考え方の基礎を完全に固め、実践的運用が可能となるレベルを到達目標とする。そのため授業は「構想・計画→入念な準備→実演→自己反省・相互批評」のループを通じて着実に技術を修得することのできるよう展開される。

到達目標

1. プレゼンテーションの基本を実施できる。
2. 適切な資料を作成し、使用できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを実施できる。
4. 魅力的なプレゼンテーションを実施できる。
5. パワーポイントの基本操作ができる。

授業の方法

はじめにプレゼンテーションの基礎となる考え方を伝えたあと、実践でそれを身につけるために、準備→発表→反省のくり返し練習を演習形式で行う。受講者自身が数度のプレゼンテーションを行い、ビデオを見ながら自己反省をするとともに、他の受講者のプレゼンテーションをお互いに評価し、フィードバックとしてコメントをまとめる。いずれもパワーポイントおよび視聴覚メディアを活用しながら実技中心ですすめる。

ICT活用

パワーポイント操作の習熟。またGoogle classroomを活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業中の発表については、ビデオを見ながらコメントする。
また提出レポートについては、内容をまとめて配付資料とする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 「伝える」とはどういうことか、ということについて、いきなりですが極意を伝授する。 これで「伝える」ということの極意を知ることができ、以後の発表に生かすことができるはず。 さらに第1回タスク「自己紹介」について、説明し、そのあと第1回の発表に向けて準備をしてもらう。	コンピュータにログインできるようにしておく（10分）	次週の課題発表の準備（180分）
担当教員			
第2回	第1回発表「自己紹介」（1分程度） 前週の講義をもとに、とりあえず演壇に立って発表してもらい、「プレゼンテーションの実演」についての実感をつかんでもらう。 次週の「反省」のためにビデオ撮影を行う。	発表準備（90分）	今回の発表についての全体的・個別的感想、そして自分の発表についての反省（90分）
担当教員			
第3回	第1回発表フィードバック（前半） 自分の発表したビデオを見ながら、フィードバックを行う。これにより、自分の発表が外から見たらどのようなものであるのか、客観的に見て次回の発表に生かせるようになる。 プレゼンテーション学習（その1） TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	前回の発表の確認（30分）	他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート（150分）
担当教員			

第4回	第1回発表フィードバック（後半） 自分の発表したビデオを見ながら、フィードバックを行う。これにより、自分の発表が外から見たらどのようなものであるのか、客観的に見て次回の発表に生かせるようになる。 プレゼンテーション学習（その2） TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	前回の発表の確認（30分）	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート（150分）
担当教員			
第5回	第1回・再発表（その1）「自己紹介」 前回の発表の長所を生かし欠点を補正し、自己紹介（再発表）を行う。 第1回・再発表・「自己紹介」自己コメント 発表の動画を見返しながら、発表時に工夫したこと、生かせたこと、生かせなかったこと、反省点と次回への抱負などについて自己コメントしてもらう。 プレゼンテーション学習（その3） TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備（90分）	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート（90分）
担当教員			
第6回	第1回・再発表（その2）「自己紹介」 前回の発表の長所を生かし欠点を補正し、自己紹介（再発表）を行う。 第1回・再発表・「自己紹介」自己コメント 発表の動画を見返しながら、発表時に工夫したこと、生かせたこと、生かせなかったこと、反省点と次回への抱負などについて自己コメントしてもらう。 プレゼンテーション学習（その4） TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備（90分）	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート（90分）
担当教員			

第7回	第1回・再発表（その3）「自己紹介」 前回の発表の長所を生かし欠点を補正し、自己紹介（再発表）を行う。 第1回・再発表・「自己紹介」自己コメント 発表の動画を見返しながら、発表時に工夫したこと、生かせたこと、生かせなかったこと、反省点と次回への抱負などについて自己コメントしてもらう。 プレゼンテーション学習（その5） TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備（90分）	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート（90分）
担当教員			
第8回	第1回・再発表（その4）「自己紹介」 前回の発表の長所を生かし欠点を補正し、自己紹介（再発表）を行う。 第1回・再発表・「自己紹介」自己コメント 発表の動画を見返しながら、発表時に工夫したこと、生かせたこと、生かせなかったこと、反省点と次回への抱負などについて自己コメントしてもらう。 プレゼンテーション学習（その6） TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備（90分）	自分の発表・他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート（90分）
担当教員			
第9回	パワーポイント基本操作について 第2回発表に使用するパワーポイントの基本操作、および発表時の注意について（出典の明示など）の講義を行う。 あわせて発表に関する著作権についての扱いについての講義を行う。	他の発表者へのコメントおよび動画視聴レポート（150分）	パワーポイント操作の確認（30分）
担当教員			

第10回	調べて発信する(準備その1)：第2回発表テーマ「私のおすすめ」について説明し、自分のおすすめを探し当てる。 プレゼンテーション学習(その7) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	パワーポイント操作の確認(30分)	自分の発表準備および動画視聴レポート(150分)
担当教員			
第11回	調べて発信する(準備その2)：第2回発表テーマ「私のおすすめ」についての発表準備。 プレゼンテーション学習(その8) TEDなどのプレゼンテーションを鑑賞し、どのような工夫がなされているかについて学ぶ。	発表準備(90分)	自分の発表準備および動画視聴レポート(90分)
担当教員			
第12回	調べて発信する(準備その3)：第2回発表テーマ「私のおすすめ」についての発表準備(リハーサル)。	発表準備(90分)	自分の発表準備および動画視聴レポート(150分)
担当教員			

第13回	調べて発信する(発表その1):第2回発表「私のおすすめ」(その1)と振り返り。	発表準備(90分)	自分の発表準備・他の発表へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)
担当教員			
第14回	調べて発信する(発表その2):第2回発表「私のおすすめ」(その2)と振り返り。	発表準備(90分)	自分の発表準備・他の発表へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)
担当教員			
第15回	調べて発信する(発表その3):第2回発表「私のおすすめ」(その3)と振り返り。	発表準備(90分)	自分の発表準備・他の発表へのコメントおよび動画視聴レポート(150分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出課題・授業内の発表内容・授業内での活動
その他	0	なし

教科書

教科書は使用しません。

参考文献

授業内で適宜指示します。

履修条件・留意事項等

メールが届いたか、返事はないかなど常にチェックするようにすること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	世界の言語と日本語					ナンバリング	1320
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

この科目は、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身に付けることを達成する科目であり、他の言語系科目と関連する。

授業の概要

この授業は、できるだけ多くの世界の言語に触れることにより、英語などの大言語だけが「外国語」でないことを知ること、そして 日本語を外国語として見ることができるようになることにより、世界の言語の中における日本語を発見していく。受講生は、これまでどんな言語を学んだことがあるか、どんな言語に興味があるか調査し、世界の言語、言語学の歴史（世界の言語はどのようにして分かれたのか、どれが兄弟・親子関係にあるのか）について学んでいく。授業では 簡単な諸外国語の会話練習を通して、外国語学習の壁を取りはらい、世界の言語社会への視座を広げていく。

到達目標

この授業では、できるだけ多くの世界の言語にふれることにより、
1) 英語だけが「外国語」でないことを知り、一般化することができる。
2) 日本語を外国語として見ることができるようになり、日本語を本当に知り使用・活用することができる。
3) 英語が得意でも苦手でも、他の言語を学ぶことにより他の言語話者への配慮ができる。
4) 他の言語を複数学ぶことにより、初見の言語でも予測し学習を容易にすることができる。
また授業では会話練習を徹底的に重ねることにより、
1) 英語以外の外国語での挨拶ができるようになる。
2) 街で外国人に会ってもどきどきせずに挨拶できるようになる。
3) 世界中を旅するコスモポリタンな気分になれる。
※ 以下のシラバスで「学修する」と書かれている場合は、すべて「学び修する」の意である。

授業の方法

板書・配布資料・パワーポイント・視聴覚メディアを活用しながら、講義形式で進める。ただし毎回の課題および発音、会話の各受講者の理解度を毎時間確認し、徹底的に身につけてもらう。

ICT活用

Google Workspaceに付属している機能（Google Formなど）によって練習問題等を提供し、課題および自主学習を促す。またGoogle Classroomにて参考資料や参考HPを紹介したり、補足資料などを随時提供する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的にはコピーを提出してもらい、授業内で問題点を共有しつつ自己チェックで各自の問題点を自発的に見つけてもらう。小テストは可能な限り翌週に返却し、課題提出と併せて詳細な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・イントロダクション 授業の進め方、評価方法、心がまえなどについて説明。 世界の言語：世界の言語はどのようにして分かれたのか、どれが兄弟・親子関係にあるのかについて。 フランス語（1）：アルファベットと発音、名詞と冠詞について学修する。 韓国語：ハングルの形成法、基本母音字10個を学修する。	世界の言語に興味をもち、いろいろ調べてみておいてください（30分）	フランス語の名詞と冠詞について、およびハングルの基本母音字について復習（180分）
担当教員			
第2回	※以下、各言語について会話文を覚えるほど発音練習してもらいます。 フランス語（2）：人称と動詞変化（活用）について学修する。 韓国語：基本母音字の復習、子音字（가・나・다・라・마・바・사）を学修する。 アイヌ語：言語背景、文字と発音、およびあいさつ言葉などの紹介。	フランス語の人称変化に関する資料を配布あるいは周知するので読んでおく（60分）	フランス語の人称変化に関する練習問題、および韓国語の基本母音字・子音字（가・나・다・라・마・바・사）の練習問題（120分）
担当教員			
第3回	フランス語（3）：所有形容詞、指示詞について学修する。 韓国語：その他の基本子音字を学修する。 アイヌ語：会話に挑戦！第1課「これはギョウジャニンニク？」	韓国語の子音字（平音）を復習してすぐに読めるようにしておく（30分）	フランス語の所有形容詞および指示詞に関する問題、韓国語の基本子音字に関する課題（150分）
担当教員			

第4回	フランス語(4):人称代名詞(対格・与格)、形容詞について学修する。 韓国語:激音、濃音を学修する。そろそろ韓国語会話にも挑戦する。 アイヌ語:会話に挑戦！第1課復習。	韓国語の基本子音字について復習(30分)	フランス語の試験準備、および韓国語の会話暗誦(180分)
担当教員			
第5回	フランス語筆記・会話テスト 韓国語:合成母音字を学修する。引き続き韓国語会話に挑戦。	フランス語筆記テストの準備(120分):事前に昨年のテストを配布します。	フランス語のテスト問題を解く(150分)
担当教員			
第6回	ドイツ語(1):発音および名詞(性および主格)について学修する。 韓国語:パッチムを学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第2課「カラスはトウモロコシを食べる」	韓国語会話練習(30分)	ドイツ語会話を覚える。これまで学んだハングルを確実に覚える(150分)
担当教員			

第7回	ドイツ語(2):人称および動詞変化について学修する。 韓国語:ハングル発音テストプリントの説明、解説。 アイヌ語:会話に挑戦！第2課復習。	ハングルの復習(30分)	ドイツ語の人称変化に関する課題、およびハングル発音テストプリントの復習(150分)
担当教員			
第8回	ドイツ語(3):冠詞と格について学修する。 韓国語:指定詞이다、助詞는/은について学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第3課「どこから来たの？」	ハングル発音テストの準備(60分)	ドイツ語の冠詞・格・人称代名詞に関する練習問題(150分)
担当教員			
第9回	ドイツ語・総復習時間(主に人称代名詞について) 印欧語について(文字・分布・特徴など)学修する。 韓国語:아니다、助詞가/이を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第3課復習。	ドイツ語筆記テストの準備(150分)	ドイツ語のテスト準備、および韓国語指定詞の練習問題(120分)
担当教員			

第10回	ドイツ語筆記・会話試験 韓国語：存在詞있다、助詞에を学修する。 アイヌ語：会話に挑戦！第4課「あなたのお名前は？」	ドイツの試験準備（150分）	ドイツ語試験問題を持ち帰って改めて解く（150分）
担当教員			
第11回	アラビア語（主に文字）について簡単に紹介。 韓国語：練習問題をやりながら総合復習。 アイヌ語：会話に挑戦！第4課復習。	韓国語の復習（30分）	アラビア語の文字練習・会話練習、韓国語の復習・会話練習（150分）
担当教員			
第12回	スワヒリ語（1）：文字と発音、人称・時制・アスペクトについて学修する。 韓国語：합니다体、関連助詞を学修する。 アイヌ語：会話に挑戦！（その5）	スワヒリ語について事前調査（30分）	スワヒリ語練習問題、韓国語練習問題（150分）
担当教員			

第13回	スワヒリ語(2):名詞クラスについて学修する。 韓国語:数字、およびさまざまな助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第5課「働いて手が痛い」	スワヒリ語について事前学習(30分)	スワヒリ語および韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第14回	スワヒリ語(3):総合復習、会話練習 韓国語:総復習 アイヌ語:会話総復習	韓国語の数字を暗誦(30分)	スワヒリ語テストの準備(180分)
担当教員			
第15回	スワヒリ語テスト、および解説等	テスト準備(180分)	テスト問題解答(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト(筆記および会話暗誦)、授業内の課題(ハングルテスト含む)、授業参加度による総合評価を行う。
その他	0	

教科書

適宜、講義プリントを配布します。

参考文献

ビジュアル版世界言語百科／ピーター・K・オースティン編／柊風社
事典 世界のことば141／梶茂樹他編／大修館書店
The Languages of the World／Kenneth Katzner／Routledge
ニューエクスプレスプラス アイヌ語／中川裕／白水社
その他、授業中およびGoogle classroomにて適宜紹介します。

履修条件・留意事項等

くれぐれも横着しないようにしてください！
そして授業中は大きな声で発音してください。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語表現技法Ⅱ（文章表現）					ナンバリング	1302
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、社会で必要となるスキルのひとつである文章作成能力を習得する科目である。社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけるとともに、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。プレゼンテーションを中心とする「日本語表現技法Ⅰ」と補完的に、「日本語コミュニケーション技法」「日本語ビジネスライティング」の基礎科目となる。

授業の概要

本科目では、大学生活の基本となる日本語の文章表現能力を学ぶ。日本語そのものの基本を押さえた上で、思考法を鍛え、レポート・論文の作成力を修得し、日本語の基礎的な法則を確実に定着させながら、日本語の文章表現の能力を高める。また、様々な文章の「型」を文章作成と添削および相互批評を組み合わせた実作学習によって習得することで、社会で必要となるスキルを身に付けることを目指す。

到達目標

1. 社会に存在する様々な文章の「型」について分類し、それぞれの文章を製作・運用することができる。
2. 各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実際的な文章作成ができるようになる。
3. 文の正誤・適否が区別できるようになる。
4. 文章を通じて適切なコミュニケーションを行い、国際的な発信を行うことができる。

授業の方法

1. 講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。
2. 説明の後、実際に各自文章作成・添削・相互評価を行う。
3. インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
4. 完成させた文章は提出して担当教員の指導を受ける。

ICT活用

Google classroomを活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は適宜添削・指導する。
クラス内で作成課題について適宜講評を行い、注意点等を共有する。
作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 本講義のイントロダクション、および「書くことの意義と方法について」 教科書の序章のエピソードを共有する。	教科書の序章を事前に読んでおく(60分)	講義の要点・課題の整理(120分)
担当教員			
第2回	教科書『文章を書く』第1章「機能する文章を目指す」を読み、本講義の目的とするところを確認する。 実作練習:社内文書を書いてみよう！ 社外・社内文書の違いを確認しながら「新入社員歓迎会」のための社内文書を製作する。	教科書授業該当部分の熟読・理解(90分)	教科書授業該当部分の熟読・理解、社内文書の重要点の確認(90分)
担当教員			
第3回	ビジネス型文書(提出課題)について相互確認。 教科書『文章を書く』第2章「7つの要件の思考法」第1節・第2節を読む。 引用に関する教科書を読みながら、著作権について学ぶ。	教科書授業該当部分の熟読・理解(90分)	教科書授業該当部分の熟読・理解、著作権について復習(90分)
担当教員			

第4回	教科書『文章を書く』第2章「7つの要件の思考法」第3節・第4節を読む。 実作課題：困っていることを相手に伝える。 「困ったこと」について、問題発生源である相手に伝える文章を製作する。 （どうすればうまく伝わるか？ 悪質なクレームとして無視されないか？ 具体的に改善してもらうにはどう工夫して書けばよいか？）	教科書授業該当部分の熟読・理解（30分）	教科書授業該当部分の熟読・理解、「困ったこと」文章製作・提出（150分）
担当教員			
第5回	教科書『文章を書く』第2章「7つの要件の思考法」第5節・第6節を読む。 提出された「困ったこと」を共有する。	教科書授業該当部分の熟読・理解（30分）	教科書授業該当部分の熟読・理解、他者の製作した「困ったこと」のよいところ・改善点を指摘する課題を提出する（150分）
担当教員			
第6回	教科書『文章を書く』第3章 実践2「お願いの文章を書く」を読む。 教科書『考えるシート』ステージA「「お願い」をする」を読み、実作する。	教科書授業該当部分の熟読・理解（30分）	「お願い」文書のタネを見つけ、製作する（150分）
担当教員			

第7回	「お願い」文書を推敲・彫琢し清書提出する。具体的には例えば以下のポイントについて再検討する：実際に直してもらえる形で書けているか。感情的になっていないか。相手への配慮があるか。状況および「（具体的に）何をお願いしているのか」が分かりやすく書けているか。	自分の「お願い文」を確認する（30分）	「お願い」文書を製作する（150分）
担当教員			
第8回	クラスの「お願い」文を読み、そこから得られるもの・感じることなどを話し合い、互いに学び合う。 提出時に再検討した項目について相互チェックを行う。	自分の「お願い」文書を確認する（60分）	自己「お願い」の反省（120分）
担当教員			
第9回	「大学の課題レポート」を書く（その1） 戸田山和久『新版 論文の教室』該当箇所を参考資料として読み、「レポート」の概要を知る。	教科書授業該当部分の熟読・理解（30分）	「レポート」を書くタネを育てる（150分）
担当教員			

第10回	「大学の課題レポート」を書く（その2） 教科書を読み、引用の仕方を再確認する。	前回の授業で提示されたレポート例を確認する（30分）	「大学の課題レポート」文書を製作し提出する（150分）
担当教員			
第11回	クラスの「大学の課題レポート」を読み、そこから得られるもの・感じることなどを話し合い、互いに学び合う。	自分の「レポート」文書を確認する（60分）	自己「レポート」の反省（120分）
担当教員			
第12回	意見文・新聞読者投稿欄の文章を書いてみよう！（その1） 準備と実作	テーマとしたい新聞記事などを見つけておく（60分）	意見文・新聞読者投稿欄の文章の実作（150分）
担当教員			

第13回	意見文・新聞読者投稿欄の文章を書いてみよう！（その2）準備と実作	意見文・新聞読者投稿欄の文章の実作（60分）	意見文・新聞読者投稿欄の文章の実作（150分）
担当教員			
第14回	意見文・新聞読者投稿欄の文章を書いてみよう！（その3）実作と提出	意見文・新聞読者投稿欄の文章の実作（60分）	意見文・新聞読者投稿欄の文章の実作・提出（120分）
担当教員			
第15回	クラスの「意見文・新聞読者投稿欄」の文章を読み、そこから得られるもの・感じることなどを話し合い、互いに学び合う。	事前に自分の「意見文・新聞読者投稿欄」の文章に目を通しておく（60分）	授業時に指摘された部分に注意してさらに良い文章を製作し、最終課題として提出する。（150分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出課題、授業参加度などの総合評価とする。
その他	0	

教科書

『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』／山田ズーニー／PHP新書
『考えるシート』／山田ズーニー／講談社+アルファ文庫
『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社

参考文献

授業内で適宜、提示する。

履修条件・留意事項等

状況に応じて講義内容や順番等が変更される場合があります。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語の表記と語彙					ナンバリング	1322
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

この授業では、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の高度な運用能力を中心に、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけることを目的とする科目であり、他の日本語系の科目と関連する。

授業の概要

この授業は、社会人基礎力に欠かせない正しい日本語表記を身に付け、場面や目的に合わせた語彙を増やしていく。講義と演習を組み合わせ、漢字検定あるいは日本語検定2級程度の漢字・表記・語彙・言葉の意味および公務員試験等で一般常識とされる日本語運用に関する漢字語彙の定着度を測る。本授業の漢字リテラシー基準には、常用漢字、人名・地名漢字、時事用語などの現代日本語漢字の正しい読み方と、四字熟語および諺・故事成語などの意味理解も含め、公的な場面で使える語彙を増やしことばの使い分けを身に付けていく。

到達目標

1. 社会人基礎力となる一般常識とされる常用漢字が定着し、一般的な四字熟語を使用・運用できるようになる。
2. 漢字のしくみを理解し、未知の漢字でも読み方を関連づけ、一般化・推測できるようになる。
3. 日本語の語彙を増やし、いろいろな表現で自己や出来事を知的に描写し操作できるようになる。

授業の方法

板書およびパワーポイントを通じた講義、グループワーク、プレゼンテーションを通じて15回の授業を行う。

ICT活用

Google classroomを活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告・紹介したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

小テスト等の提出物は全て採点して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業のやりかた、発表のしかた、評価方法、この授業の意義などを丁寧に講義する。	シラバスを読んでおく(30分)	配布プリントを読み課題に取り組む、発表グループを決める(150分)
担当教員			
第2回	漢検教科書 ステップ1～3:書き取り練習と講義 漢字のしくみ、音訓概講(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:語彙・言葉の意味の各例題)	教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第3回	漢検教科書 ステップ4～6:書き取り練習と講義 日本語史について:歴史的変遷、南方・北方説について(講義) 故事成語「矛盾」について(『韓非子』該当箇所の講読を含む)	教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			

第4回	漢検教科書 ステップ7～9：書き取り練習と講義 常用漢字について（講義） 中国史概観（講義）（『漢辞海』第四版附録頁を共有して概観）	教科書該当部分の問題を解く、担当者は発表の準備（90分）	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備（90分）
担当教員			
第5回	漢検教科書 ステップ10～12：書き取り練習と講義 『史記』廉頗藺相如列伝を読む（前半）（講読） 漢字の字体について（講義） ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語（語彙教科書：「日本語検定」語彙練習4～3級）	教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備（90分）	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く（90分）
担当教員			
第6回	第1回漢字復習確認テスト（ステップ1～12）・語彙テスト 漢検教科書 ステップ13～15：書き取り練習と講義 『史記』廉頗藺相如列伝を読む（後半）（講読） ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語（語彙教科書：「日本語検定」語彙練習2級前半）	描きうにんテストの準備、および教科書該当部分の問題を解く（90分）	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く（90分）
担当教員			

第7回	漢検教科書 ステップ16～18：書き取り練習と講義 ひらがな・カタカナの歴史について（講義） ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語（語彙教科書：「日本語検定」語彙練習2級後半） グループ発表（第1回）	教科書該当部分の問題を解く、グループ発表者や発表の準備（90分）	講義内容・配布プリント復習、および確認テスト・教科書該当部分の問題を解く（90分）
担当教員			
第8回	漢検教科書 ステップ19～21：書き取り練習と講義 表記・送りがなについて（講義） ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語（語彙教科書：「日本語検定」言葉の意味） グループ発表（第2回）	教科書該当部分の問題を解く、発表担当者は発表の準備（90分）	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備（90分）
担当教員			
第9回	漢検教科書 ステップ22～24：書き取り練習と講義 漢字の字体について（講義） ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語（語彙教科書：「日本語検定」言葉の意味） グループ発表（第3回）	教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備、担当者は発表の準備（90分）	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く（90分）
担当教員			

第10回	第2回漢字復習確認テスト(ステップ13～24)・語彙テスト 漢検教科書 ステップ25～27:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第4回)	教科書該当部分の問題を解く、発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第11回	漢検教科書 ステップ28～30:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第5回)	教科書該当部分の問題を解く、発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第12回	漢検教科書 ステップ31～33:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(現代において頻用されるもの) グループ発表(第6回)	教科書該当部分の問題を解く、発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			

第13回	漢検教科書 ステップ34～36：書き取り練習と講義 カタカナ語について（講義） ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語（新聞・雑誌などで目にするもの） グループ発表（第7回）	教科書該当部分の問題を解き、担当者は発表の準備（90分）	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く（90分）
担当教員			
第14回	漢検教科書 ステップ37～39：書き取り練習と講義 人名・地名漢字について（講義） ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語（現代の一般教養として） グループ発表（予備）	人名・地名漢字について事前調査、教科書該当部分の問題を解く、発表担当者は発表の準備（90分）	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備（90分）
担当教員			
第15回	第3回漢字復習確認テスト（ステップ25～39）・語彙テストおよび復習	教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備（90分）	漢検教科書の総復習および最終提出課題の準備（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	漢字復習確認テスト、毎回の小テスト、グループ発表、最終課題など各種課題、授業参加度の総合評価
その他	0	

教科書

『漢検準2級 漢字学習ステップ 改訂三版』／日本漢字能力検定協会
『日本語検定公式領域別問題集 改訂版 語彙・言葉の意味』／畑 恵里子 (編集), 日本語検定委員会 (編集)／東京書籍

参考文献

常用漢字表（文化庁）
『全訳 漢辞海 第四版』／戸川芳郎監修、佐藤進・濱口富士雄編／三省堂

履修条件・留意事項等

とにかくいろいろ手を動かす作業をしてもらおうと思っています。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語コミュニケーション技法					ナンバリング	2304/2360
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」の発展科目である。

授業の概要

この授業は、情報端末を介した交流が日常的になった現代、さまざまなコミュニケーションのチャンネルが広がっているが、人と対面して「話す」ことがコミュニケーションの基本であることの重要性が再確認されている。この授業では、信頼関係を築くための非言語メッセージはもとより、良質の「スピーチ」を客観的に観察することなどを通じ、「きく」ための技術やアサーティブなコミュニケーション技術を身に付けていく。授業では、各自の日本語能力を向上させると同時に、目的に合わせて自分をどうアピールしていくのか、自己PR動画や就活面接用ウェブ動画の制作と振り返りで、目的に合ったパフォーマンスができるようになることを目指す。

到達目標

1. 4つの「きく」姿勢を意識して、相手の話の意図に配慮し協調できる。
2. 話の内容を簡潔にわかりやすく伝える手法を応用できる。
3. 対人コミュニケーションにおける第一印象や態度として、スマイルを意識的に表出・操作できる。
4. 目的や相手、場に合わせた話し方を適用できる。
5. 自己のコミュニケーション行動の問題点をモニター・測定できる。

授業の方法

プレゼンテーションやスピーチについて、毎授業時での少人数ごとのグループ活動を通じて互いに気づき・修正しあい・フィードバックにつながる形で大きな発表形式にもっていく。また毎回コメントシートを記述してもらい、ポイントを絞った「確認用ペーパー」とする。

ICT活用

Google classroomを通じた課題提出のほか、パワーポイントその他を用いたプレゼンテーションを行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

自己評価や振り返りを含めた各課題はコメントを記して個別返却し、優秀な課題には、その学ぶべきところを全体の講評で紹介し共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・「伝える」ことについて、「話しかた」「構成」「内容」など4技能を中心とした解説を行う。	事前にシラバスを読んでおく。(30分)	次回の「自己紹介」について、話す内容を整理しておく。(150分)
担当教員			
第2回	自己紹介(グループ活動) ・グループを組んで他人に自己紹介をしてみる。 ・その際によくはたらくよい「自己紹介」を考える。	事前に自己紹介の内容を考えておく。(30分)	よい「自己紹介」について考え、次回への糧とする。(150分)
担当教員			
第3回	伝えるためには「目を見て話す」(グループ学習):対人関係を構築するための方法 ・目を見て話す練習をする。 ・目線を配る練習をする。	今回のテーマについて、他の人の話している姿を観察しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			

第4回	「聞く練習」と「話す形」(グループ活動) ・引き続き「目を見て話す」「目線を配る」練習をする。 ・表情に気をつけてみよう。 ・頷いて聞く練習、および話し手の気持ちを考慮する。 ・好きなもののことを考えて言葉にする練習をする。	前回学んだことを思い出して確認しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			
第5回	朗読とスピーチ・プレゼンテーションの違いについて(グループ活動) ・両者に決定的な違いがあることを体験する。 ・「調べ発表」風の節末上げ・文末上げを知り、完全撲滅を試みる。 「好きなこと」発表練習(グループ活動) ・自分の「好きなこと」についてよく考え、それを売り込むにはどうすればよいか見つけ出す。 ・好きなもののことについて発表リハーサル・ピアレビューをする。	前回学んだことを思い出して確認しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			
第6回	語用論的規範についての基礎レクチャー ・語用論と意味論 ・関節発話行為(by Austin) ・会話の公理(by Grice)	今回のテーマ(「好きなこと」)について、話す内容をある程度考えておく。(30分)	今回のグループ活動を通じて気づいたこと・指摘を受けたことについて、しっかりと受け止めて発表の準備をする。(150分)
担当教員			

第7回	公の場に立ってみよう ・過去の「演説」動画を視聴し、観察・分析する。 ・公の場で話してみる。	「演説」について考えておく。(30分)	次回の発表についてしっかりと準備をする。(150分)
担当教員			
第8回	「好きなこと」発表(前半) ・自分の好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省、あるいは準備をする。(150分)
担当教員			
第9回	「好きなこと」発表(後半) ・自分の好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省をする。(150分)
担当教員			

第10回	「自己ブランディング」について（グループ活動） ・自分のいいところ、売り込めるところは何か、考える。 ・グループでお互いのいいところを提案し合う。	自己ブランディングについて調べておく。（90分）	自己ブランディングについて調べる。（90分）
担当教員			
第11回	「自己紹介・自己アピール」 ・状況を設定し（就職面接など）、売り込みポイントを探る。 ・自己紹介・自己アピールを構成する。	新しい「自己紹介」のことを考える。（30分）	新しい「自己紹介」を準備する。（150分）
担当教員			
第12回	「自己紹介・自己アピール」 ・グループに分かれてお互いに「自己紹介」および解説。	新しい「自己紹介」を準備する。（150分）	今回学んだ内容を加味しつつ新しい「自己紹介」を準備する。（150分）
担当教員			

第13回	「自己紹介・自己アピール」発表（前半） ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備をする。（150分）	発表の反省、あるいは準備をする。（150分）
担当教員			
第14回	「自己紹介・自己アピール」発表（後半） ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備をする。（150分）	発表の反省をする。（150分）
担当教員			
第15回	発表（予備時間）、および総まとめ。	これまでの授業で学んだことを振り返る。（60分）	これまでの授業で学んだことを振り返る。（120分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内発表(2回)、小課題、授業参加度などの総合評価。
その他	0	

教科書

使用しません。

参考文献

『自分をどう表現するか パフォーマンス学入門』／佐藤愛子／講談社現代新書
ほか、書籍やサイトなどを授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語学					ナンバリング	2324/2274
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

日本語について、ことばの専門家として必要不可欠な知識を修得し、正しい考え方を導く科目である。この科目は、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目であり、他の言語・語学系科目と関連する。

授業の概要

この授業は、言語学的な考え方を基本として、現代日本語の文法に関するさまざまなトピックについて講義する。日本語についての知識を深め、英語・中国語・日本語、およびその他の言語について実践に応用可能な知識及び技能を身につけること、および問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができること、および学びの成果を社会人生活の中で活かすことを達成する科目である。なぜわざわざ日本語の文法構造を学ぶ必要があるのか、そもそも文法は必要なのかなどの疑問や批判に答え、日本語をはじめとする言語の精妙さを、現代日本語を通じて講義する。

到達目標

1. 日本語について正しい視点をもち、応用することができる。
2. 日本語について正しいデータ収集を行い、一般化することができる。
3. ことばに対して正しい分析を行うことができる。
4. 日本語（あるいはことば）に対する謬見を指摘できる。

授業の方法

板書・パワーポイントおよび視聴覚メディアを活用しながら、講義形式ですすめる。また毎回コメントシートおよび小課題の解答を提出してもらい、理解度を確認する。

ICT活用

Google workspaceを活用する（Google Formでの設問・コメント収集、Google classroomを通じた情報提供など）。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出してもらう授業に対するコメントなどを授業内でとりあげ、それぞれについて回答および示唆、参考資料の紹介などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「タブラ・ラサからはじめよう！」～ 日本語学とは 「生物学」は生物を、「法学」は法律を研究する。では「日本語学」が研究対象とする「日本語」はどこにあるか？という問いを皮切りに、15回の講義で学ぶことのしっかりとした基礎を確認する。	日本語について考えてくる（90分）	リアクションペーパーに「そのあと考えたこと」および「その日の課題」に対する解答を書き込む練習（90分）
担当教員			
第2回	「ぜーいん、起立！」～ 日本語の「音」を探してみよう 自分の口はどんな音を出しているのか、発音しながら確認する。補足資料としてIPAのチャートを用いる。これにより日本語（あるいは言語）の音声についての基礎感覚を身につけることができる。	日本語のサ行とハ行について考えてくる（90分）	課題として与えられたIPAを発音できるようにしてくる（90分）
担当教員			
第3回	「トマトの反対はトマト？」～ 日本語のアクセント・イントネーション 2音節語を中心に、日本語のアクセントの概要について自覚的になることができる。データとして2音節語のリストを用い、学生自らの内省をもとに分類を行ってもらう。おまけとして方言および歴史的なアクセントについての話を行う。	「～ちゃん」のアクセントについて考えてくる（90分）	「○○県」と「○○」のアクセントについてまとめる（90分）
担当教員			

第4回	「尾鰭」は「おびれ？おひれ？」 いわゆる連濁と呼ばれる現象について、音声から語構成に至る制約が存在することを、窪園晴夫氏の研究成果を用いてやさしく解説する。	そもそもなぜ連濁するのかということについて考えてくる(90分)	授業の内容を整理して完全に理解する(90分)
担当教員			
第5回	「塗り薬、粉薬、咳止め薬、便秘薬」～ 日本語の形態論・形態素・語構成 無意識に用いている「語より小さい単位」が組み合わさることにより、生産的にいろいろなことを表すことができるようになることを実感／確認できる。また世界の言語について「長い語」の紹介を行う。	長い語を見つけてくる(90分)	日本語における蔓苔桃形態素を自力でみつける(90分)
担当教員			
第6回	「動詞は動作を表す語？」～ 日本語の品詞について そもそも名詞や動詞という分け方は誰のためのものか、という視点を徹底することによって、自分が母語話者として使っている無意識の「品詞分類」を実感することができる。第1回の授業をさらに進めた内容。	品詞はあったほうがいいかないほうがいいか、主張およびその理由を考えてくる(90分)	品詞分類におさまりきらない語をみつける(90分)
担当教員			

第7回	「壊したんじゃない、壊れたんだよ！」～ 日本語の自他対応動詞 日本語にみられる自他対応動詞について、その認知的意味、および外国語との関係をみることにより、言葉の認知的基盤を確認する。	日本語以外の自他対応について考えたり調べたりしてくる（90分）	授業の内容を整理して完全に理解する（90分）
担当教員			
第8回	「食べさせられはじめていたらしいわよね」～ 述語の階層 長い用言複合体述語を生産することのできる日本語の特徴をみるとともに、言語がどのような階層をもっており、それに基づいて設計されているかを繙く。キーワードとして「主観的／客観的描写」「命題的／モダリティ的表現」を導入する。	用言の前と後ろにつくことができるものをできるだけ多く見つけてくる（90分）	用言に後接する要素がそれぞれどの階層までを許容するか、丁寧に調べてくる（90分）
担当教員			
第9回	「赤ちゃんはどうやって話せるようになるの？」～ 言語修得について・その1 我々は全くの白紙状態から言語を修得していくのでなく、ほとんど完成した状態で生まれてくるという論を紹介し、議論する。第1回は言語修得の直感的説明の誤りを正し、赤ちゃんが母語の音声を獲得していく様子について段階を追ってみていく。	赤ちゃんがことば（特に文法）を修得するときどのように修得するか、一生懸命考えてみる（90分）	「そのあと考えたこと」をがんばって書く（90分）
担当教員			

第10回	「赤ちゃんはどうやって話せるようになるの？」～ 言語修得について・その2 音声を修得した赤ちゃん（我々）はその後、どうやって言語を修得していくのか。「物の名前を覚える」というのがいかに難しいことであるかを実験結果から繙き、その後の修得過程を見る。また臨界期についてもふれる。	赤ちゃんがことば（特に文法）を修得するときどのように修得するか、前回の授業を基礎として一生懸命考えてみる（90分）	「そのあと考えたこと」をがんばって書く（90分）
担当教員			
第11回	「ええっ、あれで『そば』って読むの！？」～ 日本語の表記ひらがなとカタカナの歴史を講じるとともに、数種の文字を使い分ける表記体系をもつ日本語について改めて考え、漢字の音訓や万葉仮名、キラキラネームのしくみについての見方を変える。また日本語史についても簡単に論じる。	ひらがなとカタカナの歴史について調べる（90分）	万葉仮名と変体仮名について説明できるようにする（90分）
担当教員			
第12回	「日本語ってひとつじゃないんですか？」～ 日本語の方言・その1 身近にみられる北海道の方言、および関西の方言について考える。また方言について、その「役割」について各自が自分のこととして考える。	日本になぜ方言があるのか、考えてくる（90分）	配布課題プリントに基づいて、方言を練習してくる（90分）
担当教員			

第13回	「日本語ってひとつじゃないんですか？」～日本語の方言・その2 東西方言・方言周圏論などを紹介し、またあわせて琉球諸語を取り上げることにより、上代・中古日本語との関連について思いを巡らせる。	自分の故郷の方言について考えてくる（90分）	自分の故郷の方言について考え続ける（90分）
担当教員			
第14回	「日本語はウラル・アルタイ言語です・・・か？」～ 日本語のなかま 印欧語における系統樹の考えを基本に説きながら、日本語の系統について、中国語や韓国語との対比を考えながら、一定の結論を出す。	日本語のなかまにはどんな言語があるか、理由つきで考えてくる（90分）	しっかりと言語リテラシー能力がついたか、チェックする（90分）
担当教員			
第15回	1. 全然OKって全然OKですか？」～ 正しい日本語論 巷間でよく話題にされる「ら抜き言葉」や「全然＋肯定」表現を取り上げ、正しい日本語について一定の妥当な意見をもつことができるようになる。 2.「はい、確かに約束します」～発話行為・語用論的機能について 言語行為論の考え方を概観し、「行為としての発話」という面について考える。 「コロンってしたらコロコロしたからバーって行ってギュッてしたの」～ オノマトペの世界 日本語のオノマトペ（の構造・体系）を中心に、いろいろなオノマトペについて考える。 3.「イヌイットの人は雪が見えないって本当ですか」～ いわゆる俗説の検討 ほかに「が」と「は」は主語である、「ありがとう」と声をかけると桃が腐らない、などのトンデモ言説を取り上げ、言語リテラシー能力をつける。 4.「道がどんどん狭くなります」「車だと近いです」～認知言語学緒論 「体験を基にした言語表現」を見つけながら認知的な考え方を概説する。	1.「正しい日本語」があるかどうか、理由つきで考えてくる。 2. 印象的なオノマトペを調べてくる。（合計90分）	1. 結局「正しい日本語」はどこにあるのか、自分で整理する。 2. 他言語のオノマトペについて調べてみる。 3. 微妙な日本語・楽しい日本語を見つけてくる。（合計90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(レポート、小課題など)および授業参加度などの総合評価とする。
その他	0	

教科書

授業中にハンドアウトを配布する。

参考文献

『よくわかる言語学』／窪薗晴夫[編著]／ミネルヴァ書房
『基礎日本語学』／衣畑智秀編／ひつじ書房
『はじめて学ぶ言語学』／大津由紀雄編著／ミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

教室の中だけでなく、ふだんからいろいろと言葉に興味をもつようにしてください。
第1回の授業で評価方法と課題について丁寧に説明するので、受講予定者は必ず出席してください。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語と日本文化					ナンバリング	2326
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）ための、発展科目となる。世界の日本語話者とつながるために日本語文化を理解し、その日本語文化を発信できる国際感覚を身につける（関心・意欲・態度）ことを目指している。英語や中国語などの外国語コミュニケーション能力養成には、母語である日本語の視点から、異言語・異文化の表現の共通点と差異を学び、言語と文化を分析する視点を養う。実用日本語科目群のひとつであり、言語プロフェッショナル科目、異文化コミュニケーション科目に関連する。

授業の概要

この授業は、ことばと文化を分析する方法のひとつとしてメタファーやレトリック、外国語に対訳しづらい日本的な表現に焦点を当て、日本語の背景にある日本文化を探求する。受け身表現と「ある」「なる」、「どうも」「よろしく」「まぁ、ちょっと」等々、日本語ならではの表現だけでなく、出来事や物事をメタファーで見ていくと、日本語母語話者はどのように物事を見立てているのか、日本人の思考方法や価値観、世界観等が見えてくる。外国人が日本語を学ぶ視点、つまり「ソト」から日本語を眺めてみることで、外国語としての日本語にはどのような言語文化があるのかが見えてくる。

到達目標

1. ことばと文化をメタファーから分析する手法で生産語源の仮説を立てることができる。
2. 日本語と英語における基本的メタファーを比較できる。
3. 日本語と英語・中国語などの外国語の諺や慣用句表現の差異と共通点を説明できる。

授業の方法

各授業の前半は、パワーポイントと講義プリントを用いて講義形式で進めるが、後半はグループまたはペアワークで各課題に関して調査・発表し、ディスカッションしていく。プレゼンテーションは3回行い、復習として確認テストを1回行う。

ICT活用

課題や資料提示、質問はGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時までにコメントを添えて個別に返却し、授業で全体の講評を行う。プレゼン等の発表は授業内で講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ことばと文化の関係から日本語文化について考えてみよう。	日本語表現で「ヘンだ」と思っている語や慣用句を考えておく。(90分)	日本語表現の「不思議」をまとめておく(90分)
担当教員			
第2回	ソトから眺める日本語 日本語学習者にとって、日本語の難しさとは何か	外国人が日本語を学ぶ際、どんなことが難しいかを調べておく。(90分)	日本語学習者にとって日本語の音声の難しさをまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語のコミュニケーション 話し相手をどう呼ぶか、謝罪や判断留保など日本語コミュニケーションのマジックワードを考える。	日本語における呼称(英語のyouに対応する)表現のいろいろを10以上考えておく。(90分)	日本語における書きことばと話しことばの呼称を、コンテキスト別にまとめておく。(90分)
担当教員			

第4回	日本語のレトリック 謝罪や勧誘、依頼表現の文化視点	外国人日本語学習者にとって難しい表現はなにかを調べておく。(90分)	日本語における書きことばと話しことばの呼称を、コンテキスト別にまとめておく。(90分)
担当教員			
第5回	日本語からみた日本語の発想Ⅰ 日本文化のウチとソトを確認し、自己の視点中心の日本語と自己を対象化する英語を比べて見よう。	ウチとソトの切り換え基準を確認しておく。(90分)	ウチ、ソト、ヨソの構造をまとめておく。(90分)
担当教員			
第6回	日本語からみた日本人の発想Ⅱ 能動態と受動態：日本語の受身表現の視点を考える。	日本語表現で受身形を用いる場面や状況などを確認しておく。(90分)	日本語の受身表現と能動表現の用い方をまとめておく。(90分)
担当教員			

第7回	ことばと文化を分析する視点 日本語文化を比喩表現から分析してみよう。	日本語の諺で、いかにも日本的だと思われる諺を10以上リストしておく（90分）	日本語の諺と同様の意味の英語の諺をまとめておく（90分）
担当教員			
第8回	メタファーのいろいろⅠ 上下空間のメタファーを考えてみよう	メタファーとは何か、定義とその具体例を調べておく（90分）	日英対照メタファーで「上下」に関する語句や慣用表現をまとめておく（90分）
担当教員			
第9回	メタファーのいろいろⅡ 大小・高低のメタファーを考える。	英語における大小を表わす語句や慣用表現を調べておく（90分）	日本語のメタファーにおける高低・大小と英語の共通点をまとめておく（90分）
担当教員			

第10回	メタファーのいろいろⅢ 英語の動物メタファーについて、グループでプレゼンテーションする。	プレゼンテーション準備をしておく(120分)	外国語と動物のメタファーの共通点と相違をまとめておく(90分)
担当教員			
第11回	メタファーのいろいろⅣ 外国語と日本語の喩えはどこが、どう違うのかをプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)	プレゼンテーションの修正をしておく(60分)
担当教員			
第12回	日本語のユーフェミズム ことばの代替と実体の変化の関係を眺める。	婉曲語法にはどのような表現があるかを調べておく(90分)	日本語における外国語使用や外来語のユーフェミズムをまとめておく(90分)
担当教員			

第13回	日本語のメトニミー 空間的隣接と時間的隣接から誇張法を分析する。	商品や北海道の観光案内など、そのキャッチフレーズから誇張と思われる表現を調べておく(90分)	メトニミーについてまとめておく(90分)
担当教員			
第14回	日本語の擬人法 物語や昔話からの擬人法についてプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)	プレゼンテーションで用いた資料やスライドを修正しておく(60分)
担当教員			
第15回	まとめ レトリックに関する専門用語の確認テストを行う。 日本語母語話者が、外国語を使用するとき、どのような表現が誤解されたり理解されづらいかを確認する。	メタファー、メトニミー、シネクドキ等の専門用語と用例を確認しておく(120分)	確認テストの間違いを訂正しておく(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題とプレゼンテーション50%、ディスカッションや教室作業を含む授業参加度30%、確認テスト20%。
その他	0	

教科書

プリントを配布する。

参考文献

『日本語文法の発想』森田良行、ひつじ書房。『レトリックと人生』G. レイコフ他、大修館書店。『認識のレトリック』瀬戸賢一、海鳴社。このほか授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語ビジネスライティング					ナンバリング	3306
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

出口教育の一環として、文章作成能力をみがく科目である。ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている（知識・技能）と関連があり、ビジネスシーン上での文章作成能力を修得する科目である。「日本語表現技法Ⅱ（文章表現）」を基にし、さらにビジネスライティングを学ぶ科目である。

授業の概要

本科目は、日本語でビジネスをする上で欠かせない文書作成の基本を学ぶ。電子媒体が主流の今日であっても、仕事でやりとりする文書には一定の様式とマナーがある。情報技術の進展とともに、ビジネス文書の書き方は少しずつ簡略化され、言葉遣いも変化してきているとはいえ、相手に失礼な表現や言い回し、敬語の誤った使い方では、仕事への信頼を失うことがある。そこで、ここでは、敬語について理論的に学ぶとともに、日常業務における依頼・謝罪・お礼・断り・問い合わせ等の社外文書と、要請や報告、連絡等仕事をスムーズにするための社内文書の基本的な書き方を身に付けていく。

到達目標

1. 社会に存在する様々なビジネスライティングについて理解できる。
2. 各講義の目標とするライティング技術を習得し、実際的な文書を作成できる。
3. 文の正誤・適否・美醜等が区別でき、適切な言葉選びを使用できる。
4. しっかり書かれた文章を正確に読むことができる。

授業の方法

1. 講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。
2. 説明に基づいて実際に各自で文章作成・添削・相互評価を行う。
3. 完成させた文章は提出して担当教員の添削を受け、指定されたものはすべて締め切りまでに提出する。

ICT活用

課題作成・提出・評価はGoogle classroomの諸機能を用いて行う。また一部、電子教科書を採用してより良い理解を図る。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

・作成した課題に対してはすべてコメントをつけて返却する。
・作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本授業の目的・内容、および評価方法を確認する。 また1年次に履修した「日本語表現技法Ⅱ（文章表現）」教科書「機能する文章」のことを復習する。	就職課で『就職支援BOOK2023』を入手しておく。 教科書を入手しておく。（合計30分）	授業で学んだことの復習・確認（150分）
担当教員			
第2回	敬語・基礎編（1） ・現代日本語の敬語概説：「尊敬語・謙譲語・丁寧語」の違いについて理論的・体系的に講義する。 ・教科書例題を実際に解いてみる。	教科書に目を通しておく（30分）	授業時に学習したやり方で教科書の例題を解く（150分）
担当教員			
第3回	敬語・基礎編（2） ・教科書練習問題 4級・3級レベル練習問題を、実際に授業で習った解きかたで理論的・体系的・フローチャートのように解く練習をする。	教科書に目を通しておく（30分）	授業時に学習したやり方で教科書の例題を解く（150分）
担当教員			

第4回	敬語・基礎編(3) ・教科書練習問題 2級レベル練習問題を、実際に授業で習った解きかたで理論的・体系的・フローチャートのように解く練習をする。	教科書に目を通しておく(30分)	授業時に学習したやり方で教科書の例題を解く(150分)
担当教員			
第5回	敬語・基礎編(4) ・教科書確認問題を、実際に授業で習った解きかたで理論的・体系的・フローチャートのように解く練習をする。	教科書に目を通しておく(30分)	授業時に学習したやり方で教科書の例題を解く(150分)
担当教員			
第6回	敬語・基礎編 復習テスト 教科書『わかったつもり』:第1章「読み」が深まらないのはなぜか？ 社内文書を書いてみよう！(1):社内文書の基本形を見てみよう	復習テストの準備(150分)	復習テストの確認(30分)
担当教員			

第7回	教科書『わかったつもり』:第2章「読み」における文脈のはたらき 社内文書を書いてみよう！(2):「通知文書」を書いてみよう	社内通知文書について全体像を見ておく(60分)	社内通知文書に書く内容について考える(120分)
担当教員			
第8回	教科書『わかったつもり』:第3章 これが「わかったつもり」だ(前半部分) 社内文書を書いてみよう！(3):みんなの「通知文書」を見てみよう	前回の教科書の内容を復習しておく(60分)	みんなの「社内通知文書」についての課題(120分)
担当教員			
第9回	教科書『わかったつもり』:第3章 これが「わかったつもり」だ(後半部分) 社内文書を書いてみよう！(4):「指示文書」を書いてみよう	前回の教科書の内容を復習しておく(60分)	「社内指示文書」製作・提出(120分)
担当教員			

第10回	教科書『わかったつもり』:第4章 さまざまな「わかったつもり」	前回の教科書の内容を復習しておく(60分)	今回の教科書の内容を復習しておく(120分)
担当教員			
第11回	教科書『わかったつもり』:第5章「わかったつもり」の壊し方 社内文書を書いてみよう！(5):みんなの「指示文書」を見てみよう	前回の教科書の内容を復習しておく(60分)	みんなの「社内指示文書」に関する課題(120分)
担当教員			
第12回	実際の文章を丁寧に読んでみよう！(1):本学過去入試問題(国語)に挑戦	前回の教科書の内容を復習しておく(60分)	今回の授業内課題の復習(120分)
担当教員			

第13回	社外文書を書いてみよう！(1)：依頼文書	依頼文書にとって大切なことを考えておく(60分)	「社外依頼文書」制作・提出(120分)
担当教員			
第14回	実際の文章を丁寧に読んでみよう！(2)：現代文の問題に挑戦	教科書の内容全体を復習しておく(60分)	今回の授業内課題の復習(120分)
担当教員			
第15回	社外文書を書いてみよう！(2)：みんなの「依頼文書」を見てみよう	依頼文書にとって大切なことを改めて考えておく(60分)	みんなの「社内指示文書」に関する課題(120分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	敬語テスト・提出物・授業参加度の総合評価
その他	0	

教科書

『日本語検定公式領域別問題集 改訂版 敬語』／日本語検定委員会(監修)／東京書籍
『わかったつもり 読解力がつかない本当の原因』／西林克彦／光文社新書

参考文献

『ビジネス文書 書き方&マナー大事典』／神谷洋平（監修）／学研プラス
『いちばん伝わる！ ビジネス文書の書き方とマナー』／山﨑政志（監修）／高橋書店

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	現代日本語論					ナンバリング	3328
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

現代日本語の変化を説明できるようになるため、実際の日本語使用に主眼を置いた高度な日本語の運用能力を身につける（知識・技能）ための科目である。社会人基礎力としての日本語表現の向上を目指し、目的や場に合わせた適切な日本語運用を身につけ（知識・技能）、日本語を用いた日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に他者との共生・協働することを可能とする柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えて(関心・意欲・態度)いく。
「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」「日本語コミュニケーション技法」「日本語学」に続く科目で、「実用日本語」分野科目である。

授業の概要

この授業は、現代日本語の変化を社会言語学的視点で分析し、ことばと社会の関係、つまり、ことばは社会を映し出す鏡であることを検証していく。日本社会における独特な「役割語」を糸口に、社会的立場による言語使用のバラエティーから、対人関係の親疎やポリティカルコレクトネスと差別語、女ことば等から、社会変化ともに変化することばと変わらないことばの核を眺めていく。受講生は指定テーマごとに調査・発表をし、ディスカッションしていく。たとえば、新語流行語と言語消費、若者ことばの造語法、言語景観やピクトグラムから多言語社会における言語サービスのあり方、アイヌ語や手話など少数派とされる人々の言語権を考えていく。

到達目標

1 敬語も含めた「正しい」日本語運用を意識化できる。
2 現代日本語の変化に敏感に気づけるようになる。
3 若者ことばとフォーマルな表現等、場に合わせた使い分けができる。
4 方言を含めた「役割語」が説明できる。

授業の方法

各授業の前半はスライドや配布プリントを使って講義形式で行い、後半はその項目に関連したワークショップと振り返り作業を中心に行う。受講生には課題発表やグループでのプレゼンテーション（2回）と確認テスト（1回）を予定している。

ICT活用

課題や資料配付、質問等はGoogle Classroom を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業時にコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション：社会言語学の視点 現代日本語の変化を考える。自分の日本語運用での問題点はなにかをグループごとに意見交換していく。	近年の日本語のことば遣いの変化に関する問題を具体的に3つ以上考えてくる（90分）	スマホにおける各自の日本語文の使用パターンをメモしておく（90分）
担当教員			
第2回	日本語表現の変化Ⅰ 現代の日本語をめぐる諸問題について概説する。 「正しい日本語」・「美しい日本語」の視点とは	正しい日本語とはどのようなことか、事例を2つ以上あげ、説明できるようにしておく（90分）	ゆれている日本語表現を5つ以上探して、使用事例を書いておくこと（90分）
担当教員			
第3回	日本語表現の変ⅡⅡ 「気になる言い方」について、自身の言語表現と照らし合わせ、その運用傾向を分析する。	「すごっ」「寒っ」といった話し言葉における形容詞の感情表現の文法規則を考えておく（90分）	世代差のある日本語表現を5つ選び、その特徴を考えておくこと（90分）
担当教員			

第4回	役割語と現代の若者ことば 役割語から、ことばとアイデンティティーについてを講義する。受講者はグループごとに、近年の若者ことばの特徴とその使い方を発表し、世代別の言語運用の特徴を確認していく。	現代の若者語はどのようにして作られ、どのような場で用いるのか、自身の言語使用経験から分析しておく(90分)	現代の若者ことばの語構成と平安期の語構成の共通点をまとめておく(90分)
担当教員			
第5回	日本語における方言の役割 方言とはどのような役割をになっているのか、災害時の避難所コミュニティーや医療用語から概説する。	北海道方言の特徴を具体例を10以上あげて説明できるように整理しておくこと(90分)	北海道方言の特徴とその用例(会話場面)を20作成し、使い方が容易にわかるように整理しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	方言コミュニケーション 受講生は各自が選択した方言の特徴とその使い方をプレゼンテーションし、日本の代表的な方言の使い方を共用する。	指定の各方言の特徴を、その具体的使用例をあげ、プレゼンの準備をしておく(90分)	方言の格差について、ネットではどのような地位が与えらているかを調べておくこと(90分)
担当教員			

第7回	ことば遣いの効果的な活用とは 「女ことば」をはじめ日本語の多様な役割語を通して、心理的に結び付けられたスピーチスタイルとその効果を分析していく。	ある表現が特定の人物像を造るキャラ語を8つ以上取集しておくこと(90分)	多様な表現を分類し、その分類基準を説明できるようにしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	適切な表現とは ことばによる差別や不適切な表現とは何か。マイクロアグレッションのいろいろを自身の体験と他者の言語感覚についてディスカッションしていく。	差別語や放送禁止用語を10以上リストアップし、なぜそれが該当するのか、そしてその言い換え表現を2種類以上、考えておくこと(90分)	不適切とされる表現について、日本語と英語辞書の記述を確認しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	日本の言語景観Ⅰ 学生は収集した言語景観を発表する。 それらの日本語表現または外国語表現から日本社会の変化や日本語文化を分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備(スライド作成等)をしておく(90分)	公共施設における掲示文や説明文の書き換えをしておく(90分)
担当教員			

第10回	日本の言語景観Ⅱ 学生は商品や商品説明に記された「問題な」日本語文をプレゼンする。 そこから、日本語のレトリックを分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備をしておくこと(90分)	日本語のレトリックを雑誌やネットニュース等から5つ収集しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	外国語としての日本語 外国語としての視点で日本語を眺め、日本語の比喩表現やレトリックを確認し、英語比喩と比較したものごとの「見立て」方の違いと共通点を考える。	外国人が日本語を学ぶうえで難しいことはどのような学習項目か具体的に調べておくこと(90分)	公的機関の情報を「やさしい日本語」と「平易な日本語」で書き換えておくこと(90分)
担当教員			
第12回	日本語会話の特徴 共和型コミュニケーションと対話型コミュニケーションを比較し、会話分析をしてみる。	察しや場を読むといった高コンテキスト文化とはどのような情報共有かを説明できるようにしておく(90分)	市役所の広報誌やHPに掲載されている「お知らせ」を読み、子供や高齢者が一読で理解できる文に訂正しておく(90分)
担当教員			

第13回	日本の絶滅危機言語 アイヌ語	日本語の中のアイヌ語またはアイヌ語をルーツする借用語を30以上記しておく(90分)	アイヌ語で簡単な挨拶や感情表現ができるようにしておく(90分)
担当教員			
第14回	ポライトネスとは 日本語コミュニケーションにおける敬語、敬意表現と丁寧さを考える。	敬語体系を書籍やサイトで読んで復習しておくこと(90分)	タスクシートを完成しておく(90分)
担当教員			
第15回	確認テストとまとめ	復習しておくこと(120分)	確認テストの誤答を訂正し、補足説明を記しておくこと(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	グループ発表を含めた授業参加度50%、課題20%、確認テスト30%。
その他	0	

教科書

講義プリントを配布する。

参考文献

文化庁国語課『国語に関する世論調査』各年版、岡本佐智子『日本語教育能力試験に合格するための社会言語学10』2008、アルク。吉岡泰恭夫『コミュニケーションの社会言語学』ほか、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

Google Classroomに資料配信や課題詳細を提示するので、課題を投稿すること。

備考欄

言語景観の採取については、著作権や個人情報等に十分配慮すること。

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語教育法Ⅰ					ナンバリング	3351
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける（知識・技能）ことを目的とした日本語教員養成科目で、「日本語教育法Ⅱ」「日本語教育演習」科目に発展する基礎科目である。日本語教員志望者だけでなく、国内外の企業で日本語非母語話者と日本語でコミュニケーションするために、日本語教育方法の知識を活かして、世界の日本語話者と協働していけるコミュニケーション能力を養成していく（思考・判断・態度）ために、ここでは外国語教授法と音声指導法を中心に学ぶ。

授業の概要

この授業は、日本語を外国人に教えてみたい人のための日本語教授法入門である。日本語母語話者であれば、誰でも効果的に日本語を教えられるわけではない。今まで無意識に使っていた日本語を外国語の視点で分析する力が必要である。たとえば、「学校へ行く」と「学校に行く」のように、助詞の「へ」と「に」の違いや、基本的な「は」と「が」の使い分けなど、外国人に日本語を効率的に教えるには、日本語に関する言語学的専門知識と、それをどのように教えていけば学習者に理解・習得しやすいのか、日本語教授法の知識も求められる。この講義で、日本語の特徴とその教え方の「これだけは」知っておきたい基礎知識を身につけていく。

到達目標

1. 日本語の音声特徴が説明できる。
2. 日本語非母語話者の母語干渉を受けた音声傾向を述べることができる。
3. 伝統的な日本語教授法や外国語教授法の長所・短所が説明できる。

授業の方法

授業では、プリントやスライドを使用した講義形式を柱にその演習を行う。また、代表的な日本語教授法を各回で少しずつ紹介し、その教授法で外国語学習を体験し、グループごとに各教授法のメリット・デメリットをディスカッションする。毎回、専門用語等授業内容の復習として小テスト(確認テスト)を行う。

ICT活用

Google Classroomを活用し、課題や資料提供、質問の受付を行う。課題も含めて授業では、動画サイトで日本語学習者に対する種々の日本語教授法例を閲覧して学んだり、オンラインで海外の日本語教育機関の日本語学習者と日本語交流したりして、日本語教育の方法を考える。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題には評価やコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評をする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	日本語を学ぶ人々 海外における日本語教育の現状と日本語教育政策	国際交流基金サイトで海外の日本語教育事情を閲覧しておく。(90分)	配布プリントを読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第2回	日本語の音声Ⅰ 日本語の母音と子音、音素、無声化(日本語の子音と調音位置・調音法) [教授法1:文法翻訳法]	発音器官の名称と調音点・調音法を調べておく。(90分)	日本語の音声記号が読めるようにしておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語の音声Ⅱ 日本語の音節、リズム、アクセント、イントネーション [教授法2:直説法]	日本語の音節やアクセントについて調べておく。(90分)	条件異音の特徴と事例をまとめておく。(90分)
担当教員			

第4回	日本語初級学習者の音声 中国語母語話者の日本語音声の特徴 中国で日本語を学ぶ学習者とオンラインで日本語交流を行う	中国語母語話者の日本語音声の特徴を調べておく。(90分)	中国語の母語干渉を受けた日本語音声の特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第5回	初級日本語音声・会話の教え方 母語話者別の日本語音声特徴と指導 [教授法3:オーディオリンガルアプローチ]	講義プリントを読んでおく。(90分)	国際音声記号が読めるようにしておく。(90分)
担当教員			
第6回	コミュニケーションのための創造的会話練習 初級レベルのロールプレーからタスク練習まで [教授法4:コミュニカティブアプローチ]	広義のコミュニカティブ・アプローチとは何か、調べておく。(90分)	コミュニカティブ・アプローチの特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			

第7回	初級レベルの文字・表記 仮名と漢字の教え方 ［教授法5：TPR］［教授法6：サイレントウェイ］	配布プリントを読んでおく。（90分）	日本語初級レベル指導での助詞「は」と「が」の使い分けをまとめておく。（90分）
担当教員			
第8回	日本語の文法的特徴Ⅰ 文法的特徴：動詞、主語と主題 ［教授法7：CLL］	日本語の動詞分類を調べておく。（90分）	日本語初級レベル指導での助詞「は」と「が」の使い分けをまとめておく。（90分）
担当教員			
第9回	日本語の文法的特徴Ⅱ 形容詞、指示詞 ［教授法8：ナチュラルアプローチ］	日本語教育の形容詞の分類を調べておく。（90分）	形容詞の分類と使い方を復習しておく。（90分）
担当教員			

第10回	日本語の文法的特徴Ⅲ 存在文と所在文 ［教授法9：サジェストペディア］	助詞「に」と「で」の用法を調べておく。（90分）	ここまでの教授法の各特徴をまとめておく。（90分）
担当教員			
第11回	日本語の文法的特徴Ⅳ 受身 ［教授法10：内容重視の教授法］	日本語表現の受身用法を調べておく。（90分）	学習目的・学習者別の初級学習ニーズを考えておく。（90分）
担当教員			
第12回	日本語の文法的特徴Ⅴ 助詞の使い分け ［教授法11：学習者中心の教授法］	助詞「は」「が」「を」の使い分けを調べておく。（90分）	初級レベルの助詞の練習問題10問を作成する。（90分）
担当教員			

第13回	文字・表記の教え方 仮名、漢字の導入方法	似ている平仮名・カタカナとその教え方を考えておく。(90分)	漢字語彙の導入方法を確認しておく。(90分)
担当教員			
第14回	日本語の語彙体系 語種と語構成	日本語の4つの語種を調べておく。(90分)	理解語彙と使用語彙をまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 指定する学習項目別の教え方を考え、ペアまたはグループで発表する。	課題発表準備。(120分)	各教授法をまとめておく(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題発表を含めた授業参加度50%、確認テスト50%。
その他	0	

教科書

講義プリントを配布する。

参考文献

高見澤孟他『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』2016、アスク出版。高見澤孟『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』2016、アスク出版。ほか授業で適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語教育法Ⅱ					ナンバリング	3352
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	伊藤　寛						

授業の位置づけ

この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける（知識・技能）ことを目的とした日本語教員養成の科目で、「日本語教育法Ⅰ」に続く発展科目であり、実践的な「日本語教育演習」科目への基礎となる。日本語教員志望者だけでなく、国内外の企業で日本語非母語話者と日本語でコミュニケーションするために、日本語教育方法の知識を活かして、世界の日本語話者と協働していけるコミュニケーション能力を養成していく（思考・判断・態度）。

授業の概要

この授業では、「日本語教育法Ⅰ」に続き、日本語を母語としない人々に効果的に日本語を教えるために、代表的な外国語教授法の理論を理解し、その応用として、学習ニーズ別の日本語教育方法を学ぶ。受講生は、まず、日本語学習者の立場に立つことの意味を理解し、言語を教える側と学ぶ側の両者の立場から教授法とその応用について理解を深める。その上で、現在日本の国内外で多く使われている日本語教材と代表的な外国語教授法との関係を捉えなおし、実践の場で生かせる日本語学習支援のあり方を考えていく。

到達目標

1. 日本語初級レベルの指導ができる。
2. 日本語学習目的別に適した教材が選択できる。
3. 日本語学習レベルに対応した練習教材が選択（作成）できる。
4. 学習項目に合わせた練習方法に種々の教授法を工夫・応用することができる。

授業の方法

講義プリントとスライドを使った講義形式とその応用演習をペアまたはグループで行う。応用演習は課題項目を指定し、授業内で発表するなどの方法で行う。
また、講義内容に合わせて適宜小テストやミニレポート（授業内レポート）を実施するほか、前半のまとめ（第7回目）と全体のまとめ（第15回目）で理解度確認テストを実施する。

ICT活用

学習項目に沿って、動画サイトから実際の指導方法(モデル授業)を視聴し、実践のイメージ造りを行う。
必要に応じて、日本語学習におけるAIの活用にも言及する。
Google Classroomを活用して、授業内容の質問のほか、課題および講義資料等を配信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

事前課題については授業時に解説を行い、提出課題については次回の授業時までにコメントを添えて個別に返却する。
授業時での発表の場合は、発表終了後に授業内で講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション： 日本語学習者について知るため、学習者の立場で外国語学習を捉えなおす。	「日本語教育法Ⅰ」で学んだ事項について、自らの理解を整理しておく。(90分)	自らの外国語学習の経験を通して、外国語(日本語)学習者の理解のあり方を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	日本語教育におけるコースデザインⅠ： 学習者の学習目的に沿ったコースデザインについての基本を理解する。	コースデザインに関する配布資料を読み、事前課題に回答する。(90分)	コースデザインと学習者についての理解の関連性を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	日本語教育におけるコースデザインⅡ： 学習レベルごとに求められる目標について、文化庁「日本語教育の参照枠」などを通して理解する。	文化庁「日本語教育の参照枠」及び国際交流基金「JFスタンダード」を調べておく。(90分)	「日本語教育の参照枠」をもとに、日本語能力試験のN4、N3、N2レベルに求められる内容をまとめる(90分)
担当教員			

第4回	日本語教育とシラバスⅠ： 学習目的に即したさまざまなタイプのシラバスについて理解する。	外国語教育シラバスに関する配布資料を読み、事前課題に回答する。(90分)	タイプ別シラバスについて、それぞれの特徴と具体例を整理する(90分)
担当教員			
第5回	日本語教育とシラバスⅡ： 構造シラバスと機能シラバスを取り上げ、代表的な教材の構成について、その内容と特徴を理解する。	初級段階で学ぶことが望まれる日本語文型を30程度調べておく。(90分)	学習項目を踏まえて、構造シラバス、機能シラバスと教授法との関連を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	日本語教育とシラバスⅢ： タスクシラバスを取り上げ、can-doとの関係や教育方法について考える。	文化庁「日本語教育の参照枠」で示された、A1、A2レベルのcan-doを調べておく。(90分)	タスクシラバスによる授業を想定し、学習レベルにあわせてcan-doを作成する(90分)
担当教員			

第7回	日本語教科書の学習項目とシラバス: 具体的に代表的な教科書の学習項目を取り上げて、シラバスのあり方を検討する。 また、前半のまとめとして、確認小テストを実施する。	配布された教科書に関する資料をもとに、事前課題に回答しておく。(90分)	講義で取り上げた教科書の学習内容とシラバスとの関係をまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	学習レベルごとの学習項目の要点: 初級、初中級、中級といった学習レベルの学習項目について理解し、そこで生じた疑問点や課題についてディスカッションを行う。	学習レベル(初級、初中級、中級)と日本語能力試験レベルとの対応を調べておく。(90分)	それぞれの学習レベルで必要とされる語彙と文型を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	初級の教え方Ⅰ: 日本語教育における動詞・形容詞の分類と活用のタイプを理解し、その運用を考える。	初級の動詞に関する配布資料を読んで、事前課題に回答しておく(90分)	自他の対応のある動詞の例文を作成する。(90分)
担当教員			

第10回	初級の教え方Ⅱ: 初級で扱う具体的な学習項目を設定し、その基本練習について検討し、具体的な方法を考える。 (グループまはペアによる発表を行う。)	パターン・プラクティスについて調べておく。(90分)	講義で取り上げた文型について、異なるタイプのドリル練習問題を作成する。(90分)
担当教員			
第11回	初級の教え方Ⅲ: コミュケーション能力育成のための応用練習の方法を考える。	コミュケーション能力について、これまでどのように定義されているかを調べておく。(90分)	具体的な場面を設定して、コミュケーション活動を行う練習課題を考える。(90分)
担当教員			
第12回	初中級の学習内容: 初中級とはどのようなレベルかを考え、初級から中級への架け橋としての学習内容を検討する。	第8回目の学習内容から、初中級レベルとはどのような能力が求められるかまとめておく。(90分)	語彙や文法項目を検討し、初中級レベルの読み物教材(400字程度)を作成する。(90分)
担当教員			

第13回	中級の教え方Ⅰ： 中級レベルの学習項目について基本的な考え方を理解し、その上でグループまたはペアで学習活動を考え、発表する。	中級レベルで取り上げるべき日本語文型を20程度、調べておく。(90分)	中級レベルの日本語文型の練習問題を作成する。(90分)
担当教員			
第14回	中級の教え方Ⅱ： 中級レベルにおけるコミュニケーション活動のための学習内容を踏まえ、聴解教材について検討する。	市販の中級レベルの聴解教材を参考に、語彙と文型をチェックしておく。(90分)	WEBニュースなどを参考に、1～2分程度の聴解教材を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 本授業の学習内容を振り返り、その理解度確認テストと解説を行う。	この授業で扱った内容に関する課題に回答して、内容の理解度を確認しておく。(90分)	具体的な日本語学習者を想定し、その立場から、日本語教授法についての考えをまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第7回目および第15回目に、授業内容に関する確認テストを行う。〔20%+30%=50%〕 学習内容や課題に対する取り組み(事前学習、受講の姿勢など授業への参加度を含む)〔50%〕
その他	0	

教科書

講義プリントを配布する。
授業時に使用した講義プリントとプレゼンテーション資料は、Google Classroomで配信する。

参考文献

WEB資料：文化庁「日本語教育の参照枠 報告」。国際交流基金「JF日本語教育スタンダード」。ほか。
文献資料：『中級日本語文法と教え方のポイント』市川保子、スリーエーネットワーク。『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』庵功雄他、スリーエーネットワーク。『日本語教育のミカタ』荒川洋平、凡人社。『日本語教師の役割/コースデザイン』国際交流基金日本語教授法シリーズ。その他、日本語教科書なども含め、授業時に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語教育演習					ナンバリング	3360
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部　仁美						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける」ための科目である。この授業は、課外に行われる日本語教育実習（教壇実習）で自律的な学びができるようにするために、日本語教育の実際を模擬授業を通して学ぶ。模擬授業準備は指定された学習項目についてペアで行うことを基本とする。授業では現職日本語教師も参加して、受講者の模擬授業に対して講評してもらう予定だが、学生同士が互いの模擬授業に対して、アドバイスができるようになることを目指す。

授業の概要

この授業は、「日本語教育法Ⅰ・Ⅱ」の発展科目で、日本語教員養成課程を修了希望する学生を対象とし、日本語教育実習を行うための準備科目である。実習前に教案の書き方や副教材の作り方、学習者管理の基礎を演習を通して学びながら、初級レベル学習項目で定着度が低い文法等の模擬授業を行い、その振り返りを行う。実習は課外に日本語教育機関で行うため、別途事前指導と事後報告会を開く。

到達目標

1. 日本語初級レベルの授業計画が立てられる。
2. 模擬授業の振り返りから改善方法を見つけることができる。
3. 授業デザインとクラス運営に必要な基礎知識を身に付け、その専門性を理解できる。

授業の方法

日本語教育見学・教育実習の前に、最小限の日本語教育方法・日本語教育支援者としての態度を身に付けてもらうため、模擬授業を中心に、できるだけ実践的なクラスワークの基本を学ぶ。

ICT活用

模擬授業はスライドを作成し、副教材作成・各自の振り返りはGoogle Classroomの課題提示に投稿する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

模擬授業後に講評するだけでなく、履修者が作成するルーブリックで相互評価する。課題のフィードバックは、コメントを添えて個別に返却するだけでなく、よいものはクラスで共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション日本語教育実習とは 多様な日本語学習者および学習目的別の留意事項	文化庁サイト『日本語教育の参照枠』を読んでおく。(60分)	国内の『日本語教育の概要』および、国際交流基金サイトで『海外における日本語教育の現状』をまとめておく。(60分)
担当教員			
第2回	授業見学の視点 授業動画から、授業見学のポイントと態度を話し合う。	初中級クラスの指定の授業動画を見ておく。(60分)	学習者管理について、教師のテクニックをまとめておく。(60分)
担当教員			
第3回	学習者対象別の授業方法 多様な学習目的・目標と教育方法の選択：日本語授業動画から、母語別学習者クラスと多国籍学習者クラスの授業方法を比較する。	指定の授業動画を観察して、タスクシートを記入しておく。(90分)	初級クラスの教室用語とティーチャートークの特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			

第4回	授業準備1：教材準備 学習目的と指導項目に合った教材選択（教材分析・活用）	指定された学習項目のレッスンプランを作成しておく。（90分）	レッスンプランを修正し、副教材を改善しておく。（90分）
担当教員			
第5回	授業準備2：教案の書き方	レッスンプランからより詳細な45分授業案を作成しておく。（120分）	教案を修正・改善し、45分授業に調整しておく。（60分）
担当教員			
第6回	模擬授業1 模擬授業の振り返りと意見交換	模擬授業準備をしておく。（120分）	振り返りレポートを書く。（60分）
担当教員			

第7回	模擬授業2 模擬授業の振り返りと意見交換	模擬授業準備をしておく。(120分)	振り返りレポートを書く。(60分)
担当教員			
第8回	教壇実習と授業準備1 学習項目と教案作成	指定された学習項目の教案を作成しておく。(120分)	教案を改善しておく。(90分)
担当教員			
第9回	教壇実習と授業準備2 日本語初級レベルの学習項目別教材準備	図書館で初級レベルのテキストと副教材を5冊選び、教材分析をしておく。(120分)	指定するテキスト比較をして優先学習目的を比較をしておく。(90分)
担当教員			

第10回	模擬授業3 振り返りと意見交換	模擬授業準備をする。(120分)	教案を改善しておく。(90分
担当教員			
第11回	模擬授業4 振り返りと意見交換	模擬授業準備をする。(120分)	教案を改善しておく。(90分
担当教員			
第12回	模擬授業5 振り返りと意見交換	模擬授業準備をする。(120分)	教案を改善しておく。(90分
担当教員			

第13回	教壇実習と授業の実際 日本語教育機関での見学のポイント	授業動画で教師の学習者管理をまとめておく。(90分)	教師主導の練習と学習者定着についてまとめておく。(90分)
担当教員			
第14回	教育実習 教育実習の振り返りと意見交換	教育実習日誌を清書しておく。(90分)	教育実習日誌のフィードバックに対処しておく。(90分)
担当教員			
第15回	教育実習での学び 教育実習の振り返りと意見交換	教育実習で作成した教案、副教材等を整理しておく。(90分)	課外の教育実習に向かって、教科書分析をしておく。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度) 50% 課題 50%
その他	0	

教科書

『できる日本語初級・初中級』『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版本冊』『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版教え方の手引き』スリーエーネットワーク、国際交流基金『いろどり』、文化審議会国語文科会『日本語教育の参照枠 報告』ほか、適宜紹介する

参考文献

松岡弘監修、庵功雄・高梨信乃『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク、グループ・ジャマシィ編『日本語文法辞典』くろしお出版、ほか、授業で適宜紹介する

履修条件・留意事項等

自己都合での教育実習日程変更はできません。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	キャリア形成　実用日本語						
科目名	日本語教育演習Ⅱ					ナンバリング	3362
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、日本語教員養成課程修了見込み者を対象とし、日本語教育実習における事前・事後指導を目的として行う。日本語を母語としない人々への日本語教育のさまざまな教授方法を確認し（知識・技能）、多文化を背景とする日本語学習者への学習指導では異文化コミュニケーション能力も求められている（思考・判断・表現）。教室活動においてはグローバルで柔軟なコミュニケーション能力が欠かせない（関心・意欲・態度）。こうした日本語教育の現場で求められている日本語教育の専門家としての実践的知識や態度を身に付けていく。

授業の概要

課外に日本語教育機関において、初級中後期レベルを中心とした日本語学習者を対象に日本語教育実習を行う。実習先の教育機関では使用テキストやコースデザイン等が異なるため、本授業では定着しづらい学習項目を取り上げ、教育実習授業に備えておく。
なお、教育実習授業前には、課外にも模擬授業を行う。

到達目標

1. 学習ニーズとレベルに合った教案が書ける。
2. 授業の振り返りができ、具体的な改善案が書けるようになる。
3. 日本語教育に必要な専門知識を探求し続けていく学習姿勢が身につく。

授業の方法

学外の日本語教育機関で、実際の授業を使って日本語教育実習を行う。そのため、教授法やクラス運営方法など実習先の日本語教育方針を優先する。実習生は事前に授業見学と指導教員との打ち合わせを行い、実習後は評価を受ける。こうした学外の日本語教育実習が成功するために、本授業では指定学習項目の教案作成と教材作成、模擬授業を行い、他の学生から評価をもらうだけでなく、録画された自身の授業から自己評価を行う。作成した教案や副教材、授業の振り返りは逐次「実習日誌」に記録し、提出して授業担当教員から指導を受ける。

ICT活用

Google Clasroomを活用し、教材資料、文献を配信する。模擬授業は録画し、ピアレビューしていく。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

模擬授業はその場で助言し、実際に改善モデルやヒントを示す。十分ではない教案は課外に個別指導を受け、「使える」教案になるまで何度もコメントを記して修正版を提出してもらう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 国内の日本語学習数数の推移	出入国在留管理庁サイトから、最新の出入国在留関係統計を読んでおく(90分)	在留外国人数上位の母語と、その母語干渉を受けた日本語の特徴を確認しておく(90分)
担当教員			
第2回	初級レベルの授業Ⅰ 「て形」導入と定着のための授業 教授法の選択と副教材の使い方	「て形」導入と定着のための教案を作成する(150分)	教案の書き直し(30分)
担当教員			
第3回	初級レベルの授業Ⅱ 「受け身形」の導入と定着のための授業	「受け身形」の導入と定着練習の教案を作成する(120分)	教案の修正を行い、再提出する(60分)
担当教員			

第4回	初級レベルの授業Ⅲ 授受動詞の導入と練習授業	授受動詞「くれる」の教案を作成する（90分）	授受動詞「Vてくれる」の教案作成（90分）
担当教員			
第5回	初級レベルの授業Ⅳ Vてくれる／Vてもらうの導入授業	教案および副教材を作成する（150分）	教案を修正し、再提出する（30分）
担当教員			
第6回	初級レベルにおける発音クリニックⅠ 学習者の母語別指導	日本語の発音教材を作成する（90分）	中国語、タイ語、ベトナム語話者の日本語音声特徴を調べておく（90分）
担当教員			

第7回	初級レベルにおける発音クリニックⅡ ベルボトナル法（VT法）による指導	日本語の拍・リズム・イントネーションについて復習・確認しておく（90分）	VT法による中国語母語話者の指導例を作成しておく（90分）
担当教員			
第8回	初級後期レベルのリーディング指導 読解教材と速読の方法	AIを使って読解教材を作ってみる（90分）	AIを使って初級レベル（B1.2）の読解能力測定基準をつくってみる（90分）
担当教員			
第9回	初級レベルのライティング指導 ライフヒストリーを書く指導例から	日本語B1レベルの理解語彙を確認しておく（90分）	作文入力時の誤用傾向を確認しておく（90分）
担当教員			

第10回	模擬授業Ⅰ 教育実習先機関からの授業計画に従い、予定された実習授業項目を行い、ピアレビューする。	実習先から指定された学習項目の教案・副教材を作成しておく(90分)	教案を修正して、再提出する(90分)
担当教員			
第11回	模擬授業Ⅱ 教育実習先機関からの授業計画に従い、予定された実習授業項目を行い、ピアレビューする。	指定された学習事項の教案を作成しておく(90分)	本番の教育実習に備えて、教案と教材を書き直しておく(90分)
担当教員			
第12回	模擬授業Ⅲ 教育実習先機関からの授業計画に従い、予定された実習授業項目を行い、ピアレビューする。	指定学習事項の教案を作成しておく(90分)	教案を改善し、再提出する(90分)
担当教員			

第13回	模擬授業Ⅳ 教育実習先機関からの授業計画に従い、予定された実習授業項目を行い、ピアレビューする。	指定学習項目の教案を作成する（90分）	録画された模擬授業動画を観察して振り返る（90分）
担当教員			
第14回	模擬授業Ⅴ 教育実習先機関からの授業計画に従い、予定された実習授業項目を行い、ピアレビューする。	教案を作成しておく（90分）	録画された授業動画で模擬授業を振り返る（90分）
担当教員			
第15回	まとめ これまでの模擬授業で録画された授業動画ダイジェストを見て、改善点を確認する。	各自の模擬授業の改善点を具体的にまとめておく（120分）	実習日誌を提出する（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	教案・教材作成・模擬授業60%、実習振り返り(実習日誌)40%
その他	0	

教科書

必要に応じて、適宜資料を配布する。
本学図書館には日本語学習の定番教科書『みんなの日本語』『できる日本語』などがそろっているので、一度は熟読することを勧める。

参考文献

実習授業に合わせて、動画サイトの授業動画も含めて模擬授業の学習項目ごとに適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

日本語教育実習は自己都合で日程や代理等、いっさいの変更はできません。実習期間中は実習授業を優先するので就職活動はできないことにご留意ください。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	語学研修　語学研修						
科目名	短期語学研修					ナンバリング	2900
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	青　晴海、小西　正人、岡本　佐智子、高橋　保夫、魯　諍、Joseph S Tomasine、Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力、柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている科目である。

授業の概要

この研修は、本学の英語圏および中国語圏の提携校において語学学習と異文化体験を行う。語学力だけでなく、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、積極性、行動力を身につけること、大学の授業で身につけた専門性を基に、それまでの学習成果を確認し、課題を見つけることを目標とする。現地研修をより充実させ、目標を達成するために、出発前には学内で実施する研修に参加し、異文化適応力や危機管理について学ぶ。

到達目標

異文化や外国語を母語とする多様な人々と臆することなくコミュニケーションができるようになり、自分の考え方や文化を相対化して考える姿勢を発表できることができる。

授業の方法

研修前のオリエンテーションや事前研修、海外の大学での講義・ワークショップ・インターン等、あるいは海外の大学が提供するオンラインプログラム、研修後の報告プレゼンテーションや課題などを通して、語学力やコミュニケーション能力、積極性を身につけさせる。

ICT活用

オンラインを活用した講義。Zoomなどオンラインを活用したコミュニケーション活動。

実務経験のある教員の教育内容

海外の大学に留学・勤務した経験のある日本人教員。英語圏や中国語圏などで教育・研究を経験したことがある外国人教員。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修や研修の報告、語学研修、事後の課題等に対して担当教員よりコメントを評価をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 短期語学研修の概要や、今後の事前・事後に必要な心構えや基本的な知識などについて、講義する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第2回	【事前研修】 海外提携校での研修に備えて、英語圏や中国語圏の生活習慣・危機管理や街の様子などを学び理解する。現地で役立つ言葉や交流に不可欠な自己紹介などを練習する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第3回	【海外提携校の提供するプログラム】 リスニング(聴解)I。 英語や中国語などのリスニング能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第4回	スピーキング（会話）I。 自分の考えを表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			
第5回	リーディング（読解）I。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			
第6回	ライティング（文章表現）I。 自分の考えを文章で表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			

第7回	リスニング（聴解）II。 英語や中国語などのリスニング能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			
第8回	スピーキング（会話）II。 自分の考えを表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			
第9回	リーディング（読解）II。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			

第10回	リーディング（読解）II。 一定量の文章を的確に理解する能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			
第11回	ライティング（文章表現）II。 自分の考えを文章で表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			
第12回	グループ・ディスカッション。 多様な人々と意見を出し合い、対話や議論の中から新しい発見をすることを英語や中国語で挑戦する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。（90分）	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。（90分）
担当教員			

第13回	プレゼンテーションI。 個人またはグループで与えられたテーマについて、英語や中国語などの外国語で的確に表現し相手に伝えることを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第14回	プレゼンテーションI。 個人またはグループで与えられたテーマについて、英語や中国語などの外国語で的確に表現し相手に伝えることを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第15回	【研修報告のプレゼンテーションと課題】 研修成果とふりかえり、自分自身の変化や成長をうながすために、研修についての報告プレゼンテーションを行い、研修全体を振り返った課題を提出する。自分自身の学びについて客観的に捉え、他者と共有することを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	オリエンテーションへの参加態度、事前研修・課題、海外提携校で成績や評価、研修後プレゼンテーション・課題の総合評価。
その他	0	

教科書

研修先で指定された場合には、それにしたがいます。

参考文献

適宜指示します。

履修条件・留意事項等

新しいことや知らないことに積極的に挑戦し、異なる考え方や生活習慣に柔軟に考えて対応できるしなやかな感性を持って研修に臨むこと。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅠ（小西　正人）					ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

基本的授業は対面で行い、板書および諸メディア・パワーポイント・配布物を利用して講義を進める。また学生自身の活動が中心となる科目であるので、授業各回において学生が調査したこと・学んだこと・問題解決の方法についてそれぞれ発表を行い、それについて教員および他の受講者がコメント・学習・ディスカッション等を行うというスタイルで授業を進める。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

発表時および課題提出時にそれそれ細かい指示や指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 3つのコースを受講する受講生に対し、それぞれのコースの進め方について、および評価方法についてオリエンテーションを行う。	自身が進むコースおよびある程度の自身のテーマについて決定しておく(30分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第2回	各自がそれぞれのテーマおよび方向性について発表・共有する。 古典コース:活用の型・活用の種類について講義 研究コース:レポートと論文の違いについて講義 外国語コース:フランス語の名詞の性について講義	自分のテーマおよび方向性を確認する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第3回	古典コース:動詞活用の復習としての練習問題確認 研究コース:論文の構成および作成手順について講義 外国語コース:フランス語の動詞の人称変化について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第4回	古典コース:形容詞・形容動詞・係り結びについて講義 研究コース:論文の構成および作成手順について復習 外国語コース:フランス語の動詞の人称変化について復習	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第5回	古典コース:態の助動詞「る・らる・す・さす・しむ」について講義 研究コース:論文の構成および作成手順について復習 外国語コース:各自の学習外国語について発表	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第6回	古典コース:過去の助動詞「き・けり」について講義 研究コース:論文のテーマについて講義 外国語コース:フランス語の所有形容詞について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第7回	古典コース:過去の助動詞「き・けり」について講義 研究コース:論文のテーマについて講義 外国語コース:フランス語の所有形容詞について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第8回	古典コース:完了の助動詞「ぬ・つ・り・たり」について講義 研究コース:論証のしかたについて講義(1)自然科学的論証 外国語コース:各自の学習外国語について発表	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第9回	古典コース:完了の助動詞「ぬ・つ・り・たり」について講義 研究コース:論証のしかたについて講義(1)自然科学的論証 外国語コース:フランス語の形容詞・人称代名詞について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第10回	古典コース:推量の助動詞「む・むず・じ」について講義 研究コース:論証について講義(2)社会科学的論証 外国語コース:ドイツ語の名詞の性・動詞の人称変化について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第11回	古典コース:推量の助動詞「む・むず・じ」について講義 研究コース:論証について講義(2)社会科学的論証 外国語コース:各自の学習外国語について発表	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第12回	古典コース:推量の助動詞「らむ・けむ」について講義 研究コース:論証について講義(3)哲学的論証 外国語コース:ドイツ語の名詞(冠詞)の格変化について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第13回	古典コース:各自の学習進捗状況を発表 研究コース:各自の学習進捗状況を発表 外国語コース:ドイツ語の人称代名詞について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第14回	古典コース:反実仮想の助動詞「まし」について講義 研究コース:論文の全体像について講義 外国語コース:各自の学習外国語について発表	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第15回	前半授業の総まとめとして各自の発表	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第16回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第17回	古典コース:伝聞・推定の助動詞「めり・なり」について講義 研究コース:論文購読(その1)早津恵美子氏(1989)の論文を講読(前半) 外国語コース:韓国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第18回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第19回	古典コース:断定の助動詞「なり・たり」について講義 研究コース:論文講読(その2) 早津恵美子氏(1989)の論文を講読(後半) 外国語コース:スワヒリ語の人称変化について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第20回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第21回	古典コース:打消の助動詞「ず」について講義 研究コース:論文講読 外国語コース:スワヒリ語の時制・相について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第22回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第23回	古典コース:形容詞について講義 研究コース:論文講読 外国語コース:スワヒリ語のその他の文法事項について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第24回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第25回	古典コース:形容動詞について講義 研究コース:論文講読 外国語コース:韓国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第26回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第27回	古典コース:「竹取物語」冒頭部分を講読 研究コース:論文講読 外国語コース:アイヌ語の文型について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			

第28回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第29回	古典コース:「竹取物語」冒頭部分を講読 研究コース:論文講読 外国語コース:アイヌ語の文型について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
第30回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度の総合的評価(100%)。
その他	0	

教科書

それぞれ授業中に指示

参考文献

それぞれ授業中に適宜指示

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅠ（高橋　保夫）					ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

演習形式で行う。二つの柱がある。一つは基礎となる知識を得る目的で、参加者全員で文献を読み進めることである。毎回順番に決められた発表者が発表するという形式とる。そこでディスカッションも行う。もう一つは卒業論文の作成である。卒業研究プロジェクトⅠでは文献講読と並行して興味のあるトピックを探す。決まったら先行文献を集める。そしてそれらを読む。卒業研究プロジェクトⅡでは文献講読と並行して論文を書く。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

提出物にコメントをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方 評価の方法など	受講者にはすでに話をしているのでそこでの話を思い出しておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第2回	なぜ言語を研究するのか(1)　こころを探る言語研究とは	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第3回	なぜ言語を研究するのか(2)　こころを探る有益な窓としての言語	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第4回	言語知識とは何か(1)　無意識の知識	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第5回	言語知識とは何か(2) 言語能力と言語運用	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第6回	文法の組み立て(1) 文とは	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第7回	文法の組み立て(2) 文法の組み立て	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第8回	文を作る仕組み(1) 句構造規則	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第9回	文を作る仕組み(2) 構成素構造を調べるテスト	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第10回	文を作る仕組み(3) 句の構造の共通性	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第11回	文を作る仕組み(4) 普遍文法と言語の多様性	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第12回	意味を考える(1) 統語構造と意味解釈規則	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第13回	意味を考える(2) 概念構造と意味解釈	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第14回	言語の獲得(1) 言語獲得における問題	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第15回	言語の獲得(2) 項構造の獲得	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第16回	Generative Grammar (1) Syntax as Science--the Scientific Method	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第17回	卒業論文とは何か	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第18回	Generative Grammar (2) Syntax as a Cognitive Science	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第19回	卒業論文を仕上げるまで	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第20回	Parts of Speech (1) Determing Parts of Speech	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第21回	卒業論文はどう書くのか (1) 研究課題の設定	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第22回	Parts of Speech (2)　The Major Parts of Speech	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第23回	卒業論文はどう書くのか (2) 適した手法を選ぶ	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第24回	Constituency, Trees, and Rules (1)　Rules and Trees	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第25回	卒業論文はどう書くのか (3) 考察を深めて結論を導く	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第26回	Constituency, Trees, and Rules (2) Modification and Ambiguity	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第27回	Structural Relations (1) Dominance	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第28回	論文のテーマ(1) 受動態 存在構文 命令文 関係節 仮定法など	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第29回	Structural Relations (2) C-command	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第30回	論文のテーマ(2) 属格 知覚動詞 句動詞 イディオム 助動詞など まとめ 夏季休暇中にすべきことの指示	前回の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表、課題、授業参加度
その他	0	

教科書

授業内に指示

参考文献

授業内に指示

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅠ（魯　諍）					ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」ことや、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

1.担当教員はパワーポイントと配布印刷物（ハンドアウト）を用いて講義を行う。
2.前もって課題とした文献についての受講者による報告
3.受講者は講義で学んだ方法を活用し、メディアコンテンツを分析する。なお、受講者の進捗状況により、各回の順番と内容を微調整する場合がある。
4.受講者による口頭発表

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

通常の講義で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。実践では、現場で指導し、実践後の講義でコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1回：授業の内容やスケジュール、目標などについてガイダンスを行う。	シラバスをよく読み、自分の問題意識を整理すること。（90分）	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。（90分）
担当教員	魯　諍		
第2回	第2回：ウォーミングアップ　各自の関心を持っているテーマについて語り合う。	自分自身の問題意識を整理すること。（90分）	ゼミの内容を振り返り、問題意識を整理すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第3回	第1セクション（第3回～第8回）：メディア・コミュニケーションを知る 　第1セクションでは、新聞、ラジオ、テレビ、インターネットといったメディアの発展の歴史を学ぶ。そして、メディアの発達は、現代社会の成り立ちとコミュニケーションの形態にどのような影響を与えてきたのかについて考える。 　第3回：メディアの歴史を振り返りながら、「メディア」と「コミュニケーション」「ジャーナリズム」の概念の関連性と相違点を検討する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマに関する議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第4回	第4回:「新聞」というメディアについて学ぶ。新聞の歴史を学ぶとともに、新聞というメディアが社会に対する影響について考察し、議論する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマに関する議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	第5回:ラジオ、テレビについて学ぶ。ラジオとテレビの歴史を踏まえながら、特にメディア(技術の発展)と戦争との関連性について考察し、議論する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	講義での議論を振り返り、自分の問題意識を整理し、口頭発表の準備をする。(90分)
担当教員	魯　諍		
第6回	第6回:インターネットメディアについて学ぶ。「フェイクニュース」「ポスト真実」「ディープフェイク」などの概念を勉強し、インタネットメディアやSNSの発展と課題について議論する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	各受講者の口頭発表を比較しながら、自分の発表内容を振りかえること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第7回	第7回:コミュニケーション理論について学ぶ。 マスメディアの効果論に力点を置き、講義をする。 魔法の弾丸理論→限定効果理論(オピニオンリーダー)→強力効果論(議題設定、フレーミング効果、沈黙の螺旋仮説)	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持っているテーマに関する議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	第8回:アクティブラーニング 各自調べたマスメディアの効果論に関する事例について、議論と質疑応答を行う。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	第2セクション(第9回～第15回):メディア実践 第2セクションは、講義と実践学習を結びつけ、ニュースの生産過程について学ぶ。 第9回:取材から報道に至る活動を紹介し、メディアの限界について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第10回	第10回：インタビュー 事実を確認する手段として、情報源を探し出し、インタビューすることが最も重要である。そして、実際のメディアの報道に見られる工夫の一つは、「情報源の明示」という原則である。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第11回	第11回：調査報道とスクープ 吉田調書をめぐる報道を事例として、新聞記事、研究論文、ノンフィクション作品など多様なテクストを分析し、調査報道とスクープについて学ぶ。 第9回と第10回で議論してきた事実の確認や情報源の扱い方をより一層深く理解する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第12回	第12回：映像メディアについて学ぶ。 実践学習として、受講者にテレビニュース用の原稿を作る作業を体験させる。 課題：各種のニュースアプリを立ち上げて、トップページから一つの記事を選んで、原稿に仕上げる。 ① 原稿を1分以内にまとめる ② 作業は15分程度	配布資料を熟読し、内容を確認すること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第13回	第13回：グループワークで映像コンテンツを作成し、発表する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、インタビューの質問を考えること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	第14回：インタビューの質問の作り方と、質問のテクニックについて学び、取材許可の取り方と注意事項について学ぶ。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、取材依頼書を作成すること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	第15回：インタビューの実践 課題：お互いにインタビューさせる	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第16回	第3セクション（第16回～第18回）Ⅰ：第3セクションでは、グローバル化とメディアについて議論する。インターネットの発達により、情報も国境を越えて流通できるようになったが、メディアの在り方、ジャーナリズムの位置づけには、国家間の政治体制や宗教・文化、価値観の違いに伴うギャップも存在している。このセクションでは、受講者の関心に合わせたテーマを取り上げ、グローバル化時代における国際ニュース報道の問題点を考える。 ウクライナ情勢、北朝鮮核問題、パレスチナ問題などの国際問題や、ジェンダー、環境問題など公共性に関するイシューなど、受講者の関心を持っているテーマについて議論する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。（90分）	研究テーマについて考えること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第17回	第3セクション（第16回～第18回）Ⅱ：第3セクションでは、グローバル化とメディアについて議論する。インターネットの発達により、情報も国境を越えて流通できるようになったが、メディアの在り方、ジャーナリズムの位置づけには、国家間の政治体制や宗教・文化、価値観の違いに伴うギャップも存在している。このセクションでは、受講者の関心に合わせたテーマを取り上げ、グローバル化時代における国際ニュース報道の問題点を考える。 ウクライナ情勢、北朝鮮核問題、パレスチナ問題などの国際問題や、ジェンダー、環境問題など公共性に関するイシューなど、受講者の関心を持っているテーマについて議論する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。（90分）	研究テーマについて考えること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第18回	第3セクション（第16回～第18回）Ⅲ：第3セクションでは、グローバル化とメディアについて議論する。インターネットの発達により、情報も国境を越えて流通できるようになったが、メディアの在り方、ジャーナリズムの位置づけには、国家間の政治体制や宗教・文化、価値観の違いに伴うギャップも存在している。このセクションでは、受講者の関心に合わせたテーマを取り上げ、グローバル化時代における国際ニュース報道の問題点を考える。 ウクライナ情勢、北朝鮮核問題、パレスチナ問題などの国際問題や、ジェンダー、環境問題など公共性に関するイシューなど、受講者の関心を持っているテーマについて議論する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。（90分）	研究テーマについて考えること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第19回	第19回:ドキュメンタリーを視聴する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	ゼミで視聴したドキュメンタリーの内容(映像の取り方なども含める)を振り返りること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第20回	第20回:映画を視聴する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	ゼミで視聴したドキュメンタリーの内容(映像の取り方なども含める)を振り返りること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第21回	第21回:ドキュメンタリーと映画の異同を比較する。	プレゼンテーションを準備すること(90分)	他の受講者のプレゼンテーション内容と比較しながら、自分自身のプレゼンテーションの内容を整理すること(90分)
担当教員	魯　諍		

第22回	第22回：中間発表Ⅰ 各受講者は研究テーマについて口頭発表を行い、議論をする。	研究テーマを決め、研究計画について口頭発表の準備をすること。（90分）	議論とコメントの内容を振り返ること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第23回	第23回：中間発表Ⅱ 各受講者は研究テーマについて口頭発表を行い、議論をする。	研究テーマを決め、研究計画について口頭発表の準備をすること。（90分）	議論とコメントの内容を振り返ること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第24回	第4セクション（第24回～第28回）：第4セクションでは、データの収集と分析の方法について学ぶ。 第24回：内容分析について学ぶ① ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方――メディア・メッセージを読み解く』の下記の各章を読む。 第1章イントロダクション 第2章社会科学のツールとしての内容分析 第3章内容分析のデザイン	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		

第25回	第25回：内容分析について学ぶ② ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方――メディア・メッセージを読み解く』下記の各章を読む。 第4章測定 第5章サンプリング 第6章信頼性	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		
第26回	第26回：内容分析について学修する③ ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ著『内容分析の進め方――メディア・メッセージを読み解く』下記の各章を読む。 第7章妥当性 第8章データ分析 第9章コンピュータ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		
第27回	第27回：言説分析について学ぶ① 「言説」とは何かについて学ぶ。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		

第28回	第28回: 言説分析について学ぶ② ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテクスト分析』の下記の各章を読む。 第2章テクスト、社会的出来事、社会的実践 第3章間テクスト性と前提	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第29回	第29回: 言説分析について学ぶ③ ノーマン・フェアクラフ著『ディスコースを分析する 社会研究のためのテクスト分析』の下記の各章を読む。 第4章ジャンルとジャンル構造 第5章文と文および節と節の間の意味関係	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第30回	第30回:研究計画書を作成する。 各受講者は研究計画について口頭発表を行い、議論する。	口頭発表の準備をすること。(90分)	議論とコメントの内容を振り返ること。(90分)
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	

教科書

プリントを配布または配信する。

参考文献

『メディアの歴史 ビッグバンからインターネットまで』ヨッヘン・ヘーリッシュ 法政大学出版局
『内容分析の進め方――メディア・メッセージを読み解く』ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ 勁草書房
『ディスコースを分析する 社会研究のためのテクスト分析』ノーマン・フェアクラフ くろしお出版

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅠ（Todd Robert Enslenn）					ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

In this course, students will be expected to read articles related to research writing and pragmatics, share what they learned in group discussions, and analyze situation comedy shows in English to find examples of the various speech acts discussed. Students will write transcripts of these examples, which will be used in their report to compare how English used by native speakers compares to the English they learned in their junior high school and high school education.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS)

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give oral feedback during the class presentations. Students will be expected to take notes and make relavent changes.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Orientation: Class procedures, content and procedures.	Students should do a brief online search to find out what ″pragmatics″ means in a linguistic context. (90 minutes)	Studnets will review notes and complete notebook of unfamiliar vocabulary. (90 minutes)
担当教員			
第2回	An overview of pragmatics and how speech acts fit into this area.	Students will read the distributed materials that will be discussed in the class. (90 minutes)	Students will consolidate their notes. Again, noting new vocabulary and writing questions to ask during the next class. (90 minutes)
担当教員			
第3回	Begin looking at examples of speech acts to exemplify how they are realized.	Students will read related literature regarding speech acts. (90 minutes)	Students will look for examples of how certain speech acts are realized in their own language in different scenarios. (90 minutes)
担当教員			

第4回	Realizing the form of speech acts – Part 1	Students will write out the examples of speech acts that they find to present in class. (90 minutes)	Continuation of speech act searches to fine new examples to present in class (90 minutes)
担当教員			
第5回	Realizing the form of speech acts – Part 2 Students will present the examples that they have found to the class.	Students will again write out examples of speech acts that they identify in popular English Television shows. (90 minutes)	Students will continue to search for example and update their notes on examples found. (90 minutes)
担当教員			
第6回	Continuation of presentation of speech act examples	Students will begin reading about writing the introduction of a research paper in English. (90 minutes)	Students will consolidate notes and begin to think of aspects that should be included in the introduction to their papers. (90 minutes)
担当教員			

第7回	The class will analyze examples of research paper introductions to help them formulate their own introductions.	Reading from example papers. (90 minutes)	Students will revise their ideas and begin organizing them into an introduction that can be used for their papers. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Further learning of research paper structure and revising writing accordingly.	Students will write the first draft of their introduction. (90 minutes)	Take comments that the students received in class from their teacher and peers and rewrite their introductions for a second draft. (90 minutes)
担当教員			
第9回	The class will begin learning about the methodology section of a research paper by reading articles and discussing.	Preview the articles to be used in class. (90 minutes)	Review the notes and begin to brainstorm ideas to use in the methods section of their paper. (90 minutes)
担当教員			

第10回	Analyze examples of methods sections of published papers.	Find examples of research papers that interest you. (90 minutes)	Take the ideas generated in class and begin formulating ideas for what you should include in your own methods section of your paper. (90 minutes)
担当教員			
第11回	Students will present the research section from articles that they have found. The class will analyze the format of each presentation.	Search for an article of interest online or in the library (90 minutes)	Review the notes from class and begin making comparisons. (90 minutes)
担当教員			
第12回	Continue with presentations of research sections of articles and discuss components of these parts of the research paper.	Read articles and make notes for presentations. (90 minutes)	Compare the new information to that from previous presentations. (90 minutes)
担当教員			

第13回	Continue with presentations of research sections of articles and discuss components of these parts of the research paper.	Read articles and make notes for presentations. (90 minutes)	Compare the new information to that from previous presentations. (90 minutes)
担当教員			
第14回	Continue with presentations of research sections of articles and discuss components of these parts of the research paper.	Read articles and make notes for presentations. (90 minutes)	Compare the new information to that from previous presentations. (90 minutes)
担当教員			
第15回	The students will work in pairs to explain how they plan to conduct their research.	From the examples discussed in class, decide on the main points to include in your research section of your paper. (90 minutes)	Look at the feedback you received from your partner and make changes if necessary. (90 minutes)
担当教員			

第16回	The students will continue to work in pairs to explain how they plan to conduct their research and receive feedback from their partner.	From the examples discussed in class, decide on the main points to include in your research section of your paper. (90 minutes)	Look at the feedback you received from your partner and make changes if necessary. (90 minutes)
担当教員			
第17回	The students will continue to work in pairs to explain how they plan to conduct their research and receive feedback from their partner.	From the examples discussed in class, decide on the main points to include in your research section of your paper. (90 minutes)	Look at the feedback you received from your partner and make changes if necessary. (90 minutes)
担当教員			
第18回	Students will formulate a first draft of their research section of the paper.	Review notes from the examples to determine what should be included. (90 minutes)	Continue working on this section. (90 minutes)
担当教員			

第19回	Students will read articles related to conversational analysis to understand the proper way to write examples for the research section of their papers.	Students will search online or in the library for articles that use conversational analysis. (90 minutes)	Students should read the research section of their articles to see how conversations are recorded. (90 minutes)
担当教員			
第20回	Students will read articles related to conversational analysis to understand the proper way to write examples for the research section of their papers and share their findings.	Students will search online or in the library for articles that use conversational analysis. (90 minutes)	Students should read the research section of their articles to see how conversations are recorded. (90 minutes)
担当教員			
第21回	Students will read articles related to conversational analysis to understand the proper way to write examples for the research section of their papers and share their findings.	Students will search online or in the library for articles that use conversational analysis. (90 minutes)	Students should read the research section of their articles to see how conversations are recorded. (90 minutes)
担当教員			

第22回	Students will take previous examples of speech acts that they identified and write them out in correct form with regards to conversational analysis.	Students will review previously identified examples of speech acts and think about the necessary information for conversational analysis. (90 minutes)	Students will compare their work in class with examples. (90 minutes)
担当教員			
第23回	Students will take previous examples of speech acts that they identified and write them out in correct form with regards to conversational analysis.	Students will review previously identified examples of speech acts and think about the necessary information for conversational analysis. (90 minutes)	Students will compare their work in class with examples. (90 minutes)
担当教員			
第24回	Students will take previous examples of speech acts that they identified and write them out in correct form with regards to conversational analysis.	Students will review previously identified examples of speech acts and think about the necessary information for conversational analysis. (90 minutes)	Students will compare their work in class with examples. (90 minutes)
担当教員			

第25回	Students will work in pair sharing their work receiving feeback from their peers.	Students should review the work done in class and make changes if necessary (90 minutes)	Student should review the feedback they received. (90 minutes)
担当教員			
第26回	Students will work in pair sharing their work receiving feeback from their peers.	Students should review the work done in class and make changes if necessary (90 minutes)	Student should review the feedback they received. (90 minutes)
担当教員			
第27回	Students will continue to work in pair sharing their work receiving feeback from their peers.	Students should review the work done in class and make changes if necessary. (90 minutes)	Student should review the feedback they received. (90 minutes)
担当教員			

第28回	Students will continue to work in pair sharing their work receiving feeback from their peers.	Students should review the work done in class and make changes if necessary. (90 minutes)	Student should review the feedback they received. (90 minutes)
担当教員			
第29回	Review of research paper writing and speech acts.	Review notes from the semester. (90 minutes)	Go over the notes for class to prepare for the final test. (90 minutes)
担当教員			
第30回	Students will take a final test of the concepts discussed in class.	Students should review last week's reveiw of the material and their notes from the semester. (90 minutes)	Continue to look at examples of your assigned speech acts. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	

教科書

There will not be an assigned text for the class. All materials will be provided by the teacher.

参考文献

授業内に配られます。

履修条件・留意事項等

該当しない

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅠ（Joseph S Tomasine）					ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

本科目は、講師主導の指導、グループ主導のディスカッション、自己主導の自主学習を組み合わせたものである。

ICT活用

本科目は、学習管理システム（Google Classroom）とそのマルチメディアツール群（Google Docs、Slides、Sheets、Youtube）を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

講師は教育学の博士号を持つ。

課題に対するフィードバックの方法

学生は、口頭（グループへのフィードバック）と書面（個人へのフィードバック）の両方で、グループまたは個人として課題に対するフィードバックを受ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	概要:オリエンテーション & ゲーム研究の基礎 目的:ゲーム研究の基礎と方向性を理解する 内容:ゼミの目的、進め方、成果物について検討する	教科書を参考に、ゲーム研究の意義と目的、歴史的背景を検討する(90分) - 教科書A:序章「ゲーム研究への招待」 - 教科書B:第1章「ゲームスタディーズとは何か？」	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第2回	概要:格闘ゲームの原点① 目的:格闘ゲームの文化の中心となるプレイを理解する 内容:「Street Fighter」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作の歴史的背景を検討する(90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第3回	概要:ゲーム研究の歴史とゲームの定義① 目的:ゲームの歴史的位置づけを理解し、研究の視点を深める 内容:ゲーム研究の範囲と国内外の歴史的背景を学ぶ	教科書を参考に、ゲーム研究の歴史的背景を検討する(90分) - 教科書A:第1章「ゲーム研究の歴史 」 - 教科書B:第3章「歴史の中の遊びとゲーム」	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			

第4回	概要:格闘ゲームの原点② 目的:格闘ゲームの文化の中心となるプレイを理解する 内容:「Street Fighter 2: The World Warrior」と「Street Fighter 2: Champion's Edition」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作の歴史的背景を検討する(90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第5回	概要:ゲーム研究の歴史とゲームの定義② 目的:格闘ゲームの歴史的位置づけを理解し、研究の視点を深める 内容:格闘ゲーム研究の範囲と国内外の歴史的背景を学ぶ	教科書を参考に、格闘ゲームの歴史的位置付けを検討する(90分) - 教科書B:第4章:「1970年代の二重構造とアクションゲーム」、第5章:「1980年代のゲームにおけるアドベンチャーとその他のフィクション」、第6章:「3次元と1990年代前半 123」	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第6回	概要:格闘ゲームの原点③ 目的:格闘ゲームの文化の中心となるプレイを分析する 内容:「Street Fighter 2 Turbo」と「Super Street Fighter 2」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作のデザインを検討する(90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			

第7回	概要：ゲーム文化とその意味① 目的：ゲームが文化的現象として成り立つ背景を理解する 内容：文化的体系としてのゲームを学ぶ	教科書を参考に、ゲーム文化を検討する（90分） － 教科書B：第2章「ゲーム文化：ゲームにおける意味」	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			
第8回	概要：格闘ゲームの原点④ 目的：格闘ゲームの文化の中心となるプレイを分析する 内容：「Super Street Fighter 2 Turbo」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作のデザインを検討する（90分）	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			
第9回	概要：ゲーム文化とその意味② 目的：格闘ゲームが文化的現象として成り立つ背景を理解する 内容：文化的体系としての格闘ゲームを学ぶ	参考資料を手掛かりに、格闘ゲームの文化を検討する（90分）	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			

第10回	概要:格闘ゲームの原点⑤ 目的:格闘ゲーム文化の中心となるゲームプレイを実践する 内容:「Super Street Fighter 2 Turbo」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作における相互行為を検討する(90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第11回	概要:ゲーム研究の論文を読む① 目的:研究論文を読み解く力を養い、自分の研究に活かす 内容:ゲームに関する学術的な論文を批判的に検討する	教科書を参考に、研究論文の読み方を検討する(90分) – 教科書A:第5章「ゲーム研究の論文を読む」	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第12回	概要:格闘ゲームの発展① 目的:格闘ゲームの文化の中心となるプレイを理解する 内容:学生が選んだ作品①を検討する	参考資料を手掛かりに、本作の歴史的背景を検討する(30分) 参考資料を手掛かりに、本作のデザインを検討する(30分) 参考資料を手掛かりに、本作における相互行為を検討する(30分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			

第13回	概要:ゲーム研究の論文を読む② 目的:格闘ゲームの研究論文を読み解く力を養い、自分の研究に活かす 内容:格闘ゲームに関する学術的な論文を批判的に検討する	参考資料を手掛かりに、実際の格闘ゲームの研究論文を読み、分析する(90分)	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第14回	概要:格闘ゲームの発展② 目的:格闘ゲームの文化の中心となるプレイを分析する 内容:学生が選んだ作品②を検討する	参考資料を手掛かりに、本作の歴史的背景を検討する(30分) 参考資料を手掛かりに、本作のデザインを検討する(30分) 参考資料を手掛かりに、本作における相互行為を検討する(30分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第15回	概要:研究テーマの選定と問いの立て方① 目的:研究テーマを選定し、それに基づいた「問い」を立てる 内容:「問い」の立て方、テーマ設定を学ぶ	教科書を参考に、テーマ選定と「問い」の立て方を検討する(90分) - 教科書A:第2章「研究の進め方・準備編」 - 教科書B:第8章「ゲームスタディーズの取り組みの準備」から「問うことを学ぶ 」	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			

第16回	概要:研究テーマの選定と問いの立て方② 目的:研究テーマを具体化し、それに基づいた「問い」を精密化させる 内容:格闘ゲーム研究のための「問い」の立て方、テーマ設定を学ぶ	参考資料を手掛かりに、格闘ゲームの文化的側面をテーマに盛り込んだ「問い」の立て方を検討する (90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第17回	概要: 格闘ゲームの発展③ 目的:格闘ゲーム文化の中心となるゲームプレイを実践する 内容:学生が選んだ作品③を検討する	参考資料を手掛かりに、本作の歴史的背景を検討する(30分) 参考資料を手掛かりに、本作のデザインを検討する(30分) 参考資料を手掛かりに、本作における相互行為を検討する(30分)	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第18回	概要:格闘ゲームの進化① 目的:格闘ゲームの文化の中心となるプレイを理解する 内容:「Street Fighter Alpha」と「Street Fighter Alpha 2」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作の歴史的背景を検討する(90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			

第19回	概要:ゲーム研究の方法論① 目的:ゲーム研究における多様なアプローチを理解する 内容:さまざまな研究者のアプローチを学ぶ	教科書を参考に、ゲーム研究の方法論を検討する(90分) - 教科書A:第4章「ゲーム研究の方法」, 第6章「ゲーム研究の多様なアプローチ」 - 教科書B:第8章「ゲームスタディーズの取り組みの準備」から「方法の道具箱を選ぶこと、作ること」	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第20回	概要:格闘ゲームの進化② 目的:格闘ゲームの文化の中心となるプレイを分析する 内容:「Street Fighter Alpha 3」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作のデザインを検討する(90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第21回	概要:格闘ゲーム研究における調査手法② 目的:格闘ゲームを研究をするための調査手法を設計する 内容:既存の格闘ゲーム研究における調査手法を批判する	参考資料を手掛かりに、実際の格闘ゲーム研究論文の方法論を検討する(90分)	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			

第22回	概要:格闘ゲームの進化③ 目的:格闘ゲーム文化の中心となるゲームプレイを実践する 内容:「Street Fighter Alpha 3」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作における相互行為を検討する(90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第23回	概要:研究の進め方と執筆方法 目的:研究計画書の作成方法を理解し、構成を考える 内容:論文の構成や執筆手順を学び、計画書の構造を理解する	教科書を参考に、論文の構成と計画書との関係を検討する(90分) - 教科書A:第3章「研究の進め方・執筆編」 - 教科書B:第8章「ゲームスタディーズの取り組みの準備」から「読者のために書く」	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			
第24回	概要:格闘ゲームの古典① 目的:格闘ゲームの文化の中心となるプレイを理解する 内容:「Street Fighter 3」と「Street Fighter 3: Second Impact」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作の歴史的背景を検討する(90分)	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する(90分)
担当教員			

第25回	概要：計画書のドラフト作成と個別指導 目的：研究計画書の内容を詳細に詰め、改善点を指摘してもらう 内容：教員との一対一の指導を通じて、計画書を精緻化する	教科書と参考資料を確認しながら、研究計画書の初稿を書く（90分）	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			
第26回	概要：格闘ゲームの古典② 目的：格闘ゲームの文化の中心となるプレイを分析する 内容：「Street Fighter 3: Third Strike」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作のデザインを検討する（90分）	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			
第27回	概要：最終確認と計画書作成の進捗報告 目的：計画書を完成に近づけ、最終調整を行う 内容：研究計画書の進捗を報告し、フィードバックを受ける	教科書と参考資料を確認しながら、研究計画書の執筆を見直す（90分）	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			

第28回	概要：格闘ゲームの古典③ 目的：格闘ゲーム文化の中心となるゲームプレイを実践する 内容：「Street Fighter 3: Third Strike」という作品を検討する	参考資料を手掛かりに、本作における相互行為を検討する（90分）	ゲームのプレイを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			
第29回	概要：研究計画書の提出とまとめ 目的：計画書を完成させる 内容：最終的な研究計画書を提出する	教科書と参考資料を確認しながら、計画書を完成させる（90分）	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			
第30回	概要：まとめ 目的：評価を行う 内容：ゼミ全体を振り返る	教科書と参考資料を確認しながら、授業への参加を振りかえる（90分）	ゼミのディスカッションを振りかえり、感想を言語化する（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度の総合的評価(100%)。
その他	0	該当なし

教科書

「デジタルゲーム研究入門 – レポート作成から論文執筆まで」(小林 信重 編著)
「ゲームスタディーズ入門 ー 文化のなかのゲーム」(フランス・マウラ 著 小林信重 訳)

参考文献

必要に応じて教員が提供する

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅡ（小西　正人）					ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

基本的授業は対面で行い、板書および諸メディア・パワーポイント・配布物を利用して講義を進める。また学生自身の活動が中心となる科目であるので、授業各回において学生が調査したこと・学んだこと・問題解決の方法についてそれぞれ発表を行い、それについて教員および他の受講者がコメント・学習・ディスカッション等を行うというスタイルで授業を進める。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

発表時および課題提出時にそれそれ細かい指示や指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ３つのコースを受講する受講生に対し、それぞれのコースの進め方について、および評価方法についてオリエンテーションを行う。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第2回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第3回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第4回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第5回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第6回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第7回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第8回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第9回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第10回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第11回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第12回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第13回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第14回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第15回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第16回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第17回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第18回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第19回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第20回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第21回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第22回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第23回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第24回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第25回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第26回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第27回	古典コース:『堤中納言物語』「蝶めづる姫君」冒頭部分より順次講読 研究コース:論文講読 外国語コース:適宜、諸外国語について講義	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			

第28回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて発表する。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第29回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて最終発表を行う。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
第30回	各自がそれぞれのコース・テーマに基づいて最終発表を行う。	前回の授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(60分)	授業中に出されたそれぞれの課題を遂行する(150分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	

教科書

授業中に指示

参考文献

適宜授業中に指示

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅡ（高橋　保夫）					ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

演習形式で行う演習形式で行う。二つの柱がある。一つは基礎となる知識を得る目的で、参加者全員で文献を読み進めることである。毎回順番に決められた発表者が発表するという形式とる。そこでディスカッションも行う。もう一つは卒業論文の作成である。卒業研究プロジェクトⅠでは文献講読と並行して興味のあるトピックを探す。決まったら先行文献を集める。そしてそれらを読む。卒業研究プロジェクトⅡでは文献講読と並行して論文を書く。。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

提出物にコメントする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Binding Theory (1) Locality Conditions on the Binding of Anophors	卒業研究プロジェクトⅠの最後の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第2回	論文とは何か	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第3回	Binding Theory (2) The Distribution of Pronouns	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第4回	論文の実質的要件	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第5回	X-bar Theory (1) Bar-level Projections	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第6回	論文の形式的要件	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第7回	X-bar Theory (2) Generalizing the rules: X--bar Schema	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第8回	論文作成の具体的手順	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第9回	Extending X-bar Theory to Functional Categories (1) Determiner Phrases (DPs)	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第10回	論文作成指導 (1) 全体の計画	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第11回	Extending X-bar Theory to Functional Categories (2) A Descriptive Tangent into Clause Types	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第12回	論文作成指導 (2) 予備研究	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第13回	Constrainig X-bar: Theta Theory (1) Thematic Relations and Theta Roles	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第14回	論文作成指導 (3) 本研究	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第15回	Constrainig X-bar: Theta Theory (2) The Lexicon	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第16回	論文作成指導 (4) 全体の考察	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第17回	Theta Grids and Functional Categories (1) Complementizers	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第18回	論文作成指導 (5) 得られた結論の吟味	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第19回	Theta Grids and Functional Categories (2) Determiners	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第20回	論文作成指導 (6) さらなる得られた結論の吟味	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第21回	Head-to-Head Movement (1) Verb Movement (V→T)	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第22回	論文作成指導 (7) 引用文献の確認	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第23回	Head-to-Head Movement (2)　T Movement (T→C)	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第24回	論文作成指導 (8) 体裁の確認	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第25回	DP Movement (1) Passives	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第26回	論文作成指導 (9) 推敲	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第27回	DP Movement (2) Case	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			

第28回	論文作成指導 (10) さらなる推敲	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第29回	Wh-movement ant Locality Constraints (1) Movement in Wh-questions	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
第30回	Wh-movement ant Locality Constraints (2) Relative clauses まとめ	前の授業で指示されたことをしておく。(60分)	授業で指示されたことをする。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表、課題、授業参加度
その他	0	

教科書

授業内に指示する

参考文献

授業内に指示する

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅡ（魯　諍）					ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている」ことや、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

1.担当教員はパワーポイントと配布印刷物（ハンドアウト）を用いて講義を行う。
2.前もって課題とした文献についての受講者による報告
3.受講者は講義で学んだ方法を活用し、メディアコンテンツを分析する。なお、受講者の進捗状況により、各回の順番と内容を微調整する場合がある。
4.受講者による口頭発表

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

通常の講義で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。実践では、現場で指導し、実践後の講義でコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1回：授業の内容やスケジュール、目標などについてガイダンスを行う。	シラバスをよく読み、自分の問題意識を整理すること。（90分）	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。（90分）
担当教員	魯　諍		
第2回	第2回：研究計画書について発表する。 各受講者は卒業研究プロジェクトⅠで完成した研究計画書を修正し、発表する。	研究計画書を見直し、報告の準備をすること。（90分）	研究計画書の内容を再確認すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第3回	第1セクション（第3回～第7回）：データの収集 第3回：研究対象（データ）を選定する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。（90分）	ゼミでの議論を振り返り、研究対象を決めること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第4回	第4回：各受講者が選定した研究対象を再確認し、データの収集方法について指導する。	配布資料を熟読し、内容を確認すること。（90分）	授業で学んだ方法を使い、データを収集してみること（90分）
担当教員	魯　諍		
第5回	第5回：各受講者は収集したデータについて発表し、議論する。各受講者が収集したデータを確認し、妥当性について検討する。	データを収集し、確認すること。（90分）	議論やコメントの内容を振り返り、収集したデータを再確認すること（90分）
担当教員	魯　諍		
第6回	第6回：各受講者は収集したデータについて発表し、議論する。各受講者が収集したデータを確認し、妥当性について検討する。	データを収集し、確認すること。（90分）	議論やコメントの内容を振り返り、収集したデータを再確認すること（90分）
担当教員	魯　諍		

第7回	第7回：各受講者は収集したデータについて発表し、議論する。各受講者が収集したデータを確認し、妥当性について検討する。	データを収集し、確認すること。（90分）	議論やコメントの内容を振り返り、収集したデータを再確認すること（90分）
担当教員	魯　諍		
第8回	第2セクション（第8回～第14回）：コーディング作業（各受講者の進捗状況により、各回の順番と内容を微調整する場合がある） 第8回：コーディング作業について指導し、コーディングの練習をする。	卒業研究プロジェクトⅠで学んだコーディングに関する内容を復習すること。（90分）	指定したデータをコーディングすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第9回	第9回：コーディング作業について指導し、コーディングの練習をする。 　特定の出来事はどのような側面から表象されるかについて考える①	コーディングする予定のデータを選定すること。（90分）	指定したデータをコーディングすること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第10回	第10回:コーディング作業について指導し、コーディングの練習をする。 特定の出来事はどのような側面から表象されるかについて考える②	コーディングする予定のデータを選定すること。(90分)	指定したデータをコーディングすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第11回	第11回:コーディング作業について指導し、コーディングの練習をする。 特定の出来事はどのような側面から表象されるかについて考える③	コーディングする予定のデータを選定すること。(90分)	指定したデータをコーディングすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	第12回:コーディング作業について指導し、コーディングの練習をする。 特定の出来事はどのような観点から表象されるかについて考える①	コーディングする予定のデータを選定すること。(90分)	指定したデータをコーディングすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第13回	第13回:コーディング作業について指導し、コーディングの練習をする。 特定の出来事はどのような観点から表象されるかについて考える②	コーディングする予定のデータを選定すること。(90分)	指定したデータをコーディングすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	第14回:プレゼンテーションⅠ 各受講者は進捗状況について口頭発表を行う。	口頭発表を準備すること(90分)	口頭発表の内容を振り返ること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	第15回:アンケート調査について学ぶ	配布資料を熟読し、内容を確認すること。(90分)	アンケート調査の質問票を作成すること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第16回	第16回：アンケート調査の質問票を発表する。	アンケート調査の質問票を作成すること。（90分）	議論やコメントを振り返り、質問票を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第17回	第3セクション（第17回～第21回）データの分析 第17回：各受講者はデータを分析し、結果をまとめる。	先行研究の知見を参考することや、データ分析ソフトを使うなどの手段でデータを分析すること。（90分）	分析の結果をまとめること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第18回	第18回：各受講者はデータを分析し、結果をまとめる。初歩的な分析を行う。	先行研究の知見を参考することや、データ分析ソフトを使うなどの手段でデータを分析すること。（90分）	分析の結果をまとめること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第19回	第19回：各受講者はデータを分析し、結果をまとめる。 前回のコメントとフィードバックの内容に基づく再分析について議論する。	先行研究の知見を参考することや、データ分析ソフトを使うなどの手段でデータを分析すること。(90分)	分析の結果をまとめること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第20回	第20回：各受講者はデータを分析し、結果をまとめる。 分析の手法を再確認し、すべてのデータを分析した結果を発表し、議論する。	先行研究の知見を参考することや、データ分析ソフトを使うなどの手段でデータを分析すること。(90分)	分析の結果をまとめること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第21回	第21回：各受講者はデータを分析し、結果をまとめる。 前回のコメントとフィードバックの内容に基づく分析結果を発表し、議論する。	先行研究の知見を参考することや、データ分析ソフトを使うなどの手段でデータを分析すること。(90分)	分析の結果をまとめること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第22回	第22回：受講者は分析結果をまとめる図表などを作成し、発表する。（各受講者の進捗状況により、各回の順番と内容を微調整する場合がある）	データ分析ソフトやアプリを使い、図表を作成すること。（90分）	議論やコメントを振り返り、図表を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第23回	第23回：受講者は分析結果をまとめる図表などを作成し、発表する。	データ分析ソフトやアプリを使い、図表を作成すること。（90分）	議論やコメントを振り返り、図表を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第24回	第24回：受講者は分析結果をまとめる図表などを作成し、発表する。	データ分析ソフトやアプリを使い、図表を作成すること。（90分）	議論やコメントを振り返り、図表を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第25回	第25回：プレゼンテーションⅡ 受講者は進捗状況について口頭発表を行う。	口頭発表を準備すること（90分）	口頭発表の内容を振り返ること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第26回	第4セクション（第26回～30回）：受講者の希望により、プレゼンテーションと卒業論文の執筆のいずれかを選択する。 第26回：①受講者はプレゼンテーション用のスライドを作成し、担当教員は指導する。 ②受講者は論文を執筆し、担当教員はコメントをする。	発表を準備すること。論文を執筆すること（90分）	指導とコメントの内容を振り返り、プレゼンテーション・論文の内容を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第27回	第27回：①受講者はプレゼンテーション用のスライドを作成し、担当教員は指導する。 ②受講者は論文を執筆し、担当教員はコメントをする。	発表を準備すること。論文を執筆すること（90分）	指導とコメントの内容を振り返り、プレゼンテーション・論文の内容を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第28回	第28回：①受講者はプレゼンテーション用のスライドを作成し、担当教員は指導する。 ②受講者は論文を執筆し、担当教員はコメントをする。	発表を準備すること。論文を執筆すること（90分）	指導とコメントの内容を振り返り、プレゼンテーション・論文の内容を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第29回	第29回：①受講者はプレゼンテーション用のスライドを作成し、担当教員は指導する。 ②受講者は論文を執筆し、担当教員はコメントをする。	発表を準備すること。論文を執筆すること（90分）	指導とコメントの内容を振り返り、プレゼンテーション・論文の内容を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第30回	第30回：プレゼンテーションを行う 卒業論文を提出する	発表を準備すること。論文を執筆すること（90分）	指導とコメントの内容を振り返り、プレゼンテーション・論文の内容を修正すること。（90分）
担当教員	魯　諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション・卒業論文・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	

教科書

プリントを配布または配信する。

参考文献

『メディアの卒論 テーマ・方法・実際』藤田真文編著 ミネルヴァ書房
『内容分析の進め方――メディア・メッセージを読み解く』ダニエル・リフ スティーヴン・レイシー フレデリク・フィコ 勁草書房
『ディスコースを分析する 社会研究のためのテクスト分析』ノーマン・フェアクラフ くろしお出版

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅡ（Todd Robert Enslenn）					ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

Students will be using the knowledge that they gained in the first semester to compile the research they will be conducting on speech acts. Students will spend the majority of the time in this class researching their speech acts, presenting their findings in class, and receiving feedback from the teacher and other students to help them improve their work.

ICT活用

We will use Google Classroom to share information and to set schedules.

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable.

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive immediate feedback in this class during the presentation of their ideas.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Review of research writing and pragmatic research. (Part 1)	Look over your notes from last semester. (90 minutes)	Begin viewing various English language TV shows to decide which ones you would like to watch to do your research. (90 minutes)
担当教員			
第2回	Review of research writing and pragmatic research. (Part 2)	Look over your notes from last semester. (90 minutes)	Continue viewing various English language TV shows to decide which ones you would like to watch to do your research. (90 minutes)
担当教員			
第3回	Review of research writing and pragmatic research. (Part 3)	Look over your notes from last semester. (90 minutes)	Continue viewing various English language TV shows to decide which ones you would like to watch to do your research. (90 minutes)
担当教員			

第4回	Review of research writing and pragmatic research. (Part 4)	Look over your notes from last semester. (90 minutes)	Continue viewing various English language TV shows to decide which ones you would like to watch to do your research. (90 minutes)
担当教員			
第5回	Presentation on your progress regarding your research. What are you watching? What have you found so far?	Watch various episodes of one or more TV shows to find examples of your speech act. (90 minutes)	Make changes to your examples based on feedback you received in class. (90 minutes)
担当教員			
第6回	Continue with presentation on your progress regarding your research. What are you watching? What have you found so far?	Watch various episodes of one or more TV shows to find examples of your speech act. (90 minutes)	Make changes to your examples based on feedback you received in class. (90 minutes)
担当教員			

第7回	Continue with presentation on your progress regarding your research. What are you watching? What have you found so far?	Watch various episodes of one or more TV shows to find examples of your speech act. (90 minutes)	Make changes to your examples based on feedback you received in class. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Continue with presentation on your progress regarding your research. What are you watching? What have you found so far?	Watch various episodes of one or more TV shows to find examples of your speech act. (90 minutes)	Make changes to your examples based on feedback you received in class. (90 minutes)
担当教員			
第9回	Continue with presentation on your progress regarding your research. What are you watching? What have you found so far?	Watch various episodes of one or more TV shows to find examples of your speech act. (90 minutes)	Make changes to your examples based on feedback you received in class. (90 minutes)
担当教員			

第10回	Share the conversational analysis writeups of your examples with others in the class. Receive feedback for improvements.	Write up examples that you have found to date in preparation of presentation. (90 minutes)	Make changes and improvements based on class discussions. Continue with your search for examples of your assigned speech acts. (90 minutes)
担当教員			
第11回	Continue to share the conversational analysis writeups of your examples with others in the class. Receive feedback for improvements.	Write up examples that you have found to date in preparation of presentation. (90 minutes)	Make changes and improvements based on class discussions. Continue with your search for examples of your assigned speech acts. (90 minutes)
担当教員			
第12回	Continue to share the conversational analysis writeups of your examples with others in the class. Receive feedback for improvements.	Write up examples that you have found to date in preparation of presentation. (90 minutes)	Make changes and improvements based on class discussions. Continue with your search for examples of your assigned speech acts. (90 minutes)
担当教員			

第13回	Continue to share the conversational analysis writeups of your examples with others in the class. Receive feedback for improvements.	Write up examples that you have found to date in preparation of presentation. (90 minutes)	Make changes and improvements based on class discussions. Continue with your search for examples of your assigned speech acts. (90 minutes)
担当教員			
第14回	Continue to share the conversational analysis writeups of your examples with others in the class. Receive feedback for improvements.	Write up examples that you have found to date in preparation of presentation. (90 minutes)	Make changes and improvements based on class discussions. Continue with your search for examples of your assigned speech acts. (90 minutes)
担当教員			
第15回	Continue to share the conversational analysis writeups of your examples with others in the class. Receive feedback for improvements.	Write up examples that you have found to date in preparation of presentation. (90 minutes)	Make changes and improvements based on class discussions. Continue with your search for examples of your assigned speech acts. (90 minutes)
担当教員			

第16回	Students will be sharing their research papers through the results section and receiving feedback from the teacher and other students.	Add examples to your paper. Double check to make sure you have them all written in the correct format. (90 minutes)	Make changes to your writing based on the feedback that you received. (90 minutes)
担当教員			
第17回	Students will be sharing their research papers through the results section and receiving feedback from the teacher and other students.	Add examples to your paper. Double check to make sure you have them all written in the correct format. (90 minutes)	Make changes to your writing based on the feedback that you received. (90 minutes)
担当教員			
第18回	Students will be sharing their research papers through the results section and receiving feedback from the teacher and other students.	Add examples to your paper. Double check to make sure you have them all written in the correct format. (90 minutes)	Make changes to your writing based on the feedback that you received. (90 minutes)
担当教員			

第19回	Students will be sharing their research papers through the results section and receiving feedback from the teacher and other students.	Add examples to your paper. Double check to make sure you have them all written in the correct format. (90 minutes)	Make changes to your writing based on the feedback that you received. (90 minutes)
担当教員			
第20回	Students will be sharing their research papers through the results section and receiving feedback from the teacher and other students.	Add examples to your paper. Double check to make sure you have them all written in the correct format. (90 minutes)	Make changes to your writing based on the feedback that you received. (90 minutes)
担当教員			
第21回	Students will be sharing their research papers through the results section and receiving feedback from the teacher and other students.	Add examples to your paper. Double check to make sure you have them all written in the correct format. (90 minutes)	Make changes to your writing based on the feedback that you received. (90 minutes)
担当教員			

第22回	Students will present their finding on how these speech acts are taught in junior high school and high school.	Students should go back to the textbooks that they used when they were in high school and junior high school to see how their speech acts were taught. If they weren't taught at this level look at more advanced English language textbooks. (90 minutes)	Begin comparing the examples that you found in your research to the way that you were taught these speech acts. (90 minutes)
担当教員			
第23回	Students will present their finding on how these speech acts are taught in junior high school and high school.	Students should go back to the textbooks that they used when they were in high school and junior high school to see how their speech acts were taught. If they weren't taught at this level look at more advanced English language textbooks. (90 minutes)	Begin comparing the examples that you found in your research to the way that you were taught these speech acts. (90 minutes)
担当教員			
第24回	Students will present their finding on how these speech acts are taught in junior high school and high school.	Students should go back to the textbooks that they used when they were in high school and junior high school to see how their speech acts were taught. If they weren't taught at this level look at more advanced English language textbooks. (90 minutes)	Begin comparing the examples that you found in your research to the way that you were taught these speech acts. (90 minutes)
担当教員			

第25回	Students will present their finding on how these speech acts are taught in junior high school and high school.	Students should go back to the textbooks that they used when they were in high school and junior high school to see how their speech acts were taught. If they weren't taught at this level look at more advanced English language textbooks. (90 minutes)	Begin comparing the examples that you found in your research to the way that you were taught these speech acts. (90 minutes)
担当教員			
第26回	Students will present their finding on how these speech acts are taught in junior high school and high school.	Students should go back to the textbooks that they used when they were in high school and junior high school to see how their speech acts were taught. If they weren't taught at this level look at more advanced English language textbooks. (90 minutes)	Begin comparing the examples that you found in your research to the way that you were taught these speech acts. (90 minutes)
担当教員			
第27回	Discussion of the Conclusion to your research paper and what it should contain.	Read related article and look at example. (90 minutes)	Begin composing the conclusion to your research paper. (90 minutes)
担当教員			

第28回	Students will present their final paper to the class and receive feedback.	Continue adding examples and making suggested changes to your papers. (90 minutes)	Review any comments received and make appropriate changes. (90 minutes)
担当教員			
第29回	Students will present their final paper to the class and receive feedback.	Continue adding examples and making suggested changes to your papers. (90 minutes)	Review any comments received and make appropriate changes. (90 minutes)
担当教員			
第30回	Students will present their final paper to the class and receive feedback.	Continue adding examples and making suggested changes to your papers. (90 minutes)	Review any comments received and make appropriate changes. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	

教科書

There is no text for this class. The teacher will provide handouts when necessary.

参考文献

None

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	卒業研究　卒業研究						
科目名	卒業研究プロジェクトⅡ（Joseph S Tomasine）					ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

本科目は、講師主導の指導、グループ主導のディスカッション、自己主導の自主学習を組み合わせたものである。

ICT活用

本科目は、学習管理システム（Google Classroom）とそのマルチメディアツール群（Google Docs、Slides、Sheets、Youtube）を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

講師は教育学の博士号を持つ。

課題に対するフィードバックの方法

学生は、口頭（グループへのフィードバック）と書面（個人へのフィードバック）の両方で、グループまたは個人として課題に対するフィードバックを受ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	概要：オリエンテーション＆個人研究のプロセス 目的：セミの概要、進め方と成果物を理解する 内容：ゼミのシラバスを検討する	前期の「卒業研究プロジェクトI」で学んだことを振り返る（90分）	シラバスそれぞれの回での学習する内容に合わせて、前期の「卒業研究プロジェクトI」の教科書を適宜参考にできるように、教科書の適切な箇所（章、節、項等））に付箋を貼る（90分）
担当教員			
第2回	概要：先行研究と個人研究の関係 目的：自分の研究を先行研究に対して位置付ける 内容：実際の研究論文がどのように先行研究と位置付けられているかを検討する	前期の「卒業研究プロジェクトI」で扱った研究論文がどのように先行研究と位置付けられているか検討する（90分）	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける（90分）
担当教員			
第3回	概要：先行研究のレビュー① 目的：先行研究を入手するための基本スキルを習得する 内容：文献検索のプロトコールを作成する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する（90分）	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける（90分）
担当教員			

第4回	概要：文献収集の作業 目的：先行研究を入手するためのスキルを応用する 内容：文献検索のプロトコールを実行する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する（90分）	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける（90分）
担当教員			
第5回	概要：先行研究のレビュー② 目的：先行研究から情報を抽出するためのスキルを習得する 内容：先行研究レビューのマトリックスを設計する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する（90分）	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける（90分）
担当教員			
第6回	概要：文献分析の作業 目的：先行研究から情報を抽出するためのスキルを応用する 内容：先行研究レビューのマトリックスを記入する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する（90分）	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける（90分）
担当教員			

第7回	概要：先行研究のレビュー③ 目的：先行研究から情報を分析するためのスキルを習得する 内容：記入済み先行研究レビューのマトリックスを解釈する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する（90分）	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける（90分）
担当教員			
第8回	概要：文献検討の作業 目的：先行研究から情報を分析するためのスキルを応用する 内容：記入済み先行研究レビューのマトリックスの解釈を言語化する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する（90分）	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける（90分）
担当教員			
第9回	概要：データの収集① 目的：データ源を確保するためのスキルを習得する 内容：「問い」に相応しいデータの質を特定する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する（90分）	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける（90分）
担当教員			

第10回	概要:データを見る作業 目的:データ源を確保するためのスキルを応用する 内容:「問い」に相応しいデータを入手する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第11回	概要:データの収集② 目的:データを扱うためのスキルを習得する 内容:外在的な分析の焦点を避けてデータを見る	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第12回	概要:ゲータに気づく作業 目的:データ源を扱うためのスキルを応用する 内容:データを様々な角度から見て、気づきを記録する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			

第13回	概要:データの収集③ 目的:データを管理するためのスキルを習得する 内容:データを整理するためのデータベースを設計する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第14回	概要:データを集める作業 目的:データ源を管理するためのスキルを応用する 内容:データを整理するためのデータベースを作成する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第15回	概要:データの分析① 目的:データを可視化するためのスキルを習得する 内容:データのトランスクリプトをデザインする	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			

第16回	概要:データを記述する作業 目的:データを可視化するためのスキルを応用する 内容:データのトランスクリプトを作成する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第17回	概要:データの分析② 目的:データの文脈を特定するためのスキルを習得する 内容:データの文脈を把握する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第18回	概要:データを特定する作業 目的:データの文脈を特定するためのスキルを応用する 内容:データの文脈を記述する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			

第19回	概要:データの分析③ 目的:データを分別するためのスキルを習得する 内容:文脈を統一したデータを集めて、見る	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第20回	概要:データを探す作業 目的:データを分別するためのスキルを応用する 内容:文脈別のデータの特徴を記述する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第21回	概要:データの分析④ 目的:データを比べるためのスキルを習得する 内容:データを分類する方法を検討する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			

第22回	概要:データを比較する作業 目的:データを比べるためのスキルを応用する 内容:データそれぞれと分類の体系を検討する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第23回	概要:論文の執筆① 目的:論文を設計するためのスキルを習得する 内容:論文の構成を再確認する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第24回	概要:アウトラインを執筆する作業 目的:論文を設計するためのスキルを応用する 内容:論文の構成を段落のレベルで企画する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			

第25回	概要:論文の執筆② 目的:論文の「本論」を執筆するスキルを習得する 内容:「問い」に答えるための材料を検討する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第26回	概要:「本論」を執筆する作業 目的:論文の「本論」を執筆するスキルを応用する 内容:「問い」に答える文章を作成する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第27回	概要:論文の執筆③ 目的:論文の「結論」を執筆するスキルを習得する 内容:「問い」の回答を考察する材料を検討する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			

第28回	概要:「結論」を執筆する作業 目的:論文の「結論」を執筆するスキルを応用する 内容:「問い」の回答を考察する文章を作成する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第29回	概要:論文の執筆④ 目的:論文の「序論」を執筆するスキルを習得する 内容:「問い」を紹介する材料を検討する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
第30回	概要:「序論」を執筆する作業 目的:論文の「序論」を執筆するスキルを応用する 内容:「問い」を紹介する文章を作成する	学習内容に合わせて、教科書の適切な場所を読み、復習する(90分)	必要に応じて他のゼミ生や教員に相談しながら、ゼミで始めた作業を続ける(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	該当なし

教科書

前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」の教科書を適宜使う。

参考文献

教職が必要な教材を配布する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育の基礎的理解に関する科目						
科目名	教育原理					ナンバリング	1002
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上　大樹						

授業の位置づけ

1年次で学んだ教職課程科目に対して、その理論的歴史的背景や根拠を本科目で理解するとともに、2年次以降で学ぶ教職課程科目の基礎として教育的思考を身につける。

授業の概要

様々な教育職に通底する、教育に関する基本的な知見（歴史、法制度、学問領域、現代的課題など）を得る。中でも、学習する一人ひとりの権利が様々な教育実践によって内実が深まってきた経緯に重点をおく。講義全体をとおして、具体的な教育問題や教育実践を取りあげ、理論と実践を結ぶ視点を育む。

到達目標

自分が目指す教育職との関わりを認識しつつ、以下について自分の見解を交えながら説明できる
・教育の基本的概念や教育の本質及び目標を理解し、教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
・教育に関する代表的な教育家の思想と理念や実際の学校との関わり
・家族と社会の教育の歴史、近代教育制度の成立と展開
・歴史的な視点を含めた現代社会における教育課題

授業の方法

・本科目は呈示資料（パワーポイント）による講義、GoogleFormを活用したワーク、意見交換などを組み合わせながら展開する。毎回、授業終了前に記述形式のまとめを行い、理解度を確認する。

ICT活用

・Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。
・Google Crassroomのメッセージ機能を活用し、随時、質疑応答を行う。
・呈示資料（パワーポイント）に説明音声を吹き込んだ動画をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

講評を次回講義で行うとともに、適宜、Google Crassroomのメッセージ機能を活用し、個別にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション／教育（学）とは何か ―授業展開、学生の到達（行動）目標、成績評価方法などについて理解する	シラバスの熟読（90分）	本科目で学びたいことをまとめ、半期の学習計画を立てる（90分）
担当教員			
第2回	教育の本質と目標 ―義務教育未了者の苦労と学ぶ喜びを実感している姿から、これまでの自分の学びへの姿勢を見直す	事前配布資料の熟読（90分）	配布資料を読み直し、講義内容を復習する（90分）
担当教員			
第3回	代表的な教育家の思想と現代の教育観 ―教育観（教育に対する基本的な考え方）の歴史を人物および社会的背景を交えて理解する	テキスト第1章を読み、わからない語句は事前に調べておく（90分）	テキスト第1章を読み直し、講義内容を復習する（90分）
担当教員			

第4回	家族と社会による教育の歴史 ―家族や（地域）社会の教育的（子育て）機能の変遷を理解する	事前配布資料の熟読（90分）	配布資料を読み直し、講義内容を復習する（90分）
担当教員			
第5回	家庭や子どもに関わる教育の思想 ―多様化する家庭教育の価値観にそれぞれ通底する思想的ルーツを理解する	テキスト第3章を読み、わからない語句は事前に調べておく（90分）	テキスト第3章を読み直し、講義内容を復習する（90分）
担当教員			
第6回	近代学校の成立から高等教育の大衆化まで ―現在の学校教育の充実について、普通教育の制度整備や大学大衆化の社会的ニーズの視点から理解する	テキスト第5章を読み、わからない語句は事前に調べておく（90分）	テキスト第5章を読み直し、講義内容を復習する（90分）
担当教員			

第7回	教育問題から見る現在の学校制度、学校文化 ―現在の教育問題に潜む、学校の「あたりまえ」（制度の基本概念、文化）について知り、問い直す視点をもつ	現代の学校教育にまつわる問題について最近の新聞・雑誌記事から調べておく（90分）	配布資料を読み直し、講義内容を復習する（90分）
担当教員			
第8回	学校や学習に関わる教育の思想 ―教育課程編成の原理や授業における児童の位置づけについての主な理論について理解する	テキスト第4章を読み、わからない語句は事前に調べておく（90分）	テキスト第4章を読み直し、講義内容を復習する（90分）
担当教員			
第9回	「学力」とは何か（1）：測定方法の変遷と日本の課題 ―PISAをはじめとする国際的な学力調査の整備に伴い、明らかになった日本の課題について理解する	「全国学力調査」（国語、算数・数学）の問題を入手し、解きながら内容を検討する（90分）	配布資料を読み直し、講義内容を復習する（90分）
担当教員			

第10回	「学力」とは何か(2):「学力向上」の授業づくりの要点 ―学力の定義、望まれる学力について日本の教育政策の重点を確認した上で、社会的要請(人間力など)との関連を理解する	テキスト第2章、第11章を読み、わからない語句は事前に調べておく(90分)	テキスト第2章、第11章を読み直し、講義内容を復習する(90分)
担当教員			
第11回	生徒の人間関係の現状と生徒指導・生活指導の原理 ―子どもたちの仲間づくりの現状について理解を深め、生徒指導の重要性について理解する	テキスト第10章を読み、わからない語句は事前に調べておく(90分)	テキスト第10章を読み直し、講義内容を復習する(90分)
担当教員			
第12回	学校における道徳教育の意義 ―特別な教科としての道徳教育の位置づけを歴史的経緯を踏まえて理解する。また、高校で新設される「公共」の意義についても理解する	自分たちが受けてきた道徳教育について振り返り、意義と課題についてまとめる(90分)	配布資料を読み直し、講義内容を復習する(90分)
担当教員			

第13回	学校教育と生涯学習・社会教育 ―生涯学習の視点から、社会教育の実際と意義について明らかにし、学校教育との連携の今日的課題を考える	テキスト第12章を読み、わからない語句は事前に調べておく(90分)	テキスト第12章を読み直し、講義内容を復習する(90分)
担当教員			
第14回	変容する社会と教育問題 ―子育て家庭の貧困、格差社会、若者の就職難、多文化共生など変容する社会が抱える問題が教育にどのように影響(問題化)するかを具体的事例などから検討する	前時(第13回)に指定されたキーワードについて調べておく(90分)	配布資料を読み直し、講義内容を復習する(90分)
担当教員			
第15回	教育専門職として探求すべき教育学(まとめとふりかえり) ―教育学の基本的な考え方についてまとめ、意見交流を踏まえ自分の見解をまとめる	第2回～第14回の授業内容について、残された疑問についてあらかじめ調べたり質問したりする(90分)	不足している学習課題を明確化し、文献講読など今後の学習計画をたてる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	提出物(55%)、自主学習・議論などの参加態度(15%)
その他	30	記述形式のまとめ(第15回予定)

教科書

勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学〔改訂版〕』, 有斐閣, 2022年
※改訂版を必ず入手のこと(ISBN:978-4-641-15106-2)

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編 ―平成29年7月』, 東洋館出版社, 2018年
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』, 東山書房, 2020年
文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 ―平成30年7月』, 東洋館出版社, 2019年
教育開発研究所(編)『教育の最新事情がよくわかる本2020』, 教育開発研究所, 2019年
降旗信一(編)『持続可能な地域と学校のための学習社会文化論』, 学文社, 2017年
佐貫浩ほか(編)『3・11と教育改革』, かもがわ出版, 2013年
児美川 孝一郎『まず教育論から変えよう』, 太郎次郎社エディタス, 2015年

履修条件・留意事項等

・教育や関連する話題について、新聞やニュースなどで情報収集する習慣をつけておくこと
・教育への実践的理解を深めるために、雑誌『教育』(教育科学研究会編集、国土社)の講読を推奨する。また、教育系研究会へのオンライン参加を推奨する(GoogleClassroomにて告知)

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育の基礎的理解に関する科目						
科目名	教職入門					ナンバリング	1002
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	常田　拓孝						

授業の位置づけ

教員免許の取得をめざす際に必要な教職に関する基本的な専門的知識や技能を修得する科目である。「教職に関する科目」の基礎となる授業である。学校教育の目標，教育課程の編成，学校教育の現状，期待される教員像などについて学修し，「教職に関する科目」の準備とする授業である。

授業の概要

教員養成教育における必須科目「教職の意義等に関する科目」として教職課程において最初に学ぶ科目である。教師の仕事の本質や専門性，学校教育の方向性等の基本的理念を概説し，教師の専門性や仕事に関する基本的な概念を学ぶ。さらに，学校教育における子どもの発達を理解しながら，教師としての教科指導，教育の方法の基本理論を学ぶ。

到達目標

1 学校教育のあり方について理解し，教職の意義について述べることができる。
2 学校における教師の職務について説明できる。
3 教師の職務を遂行するための資質や能力について述べることができる。
4 教科指導，教育の方法について自らの考えを整理し，考えを交流する話し合いに参　加することができる。

授業の方法

教科書及び配布物を用いて，講義形式及びグループ学習を取り入れ行う。ミニレポートを時間内に行う（11回）。
理解度を確認するためのレポートを3回行う。

ICT活用

適宜，グーグルクラスルーム等のプラットフォームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

中学校教員を務め，学校運営，学校経営の経験が長く，教育全般について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー，レポートを読み，コメントを記すことによって学修へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション　教職課程で学ぶこと】授業の進め方について理解する。教職をめざすにあたっての学校教育の意義や目的について理解し，教師としての基本的な姿勢やあり方を論ずることができる。（担当 常田拓孝）	教科書「序章」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第2回	【子どもの生活】学校教育の主体である「子ども」の生活の様相について理解し，学校教育において進めるべき教育内容について述べることができる。（担当 常田拓孝）	教科書「第1章第1節 最近の子どもの生活」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【学校生活での子ども】児童生徒の学校における心身の発達・変化等について調べ，学校教育において配慮，工夫すべき点について述べることができる。（担当 常田拓孝）	教科書「第1章第2節 最近の学校の中の生活」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【学習指導】学校教育における学習指導の目標や方法の基本的な理念について調べ，児童生徒の発達段階に応じた学習指導はどのようにあるべきかについて述べることができる。レポート課題＃１（担当 常田拓孝）	【学習指導】学校教育における学習指導の目標や方法の基本的な理念について調べ，児童生徒の発達段階に応じた学習指導はどのようにあるべきかについて述べることができる。レポート課題＃１（担当 常田拓孝）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【生徒指導】生徒指導と学習指導は学校教育において表裏一体にあり，生徒指導としての機能を説明できる。児童生徒の資質や能力を伸長できる教師としての基本的な生徒指導上の技能等について述べることができる。専門家などの人材を活かしながら，チームとして組織的に対応することについて説明できる。（担当 常田拓孝）	教科書「第2章第2節 生徒指導・進路指導 第3節 教育相談」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第6回	【学級経営】学校生活において児童生徒の最も中心的な役割を果たす学級について，その役割，目的を説明できる。児童生徒一人一人の成長を促すとともに，望ましい集団形成の方法について述べることができる。（担当 常田拓孝）	教科書「第2章第4節 学級経営」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第7回	【教師に求められる資質・能力】学校教育にあって，これまで教師に何が求められてきたかについて歴史的視点から説明できる。さらに，これからの時代において，教師にはどのようなことが求められているのかについて述べることができる。（担当 常田拓孝）	教科書「第3章第1節 教師に何を求めてきたか，いま何が求められているか」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第8回	学ぶことと教えること】教師の適切な指導によって，児童生徒は学校生活を通じて様々なことを学び，成長することを説明できる。さらに，教師も児童生徒から学び続けることが重要であることを説明できる。（担当 常田拓孝）	教科書「第3章第2節 児童生徒と教師」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第9回	【今，期待される先生とは】現職の先生をゲストティーチャーとして迎え，「今，期待される先生とは」と題して講義していただき，どのような先生をめざすかについて考える端緒とする。学校教育目標の具現化のために学校内でチームとして組織的に学校運営にあたることについて説明できる。（担当 常田拓孝）	これまでの学修資料を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第10回	【先生の仕事，先生の毎日】現職の先生をゲストティーチャーとして迎え，「先生の仕事，先生の毎日」と題して講義していただき，実際に先生が日々どのような仕事をしているのかについて挙げることができる。学年でも，協働で組織的に課題解決にあたることが重要であることを説明できる。（担当 常田拓孝）	これまでの学修資料を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第11回	【教員養成の制度】教員養成制度の概要を理解し，教員養成の理念を踏まえてどのような学修をすることが期待されているかについて挙げることができる。レポート課題＃2（担当常田拓孝）	教科書「第4章第1節 教員養成の制度，第2節 教職課程の仕組みと内容」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第12回	【教員の採用と研修】教員の採用制度について理解する。教員の研修が児童生徒の教育にあって重要であることを述べることでき，学び続ける教師のありようについて論ずることができる。学校がチームとして組織的に課題解決にあたることができる資質を身につけることが大切であることを挙げることができる。（担当 常田拓孝）	教科書「第4章第3節 教員の採用，第2節 教員の研修」を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第13回	【教員の地位と身分】教員の地位と身分について説明できる。教育を携わる教員に定められているの地位，身分が重要で，児童生徒の教育に対する不断の努力が重要であることを説明できる。児童生徒の教育について努力を続けるとともに，学校外の専門家とも連携する姿勢が欠かせないことを論ずることができる。レポート課題＃３（担当 常田拓孝）	教科書「第5章第3節 教員の地位と身分，第2節 教員の待遇と勤務条件」を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第14回	【学校制度】わが国における学校制度の概要について説明できる。国民の負託に応える学校教育のあり方について，学校の管理や学校経営の視点から述べることができる。(担当 常田拓孝)	教科書「第6章第1節 学校制度，第2節 学校の管理・運営体制」を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第15回	【まとめ】授業をとおして教員のあり方，児童生徒主体の学校教育のありようについて説明できる。今後の教職課程での学修の方法や内容について述べることができる。教職課程での学修では，様々な体験を経験しながらチームとして学校づくりにあたることについて述べることができる。評価テスト（担当 常田拓孝）	これまでの学修資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	3回のレポートの提出
その他	40	評価テスト

教科書

1 新版(改訂二版) 教職入門 教師への道／藤本典裕／図書文化社
2 中学校学習指導要領(平成29年告示 文部科学省)

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育の基礎的理解に関する科目						
科目名	教育経営論					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田　和彦						

授業の位置づけ

本科目である教育経営論は教職課程に位置づけられ、教員免許を取得するための必修教科である。また本科目は 教職科目のうち「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を扱う授業である。教職を希望する者にとって、教育制度を理解することは不可欠であり、教育課程の編成、教育方法の理論と実践との関連を重視し教職課程の総合知を獲得できるよう授業を位置づける。

授業の概要

近年、国際化グルーバル化の進展に伴い、我が国の次代を担う人材の育成のため、教育制度の改革がなされてきた経緯がある。特に教育制度の改革による学習指導要領の改訂により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校と新しい学習指導要領により教育活動が実施される。教育法制度、学校教育の制度や学校経営及び学級経経営、教職員制度、社会教育の意義と進展さらに学校教育との連携の意義などの基盤的知識を理解し教職への意識づけを高める授業とする。

到達目標

①今日的な学校教育、社会教育の制度や教育機関における組織の在り方について理解することができる。（知識・技能）
②組織や教育制度の課題・改善策について理解を深め表現することができる。（思考・判断・表現）
③学習課題の解決のため、他者と協力し学習を深めることができる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。

ICT活用

・Google classroom、Google formを活用して、毎時の気づきの言語化、把握やフィードバック等を行う。
・Google form、Google Gemini等を活用して、受講生のふりかえりや意見の集約を行う。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校の教諭・校長と北海道教育委員会や国立青少年教育施設等における社会教育行政の経験を有しており、双方の制度や法体系、連携や組織経営の在り方などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
・受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 講義の全体像や学び方をはじめ、公教育の原理や理念を理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、公教育の原理や理念についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	教育制度の変遷 明治期以降の教育の変遷について概観し、時代と教育制度との関係について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、教育制度についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	現行の教育制度1 教育基本法や学校教育法、社会教育法など現行の教育制度を構成する法体系について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、教育の法体系についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第4回	現行の教育制度2 公教育推進上の教育行政の役割や仕組み、教育施策の現状等について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、教育行政の役割や仕組み、教育施策の現状等についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	学校経営上の今日的な課題1 社会や子どもを巡る諸課題等の変化を踏まえた指導の在り方について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、社会や子どもを巡る諸課題等の変化を踏まえた指導の在り方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	学校経営上の今日的な課題2 社会や子どもの変化と教育制度上の諸課題について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、社会や子どもの変化と教育制度上の諸課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	学校経営の実際1 学校における組織マネジメントの基本と学校経営方針の在り方や学校評価について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学校経営の基本的事項についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	学校経営の実際2 学校における職員研修や分掌、服務、人事評価等の人事管理の基本、在り方について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、職員研修や分掌、服務、人事評価等についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	学校経営の実際3 学校における働き方改革など、タイムマネジメント在り方や教育格差について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料、ノートをもとに、働き方改革等についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	学校経営の実際4 学校における安全管理の基本や在り方について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料、ノートをもとに、安心・安全な学校づくりについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	学校経営の実際4 学校における安全管理の基本や在り方について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学年・学級経営、校務分掌の基本的事項についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	学校経営の実際6 学校と社会教育など、学校を巡るステークホルダーとの関係性や連携・協働の重要性等について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学校と外部との連携についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	学校と地域との連携 学校と地域とが連携した教育活動の実情や課題等について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学校と地域との連携についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、教育制度の意義や今日的な課題等について理解できる。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に臨む(90分)。	小テストをふりかえり、不明確な点や疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ 講義全体をふりかえり、社会の要請に対応した学校づくりとそれに対する自身の貢献について討議し、本科目のまとめを行う。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に臨む(90分)。	講義全体を通しての学びや気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施寺内
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 60% ②小テスト(14回目) 30% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	

教科書

なし

参考文献

・文部科学省ホームページ
・北海道教育委員会ホームページ
・恵庭市ホームページ 等
※その他、適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りスマートホンまたはPCを持参する。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育の基礎的理解に関する科目						
科目名	教育心理学					ナンバリング	1004
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	川俣　智路						

授業の位置づけ

本講義は、中学校教諭・高等学校教諭・栄養教諭免許状取得のための必修科目である。

授業の概要

本講義では学校教育□幼稚園を含む□の対象となる子どもの発達、学習、人格と適応、見立てや評価を基本的内容とする。さらに、これらの知見をベースにして、援助を必要とする児童生徒に対する支援のあり方についても情報を提供する。また、教育現場における具体的問題を取り上げ、将来、教育現場で子どもと関わるために必要な情報を提供する。本講義では、受講生の主体的な参加を重視した、アクティブな授業の展開が積極的に進められる。

到達目標

1　子どもの発達と教育の関係について説明できる。
2 学習理論の基礎的な事項を説明できる。
3 様々なニーズをもつ児童生徒に対する理解を深め支援できる力量を形成する。
4 教育実践場面について、受講生同士での議論を通して、様々な見立ての視点を獲得できる

授業の方法

本講義では、受講生の主体的な参加を重視した、アクティブな授業の展開を積極的に進めていく。そこでは、心理テストや行動評定票を活用した討論の素材の提供、ワークショップ形式による実践場面の検討、事例検討などを通じて、実践的な視点と知識を獲得していく。

ICT活用

自身のデバイスによるクリッカーの活用、ウェブ掲示板による意見交流、確認問題をウェブフォームを用いて実施する

実務経験のある教員の教育内容

公認心理師として、学校に勤務した経験を活かして、子どもの心理に関連する授業を行う

課題に対するフィードバックの方法

ウェブ媒体で提出し、コメントをフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	教育心理学の目的と課題 心理学の歴史を探る中で、教育心理学の目的と課題を探る。ここでは、次の□点から学習を深めていく。①教育心理学の目的 ②発達と教育 ③遺伝か環境か	準備学習：「心理学」という学問分野について、身近にある資料に目を通して見る（90分）。	教育心理学の扱う問題を整理して、他の心理学分野との関連を理解する（90分）。
担当教員			
第2回	教育と発達（1） ①子どもの育ちとは～遺伝と環境 ②アタッチメントは	発達という用語について調べておく。（90分）	配布された資料を読む。（90分）
担当教員			
第3回	教育と発達（2）①パーソナリティとは何か ②個性を伸ばす教育とは	パーソナリティという用語について調べておく。（90分）	パーソナリティ検査を通して、自分のパーソナリティについて考察し、レポートを作成する。（90分）
担当教員			

第4回	認知発達と教育 ①認知発達の道筋 ②心の理論とは ③メタ認知とは	コミュニケーション能力の重要性について調べる。(90分)	指定文献を参考にしながら、コミュニケーション能力を規定する諸要因について整理する。(90分)
担当教員			
第5回	自己の成長と人間関係 ①自己とアイデンティティ ②人間関係の発達	配布プリントに目を通しておく。(90分)	事前に配布された資料を読み人間関係の発達に教育がどんな役割を示すか検討する(90分)
担当教員			
第6回	学習理論と教育 ①教育における学習 ②学習理論の概観	学習理論について予習しておく(90分)	これまで受けてきた高校までの授業をふり返り、どのように学習理論が活かされてきたかをまとめる(90分)
担当教員			

第7回	学習指導の実際 ①学習指導方法 ②個に応じた学習指導とは	「学習」という心理学用語について調べておく。(90分)	配布された資料を読み、条件づけと動機づけについて整理し、必要に応じて説明できるようにする。(90分)
担当教員			
第8回	支援の必要な児童・生徒の心理と指導(1): 発達と発達障害について理解を深めます。ここでは、子どもの発達の理解が特別支援教育の学習の第一歩であることを学習する	「発達」という、心理学の専門用語の意味について、調べておく。(90分)	発達障害体験に関するレポートを作成する (90分)
担当教員			
第9回	支援の必要な児童・生徒の心理と指導(2): 支援の必要な児童・生徒への対応について考える。	障がいとは何かについて調べておく。(90分)	「障がいという問題を構成している要因」について整理しまとめる(90分)
担当教員			

第10回	学習環境の構築とその指導 ①学校の学習環境の問題点とは ②個に応じた学びの環境をどう整えるか	学習環境に関する資料に目を通してくる（90分）	配布された資料を読み、ワークショップへ向けた準備をする（90分）
担当教員			
第11回	学習指導に関するワークショップ ①学習指導に関する教員・子ども体験 ②個に応じた学びの環境を整える方法	学習指導に関する資料に目を通してくる（90分）	ワークショップ結果をまとめ、レポートを作成する（90分）
担当教員			
第12回	動機付けと教育 ①ワークショップの振り返りと動機付け ②動機付け理論とは	「動機付け」という、心理学の専門用語の意味について、調べておく。（90分）	児童・生徒の動機を高める方法について調べまとめておく（90分）
担当教員			

第13回	子どもの不適応（1） ①いじめ問題に対応する ②不登校への対応	いじめ問題、不登校を調べ学習しておく（90分）	自分が教員になったときに、どのようにして児童・生徒への対応をするかについてまとめておく（90分）
担当教員			
第14回	子どもの不適応（2） ①学級内での人間関係を知る ②非行、家庭環境への理解	学級内の人間関係の把握の仕方について調べ学習しておく（90分）90	自分が教員になったときに、どのようにして児童・生徒への対応をするかについてまとめておく（90分）
担当教員			
第15回	教育心理学に関するまとめ これまで学習したトピックスの中から1つ選択し、内容をまとめて発表する	これまで学習した内容について復習しておく（90分）90	最終レポートをまとめる（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	講義内で出される3回の課題に対するレポート(10%×3回)によって評価する
その他	70	授業終了後に実施する確認問題で評価する(5%×14回)

教科書

なし

参考文献

『児童生徒理解のための教育心理学』ナカニシヤ出版 2013年
『ガイドライン学校教育心理学』ナカニシヤ出版 2016年

履修条件・留意事項等

中学校教諭・高等学校教諭・栄養教諭免許状取得のための必修科目

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育の基礎的理解に関する科目						
科目名	特別支援教育概論					ナンバリング	1020
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	村田　敏彰						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）」と関連する科目である。特別な教育的ニーズに応じた支援のための基本的資質、教育的能力を身につけ、共生社会の実現に向け、歴史的背景や国際的な動向を踏まえながら、より適切な教育のあり方を考え続ける指導者の基礎となるものである。特別支援教育総論や知的障害教育につながるものである。

授業の概要

通常の学級にも在籍する様々な困難さのある幼児・児童及び生徒が安心感・充実感をもって集団に参加しながら、将来の社会参加・自立に必要な知識・技能を学習し、活用することができるようになるための組織的な支援方法を個別の支援計画・個別の指導計画に基づく取り組みとして理解する。

到達目標

1. 特別支援教育の理念や目的を理解し、個別の教育的支援について説明することができる。
2. 共生社会の実現にむけたインクルーシブ教育が重視されている理由を説明することができる。
3. 障害者差別解消法など、社会的な支援の実際を理解し、障害と支援を関連付けて記述することができる。
4. 個別の教育的支援を行う支援者として、共生社会の重要性を説明することができる。

授業の方法

ICT機器や映像を多用しながら、これまでの経緯や動向、今日的課題についてよりわかりやすく授業を進めるように工夫し、教育現場における実態も紹介しながら展開していく。さらに、講義形式と並行させて指導計画作成、レポート等の提出により、受講生の理解の様子を確かめながら授業をすすめていく。フィードバックとして振り返りシートを活用し、講義の中で質問に答えたり、受講生からの質問についてディスカッションさせたりしながら学びを深め、アドバイス等を行う。

ICT活用

パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームや「ふきだしくん」を効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション：特殊教育時代を振り返り、特別支援教育が目指す共生社会の意義と重要性について、全15回の講義を通して学ぶことを理解する。	障がいについて、自分なりの考えをまとめておく。(90分)	共生社会について整理し、意義と役割について整理する。(90分)
担当教員			
第2回	交流及び共同学習という特別支援教育を特徴付ける取組から、実態に応じた指導・支援の重要性とインクルーシブ教育の理念を理解する。	共生社会について整理し、「交流及び共同学習」について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第3回	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の役割や重要性について学習し、特別な教育的ニーズの把握や具体的支援の策定について理解する。	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第4回	校内学びの支援委員会の位置付けと役割を知り、その推進役である特別支援教育コーディネーターの重要性を学習する。集団参加に困難さのある児童・生徒への組織的な取り組みと特別支援教育の役割について理解する。	「校内支援委員会」の目的や構成について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第5回	障害者差別解消法における合理的配慮について学習し、具体的な事例をもとに実際場面での運用について理解する。	「障害者差別解消法」について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第6回	保護者連携の重要性について学習し、事例を基に教育相談の目的や留意点等、適切な対応の在り方について理解する。	家庭との連携の意義や重要性について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する(90分)
担当教員			

第7回	特別支援教育の対象となる障がい種別や学習上、生活上の困難について理解する。 ※小レポート作成	特別支援教育の対象となる障がい種や程度について調べておく。(90分)	講義内容についてキーワードをもとに整理し、自身の作成した小レポートを振り返りながら自分の考えを整理する。(90分)
担当教員			
第8回	障がいに基づく困難を主体的に改善・克服する上で重要となる自立活動について学習し、実際の指導場面及び指導案等を通して目的や留意点を理解する。	自立活動の目的や主な種類について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第9回	幼児児童生徒の発達や知能を客観的に把握する心理検査について学習し、WISC−ⅤやKABC−Ⅱ等の知能検査の特徴や分析方法について理解する。	心理検査の種類や目的、実施上の留意点について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第10回	ICF（国際生活機能分類）について学習し、活動と参加という社会的側面から「障がい」をとらえる必要性について理解する。	ICFや「障がい」の様々な捉え方について調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			
第11回	障がい者の就労を見据えた、各段階におけるキャリア教育について学習し、就労支援の制度や実態について理解する。	障がい者の就労の実態や制度について調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			
第12回	家庭との連携において、教育相談の困難事例である児童虐待について学習し、発達障がいとの関連や関係機関との連携について理解する。	児童虐待や関係機関との連携について調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			

第13回	社会問題化している不登校やひきこもりについて学習し、事例を基に発達障がいとの関連や関係機関との連携について理解する。	不登校の実態や関係機関との連携について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習上及び生活上の困難の軽減・克服にむけた、実態把握や具体的支援の組織的対応の必要性について理解する。	「チーム学校」の重要性やポイントについて調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ:授業で獲得した知識や理解を定着させる(レポートの作成作業に着手する)。	1～14回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。(90分)	自身のレポートを振り返り、本授業で得たことや今後に向けての課題をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第15回で実施する最終レポート作成(70%) 第7回で実施する小レポート(10%) 毎回提出する振り返りシート(10%) 授業への参加度・出席態度(10%)
その他	0	なし

教科書

なし(適時資料を配布する)

参考文献

「はじめての特別支援教育」柘植雅義・渡部匡隆・二宮真一・納富恵子編 有斐閣 2014

履修条件・留意事項等

栄養教諭免許取得の必修科目である。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育の基礎的理解に関する科目						
科目名	教育課程の意義と編成					ナンバリング	1012
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	相馬　哲也						

授業の位置づけ

本科目、教育の基礎的理解に関する科目であり、栄養教諭、中高英語教員免許取得のために必修である。

授業の概要

本授業では、現代の学校教育の課題を認識し、学習指導要領を踏まえた教育課程編成に関わる知見や方法を学ぶ。
また、教育課程を編成する上で重要となる、「資質・能力の三つの柱」(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」)について理解し、幼稚園・学校における教育の全体計画について、考えや意見を交流しながら考察する。
さらに、地域の教育力を生かした学習環境の充実やカリキュラム・マネジメントの意義について理解し、意欲的に調査を行い自らの意見等を積極的に交流・発表する。

到達目標

○教育に係る法令や規則を理解し、幼稚園教育要領や学習指導要領について説明できるとともに、教育課程編成の重要性や編成・実施の方法などについて理解し、説明することができる。
○子どもを取り巻く課題を認識し、施策や制度面の改善方策について意見を持ち、説明できる。
○子どもの健やかな成長を育む学校づくりに向けた方策を考え、説明できるとともに、社会に開かれた教育課程の在り方への関心を持ち、対話的な活動に意欲的に参加できる。

授業の方法

○本授業では、プレゼンテーションソフトを活用し、適宜印刷物も用いて説明する。
○提出課題に見る学生の問題意識を拾い上げ、フィードバックしながら、双方向あるいは対話的に授業をすすめるとともに、グループワークなどを通じて意見の交流を行う。
○毎時間の最後にフォームを活用した振り返りを行い、次の授業では意見の共有しながら、考察を深める。

ICT活用

グーグル等のプラットフォームを活用し、フォームによる意見集約を行うとともに、ミート等による遠隔授業も必要に応じて取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

教諭として、教科指導（英語）、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、教育課程編成の意義や実際の編成方法等の理解を促すとともに、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。また、学生の意見等を紹介することによって、学生同士が相互に学び合えるようフィードバックを適切に行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方、毎時間の振り返り、課題や評価について説明する。 ・教育課程編成の意義について学習する。	・シラバスを読んで理解しておくこ と。教育課程について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第2回	◎教育に関係する各種法令・規則について ・幼稚園教育要領や学習指導要領の法的根拠について学習する。 ・教育者として必要な資質・能力について学習する。	・関係する法令について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第3回	◎教育課程編成の基本について ・週時程や時間割から見えてくる学校の姿について学習する。 ・小学校や中学校における教育課程の特徴について、学習し、考察する。	・学校教育法施行規則 別表第一（第五十一条関係）について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		

第4回	◎幼児教育に係る教育課程について ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の共通点や違いについて学習する。 ・幼児教育の課題や少子化の課題について、考察する。	・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第5回	◎学校教育の現状と課題について ・小学校学習指導要領と中学校学習指導要領の差異を確認しながら、小中連携について学習する。 ・幼児教育のカリキュラム編成の視点から、保幼小連携について学習し、考察する。	・学校種の連携について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第6回	◎小学校における教育課程編成について ・学校の教育目標の設定方法について学習する。 ・都道府県と市町村の教育目標との関係について学習し、考察する。	・北海道教育推進計画について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		

第7回	◎PDCAサイクルを意識した教育課程編成について ・遠足等の学校行事の立案から実施、反省までの流れなどについて学習する。 ・行事計画の作成方法を学び、考察する。	・遠足を行うために準備しておく事柄について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第8回	◎社会に開かれた教育課程について ・保育所、幼稚園、小学校、中学校の地域連携について学習する。 ・学校等の情報発信の方法などについて学習し、考察する。	・複数の学校のHPを閲覧し、地域とのかかわりの視点からそれぞれの特徴を調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第9回	◎コミュニティースクールについて ・導入の趣旨や意義について、ゲストティーチャーを招き学習する。 ・恵庭市内小中学校の取組を学習し、考察する。	・学校運営協議会制度について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第10回	◎学力について ・全国学力学習状況等調査について学習する。 ・市町村ごとの結果発表の状況を学習し、考察する。	・直近の全国学力学習状況等調査の北海道の結果、自分の出身市町村や小中学校の結果などを調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第11回	◎学力と体力について ・学力や体力の向上を意図した教育課程編成について考察する。 ・課題解決に向けた学校や学級の取組について学習し、考察する。	直近の全国体力運動能力等調査の北海道の結果について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第12回	◎隠れたカリキュラムについて ・学びにくさを感じている児童への対応や読書活動の推進など、小学校の実践について学習する。 ・子どもたちの指導に生きる隠れたカリキュラムの実践について学習し、考察する。	・学習環境や子どもたちの意欲などを向上させる取組でかつ、教育課程編成上では見えてこない取組について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第13回	◎地域の教育力について ・地域の教育力を幼児教育や小学校教育に取り込んでいる事例について学習する。 ・保育園、幼稚園、小学校が地域に与える影響などについて考察する。	・地域と学校等が連携して行っている取組を調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第14回	◎教育課程の管理について ・学校等の説明責任について理解する。 ・教育課程の進行管理の必要性を理解し、考察する。	・カリキュラムマネジメントについて調べておくこと（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第15回	◎教育課程の編成と実施についてのまとめ ・これまでの学習を振り返り、具体的な保育者像、教師像を描く。	・事前に指示された課題に対して取り組むこと。（120分）	・15回の振り返りを行い、配布物等の整理を行うこと。（60分）
担当教員	相馬　哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、振り返りシートの内容(50%)、課題(30%)
その他	0	なし

教科書

適宜資料を配布する。

参考文献

・幼稚園教育要領解説 文部科学省
・保育所保育指針 厚生労働省
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省
・小学校学習指導要領 総則編 文部科学省 ・中学校学習指導要領 総則編 文部科学省

履修条件・留意事項等

教職課程履修者

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
科目名	道徳教育の理論と方法					ナンバリング	3042
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

「道徳教育の理論と方法」は、教職課程科目「教育課程及び指導法に関する科目」に位置づけられ、教員免許を取得するための必修科目である。本科目は、道徳教育を学びながら人間としてよりよい生き方を追求し、学校の教育活動全体で行われる道徳教育とその要として行われる「特別の教科 道徳」の授業について学ぶ。教職課程を学ぶ学生にとって全ての学習に関連した学びとなり、教育者としての資質づくりにつながる科目である。

授業の概要

道徳教育と道徳科の授業についての学びをもとに幼保・小・中のつながりを意識した道徳の授業ができ、道徳教育を推進していける力を修得する。道徳性の芽生えと道徳教育についての基礎知識を身につけ、その重要性について認識を深める。要となる道徳科の学習指導案作成と模擬授業や主体的で協動的な学習を通して、教員として必要な道徳教育の資質と具体的なスキルを身につける。

到達目標

1. 幼稚園・保育園における道徳性の芽生えからつながる小学校の道徳教育の目標・内容及び具体的な取組や学習指導法の基本的な活用と中学校の道徳へのつながりを説明できる。(理解)
2. 児童・生徒の心に届き、心に響く授業構想と授業ができるよう、道徳性の育成に資する道徳学習指導案を作成でき、授業ができる。(技能)
3. 自己の道徳性を見つめること(メタ認知)ができるとともに、他者と協力的・論理的思考により、自らの道徳性育成への意欲を高めていけるようになることを身に付け、それを保育・教育の実践に生かすことができる。(意欲)

授業の方法

指定した教科書をもとに、授業ではさらに内容を深めるようスライドの提示や資料を配布して講義式の授業を行い、内容によっては受講者同士の交流を行う。また、模擬授業の構想ではグループでの演習方式を取り入れ、知識や技能の自己獲得を図る。
授業の後にはリフレクションシートを提出し、授業内容の定着とより深い考察を通して、教師としての力量形成につなげる。

ICT活用

①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。
②レスポンスシート等の提出は原則Googleドキュメントにて行う。
③Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(社会・理科)、研究部長、初任者指導教諭、教務主任、主幹教諭を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。勤務校において、研究部長、教務主任を務めた際には学習指導要領改訂に伴って誕生した「特別の教科 道徳」の特色を踏まえ、指導要領改訂の趣旨及び道徳所見の書き方について研修会を主催した他、道徳教育全体計画及び別葉の作成を総括した。以上の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された指導案、レポートについては個別にコメントを通してフィードバックを行う。
模擬授業終了後にはその授業の価値について授業ごとに解説をつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 授業方法、授業計画、評価、についての説明を行う。 2. 受講者の「道徳教育」の被教育経験について交流する。 3. 小学校道徳の模擬授業を通し、この授業で身につけたい道徳教育の「技法」について提示する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」P10～21を読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第2回	1.道徳教育の歴史について触れ、その設置目的とその後の授業展開の議論を概括する。 2.「特別の教科道徳」の目標、目的、道徳性について具体的なイメージを持てるように学び、理解を深める。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」P21～P71を読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第3回	1.道徳性の議論として、「モラルジレンマ」を取り上げ、道徳教育の授業方法について理解を深める。 2.「読み物教材」と呼ばれる道徳の教材について分析をし、道徳の価値項目に迫る授業の方法について理解する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」P90～P91を読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		

第4回	1.「問題解決的な道徳」と呼ばれる道徳の授業方法を概括し、それに関わる教材について分析をし、道徳の価値項目に迫る授業の方法について理解する。 2.「体験学習を取り入れた道徳」と呼ばれる道徳の授業方法を概括し、それに関わる教材について分析をし、道徳の価値項目に迫る授業の方法について理解する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」P92～P93を読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第5回	1.道徳の学習指導案について、記述すべき内容と作成手順について理解を深める。 2.児童の発達段階や個に応じた道徳性の育成に資する指導方法について、具体的な取組み事例をもとに学習する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」P78～P80を読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第6回	グループワークによる道徳の授業授業づくり① 指定したいくつかの共通教材より選択した受講者でグループを作成し、模擬授業の指導案を作成する演習を行う。指導案作成後は模擬授業の準備を行う。	小学4年生道徳教科用図書を読み、模擬授業の構想をたてておく(90分)	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		

第7回	グループワークによる道徳の授業授業づくり② 指定したいくつかの共通教材より選択した受講者でグループを作成し、模擬授業の指導案を作成する演習を行う。指導案作成後は模擬授業の準備を行う。	小学4年生道徳教科用図書を読み、模擬授業の構想をたてておく(90分)	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第8回	グループワークによる道徳の模擬授業① 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第9回	グループワークによる道徳の模擬授業② 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく(90分)
担当教員	佐々木　英明		

第10回	グループワークによる道徳の模擬授業③ 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備（90分）	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第11回	道徳の授業づくりと実践～教材選びと指導案作成① これまでの授業、グループワークをもとに、自分で教材を選び内容項目を設定し、道徳の指導案作成を行う。グループ内で模擬授業指導案の検討をし合うことを通して多面的に授業づくりを行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする。（90分）	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第12回	道徳の授業づくりと実践～教材選びと指導案作成② これまでの授業、グループワークをもとに、自分で教材を選び内容項目を設定し、道徳の指導案作成を行う。グループ内で模擬授業指導案の検討をし合うことを通して多面的に授業づくりを行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする。（90分）	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。（90分
担当教員	佐々木　英明		

第13回	道徳の授業づくりと実践～教材選びと指導案作成③ これまでの授業、グループワークをもとに、自分で教材を選び内容項目を設定し、道徳の指導案作成を行う。グループ内で模擬授業指導案の検討をし合うことを通して多面的に授業づくりを行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする。(90分)	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。(90分
担当教員	佐々木　英明		
第14回	道徳の授業づくりと実践～授業構想発表会① 授業構想を説明し、討議を行う。授業者は指摘された点をもとに指導案を再構成して提出する。 これまでの授業を踏まえて、道徳教育のあり方についてまとめを行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第15回	道徳の授業づくりと実践～授業構想発表会② 授業構想を説明し、討議を行う。授業者は指摘された点をもとに指導案を再構成して提出する。 これまでの授業を踏まえて、道徳教育のあり方についてまとめを行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度 20%(発言、グループワークでの積極性等) グループワークでの模擬授業30%(授業後のレポートを中心に評価する) 自主選択授業指導案提出30% 提出課題20 %(各授業で課すリフレクションシートの内容等)
その他	0	

教科書

・小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 文部科学省(ダウンロードをしておくこと)
・道徳4「きみがいちばん光るとき」光村図書

参考文献

平成29年版学習指導要領（ダウンロード可能）
小学校新学習指導要領「道徳の授業づくり」坂本哲彦 2018 明治図書
小学校新学習指導要領ポイント想整理「特別の教科 道徳」永田繁雄 2017 東洋館出版社

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法					ナンバリング	2040
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	常田　拓孝、村田　敏彰						

授業の位置づけ

教職に関する科目のうち，特別活動に関する科目である。望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，自己の生き方についての考えを深め，自己を生かす能力を養うことをめざす特別活動に関する科目である。また，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざす総合的な学習の時間の指導について学ぶ科目である。

授業の概要

学校における特別活動の基本的な知識や方法を身につける。望ましい集団づくり，集団活動のねらい，具体的な方法について学ぶ科目である。具体的な活動プランや指導計画の立案体験をとおして，特別活動の実践的な技能や方法について学ぶ。総合的な学習の時間についてもその学習活動の意義，指導計画，指導の実際について学ぶ。

到達目標

1 特別活動及び総合的な学習の時間の歴史的変遷，学校での具体的な実践例からそのあ りかたを学び，その意義 を述べるこ とができる。
2 個と集団の関わりの視点から，学校での望ましい集団づくりについての配慮，方法に ついて挙げることができる。
3 教員同士が協働の姿勢で児童生徒の集団を運営する方策を学び，実際に活動計画を立 案することができる。

授業の方法

教科書及び配布物を用いて，講義形式及びグループワークでの学修を進める。ミニレポートを時間内に行う（10回）。
実際に特別活動，総合的な活動の時間の指導計画案，実施案を作成し，意見交流を行う。

ICT活用

適宜，グーグルクラスルーム等のプラットフォームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

常田は中学校教員を務め，学校運営，学校経営の経験が長く，特別活動に関して幅広い知識を有している。特別活動及び総合的な学習の時間の展開，指導計画，具体的な指導について指導を行う。
村田は小中学校教員として30年以上勤務し，学校経営ならびに学校運営の経験も有する。また，生徒指導部や教務主任の経験も有し，すべての教育活動を通じて体系的・横断的な指導を展開する上での企画や指導的な立場を務めてきた。この経験を活かし，実践的な指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー，レポートを読み，コメントを記すことによって学修へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション　特別活動・総合的な学習の時間とは】特別活動及び総合的な学習の時間の目標，あり方や方法の概要を説明できる（担当 常田拓孝）	これまでの生徒指導に関する学修内容を振り返っておくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第2回	【特別活動の目標】望ましい集団活動をとおして，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るなど，「特別活動」の目標や内容について説明できる。（担当 常田拓孝）	学習指導要領解説特別活動編第2章第1節の内容を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【特別活動の教育活動全体の意義】特別活動の全体像を捉え，その基本的性格を述べることができる。（担当 常田拓孝）	学習指導要領解説特別活動編第2章第2節の内容を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【学級活動のあり方】学級活動の目標，内容を理解し，望ましい人間関係の形成，学級や学校でのよりよい生活づくりに努める態度の形成の手法や方法について説明できる。(担当 常田拓孝)	学習指導要領解説特別活動編第3章第1節の内容を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【生徒会活動のあり方】生徒会活動の充実や向上を図る活動を行う生徒会活動について理解し，その自主的，実践的な態度を育てる方法について理解する。 【学校行事のあり方】学校や学年を単位として体験的に行われる学校行事について，その内容や目標について説明できる。望ましい人間関係の形成や集団への所属感や連帯感等を育てる方法について述べることができる。現職の中学校の先生をゲストティーチャーとして迎え，実際の指導，活動について説明できる。(担当 常田拓孝)	学習指導要領解説特別活動編第3章第2節，第3節の内容を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第6回	【学級活動指導計画の立案 その1】学級活動事例を参考にして，学級活動指導計画を立案し，グループ内で発表し合い，相互評価を行う。グループとしての学級活動計画案を立案する。(担当 常田拓孝)	学習指導要領解説特別活動編第4章第1節の内容を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第7回	【学校行事指導計画案の立案 その1】学校行事の事例を参考にして，学校行事指導計画案を立案し，グループ内で発表し合い，相互評価する。グループとしての学校行事指導計画案を立案する。（担当 常田拓孝）	これまでの学修内容を整理し，指導計画の立案について準備しておくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第8回	【総合的な学習の時間の目標】自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に学習するなど，「総合的な学習の時間」の目標や内容について説明できる。 （担当 村田敏彰）	学習指導要領解説総合的な学習の時間編第2章，第3章の内容を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	村田　敏彰		
第9回	【総合的な学習の時間年間指導計画の立案】学習指導要領にある総合的な学習の時間の「指導計画の作成と内容の諸取扱い」を参考に，総合的な学習の時間の年間指導計画を立案する。（担当 村田敏彰）	学習指導要領解説総合的な学習の時間編第2章，第3章の内容を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	村田　敏彰		

第10回	【総合的な学習の時間の指導計画の立案】総合的な学習の時間の指導計画の立案し，グループ内で実際の指導計画案を交流し，作成することができる。（担当 村田敏彰）	学習指導要領解説総合的な学習の時間編第4章の内容を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	村田　敏彰		
第11回	【総合的な学習の時間 地域素材の教材化】現職の中学校の先生をゲストティーチャーとして迎え，地域の教育素材を調査し，総合的な学習の時間にふさわしい外部教育素材の活用方法について挙げることができる。（担当 常田拓孝）	学習指導要領解説総合的な学習の時間編第7章の内容を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第12回	【総合的な学習の時間の評価】総合的な学習の時間における評価観点，評価規準について説明でき，授業における評価内容や方法について説明できる。ゲストティーチャーを迎え，具体的な評価方法についての実際を説明できる。（担当 常田拓孝）	学習指導要領解説総合的な学習の時間編第8章の内容を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第13回	【総合的な学習の時間と各教科等との関連】総合的な学習の時間と各教科等の関連について説明でき，総合的な学習の時間での学習活動において各教科等での学習成果を活用する方法について挙げることができる。（担当 常田拓孝）	学習指導要領解説総合的な学習の時間編第9章の内容を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第14回	【特別活動，総合的な学習の時間の意義】学校教育における特別活動，総合的な学習の時間相互の関連，さらにそれぞれと教科指導，道徳教育の関係を説明でき，それらが有機的に換券して，学校教育に掲げられている目標の達成に寄与することを説明できる。 （担当 常田拓孝）	教科書を通読し，学修をまとめておくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第15回	【まとめ】学校教育における望まし人間関係，よりよい集団づくり，主体的，創造的協同的な態度の育成など，本授業の学修についてまとめることできる。評価テスト （担当 常田拓孝）	これまでの配付資料を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	講義で提出するミニレポートの提出(14回)
その他	40	評価テスト

教科書

1 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動／文部科学省
2 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間／文部科学省

参考文献

1 高等学校学習指導要領 特別活動, 総合的な学習の時間／文部科学省

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
科目名	教育方法の理論と実践					ナンバリング	2030
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

本科目の教育方法の理論と実践は教職課程の「教育の基礎理解に関する分野」に位置づけられ、教職課程に必要な幅広い知識と技能を習得し、教育経営論、教育課程の意義と編成、教育原理との連携を重視した学習である。

授業の概要

本科目の教育方法の理論と実践は教職課程に位置づけられ、教員免許を取得するための必修教科であり、教育学・教育実践を方法論的な視点からとらえ、教育実践を合理的かつ効果的に進めるための学習である。そのため本科目では教育方法の基礎的理論（歴史・思想・政策）、さらに新しい時代に求められる教育への理解を深め、教育制度論、教育課程の意義と編成、教育原理との関連性を重視し授業を進め、教職課程に必要な幅広い知識と技能、さらに教職課程を取得するための学びに向かう人間力の育成を図る。

到達目標

①教育の目的を実現するための学校組織としての排列と課題を理解できる（知識・技能）。②教育方法として、どのように授業を進め、どのよう対応するのかの学習指導法の問題を実践的に思考し深め、レポート等で適切に表すことができる（思考・判断・表現）。③学習行動の改善、向上のためどのように学習指導を進めるべきか他のメンバーと協力し学習を進め、各授業の学習課題を解決することができる（関心・意欲・態度）。

授業の方法

授業の到達目標を達成するため、説明と演習の知的生産交流により授業を進める。受講者の学習への主体化を図るため、ハイブリッド型（ICTの活用と対面学習）を中心にアクティブラーニングにより授業を進める。毎時間、400字～600字程度で作成する学習レポートを授業中クラスルームより送信、学習終了前に完成させ返信する。その後、採点し返却する。あわせて14回目に小テスト1回（30点満点）を実施し、総合的に学習評価を行う。

ICT活用

毎時間のレポートの作成、FAMアプローチによる授業評価などグーグルクラスルームの活用による教師と学生の双方向による授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め札幌市内各区の社会科教育に方針を示し、実践を集約した。近年は教科書執筆にも携わり、学習指導要領を基にした学習指導についての執筆も行ってきた。以上の多数の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、クラスルームでのレポート提出時とあわせ随時受けつけ、内容により受講者全員への還元を図る。また毎時間、授業への自己評価、相互評価さらに学習レポートを中心とする学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（ルーブリックの提示と学習内容、進め方、本科を学ぶ意義）の内容を把握する。教育方法とは何か理解できる。	教育方法とは何かを調べ授業に臨む。（90分）	オリエンテーションの内容（ルーブリックの提示と学習内容、進め方、本科を学ぶ意義）を確認し、教育及び教育方法とは何かを整理する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第2回	PISA型学力学習到達度調査結果などからとらえる我が国の学力の課題と、学習指導要領で求められている教育方法が理解できる。	PISA型学力学習到達度調査に結果と課題を調べ授業に臨む。（90分）	PISA型学力学習到達度調査結果などからとらえる我が国の学力の課題と、学習指導要領で求められている教育方法を整理する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第3回	西洋における著名な教育方法学者とその理論さらに、教育方法学の歴史的変遷を概観し理解できる。	西洋における教育方法学の歴史的変遷と内容を調べ授業に臨む。（90分）	西洋における著名な教育方法学者とその理論、さらに教育方法学の歴史的変遷を概観し整理する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		

第4回	我が国における教育方法の歴史的変遷を現行の教育方法を中心に概観し理解できる。	我が国における教育方法の歴史的変遷を現行の教育方法を中心に調べ授業に臨む。(90分)	我が国における教育方法の歴史的変遷を現行の教育方法を中心に整理する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第5回	教科学習とは何か。その意義と基本的理論さらに汎用性の高い教科学習の方法が理解できる。	教科学習の意義と基本的理論さらに教科学習の方法を調べ授業に臨む。(90分)	教科学習とは何か。その意義と基本的理論さらに汎用性の高い教科学習の方法を整理する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第6回	授業デザインの基本的構成要素とその構成を担う授業の目的と目標、さらに実態把握の重要性を理解できる。	授業デザインの基本的構成要素とその構成を担う授業の目的と目標、さらに実態把握の重要性を調べ授業に臨む。(90分)	授業デザインの基本的構成要素とその構成を担う授業の目的と目標、さらに実態把握の重要性を整理する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		

第7回	教育方法としての学習評価の意義と理論、学習評価の方法が理解できる。	学習評価の意義と理論、学習評価の方法を調べ授業に臨む。（90分）	教育方法としての学習評価の意義と理論、学習評価の方法を整理する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第8回	教育方法学としての教育機器とICTの活用の意義と理論が理解できる。	教育方法学としての教育機器とICTの活用の意義と理論を調べ授業に臨む。（90分）	教育方法学としての教育機器とICTの活用の意義と理論を整理する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第9回	教科教育方法の重点的要素である教科経営の意義と進め方が理解できる。	教科教育方法の重点的要素である教科経営の意義と進め方を調べ授業に臨む。（90分）	教科教育方法の重点的要素である教科経営の意義と進め方を整理する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		

第10回	特別支援教育の教育方法論が理解できる。	特別支援教育の教育方法論を調べ授業に臨む。(90分)	特別支援教育の教育方法論を整理する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第11回	特別な教科道徳、特別活動、総合的な学習(探究)の各時間の教育方法の原理が理解できる。	特別な教科道徳、特別活動、総合的な学習(探究)の時間の教育方法の原理を調べ授業に臨む。(90分)	特別な教科道徳、特別活動、総合的な学習(探究)の各時間の教育方法の原理が理解できる。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第12回	主体的・対話的で深い学びによる教育方法の理論が理解できる。	主体的・対話的で深い学びによる教育方法理論とは何かを調べ授業に臨む。(90分)	主体的・対話的で深い学びによる教育方法理論を整理する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		

第13回	主体的・対話的で深い学びによる学習過程が理解できる。	主体的・対話的で深い学びによる学習過程を調べ授業に臨む。（90分）	主体的・対話的で深い学びによる学習過程を整理する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第14回	学習のまとめとしての小テストを行い、学習過程における教育方法の適切な運用が理解できる。	小テストのための学習準備を行い、学習過程における教育方法の適切な運用を調べ授業に臨む。	学習のまとめとしての小テストの振り返りを行い、学習過程における教育方法の適切な運用を整理する。
担当教員	佐々木　英明		
第15回	教育方法を課題とした模範的授業のDVDを視聴し本科全体のまとめを行う。	主体的・対話的で深い学の学習過程を調べ授業に臨む（90分）	教育方法を課題とした模範的授業のDVDを視聴し本科全体のまとめを行う。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	ルーブリックの評価規準による毎時間の学習レポート評価　（1回1点～5点を14回・70点）
その他	30	小テスト（30問×1点を1回・30点）

教科書

自作の学習資料による。

参考文献

文部科学省の刊行物

履修条件・留意事項等

学習内容の理解と定着を図るため準備学習、事後学習を重視し学習規律を守り提出物は期限を厳守する。授業中は自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「教育方法の理論と実践」への理解を深めて頂きたい。

備考欄

なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
科目名	ICTを活用した教育の理論と方法					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

「ICTを活用した教育の理論と方法」は、教育(学校・幼稚園)におけるICTの活用に関わる現状と課題を認識し、これまでの教育のIT化やGIGAスクール構想の理念等に学びながら、意欲的に考察し、実践力を養うための科目である。
ディプロマポリシーにおける「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関連する。
また、幼稚園教諭、小学校教諭免許取得に必要な教職科目であり、「教科教育法」「幼稚園および小学校教育実習」と接続する科目である。

授業の概要

教育現場におけるICT(情報通信技術Information and Communication Technology)の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解する。具体的には授業における児童及び教員のICT活用、校務でのICT活用、学習評価に関する活用などを取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について具体的な指導法や教育課程上の取り扱いについて解説する。その上で現在ICT教育で取り上げられている議論も踏まえ、その利活用について多面的に考察していく。本科目では実際に学生によるタブレット等の操作も行い、1人1台端末時代の教育に即応するスキルについても身につけていく。

到達目標

・教育現場におけるICT活用に意義や理論、学習活動の方法、校務での活用等について理解し、説明することができる。（知識）
・学校現場での利活用を踏まえたICT機器の操作ができる。（技能）
・ICTを活用した教育についての理論と実践を結びつけて考察する態度を身につけることができる。（態度）

授業の方法

①資料を配布し、対応するスライドをもとに授業を行う。
②教育現場でのICT機器活用の様子について写真や動画等を視聴し、理解を深める。
③第4回～第7回は各自PCを持参し、グループワークによる実技を行う。
④理解度確認テストを1回行い、基本的な知識の定着を図る。
⑤授業で課す簡単な調査や制作物などは適宜提出する（授業内で指示する）。

ICT活用

①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。
②レポート提出はGoogleドキュメントにて行う。
③理解度確認テストはGoogleフォームテスト機能にて行う。
④Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め、コロナ禍における研究実践を推進した他、勤務校においてはGIGAスクール構想を受けICT教育の責任者を担った経験をもつ。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストは回答後すぐに答えが確認できるように、Googleフォームにて行う。課題のレポートはGoogleにて提出する。
小レポートについては各回ともいくつか紹介し、コメントを付す。
提出を必要とする課題にはルーブリック評価を設定し、受講生が取り組む目的を明確にする。提出後は総評を付して返却を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1.授業のガイダンス 2.Society5.0に関する議論、経済産業省による「未来の教室」と文部科学省のGIGAスクール構想について説明する。さらに、Steam教育の概要について理解し、教育におけるICTの位置づけについて捉える。	インターネット等でシラバスで示した語句について検索を行い、疑問点を整理しておく(90分)	小レポートの作成および、資料を整理し、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第2回	1. 子どもの生活世界とICTの議論について様々な角度から取り上げて考察する。 2.一人一台端末による学習環境の変化とそれに伴う実践事例について理解する。 3.教育現場での情報化による学校の変化や、校務での活用の実際について理解する。	インターネット等でシラバスで示した語句について検索を行い、疑問点を整理しておく(90分)	小レポートの作成および、資料を整理し、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第3回	1.令和の日本型学校「個別最適な学びと協働的な学び」における、ICTの役割について理解を深める。 2.ICTを活用した遠隔教育の実際と活用について理解する。	インターネット等でシラバスで示した語句について検索を行い、疑問点を整理しておく(90分)	小レポートの作成および、資料を整理し、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員	佐々木　英明		

第4回	理解度確認テストを行う。 一人一台端末と教育活動での利活用の実際① 実技演習として、Google Workspace for Educationの操作を行う。教師側、生徒側双方の操作の違いについて理解し課題の設定、回収、評価までの演習を行ってみる。※充電されたパソコンを持参のこと	理解度確認テストの準備をしておく(30分) インターネットでGoogle Workspace for Educationの概要や操作方法について検索し、予習しておく(60分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第5回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際② 様々な教育活動におけるICT機器の利用について理解し、特に活用されるGoogleフォームの作成、スライド、ドキュメント、スプレッドシートの活用やofficeとの連携について実践的に理解する。※充電されたパソコンを持参のこと	配られた資料について事前に読み、様々な教科でのICT機器の活用についての知識を得ておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第6回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際③ 様々な教育活動におけるICT機器の利用について理解し、実際の教科や教育活動場面を想定し、その場面において学習者が活用するワークシート等を作成してみることを通して、理解を深める。※充電されたパソコンを持参のこと	小学校の授業での一人一台端末の活用例について文部科学省StuDX Style Steamライブラリー、EdTechライブラリー等のサイト等で調べ、様々な教科でのICT機器の活用についての知識を得ておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員	佐々木　英明		

第7回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際④ プログラミング教育について理解する。アンプラグドによるプログラミング教育を通したプログラミング的思考とはどういうものかを理解するとともに、具体的なプログラミング操作としてのscratchを取り上げ実際にプログラムを組む活動を通して理解を深める。※充電されたパソコンを持参のこと これまでの実技を踏まえて、デジタル教材の作成を各自行う。	各自PC等でScratchのサイトに接続し、アカウントを作成しログイン処理をしておくこと。配布資料を事前に読み、疑問などを整理しておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第8回	メディアリテラシーの問題、学校でのICT機器活用に関しての課題、授業の画一化の課題を取り上げるとともに、デジタルシチズンシップの概念と具体的な実践について触れ、教育でのICT活用について多面的に理解を深める。	インターネット等でシラバスで示した語句について検索を行い、疑問点を整理しておく(90分)	これまでの資料、テキストなどを読み返し、レポート課題を進める(90分)
担当教員	佐々木　英明		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度（実技演習の取り組み、教材作成による提出物など）40% 小レポート提出 40% 理解度確認テスト 20%
その他	0	

教科書

なし。必要な資料は授業にて配布する。

参考文献

「ICT活用の理論と実践」稲垣忠/佐藤和紀編著 2021年 北大路書房
「オンライン脳」川島隆太 著 2022年 アスコム
「教育DXで未来の教室をつくろう」 2021年 浅野大介著 学陽書房
「第四次産業革命と教育の未来: ポストコロナ時代のICT教育」 佐藤学 著 2021年 岩波ブックレット
「情報通信技術を活用した教育の理論および方法」2023年 実教出版
「ICTを使いこなせる教員養成講座」信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター 編著 さくら社 2023年
「社会科プロ発！"ICT活用"ヒント辞典～授業アップデートのアイデア50～」佐々木英明・山方貴順 編著 学芸みらい社

履修条件・留意事項等

毎回の授業ではインターネット・学内Wi-Fiにつながる端末（スマートフォン、タブレット）を持参のこと。
特に第4回～第7回授業は、十分に充電されたパソコンを各自持参のこと。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
科目名	生徒指導・キャリア教育の理論と方法					ナンバリング	2034
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	常田　拓孝、村田　敏彰						

授業の位置づけ

学校現場における生徒指導(教科指導、生活指導、進路指導、生徒相談等) に関する基礎的な科目である。現代社会の中で生きる子どもの特性と問題点を明確にし，生徒指導およびキャリア教育の理論と方法について修得する科目である。

授業の概要

学校における生徒指導では，その基本となる児童生徒理解についての基本的な知識や方法を身につける。また，生徒指導の基本である子ども，青年の発達に関する心理学や社会学，また教育学などの基本を学び，人間の発達に関する理解を深める。

到達目標

1 現代社会の抱える問題と教育の現状との関連を説明できる。
2 現代社会の中で生きる子どもの現状と特性を述べることができる。
3 生徒指導の原理を説明できる。
4 キャリア教育の理論と方法を説明できる。
5 生徒指導に関する事例についてその解決法を説明でき，グループワークでの討議に参 加できる。

授業の方法

教科書及び配布物を用いて，講義形式で授業を進める。事例研究としてグループワークによる課題解決，討議を行う。ミニレポートを時間内に行う（全11回）。
理解度を確認するためのレポートを3回行う。
授業全体の理解度を確認するための評価テストを実施する。

ICT活用

適宜，グーグルクラスルーム等のプラットフォームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

常田は中学校教員を務め，学校運営，学校経営の経験が長く，教育全般について幅広い知識を有している。生徒指導についても経験が豊富であり，学校教育における位置づけ，指導の実際などについて指導を行う。
村田は小・中学校教員として30年以上勤務し、学校経営ならびに学校運営の経験も有する。また、生徒指導部や教務主任の経験も有し、すべての教育活動を通じて体系的・横断的な指導を展開する上での企画立案や指導的な立場を務めてきた。この経験を活かし、実践的な指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー，レポートを読み，コメントを記すことによって学修へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 生徒指導とは，生徒指導の基本】生徒指導は，学校の教育目標を達成するための重要な機能の一つであり，すべての児童生徒の人格のよりよい発達をめざすとともに，学校生活が児童生徒にとって興味深く，充実したものになるよう展開することであることを説明できる。（担当 常田拓孝）	教科書のp.12～p.23を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第2回	【生徒指導の方法】学校での，児童生徒理解，組織的対応について述べることができる。生徒指導では，学校内でのチームによる支援など組織的対応が必要であることを述べることができる。（担当常田拓孝）	教科書のp.23～p.38を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【生徒指導と教育課程 その1】児童生徒にとって学校生活での最も中心は授業であり，その授業を有意義なものにするには生徒指導の実践上の視点を活かすことが必要であることを説明できる。レポート課題＃1（担当 常田拓孝）	教科書p.39～p.48を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【教育課程と生徒指導 その2】学校教育において密接な関係にある道徳教育と生徒指導の関係を説明することができる。(担当 常田拓孝)	教科書p.48～p52を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【教育課程と生徒指導 その3】総合的な学習(探究)の時間を充実させることは，その目標を達成することだけでなく，生徒指導の目標に直接又は間接に寄与することにつながることを述べることができる。(担当 常田拓孝)	教科書p.52～p.55を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第6回	【教育課程と生徒指導 その4】「なすことによって学ぶ」を原理とする特別活動は，集団活動を通して，生徒指導の目的に迫る学修活動であることを述べることができる。 (担当 常田拓孝)	教科書p.55～p.67を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第7回	【チームによる生徒指導体制】生徒指導体制，児童生徒理解体制，危機管理体制など学校での生徒指導体制について説明できる。（担当 常田拓孝）	教科書p.68～p.118を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第8回	【個別の課題に対する生徒指導 その1】いじめ，暴力行為，少年非行の未然防止，学校での対応について説明できる。レポート課題＃２（担当 常田拓孝）	教科書p.120～p.170を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第9回	【個別の課題に対する生徒指導 その2】児童虐待，自殺，中途退学の学校での対応にについて説明できる。不登校，インターネット等に関わる問題，性に関する課題，多様な背景を持つ児童生徒の生徒指導について説明することができる。（担当 常田拓孝）	教科書p.171～p.289を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第10回	【ゲストティーチャー講義 その1】ゲストティーチャーによる講義から特別支援教育の理念，学校体制の整備，合理的配慮などについて一般化できる。（担当 常田拓孝）	これまでの学修範囲の教科書，資料を読んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第11回	【ゲストティーチャー講義 その2】ゲストティーチャーによる講義から通常の学級での特別な支援を要する児童生徒について説明できる。（担当 常田拓孝）	これまでの学修範囲の教科書，資料を読んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第12回	【生き方を考えるキャリア教育】児童詩絵と発達段階に応じて，自らの生き方を考えることができるよう支援するキャリア教育について説明できる。（担当 村田敏彰）	事前配付資料を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	村田　敏彰		

第13回	【キャリア教育計画】各学校で児童生徒のキャリア形成をめざすキャリア教育計画の立案，実施について説明できる。(担当 村田敏彰)	事前配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第14回	【個々の成長を促す進路指導・キャリ教育】児童生徒一人一人こ個性，特性を生かし，社会的に自立し，貢献できる人材育成の視点に立った進路指導・キャリア教育の充実が重要であることを論ずることができる。(担当 村田敏彰)	事前配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第15回	【積極的な生徒指導を進めることができる教師をめざして】学校にあって，児童生徒の健全な成長を促すために，児童生徒一人一人の心の動きを見つめることが大切であることを述べることができる。評価テスト(担当 常田拓孝)	教科書及びこれまでの配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	3回のレポートの提出
その他	40	評価テスト

教科書

1 生徒指導提要／文部科学省 令和4年12月

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
科目名	教育相談の基礎と方法					ナンバリング	3046
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	常田　拓孝						

授業の位置づけ

学校現場における生徒指導に関する基礎的な科目である。児童生徒理解に努めることが積極的な生徒指導の根幹となることを明らかにし，その具体的な視点としての教育相談の理論と具体的な相談方法について修得する科目である。

授業の概要

教育相談とは，生徒指導の重要な領域であることを理解し，教育活動のあらゆる場面のあらゆる機会を通して行われていることについて理解を深める。児童生徒一人一人に焦点を当てた，好ましい人間関係，生活適応，自己理解等，教育相談を行う上での基礎的な知識及び具体的な進め方を身につける。特に，教育の今日的課題である，いじめ，不登校，特別な支援を要する児童生徒に関する教育相談における基礎的な知識を身につける。さらに事例演習を通して，教育相談スキルを身につける。

到達目標

1 教育相談について，その組織的な体制や進め方等の基礎的な知識を説明できる。
2 児童生徒や保護者等への教育相談の具体的な進め方を述べることができる。
3 いじめ，不登校，特別な支援を要する児童生徒に関する教育相談の基礎的な知識を説 明できる。
4 事例演習を通して，基本的な教育相談ができる。
5 教育相談に関する事例についてその解決法を説明でき，グループワークでの討議に参 加できる。

授業の方法

教科書及び配布物を用いて，グループワークでの学修を進める。
教育相談事例演習を行い，相互評価を行う。ミニレポートを時間内に行う（10回）。
理解度を確認するためのレポートを3回行う。

ICT活用

適宜，グーグルクラスルーム等のプラットフォームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

中学校教員を務め，学校運営，学校経営の経験が長く，教育全般について幅広い知識を有している。教育相談についても経験が豊富であり，生徒指導との関連，教育相談に実際について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー，レポートを読み，コメントを記すことによって学修へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 教育相談とは】生徒指導を充実するための教育相談のあり方や方法の概要を説明できる。	講義「生徒指導・キャリア教育の理論と方法」の学修成果を振り返っておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第2回	【学校教育相談の基礎知識】学校教育相談の基礎的知識を理解し，学校教育での児童生徒理解にあたっての重要な手法であることを説明できる。	教科書のp.8～p.24を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【教育相談の基本姿勢 その1】学校教育相談におけるカウンセリングマインドについて理解し，教育相談でについての考え方や姿勢を説明できる。	教科書p.25～p.41を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【教育相談の基本姿勢 その2】児童生徒理解における一般的理解について，心理学的視点からの分類，医学的視点からの分類に基づいて述べることができる。	教科書p.42～p.63を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【学校教育相談の組織的展開】学校教育相談は生徒指導の充実を図る上で重要であり，学校全体が組織的に運用，展開されることが児童生徒の望ましい発達や成長につながることを説明できる。レポート課題＃1	教科書p.64～p.93を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第6回	【教育相談をやってみよう その1】これまでの講義で学んだ教育相談の手法や方法に基づいてペアとなり，先生役児童生徒役で実際に教育相談を行う。さらに，相互評価を実施する。	これまでの講義での学修について振り返っておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第7回	【様々な技法を活かす開発的教育相談 その1】学校教育の場で効果的に活用できる相談の理論や技法について理解し，児童生徒の自己実現を図る生徒指導のあり方について説明できる。	教科書p.94～p.110を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第8回	【様々な技法を活かす開発的教育相談 その2】児童生徒の学校における人間関係力をはぐくむための共感能力，表現力を高める基本的案理論や方法について説明できる。	教科書p.111～p.136を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第9回	【問題解決的教育相談の実際 その1】発達障害のある児童生徒，非行問題を抱える児童生徒，いじめ問題，不登校児童生徒への対応，相談，支援のあり方について説明できる。	教科書p.136～p.153を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第10回	【問題解決的教育相談の実際 その2】児童生徒の様々な問題行動について，その対応や教育相談をとおしてのケアのあり方，周囲の児童生徒への配慮や学校全体としての対応のあり方について挙げることができる。レポート課題＃２	教科書p.153～p.165を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第11回	【これからの学校教育相談】開発的・包括的支援体制を構築し，学校教育相談のさらなる充実のための方法について理解し，児童生徒への支援を意識した教育相談の「心」と「技」のバランスが重要であることを説明できる。	教科書p.166～p.172を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第12回	【教育相談をやってみよう その2】これまでの学修成果をふまえて，テーマを決めて実際に教育相談を行う。ペアとなり，先生役と児童生徒や役で実践する。実施後に相互評価を行う。	教育相談の実際についてあらためて学修しておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第13回	【教育相談をやってみよう その3】これまでの学修成果をふまえて，テーマを決めて実際に教育相談を行う。前回と異なるペアで実践する。実施後に相互評価を行う。レポート課題＃3	教育相談の実際についてあらためて学修しておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第14回	【教育相談をやってみよう その4】これまでの学修成果をふまえて，テーマを決めて実際に教育相談を行う。新たペアで実践する。実施後に相互評価を行う。	教育相談の実際についてあらためて学修しておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第15回	【学修のまとめ】学校教育における生徒指導の充実には，適切な児童生徒理解に基づく配慮や教育活動の展開が必要であり，教育相談は欠くことができないことを説明できる。さらに，学修全体をとおして，日々「心」を磨く教師をめざすことの重要性を理解する。評価テスト	教科書及びこれまでの配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	講義3回のレポートの提出
その他	40	評価テスト

教科書

1 新改訂 教育相談 基礎の基礎／島崎政男／学事出版株式会社

参考文献

1 生徒指導提要／文部科学省

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育実践に関する科目						
科目名	教育実習指導					ナンバリング	3060
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	常田　拓孝						

授業の位置づけ

教育実習を履修するにあたり，これまでに学んだ「教職に関する科目」，「教科に関する科目」など教育実習生として求められる基本的な知識や技術を実際の教育現場において使うことができるように再確認する科目である。また，実習生に求められる姿勢や具体的な実習日誌，諸帳簿の書き方，及び教育実習中の心得等について理解，準備，修得する科目である。

授業の概要

教職課程における教育実習は，実際の教育活動に参加することによって，教員になるうえでの心構え，及び教育活動に必要な教育知識と技術を身につけることである。教育実習を控えて，それらの目的を達成するために必要な知識や姿勢を身につける。

到達目標

1 教育実習の意義、目的を挙げることができる。
2 各種講義で学んだ知識をどのように教育実習に活かすかを述べることができる。
3 教育現場における必要な生徒指導の方法を再確認し，述べることができる。
4 教育公務員としての身分や義務，責任等について再確認し，述べることができる。

授業の方法

配布物を用いて学修を進める。
学習指導案の作成し，模擬授業を行い，相互評価を行う。

ICT活用

適宜，グーグルクラスルーム等のプラットフォームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

中学校教員を務め，学校運営，学校経営の経験が長く，教員養成に関して幅広い知識を有している。教育実習の実際についても経験が豊富であり，教科指導，学級経営等の実際について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

模擬授業指導案，実際の模擬授業から教育実習に向けてのアドバイスをすることによって学修へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 教育実習とは】教育実習についての目的，意義について理解し，教育実習を控えての準備，心構え等を理解する。（担当 常田拓孝）	これまでの教職に関する講義の学修内容を振り返っておくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第2回	学習指導案と教科指導 その1】学校教育での学習指導案の作成意義，ねらい等について理解し，教科指導の基本的な構成，留意点等を理解する。（担当 常田拓孝）	英語科教育法で学修した内容を振り返っておくこと（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【学習指導案と教科指導 その2】学生自身が教育実習で担当する教科の学習指導の作成にあたっての基本的な内容，指導過程等について述べることができる。（担当 常田拓孝）	当該する教科の学習指導案，教科書を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【学習指導案と教科指導 その3】学生自身が教育実習で担当する教科の学習指導案を作成し，その内容について交流し，検討する。（担当 常田拓孝）	前時の資料等を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【学習指導案と教科指導 その4】作成した学習指導案をもとに，模擬授業を行い，相互評価ののち，改善策を検討する。（グループ1）（担当 常田拓孝）	前時で作成した学習指導案をもとに授業を行う準備をすること。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第6回	【学習指導案と教科指導 その5】作成した学習指導案をもとに，模擬授業を行い，相互評価ののち，改善策を検討する。（グループ2）（担当 常田拓孝）	作成した学習指導案をもとに授業を行う準備をすること。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第7回	学習指導案と教科指導 その6】作成した学習指導案をもとに，模擬授業を行い，相互評価ののち，改善策を検討する。(グループ3)(担当 常田拓孝)	作成した学習指導案をもとに授業を行う準備をすること。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第8回	【学習指導案と教科指導 その7】作成した学習指導案をもとに，模擬授業を行い，相互評価ののち，改善策を検討する。(グループ4)(担当 常田拓孝)	作成した学習指導案をもとに授業を行う準備をすること。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第9回	【学習指導案と教科指導 その8】作成した学習指導案をもとに，模擬授業を行い，相互評価ののち，改善策を検討する。(グループ5)(担当 常田拓孝)	作成した学習指導案をもとに授業を行う準備をすること。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第10回	【生徒への話し方 その1】生徒と教師の信頼関係の確立のため，さらに生徒が人間としての生き方について考えを深められるよう，生徒とともに，考え，悩み，感動を共有していく姿勢のあり方について，生徒への話し方の視点から理解する。(グループ1)(担当 常田拓孝)	生徒への話しの内容を準備しておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第11回	【生徒への話し方 その2】生徒と教師の信頼関係の確立のため，さらに生徒が人間としての生き方について考えを深められるよう，生徒とともに，考え，悩み，感動を共有していく姿勢のあり方について，生徒への話し方の視点から理解する。(グループ2)(担当 常田拓孝)	生徒への話しの内容を準備しておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第12回	生徒への話し方 その3】生徒と教師の信頼関係の確立のため，さらに生徒が人間としての生き方について考えを深められるよう，生徒とともに，考え，悩み，感動を共有していく姿勢のあり方について，生徒への話し方の視点から理解する。(グループ3)(担当 常田拓孝)	生徒への話しの内容を準備しておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第13回	【教育実習の課題 その1】これまでの学修成果をふまえて，教育実習を行うにあたってのそれぞれの課題を明確にし，交流を行う。交流後に相互評価を行う。（グループ1）（担当 常田拓孝）	これまでの学修についてあらためて復習しておくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第14回	【教育実習の課題 その2】これまでの学修成果をふまえて，教育実習を行うにあたってのそれぞれの課題を明確にし，交流を行う。交流後に相互評価を行う。（グループ2）（担当 常田拓孝）	これまでの学修についてあらためて復習しておくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第15回	【学修のまとめ】教育実習の目的の一つである教職課程等において学んだ教科等や教職に関する専門的な知識・理解した内容を生かし，指導すべき内容を直接，生徒に指導することを通し，指導するための基礎・基本を実践的に学ぶことの重要性を述べることができる。（担当 常田拓孝）	これまでの配付資料を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	各講義で提出するラーニング・マップの提出(15回)
その他	20	レポート提出

教科書

1 講義用資料を配付する。

参考文献

1 中学校，高等学校学習指導要領／文部科学省

履修条件・留意事項等

国際コミュニケーション学科教育実習履修要件を満たしていること。

備考欄

なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育実践に関する科目						
科目名	中学校教育実習					ナンバリング	4064
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	4
担当教員	常田　拓孝						

授業の位置づけ

教育実習を控え，これまでに学んだ「教職に関する科目」，「教科に関する科目」など教育実習生として求められる基本的な知識や技術を実際の教育現場において使うことができるように再確認する科目である。さらに，教育実習を実り多いものとするための最終準備，実施後の評価を行う科目である。

授業の概要

教育実習での必要な必要な知識や姿勢を再確認し，さらに教育実習で学んだ成果，課題等を明らかにする。

到達目標

1 各種講義で学んだ知識を教育実習に活かすことができる。
2 教師の業務，責任，使命等について教育現場から述べることができる。
3 残された大学での学修課題を明確に説明することができる。

授業の方法

配布物を用いて学修を進める。
学習指導案の作成し，模擬授業を行い，相互評価を行う。

ICT活用

適宜，グーグルクラスルーム等のプラットホームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

中学校教員を務め，学校運営，学校経営の経験が長く，教員養成に関して幅広い知識を有している。教育実習の実際についても経験が豊富であり，教科指導，学級経営等の実際について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

教育実習期間中に実習の実際を捉え，成果及び改善点をアドバイスすることにより，教育実習の充実へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 教育実習の準備】教育実習に備えて準備すること，心構え等について理解する。	これまでの教職に関する講義の学修内容を振り返っておくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第2回	【指導過程1】学習指導案の作成の仕方，生徒の学びに沿った指導過程等について説明できる。	学習指導要領の内容を振り返っておくこと（90分）	当該する教科の学習指導案，教科書を読み込んでおくこと。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【学習指導案と模擬授業 その1】教育実習で担当する教科の学習指導案を作成し，模擬授業を行い，相互評価し，改善策を検討する。	当該する教科の学習指導案，教科書を読み込んでおくこと。（90分）	当該する教科の学習指導案，教科書を読み込んでおくこと。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【学習指導案と模擬授業 その2】学生自身が教育実習で担当する教科の学習指導案を作成し，模擬授業を行う。その内容について交流し，検討する。	前時の資料等を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【学習指導案と模擬授業 その3】学生自身が教育実習で担当する教科の学習指導案を作成し，模擬授業を行う。その内容について交流し，検討する。	前時で作成した学習指導案をもとに授業を行う準備をすること。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第6回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第7回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認（90分）	実習日誌の記入，振り返り（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第8回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認（90分）	実習日誌の記入，振り返り（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第9回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認（90分）	実習日誌の記入，振り返り（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第10回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認（90分）	実習日誌の記入，振り返り（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第11回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認（90分）	実習日誌の記入，振り返り（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第12回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認（90分）	実習日誌の記入，振り返り（90分）
担当教員	常田　拓孝		

第13回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認（90分）	実習日誌の記入，振り返り（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第14回	【教育実習】	教材研究，実習校の教育活動の確認（90分）	実習日誌の記入，振り返り（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第15回	【教育実習のまとめ】教育実習を終えての成果，課題を明確にし，学校教育現場の理解を深め，今後の大学での学修計画に資することをあらためて確認する。	これまでの配付資料を読み込んでおくこと。（90分）	配付資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	100	教育実習校による「教育実習評価」を参考とする。

教科書

1 講義用資料を配付する。

参考文献

1 中学校，高等学校学習指導要領／文部科学省
2 教育実習担当教科の教科用図書（教科書）

履修条件・留意事項等

国際コミュニケーション学科教育実習履修条件を満たしていること

備考欄

なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　教育実践に関する科目						
科目名	教職実践演習（中・高）					ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	常田　拓孝						

授業の位置づけ

教職にふさわしい知識と技能，教職をめざす姿勢の獲得について，4年間の単位取得状況や関連科目の成績等の到達点を踏まえ，教員免許取得に求められる大学教育としての到達目標を達成することを目標と科目である。

授業の概要

教職課程科目としての様々な科目や教職に関わる活動を通じて学生が身につけた資質能力について整理，統合し，教師としての目標を定め，その実現に向けて学ぶ科目である。教育実習で明らかになった課題に基づき，インターンシップを取り入れ，実践的な技能や方法について学ぶ。

到達目標

1 授業を進める上での実践的スキルを獲得することができる。
2 学級・学校の実際について理解し，実践力や指導力量の向上策を挙げることができる。3 積極的なコミュニケーションとプレゼンテーションの技能を獲得できる。

授業の方法

配布物を用いて，講義形式及びグループワークでの学修を進める。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

中学校教員を務め，学校運営，学校経営の経験が長く，教員養成に関して幅広い知識を有している。学校教育全体のあり方，期待される教員等について，実際教員となって必要な知識，態度等について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学生自らが描く教師のあり方をふまえ，教員生活の充実を図るようアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 】教育実習を振り返り，教育課題について交流し，教師の求められる資質，能力について再確認する。	教育実習の内容を振り返っておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第2回	【総合的な学習の時間 その1】「総合的な学習の時間」の目標や内容について学習指導要領より改めて確認する。各自が学習計画を立案する。	学習指導要領の内容を振り返っておくこと(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【総合的な学習の時間 その2】各自が立案した学習計画をグループごとに提案し合い，グループでの学習指導計画を立案する。	各自が立案した指導計画を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【総合的な学習の時間 その3】グループごと立案した学習指導計画を発表し，意見交換を行い，交流し，相互評価を行う。	グループで立案した学習指導計画を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【インターンシップに備えて】インターンシップの目標，内容を理解し，教職課程の集大成としての参加の仕方，学修方法について理解する。	「インターンシップの実施」についてを読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第6回	【インターンシップ その1】3日間，教育実習の経験，これまでの教職課程等の学修をふまえ，地域の中学校でのインターンシップに参加する。授業等の補助，教材づくり，学級活動への参加をとおしての生徒理解，教員の学校実務，業務の補助をとおしての理解などについて学ぶ。	「インターンシップの実施」についてを読み込んでおくこと。(90分)	これまでの学修資料の復習，中学校での一日を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第7回	【インターンシップ その2】3日間，教育実習の経験，これまでの教職課程等の学修をふまえ，地域の中学校でのインターンシップに参加する。授業等の補助，教材づくり，学級活動への参加をとおしての生徒理解，教員の学校実務，業務の補助をとおしての理解などについて学ぶ。	「インターンシップの実施」についてを読み込んでおくこと。(90分)	これまでの学修資料の復習，中学校での一日を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第8回	【インターンシップ その3】3日間，教育実習の経験，これまでの教職課程等の学修をふまえ，地域の中学校でのインターンシップに参加する。授業等の補助，教材づくり，学級活動への参加をとおしての生徒理解，教員の学校実務，業務の補助をとおしての理解などについて学ぶ。	「インターンシップの実施」についてを読み込んでおくこと。(90分)	これまでの学修資料の復習，中学校での一日を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第9回	【インターンシップ その4】3日間，教育実習の経験，これまでの教職課程等の学修をふまえ，地域の中学校でのインターンシップに参加する。授業等の補助，教材づくり，学級活動への参加をとおしての生徒理解，教員の学校実務，業務の補助をとおしての理解などについて学ぶ。	「インターンシップの実施」についてを読み込んでおくこと。(90分)	これまでの学修資料の復習，中学校での一日を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第10回	【インターンシップ その5】3日間，教育実習の経験，これまでの教職課程等の学修をふまえ，地域の中学校でのインターンシップに参加する。授業等の補助，教材づくり，学級活動への参加をとおしての生徒理解，教員の学校実務，業務の補助をとおしての理解などについて学ぶ。	「インターンシップの実施」についてを読み込んでおくこと。(90分)	これまでの学修資料の復習，中学校での一日を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第11回	【インターンシップ その6】3日間，教育実習の経験，これまでの教職課程等の学修をふまえ，地域の中学校でのインターンシップに参加する。授業等の補助，教材づくり，学級活動への参加をとおしての生徒理解，教員の学校実務，業務の補助をとおしての理解などについて学ぶ。	「インターンシップの実施」についてを読み込んでおくこと。(90分)	これまでの学修資料の復習，中学校での一日を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第12回	【インターンシップ報告会 その1】経験したインターンシップで学んだこと，明らかになった教育課題について交流し，相互評価する。	「インターンシップの報告」を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第13回	【インターンシップ報告会 その2】経験したインターンシップで学んだこと，明らかになった教育課題について交流し，相互評価する。	「インターンシップの報告」を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第14回	【教職課程を学んで その1】4年間の教職課程の学修を終えて，自らが学んだこと，社会人生活に活かしたいことなどを発表しあい，教職課程の学修についてまとめる。	「教職課程を学んで」を用意しておくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第15回	【教職課程を学んで その2　教職課程のまとめ】4年間の教職課程の学修を終えて，，自らが学んだこと，社会人生活に活かしたいことなどを発表し合い，教職課程の学修についてまとめる。また，教職課程の学修全体の成果等を確認する。	これまでの配付資料を読み込んでおくこと。(90分)	配付資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	交流資料，発表資料等の成果によって行う。
その他	0	なし

教科書

1 講義用資料を配付する。

参考文献

1 中学校, 高等学校学習指導要領／文部科学省

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教育の基礎的理解に関する科目等　大学が独自に設定する科目						
科目名	介護等体験					ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	常田　拓孝						

授業の位置づけ

教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることについての重要性から教員の資質向上及び学校教育の一層の充実を図るために，中学校の教諭普通免許状取得希望者に介護等体験が義務づけられいる。ふだん接することの少ない様々な人の生き方，生活のありように気づくとともに，人との関わり，人を援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に学ぶ。これにより，義務教育を担う者に求められる幅広い社会観・人生観をもつことができるよう視野を広げ，人間的に成長できるきっかけを得ることを目的としている。大学が独自に設定する科目である。

授業の概要

社会福祉施設での5日間，特別支援学校での2日間の介護等体験の目的，意義等を理解し，実際の介護等体験をとおして，様々な人々との交流を経験し，適切な支援のあり方について理解する。
教職に就いた際の児童生徒理解，一人一人に応じた支援について学ぶ。

到達目標

1 学校も社会福祉施設も人間を対象とした実践現場であることをふまえ，様々な生活課題を抱えていることを理解し，援助のあり方を考え，地域社会の様々な人々と協力して，豊かな社会をつくる意義を学ぶ。
2 人の考え方，価値観の多様性，施設利用者の抱えている社会的不利について理解することができる。
3 社会福祉施設及び特別支援学校での体験をとおして，一人一人の生き方の尊さや価値観の多様性等についての理解を深めることができる。

授業の方法

社会福祉施設での5日間，特別支援学校での2日間の介護等の体験学習を行う。
配布物を用いて介護等体験の意義，ねらい，心構え等について学ぶ。

ICT活用

適宜，グーグルクラスルーム等のプラットフォームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

中学校教員を務め，管理職として学校運営，学校経営の経験が長く，教員養成に関して幅広い知識を有している。介護等体験に必要な児童生徒理解，様々な人々との交流，理解について経験が豊富である。

課題に対するフィードバックの方法

介護等体験期間中での実習体験の実際を捉え，成果及び改善点をアドバイスすることにより，教職に就くための学修のさらなる充実へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション その1 】介護等体験についての制度，目的等を理解し，具体的な体験内容について理解する。	これまでに学修した生徒指導，特別支援教育などについて振り返っておくこと。(90分)	配付資料を復習すること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第2回	【オリエンテーション その2】社会福祉施設の目的，役割・機能，利用者の状況等について，その概要を理解する。	これまでに学修した生徒指導，特別支援教育などについて振り返っておくこと。(90分)	配付資料を復習すること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【オリエンテーション その3】特別支援学校の目的，種類，役割，教育内容等について，その概要を理解する。	これまでに学修した生徒指導，特別支援教育などについて振り返っておくこと。(90分)	配付資料を復習すること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【介護等体験 社会福祉施設】社会福祉施設での5日間の介護等体験を履修する。	事前配付資料を読み取ること。(90分)	体験を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【介護等体験 特別支援学校】特別支援学校での2日間の介護等体験を履修する。	特別支援学校より事前に配布される資料を読み取ること。(90分)	体験を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第6回	介護等体験交流会 その1】5日間の社会福祉施設での介護等体験を終えての学修成果を交流し，将来の教職においての児童生徒理解，支援について考えることができる。	介護等体験交流会 その1】5日間の社会福祉施設での介護等体験を終えての学修成果を交流し，将来の教職においての児童生徒理解，支援について考えることができる。	交流資料を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第7回	【介護等体験交流会 その2】2日間の特別支援学校での介護等体験を終えての学修成果を交流し，特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな配慮について考えることができる。	特別支援学校での2日間の体験をあらためて振り返っておくこと。(90分)	交流資料を振り返ること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第8回	【学修のまとめ】介護等体験を終えて，学校教育をめぐる課題について考え，交流する。また，求められる教師像を考え，その実現のための学修課題を明らかにする。	社会福祉施設，特別支援学校での介護等体験を振りかえ，今後の教職についての学修にどのように活かすことができるか，教職をめざす学修にどのように取り組むかについて考えておくこと。(90分)	
担当教員	常田　拓孝		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	100	介護等体験先の担当者，特別支援学校の校長及び教頭，担当教員との面談，テーマごとの交流資料，発表資料の成果によって評価を行う。

教科書

講義用資料を配付する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

なし
備考欄
なし

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教科及び教科の指導法に関する科目　各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)						
科目名	英語科教育法Ⅰ					ナンバリング	2080
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦						

授業の位置づけ

教育職員免許状（中学校、高等学校・英語）を取得するための科目である。施行規則に定める科目区分等で「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に位置づく科目であり、英語科教育法ⅡからⅣまでの基礎となる科目である。

授業の概要

この講義では第二言語習得論について理解を深めながら、その理論が活用されている授業実践を分析し、実際の授業の手法を学ぶとともに授業分析の手法を理解して自らの授業実践に活用できるようになることを目指す。

到達目標

・学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解する。
・第二言語習得の知見に裏打ちされた教育手法を実際の授業指導に生かすことができる。
・学習指導案の作成について理解する。
・生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。
・授業分析の手法を習得し自らの授業の振り返りに役立てることができるようになる。

授業の方法

第二言語習得論について理解を深めながら、その理論が活用されている実際の授業の手法を学ぶ。基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

課題の形式に応じたフィードバックを講義中やweb上で行う。Google classroomなどを介してフィードバックも行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 英語教師になる上で求められる能力について考え、議論する。第二言語習得論を学ぶ意義を理解する。	英語教師になるためにどのような能力が必要か考えて、クラスディスカッションに備える(90分)。	クラスディスカッションに備える。(90分)
担当教員			
第2回	人間の母語習得、幼児期のバイリンガリズムについて理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第3回	第二言語学習者の言語について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	第二言語学習者の個人差について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	第二言語学習を説明する理論について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第6回	第二言語の教室で用いる観察スキーム(COLT)について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			

第7回	Task-based language teachingを中心に、第二言語の教授法について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第8回	タスクについて理解を深め、効果的な活用方法について考える。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第9回	Focus on Formを取り入れた授業の方法について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			

第10回	学習指導案の書き方について学び、タスクを用いたスピーキング活動を中心とした授業方法について考える。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	指導案を作成する(90分)。
担当教員			
第11回	これまでの学習を踏まえ、授業での文法指導のありかたについて考える。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第12回	語彙指導の方法について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			

第13回	音声指導のさまざまな手法について理解する。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第14回	「学びのユニバーサルデザイン(UDL)」について理解し、さまざまな特性をもつ生徒の多様性に柔軟に対応する英語授業の在り方について考える。	講義内容について事前に下調べを行う(90分)。	講義内容の復習をし要点をまとめる(90分)。
担当教員			
第15回	講義全体の振り返り	授業で学習したことを振り返る(90分)。	最終レポート課題の作成を行う(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小レポート課題 40 % 指導案 20% 最終レポート課題40%
その他	0	特になし。

教科書

「言語はどのように学ばれるか」パッツイ・M.ライトバウン/ ニーナ・スパダ 岩波書店
中学校学習指導要領解説(外国語編)
高等学校学習指導要領解説(外国語編・英語編)″

参考文献

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

教職課程履修者を対象に講義を行う。そのため多くの課題が課せられることを踏まえて受講すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教科及び教科の指導法に関する科目　各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)						
科目名	英語科教育法Ⅱ					ナンバリング	2081
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦						

授業の位置づけ

教育職員免許状（中学校、高等学校・英語）を取得するための科目である。施行規則に定める科目区分等で「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に位置づく科目であり、英語科教育法Ⅰで学習したことを発展させ、英語科教育法Ⅲ、Ⅳの学習につなげる科目である。

授業の概要

学習指導要領およびその解説について、具体的な指導法とともに概説し、それを踏まえて模擬授業の指導案を作成する。模擬授業の振り返りを行ってそのディスカッションによりさらに指導法についての理解を深める。

到達目標

・中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」(「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」及び「書くこと」)の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付ける。
・複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。
・教材や ICT の活用方法を知る
・英語による授業展開や ALT等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。
・生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。
・学習指導案の作成について理解する。

授業の方法

学習指導要領およびその解説について、具体的な指導法とともに概説し、それを踏まえて模擬授業の指導案を作成する。模擬授業の振り返りを行ってそのディスカッションによりさらに指導法についての理解を深める。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

課題の形式に応じたフィードバックを講義中やweb上で行う。Google classroomなどを介してフィードバックも行う。
指導案については個別指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【講義ガイダンス】 この講義で学ぶ内容と求められる課題の内容について理解する。担当する模擬授業を決定する。	英語科教育法1で学んだことの振り返り〔90分〕	講義を振り返り、模擬授業に反映できる部分について考察する(90分)。
担当教員			
第2回	【スピーキングの指導の実際】 学習指導要領におけるスピーキング活動の取り扱いについて理解し、英語でのインタラクションについて理解を深める。タスクを用いた指導と評価法について学ぶ。この領域の指導における音声・語彙・表現及び文法指導において留意すべき点を理解し、ALTとのTTの効果的な導入について考察すると同時に、生徒の特性について配慮すべき点について議論する。	中学校や高校で受けたスピーキングの指導について振り返り、課題点をまとめる〔90分〕。	講義を振り返り、模擬授業に反映できる部分について考察する(90分)。
担当教員			
第3回	【模擬授業①】 スピーキング活動をメインに取り入れた授業案の作成とそれに基づく模擬授業の実施を通じて課題を見つけ、その克服について考察する。	模擬授業準備〔90分〕	模擬授業を振り返る。模擬授業を担当した場合は振り返りレポートを作成する(90分)。
担当教員			

第4回	【リスニングの指導の実際】 学習指導要領におけるリスニング活動の取り扱いについて理解し、リスニング問題の作成の観点及び英語のバリエーションに対する配慮の重要性について理解する。また、dictogloss, shadowingなどの具体的な指導方法について学ぶ。この領域の指導における音声・語彙・表現及び文法指導において留意すべき点を理解し、ALTとのTTの効果的な導入について考察すると同時に、生徒の特性について配慮すべき点について議論する。	中学校や高校で受けたリスニングの指導について振り返り、課題点をまとめる〔90分〕。	講義を振り返り、模擬授業に反映できる部分について考察する（90分）。
担当教員			
第5回	【模擬授業②】 リスニング活動をメインに取り入れた授業案の作成とそれに基づく模擬授業の実施を通じて課題を見つけ、その克服について考察する。	模擬授業準備〔90分〕	模擬授業を振り返る。模擬授業を担当した場合は振り返りレポートを作成する（90分）。
担当教員			
第6回	【ライティングの指導の実際】 学習指導要領におけるライティング活動の取り扱いについて理解し、プロセス・アプローチによるライティング指導の基本的なありかたと様々なジャンルにおけるライティング指導及び評価の観点について学ぶ。この領域の指導における音声・語彙・表現及び文法指導において留意すべき点を理解し、ALTとのTTの効果的な導入について考察すると同時に、生徒の特性について配慮すべき点について議論する。	中学校や高校で受けたライティングの指導について振り返り、課題点をまとめる〔90分〕。	講義を振り返り、模擬授業に反映できる部分について考察する（90分）。
担当教員			

第7回	第7回:【模擬授業③】 ライティング活動をメインに取り入れた授業案の作成とそれに基づく模擬授業の実施を通じて課題を見つけ、その克服について考察する。	模擬授業準備〔90分〕	模擬授業を振り返る。模擬授業を担当した場合は振り返りレポートを作成する(90分)。
担当教員			
第8回	【リーディング指導の実際】 学習指導要領におけるリーディング活動の取り扱いについて理解し、リーディングの問題作成の観点と新出文法及び語彙の取り扱いについて学ぶ。この領域の指導における文字・語彙・表現及び文法指導において留意すべき点を理解し、ALTとのTTの効果的な導入について考察すると同時に、生徒の特性について配慮すべき点について議論する。	中学校や高校で受けたリーディングの指導について振り返り、課題点をまとめる〔90分〕。	講義を振り返り、模擬授業に反映できる部分について考察する(90分)。
担当教員			
第9回	【模擬授業④】 リーディング活動をメインに取り入れた授業案の作成とそれに基づく模擬授業の実施を通じて課題を見つけ、その克服について考察する。	模擬授業準備〔90分〕	模擬授業を振り返る。模擬授業を担当した場合は振り返りレポートを作成する(90分)。
担当教員			

第10回	【技能統合型のタスク】 様々な技能を統合する形のタスク作成の観点について具体的な例をもとに学ぶ。この領域の指導における音声・文字・語彙・表現及び文法指導において留意すべき点を理解し、ALTとのTTの効果的な導入について考察すると同時に、生徒の特性について配慮すべき点について議論する。	中学校や高校で受けた技能を統合した指導について振り返り、課題点をまとめる〔90分〕。	講義を振り返り、模擬授業に反映できる部分について考察する(90分)。
担当教員			
第11回	【模擬授業⑤】 技能統合型の活動をメインに取り入れた授業案作成し、その評価方法について提示する。提案されたタスクおよびその評価方法についてクラスディスカッションを行い、理解を深める。	模擬授業準備〔90分〕	模擬授業を振り返る。模擬授業を担当した場合は振り返りレポートを作成する(90分)。
担当教員			
第12回	【ICTを利用した指導の実際】 教材及びICTの活用について理解し、授業での指導に生かす方法を学ぶ。	中学校や高校で受けたICTを活用した指導について振り返り、課題点をまとめる〔90分〕。	講義を振り返り、模擬授業に反映できる部分について考察する(90分)。
担当教員			

第13回	【模擬授業⑥】 ICTを活用した活動をメインに取り入れた授業案の作成とそれに基づく模擬授業の実施を通じて課題を見つけ、その克服について考察する。	模擬授業準備〔90分〕	模擬授業を振り返る。模擬授業を担当した場合は振り返りレポートを作成する(90分)。
担当教員			
第14回	【遠隔授業の方法論】 遠隔授業の方法論について学び、生徒の学年に応じた英語科目におけるよりよい遠隔授業について考える。	これまで受けたことのある遠隔授業について振り返り、課題点をまとめる〔90分〕。	講義を振り返り、模擬授業に反映できる部分について考察する(90分)。
担当教員			
第15回	【講義のまとめ】 講義全体の振り返り	これまで学習したことについてまとめる〔90分〕。	最終課題に取り組む(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業の指導案 40% 模擬授業 30% 模擬授業振り返りレポート 10% 最終課題 20%″
その他	0	なし

教科書

「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法 大修館
中学校学習指導要領解説(外国語編)
高等学校学習指導要領解説(外国語編・英語編)

参考文献

講義内で随時紹介する

履修条件・留意事項等

英語科教育法の定義をしっかり復習すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教科及び教科の指導法に関する科目　各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)						
科目名	英語科教育法Ⅲ					ナンバリング	3082
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦						

授業の位置づけ

教育職員免許状（中学校、高等学校・英語）を取得するための科目である。施行規則に定める科目区分等で「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に位置づく科目であり、英語科教育法Ⅰ,Ⅱで学習したことを発展させ、英語科教育法Ⅳの学習につなげる科目である。

授業の概要

この講義ではカリキュラムの構築に必要な観点について理解を深め、学習到達目標に照らした年間指導計画の作成の方法、その計画に依拠した単元計画と指導案の関連について学ぶ。また、小・中・高にわたる英語教育の全体像を俯瞰し、異文化理解の視点を含めた英語教育の意義についての理解を深める。

到達目標

・小学校・中学校及び高等学校において英語を学習する意義について深く考察する。
・中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書(教科書) について理解する。
・学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。
・小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知る。
・小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。
・中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解する。

授業の方法

学習指導要領およびその解説について、具体的な指導法とともに概説し、それを踏まえて模擬授業の指導案を作成する。模擬授業の振り返りを行ってそのディスカッションによりさらに指導法についての理解を深める。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

課題の形式に応じたフィードバックを講義中やweb上で行う。
指導案については個別指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義内容及び課題について理解する。 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力について理解する。 領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解する。	英語科教育法Ⅱで学んだことの振り返り〔90分〕	グループでのデスカッションをする。(90分)
担当教員			
第2回	・小学校における外国語活動と外国語科の学習の意義について理解する。 ・小学校の外国語活動及び外国語科に対する効果的な学習支援を考察する。	小学校の外国語活動及び外国語科に対する効果的なアクティビティを学習する。(90分)	グループでCANーDOリストの意義を整理しておく。(90分)
担当教員			
第3回	中学校の学習指導要領における学習到達目標について理解する。 中学校の学習到達目標達成のための年間指導計画作成について理解する。	どんなデザインが可能か調べ学習をする。(90分)	グループでのデスカッションをする準備をする。(90分)
担当教員			

第4回	高等学校の学習指導要領における学習到達目標について理解する。 高等学校の学習到達目標達成のための年間指導計画作成について理解する。	どんなアクティビティが可能か調べ学習をする。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第5回	中学校段階及び高等学校における年間指導計画に基づいた単元計画の作成について理解し、教科書の活用について考察する。	どんな指導方法があるか発表する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第6回	CEFRについて理解し、日本におけるその教育的意義について理解する。 それぞれのコンテクストにふさわしいCan-do statementの作成について理解する。	どんな指導方法があるか発表する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			

第7回	実習先の学校種の教科書を用いて、年間指導計画を作成する。	どんな指導方法があるか発表する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第8回	互いの作成した年間指導計画を吟味し、小・中・高における英語教育の連携という視点から改善すべき点はなにかディスカッションする。 互いの作成した年間指導計画を吟味し、学習指導要領及び学習到達目標に照らして過不足がないか確認し、必要に応じて改定する。	どんな指導方法があるか発表する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第9回	作成した年間指導計画に照らし、1つの単元を選んで単元計画を作成する。	どんな教材があるか調べ、その活用方法と効果を検証する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			

第10回	作成した単元計画に基づく1時間分の指導案を作成する。	どんな教材があるか調べ、その活用方法とその効果を検証する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第11回	異文化理解教育と英語教育の接点を考える。	どんなアクティビティが可能か探り発表する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第12回	中学校または高等学校の教科書を使用し、異文化理解の観点を中心に据えた単元計画及び指導案を作成する。	どんなアクティビティがあるか発表する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			

第13回	グローバル社会における英語教育の意義について考える。English as a Lingua Francaについて理解し、多様な英語のバリエーションに対し敬意をもった指導とはどのようなものか考える。	話し合いプランの整理をする。(90分)	グループでのディスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第14回	中学校または高等学校の教科書を使用し、English as a Lingua Francaの観点を中心に据えた単元計画及び指導案を作成する。	発表する内容を話し合う。(90分)	グループでのディスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第15回	English as a Lingua Franca の視点を中心に取り入れた指導案をプレゼンテーションの形で互いに評価する。	まとめ整理したことを発表する。(90分)	まとめを整理して提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	年間指導計画20% 単元計画20% 学習指導案50% プレゼンテーション10%
その他	0	

教科書

酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(大修館書店, 2018年)
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説平成30年3月開隆堂出版外国語／文部科学省
高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説平成31年3月開隆堂出版外国語・英語／文部科

参考文献

講義内で随時紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	国際学部　国際コミュニケーション学科						
区分	教科及び教科の指導法に関する科目　各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)						
科目名	英語科教育法Ⅳ					ナンバリング	3083
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦						

授業の位置づけ

教育職員免許状（中学校、高等学校・英語）を取得するための科目である。施行規則に定める科目区分等で「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に位置づく科目であり、英語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学習したことを発展させ、英語科教育法Ⅳの学習につなげる科目である。

授業の概要

この講義では学習到達目標と授業及び評価の関係について理解を深め、適切な評価方法、特にパフォーマンス評価の方法について詳しく学ぶ。
学習指導要領およびその解説について、具体的な指導法とともに概説し、それを踏まえて模擬授業の指導案を作成する。模擬授業の振り返りを行ってそのディスカッションによりさらに指導法についての理解を深める。

到達目標

・中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評 定への総括の仕方について理解する。
・ 言語能力の測定と評価の方法について理解する。特に、「話すこと[やり取り・発表]」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」について理解する。

授業の方法

学習指導要領およびその解説について、具体的な指導法とともに概説し、それを踏まえて模擬授業の指導案を作成する。模擬授業の振り返りを行ってそのディスカッションによりさらに指導法についての理解を深める。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

課題の形式に応じたフィードバックを講義中やweb上で行う。
指導案については個別指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【講義ガイダンス】 この講義で学ぶ内容と求められる課題の内容について理解する。担当する模擬授業を決定する。	これまで学んだ指導教授法に関して自由に話し合う。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第2回	言語能力の測定と評価の方法について理解する。「パフォーマンス評価」について理解し、特にスピーキングとライティングにおける学習到達目標に照らしたルーブリックの作成方法について理解する。	グループで学習指導案の内容を確認し合う。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第3回	【スピーキング(やり取り)の評価の実際】学習指導要領におけるスピーキング活動の学習到達目標を理解し、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。	グループで学習指導案の内容を確認し合う。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			

第4回	【模擬授業①】 スピーキング活動をメインに取り入れた授業案を作成し、その評価方法について提示する。提案されたタスクおよびその評価方法についてクラスディスカッションを行い、理解を深める。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第5回	【スピーキング(発表)の評価の実際】 学習指導要領におけるスピーキング活動の学習到達目標を理解し、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第6回	【模擬授業②】 スピーキング活動をメインに取り入れた授業案を作成し、その評価方法について提示する。提案されたタスクおよびその評価方法についてクラスディスカッションを行い、理解を深める。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			

第7回	【リスニングの評価の実際】 学習指導要領におけるリスニング活動の学習到達目標を理解し、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第8回	【模擬授業③】 リスニング活動をメインに取り入れた授業案を作成し、その評価方法について提示する。提案されたタスクおよびその評価方法についてクラスディスカッションを行い理解を深める。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第9回	【ライティングの評価の実際】 学習指導要領におけるライティング活動の学習到達目標を理解し、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			

第10回	【模擬授業④】 ライティング活動をメインに取り入れた授業案を作成し、その評価方法について提示する。提案されたタスクおよびその評価方法についてクラスディスカッションを行い、理解を深める。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第11回	【リーディングの評価の実際】 学習指導要領におけるリーディング活動の学習到達目標を理解し、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第12回	【模擬授業⑤】 リーディング活動をメインに取り入れた授業案を作成し、その評価方法について提示する。提案されたタスクおよびその評価方法についてクラスディスカッションを行い、理解を深める。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			

第13回	【技能統合型のタスク】 様々な技能を統合する形のタスクに関し、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。	発表する模擬授業の指導案に目を通して、課題を整理する。(90分)	グループでのデスカッションの準備をする。(90分)
担当教員			
第14回	【模擬授業⑥】 技能統合型の活動をメインに取り入れた授業案作成し、その評価方法について提示する。提案されたタスクおよびその評価方法についてクラスディスカッションを行い、理解を深める。	グループで授業の内容を考察する。(90分)	モデル授業の内容を整理しておく。(90分)
担当教員			
第15回	【講義のまとめ】 講義全体を振り返り、教科教育法に関する論題に答える。	まとめを整理して発表する。(90分)	まとめを整理して提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業の指導案 40% 模擬授業 30% 最終レポート課題 30%
その他	0	

教科書

小泉利恵・印南洋・深澤真編集「実例でわかる英語テスト作成ガイド」(大修館書店、2017年)
酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(大修館書店, 2018年)
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説平成30年3月開隆堂出版外国語／文部科学省
高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説平成31年3月開隆堂出版外国語・英語／文部科

参考文献

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学習指導案の完成と模擬授業の実践

備考欄